アリアンサ移住地史編纂委員会篇

創設四十五年

アリアンサ移住地四十五年史刊行会発行

（写真　内閣総理大臣）（写真　外務大臣）省略

日本力行会長
永田　稠

信濃海外協会長
長野県知事　西澤權一郎

元移住地理事
故 北原地價造

元移住地理事
故 輪湖俊午郎

アリアンサ中学校々舎

中学校舎落成式のテープを切る
市長ローレンソ氏息女と、市議
上条亨氏の子息

ありあんさ最初の入植地點碑

組合直営の養鶏場

産業組合事務所

産組卵の出荷

綜合運動場

通学生と通学用自動車

村立図書館

↑ポンカン園

↑コーヒー園

← アリアンサの養牛

MENSAGEM

Nesta fase operosa de minha gestão, lanço a saudação agradecida ao povo do Distrito das Alianças, que tanto prestigia o Poder Público com o seu trabalho.

O reconhecimento do Govêrno do Estado a laboriosa Colônia Japonêsa radicada em nosso município se traduz claramente, na construção do primeiro Centro Educacional, erguido no Distrito das Alianças, prestigiando a zona rural.

A colaboração da Municipalidade nessa obra e em tôdas as outras que se edificaram no Distrito das Alianças, reflete o agradecimento sincero aos homens que realmente ajudam êsse país a crescer e que fizeram do seu trabalho uma profissão de fé.

Mirandópolis, 16 de março de 1970.

Lourenço Marcos Fernandes
Prefeito Municipal de Mirandópolis

LOURENÇO MARCOS FERNANDES
Prefeito Municipal de Mirandópolis

祝賀会記念撮影

四十五年史編纂委員一同

創設四十五年　アリアンサ移住地史

第三巻

目次

序文　外務大臣　愛知揆一　……　19
アリアンサ移住地四十五年史に寄す　……　22
長野県知事　西沢権一郎　……　34
序　……　永田　稠　……　67
アリアンサ移住地十年史略　……
日誌抄（一九三五―一九四九年）　……
日誌抄（一九五〇―一九六九年　……

社会・文化篇

一、移住地の人口動態　116
一　第一移住地人口動態　116
二　各区別人口　……
三　入植時から今日までの家族員数の変遷について
四　在住者名簿　……
五　第一アリアンサ内の七十才以上の老人氏名
六　一九五〇年以後に物故された家長氏名

二、移住地の保健衛生　１３２
三、道路及交通　１３６
四、教育　１３７
一　グルッポエスコーラその他
二　アリアンサ農村実習学校
○アリアンサ農村実習学校開設について
○学校の内容　……
三　ミランドポリス市への通学車　…
○通学車を出すまで　……１４４
○郡法令　三三〇号　……
○学生会・父兄会機構　……
○通学車運転手氏名　……
○九年間のミランドポリス市長氏名　……
○ミランドポリスの学校に通学車で通った生徒数
（一九五九―一九六七）
○市役所へ支払った車賃　……１５３
○通学車の一日走る粁数　……
○通学点描　……
○結び　……

四　第一アリアンサ出身　１５６
大学・高等専門学校在学者数（一九六七）
○第一アリアンサ出身
大学在学生名簿（一九六七年）　…
五　第一アリアンサ出身
大学・専門学校卒業者数（一九六七年）
○第一アリアンサ出身
大学卒業生名簿（一九六七年迄）　……
六　第一アリアンサにミランドポリス中学の分校設置さる
○中学分校開設の経緯　……
○中学分校開設後の通学生父兄会の動き　…
○第一アリアンサ分校建設促進委員会　…
○アリアンサ州立中学校建築　……
五、宗教　１７４
一　アリアンサ基督教会の動き　……
二　納骨堂建設と斎場修理　……　１８１
○納骨堂　……
○合葬遺骨名簿　……
○斎場修理　……
三　アリアンサ入植記念石碑　……　１８５
○自由移民最初の入植地点

記念碑建設資金募集趣意書　……　188
○石戸氏募金行脚概要　……
○土屋富雄君の水難　……
六、青年団　……　196
一　第一アリアンサ男子青年
二　第一アリアンサ女子青年　224
三　第一アリアンサ会館附属館
四　図書館　246
七、母の会　250
八、農業振興センター（ＣＥＤＡＣ）　276
一　農業振興センター要綱　……
二　農業振興センター趣意書　……
三　農業振興センター本部年間活動計画　279
四　農業振興センター支部活動計画　……
五　農業振興センター初期役員氏名　……
六　ＣＥＤＡＣアリアンサ支部　……
九、移住地の機械化と電化…　296
一　機械化　……
二　電化　……　300

三　電話　307
十、思い出二題　……　308
○トラクターの同志会の憶い出　……　大森一城
○懐古　……　浅野修一
十一、創設四十周年記念祭　318
十二、カンポ・デ・トラモンテ　322
十三、第一アリアンサ文化協会と
全ア文化協会連合会　324
一　第一アリアンサ文化協会
二　全ア文化協会連合会
十四、文芸　328
一　俳句　328
二　短歌
三　詩　341
四　作文　344
五　娯楽　……

経済産業篇

一、アリアンサ産業組合の動き　…　372

一　産組更生案　372

（各セッソンの購買部と信用部の分離経営）

○更生案実行に対する誓約書　……

○更生委員会々議録（決議要項）

○第二回更生委員会々議決議要項　……

二　分離経営　其の二　……

○第二出張所本部に移管　……

○第二次更生委員会　……　389

○一九五四年度総務部予算決定

三　蚕種場政府へ譲渡　……

四　棉花価下落による欠損　……　398

五　棉花工場運転中止と全ア一元化復帰　400

六　ミスツラドール設　……

七　一元化復帰後の組合　…

○珈琲精選工場閉鎖　……

○ピーザ理事長・マヌエル氏共に役員を辞退

○国内政治危機に面しての産組　…

○革命後の産組　…

○第一出張所事務所新築　…
○信用部廃止・定款改正の臨時総会と
第三出張所購買部落成祝　……
○精米所・製材所その他　……
八　アリアンサ農業者産業組合三十年祭　…４１２
二、産組中央会ミランドポリス倉庫　４１７
三、アリアンサ地方に於けるコチア産業組合員の動勢
４１８
四、産業　……
４１９
一　珈琲　……
二　棉作　…
三　養鶏　……
４２３
四　畜産（牛・豚）…
五　一九六七年度第一アリアンサの生産　…

雑篇

一、記録　４２７
一　農業振興センター本部規約　……
二　農業振興センターアリアンサ支部規約
三　産業組合の委託販売税に関する法令　…

二、在聖市アリアンサ学生寮　……　437
三、第一アリアンサ降雨量統計　……　441
四、農業者産業組合理事並に監事　……　444
五、物故せるアリアンサ移住地建設功労者略伝　448
一　故輪湖俊午郎氏　…　448
二　故石戸義一氏　……
三　故瀬下登氏　……　457
四　故松沢謙二氏　…
五　故北原地価造　…　461
六、退植した人々の消息　464
あとがき　488
移住地小史（葡文）

序文

昭和四十四年八月

外務大臣　愛知揆一

アリアンサ移住地四十五年史に寄す

信濃海外協会長

長野県知事　西澤權一郎

（注・この本の「移民文庫」への編集時にはまだ日本の著作権との関係に不明な点があり、日本からの寄稿は省略しました）

序

私は大正九年に「南米一巡」をやった。

そしてレジストロ植民地で、北原地価造氏の家にとめて貰い、同家で輪湖俊午郎氏にお目にかかった。

これが御両所をわずらわしてアリアンサ移住地の建設となったのでした。

信濃海外協会の設立されたのが大正十一年で、南米に新信濃村の建設が決議されたのが大正十二年で、移住用地の買収され

たのが大正十三年で、この辺のことは拙著「両米再巡」に明記されている。

昭和二年六月には、信濃海外協会から「南米ブラジルありあんさ移住地の建設」が出版されている。

四六版三一六頁の本で、アリアンサ移住地に関しては一番始めに書かれた専門書である。

昭和七年四月には「両米三巡」が出版されている。

これはアリアンサ移住地の経営が困難になって現地の人々だけではやって行けないから、創立の責任者の永田が現地に行って、つぶそうと興そうと一と骨折るべきであると云うので私が現地にいって、いろいろ苦労した物語がかいてある。

昭和十一年にありあんさ移住地十年史刊行会が、アリアンサ村内に設立されて「創設十年」と称する菊版三七五頁のアリアンサ十年史が出版された。

これはアリアンサの現地の人々が自分で自分の村の十年史を書いたのであった。

一九五二年（昭和廿七年）十二月には、アリアンサ移住地史編纂委員会が現地に設置されて「創設二十五年」と称する菊版三一四頁の書物が出版された。

これも村の人々が自分の村の歴史を自分たちで書いたものである。

昭和廿七年十月には、私の「両米四巡」と「信濃海外移住史」の二冊が刊行されている。

前者は力行会のブラジル支部の諸君が私共夫妻を招いて、南北南米を見せてくれた記事がのせてあり、後者には長野県民海外移住の略史がのせてある。

今度は「アリアンサ村五十年史」　の番だと思い、その事を北原地価造氏に相談した所、五十年にはもう少し年月があるから、編輯委員諸君と協議して「四十五年史」にすることにきめたとのことで、それで此書物が出版されることになった次第であります。

北原地価造氏はアリアンサ村の経営のために、一生涯を献げてくれた仁であるが、思わぬことで負傷したり病気をしたりした。

健康は回復しているようであるが、何時かは自分で定めた墓地に行かねばならぬであろうし、私も八十八歳になって老衰を感じるようになった。

今回の「アリアンサ四十五年史」は、私や北原君からいえば、アリアンサに関係をして下さった諸君に対しては、最後の報告書であり、アリアンサ移住地を引ついで経営をして行って下さる諸君に対しては、創設者としての遺言でもあると考えられるのであります。

ここに一言を記して深謝の意を表し、アリアンサ村に対し永遠の神様の御祝福の豊かならむことをお祈りいたします。

昭和四十四年二月廿五日　記

永田稠

アリアンサ移住地十年史略

本移住地史は先に刊行された「創設十年」並に「創設二十五年」に続くものであり、十九五〇年から一九六九年に至る移住地の出来事を記述したものであるが、「創設二十五年」の巻頭に永田先生から寄せられた「アリアンサ移住地十年史略」並に「創設二十五年」の「日誌抄」を再録して大方の参考の資とする。

一、大正十一年一月廿九日信濃海外協会生る。
（輪湖俊午郎氏創立事務を司る）

一、大正十二年五月十三日時の海外協会総裁本間利雄氏によって移住地建設の重大宣言をなす。

一、十正十二年九月関東大震災によって事業が一頃座を来たしたが、大正十三年一月から再興を画し同年三月に約七万円の資金募集をなす。

一、大正十三年五月移住地決定の為永田幹事渡伯の途に就く。

一、同年十月一日第一アリアンサの土地二千二百アルケール（五千五百町歩）を購入。

一、同年十一月廿日現場理事北原地価造氏が大工其地数名を引具し移住地に乗り込む。

一、大正十四年二月永田幹事帰朝資金募集並に移住者の募集

に着手。

一、同年八月小川、鈴木、上条、篠原の四家族第一次移民として入植。

一、同年九月第二年度分土地代七万円支払う。

一、大正十五年三月更に五万円本部から送金。

一、大正十四年七月に二次、九月に三次、十二月に四次、大正十五年四月に五次、移民を送り一方北米邦人不在地主等土地分譲に奔走した結果大正十五年二千二百アルケールの土地分譲遂に完了。

一、信濃海外協会の移住地建設の事業が良好に進展するを見て時の鳥取県知事白上祐吉氏が同県有力者と諮り鳥取海外協会を組織し十万円の資金を県下から集め第一アリアンサの隣接地に一千三百アルケール（三千町歩）を購入する案が具体化し同時に信濃海外協会でも十五年三月土地分譲が完了その後も入植申込者殺到するので鳥取と協定八百アルケール（二千町歩）の買い足を画し大正十五年八月七日両者で二千アルケールを購入第二アリアンサと命名した。

一、大正十五年十二月前記二千アルケールが全部分譲ずみになったに不拘尚入植申込者多数殺到するに鑑み信濃海外協会では更に土地購入の必要に迫られて居た矢先、鳥取県で海外協会を組織移住地建設を敢行した白上知事が富山県に転じ同地に於ても富山海外移民協会を組織し二十万計画で移住地建設を画し一千三百アルケール（三千二百五十町歩）を購入する案が具体

化したので信濃では右と共同で一千七百アルケール（四千二百五十町歩）計三千アルケール（七千五百町歩）を昭和　二年二月購入これを第三アリアンサと命名した。

一、昭和二年八月七日橋浦昌雄氏（鳥取移住地理事）が第一次入植者として第二移住地に入植爾後毎船入植昭和四年末入植者満了。

一、昭和三年八月十一日富山移住地理事松沢謙二氏が伴邪嘱託他二家族と共に入植。

一、昭和二年十一月第一アリアンサ会創立委員会が設立され弓場為之助氏が委員長にあげられ準備中であったが、昭和三年八月三十一日機が熟しアリアンサ会創立総会を開き正副会長以下役員の選挙を行った結果、会長に瀬下登、副会長に石戸義一の両氏が当選した。

一、懸案中の移住組合法が種々の曲折を経て昭和二年の議会で通過したが、この法の制定実施によって既設移住地（信濃、鳥取、富山、熊本）が当然該法に準拠さるべきものと推意されて居たに拘らず遂に除外された為、協会経営移住地のアリアンサ各移住地が多大の不便を感ずるに至った。

玄に於て右四協会当路者は政府及び海外移住組合聯合会と数次に渉る協議を重ねた結果該法の適用を受ける便法として新たに移住組合を組織し海外協会より移住地経常を委管する事に了解なり、昭和三年九月信濃海外移住組合の設立を皮きりとして鳥取、富山、熊本等これに倣った。

斯くして移住地経営の主体が各海外協会から各移住組合の統制下に委管された。

一、昭和三年九月二十七日信濃海外移住組合設立許可指令受く。

一、昭和三年十月第二アリアンサに移住者の自治体として第二アリアンサ会が生れ会長に故遠藤源吾、副会長に椎野源之助の両氏が選任された。

一、昭和四年六月廿日、信濃移住組合理事西沢太一郎氏が移住地視察並びに全ア各移住地統一経営案に対する基本調査の為来植された。

一、昭和四年八月第三アリアンサに移住者の自治体として第三アリアンサ会が誕生、会長に宮尾厚氏、副会長に南弥吉氏等が当選した。

一、昭和五年二月アリアンサ統一経営案促進の為輪湖理事帰国。

一、昭和五年五月十一日第一アリアンサ五区が第一アリアンサ会刷新を理由に全区連体退会した。

一、アリアンサ会直属のもとに購買事業を行って居た第二アリアンサでは産業組合設立を画し故遠藤源吾氏等の胆煎りで昭和五年五月廿日これが発会を見組合長に椎野源之助、常務理事に吉田惣太郎、山室重夫の両氏当選した。

これがアリアンサ移住地における産業組合運動の始りである。

一、昭和五年六月一日第一アリアンサ五区が購買組合を設立組合長に吉田栄、常務理事に大峡脩の両氏が選任された。

一、昭和五年九月廿八日第一アリアンサ五区がアリアンサ会に復帰を声明した。

一、懸案中の第二アリアンサ小学校敷地問題漸く紛糾の兆きざす（同年九月）。

一、昭和五年十月三日ブラジルに革命勃発の余波を受け移住地の交通遮断され移住地は孤立状態に陥る。

一、同年十月廿四日大統領ワシソトン・ルイス氏逮捕され革命軍大勝革命ここに終息す。

一、同年十一月十五日鳥取移住組合主事後藤侃司氏居住区から除名さる。

一、昭和六年二月十二日伯国聯邦政府で珈琲植付制限令を発布（内容向後五ヶ年珈琲を植付るものに対しては一株に付年一ミルを課税する云々というので珈琲値暴落の今日一株に付五年で五ミルも税金を払って迄植え得ない事情にあるので事実上植付禁止令である。

一、昭和六年二月廿日鳥取移住組合主事後藤侃司氏突然帰国の途につく。

一、同年二月三十日第三アリアンサ会アルマゼン部の金庫をこぢあけ三コント二百余を窃取したものありアリアンサ会では緊急総会を開き善後策を考究。

一、昭和六年三月廿二日第一アリアンサ利用組合の創立総会

を開催役員其の他決定。

一、昭和六年五月三日アリアンサ時報社主催のもとに全ア有力者を一堂に集め対策研究会を開催。

一、昭和六年五月十三日三年越の懸案だった第二小学校敷地問題が渋谷氏等の骨折りで漸く円満解決した。

一、同年五月廿六日移住組合聯合会新専務理事宮坂国人氏移住地視察の為来植。

一、同年五月三十日第一アリアンサ利用組合では総会を開き組合長不信任案が提出僅かの差で可決。

一、同年六月十六日拓務書記官武田寛一氏（現南米課長）移住地視察の為来ア。

一、同年六月廿日全ア統一運動の為帰国中の信濃移住組合理事輪湖俊午郎氏帰植。

一、同年六月廿二日第一アリアンサ二区佐々木保作氏珈琲園就働中鹿と間違へられ伯人ジョゼ・アルベルト某に打たれ重傷を負うた。

一、同年六月廿八日全アを網羅した養蚕組合が誕生組合長に第一アリアンサ百瀬三郎氏当選。

一、同年六月廿八、九、卅日の三日間ブラジル一帯に大降霜あり、アリアンサ内の被害珈琲百六十二万五千四百本、損害千コントス以上と信濃移住組合事務所が発表した。

一、同年七月五日第一アリアンサに共栄組合誕生組合長に吉川徳弥氏常務に有賀徳治氏当選した。

一、同年七月十五日信濃移住組合理事永田稠詞氏移住地建直しの為来植。

一、帰国中の鳥取移住組合主事後藤侃司氏八月五日サントス着で再渡伯。

一、創立以来協調共営を続けて来た第二アリアンサ（信濃・鳥取の共同経営）は後藤主事の帰伯と同時に鳥取の独立を闡明し永田理事等が極力協調を説いたが甲斐なく八月廿二日遂に独立の宣言をなす。

一、経営主体たる鳥取移住組合信濃移住組合両者の協調破れた結果、これが細胞である移住者の各派団体に迄影響を及ぼし移住者の自治体である第二アリアンサ会解散。

鳥取側では八月三十一日新たに鳥取農会を設立又経済団体の分離によって鳥取産業組合を組織した。

尚信濃側では永田理事の慫慂によって九月十三日第二アリアンサ会を更生普通選挙制によって新役員を選出初　代会長に渋谷信吾、副会長に大森甚吉の両氏当選。

一方産業組合は第二産業組合をそのまま継承遠藤源吉氏組合長に選任された。

一、鳥取信濃の分離問題が一段落を告げた為後藤侃司氏主事を辞め後任として九月一日から前田藤吉郎氏が就任した。

一、九月七日第一アリアンサ中央グランドで、汎ノロエステ汎ソロカバナ陸上競技大会並に野球大会が開催された。

一、第一アリアンサ会更生に関しては幾多の迂余曲折を経た

が永田理事の必死的努力と犠牲と献身の結果永田理事案に基づく自治体を更生する事になり九月十二日これが誕生を見会長に輪湖氏副会長に北原氏をそれぞれ永田理事が官選した。

一、自治体の更生に成功した永田理事は経済機関を政治機関の統制下に統一するのを画し既設の共栄組合、第一産業組合（第一第五区にある）南部産業組合（第一、三区にある）を解体第一産業組合を新設する運動を起したが南部組合だけは遂に迎合する処とならず結局共栄組合第一組合の両者のみを合同した第一産業組合を興し十月五日これが誕生を見組合長には輪湖俊午郎氏常務には有賀徳治氏がそれぞれ当選した。

一、全ア各移住地の政治経済の根本的建直に成功した永田理事は更に全ア各移住地の相互連絡統制機関の設立を画しアリアンサ会聯合会、産業組合聯合会の設立を奔走十月十日これが誕生を見会長に輪湖俊午郎、副会長に渋谷信吾産業部長に遠藤源吾氏等が当選、産組聯合会は遠藤部長の手で具体的案を進める事になった。

斯くして全ア政治経済の統制のスタートが漸くきられた。

一、昭和六年拾一月三十日内山総領事奥地視察の為来ア。

一、昭和七年五月十五日問題の第二中央小学校落成新築祝賀式を同校で行った。

一、同年五月十八日第三アリアンサに養豚組合誕生組合長南清吉氏選任された。

一、同年五月三十一日アリアンサ会聯合全産業部長遠藤源吾

氏逝去、六月一日告別式挙行。

一、同年六月二目信濃移住組合では公約に従い大峡脩氏他八名に地権公付アリアンサに初めて地権を確保した地主が生れた。

一、同年六月四日力行会アリアンサ支部長小川林氏サンパウロの病舎で逝去、十九日力行会支部で追悼会を行った。

一、同年七月九日サンパウロ州政府聯邦に反旗を翻へす。

一、聖州革命の余波奥地に迄及び八月十一日移住地近郷サンジョゼ河畔で聯邦軍と激戦死傷者十数名を出す。

一、同年九月十三日サンパウウロ軍敗北で革命全く終息。

一、第三アルマゼソ盗難事件にアリアンサ会が犯人捜査の上被疑者を留直したのが法治国の法を侵害したものだとの理由からアリアンサ会関係役員が告訴され予審では有罪に決定して居たが昭和七年十一月廿八日無罪の判決下る。

ここに二年越の裁判事件終了した。　一、昭和七年十二月十五日今年度の珈琲輸送終る。

今年度総収穫は一万八千俵内外。

一、昭和八年一月五日第一アリアンサ会では教育行政一切を父兄会に委譲する事に決定。

一、昭和八年二月一日信濃移住組合理事北原地価造氏休養の意味で退き輪湖理事之に代る。

一、同年三月一日第一アリアンサ内の珈琲収穫予想二万二千俵と信濃移住組合が発表。

一、同年四月十六日信濃移住組合が移住地内の負債整理五ケ年計画を発表。

一、同年五月廿二日林大使移住地視察の為来植。

一、同年五月廿三日第一アリアンサ会が信濃移住組合の事業一切継承を決議。

一、同年六月十七日第一アリアンサ会が信濃移住組合継承問題に行詰り同会解散を決議。

一、同年七月十五日旧第一アリアンサ会役員を中心に愛村組合を設立。

一、同年八月廿七日第一アリアンサ会継承団体誕生、会長に勝田正通、副会長に神屋信一の両氏が選任された。　一、同年九月十二日第一移住地第二移住地間電話開通(其の後間もなく全アチエテ間開通。

一、同年十月十六日アリアンサ移住地創設の恩人片倉製糸の総師今井五介氏北米の遣米使節としての帰途来ア五万円を融資アリアンサの窮状を打開してくれた由。

一、同年十月六日信濃移住組合理事西沢太一郎氏完成途上の移住地打開工作樹立の為来ア。

一、今年度の全ア珈琲収穫四万四千俵と信濃組合が発表。

一、同年十二月一日農村負債半減令が大統領令で公布されたのが移住地の負債者にも大きなショックを与へた。

一、昭和九年二月一日鳥取移住組合がブラ拓に移管され同時に富山移住組合も向後四ヶ年ブラ拓に経営を委任した為にブラ

拓では日沖剛氏を全アリアンサ関係の主任に任命、第三アリアンサには八木橋豊氏が日沖氏の下で主任として働く事になった。

創設以来移住地の為に尽粋された富山移住組合理事松沢謙二氏は引退第三アリアンサ四区に借地し一農民として入植した。

尚鳥取移住組合主事前田藤吉郎氏も引退第二アリアンサ六区の自己の農園に入った。

一、同年二月十日愛村組合主催のもとに全アの有力者を集め産業改革座談会を第一アリアンサ中央ホテルで開き全ア産業改革について意見を開陳した。

一、鳥取移住組合のブラ拓移管を契機として昭和六年以来分離して居た信濃、鳥取移住者の友愛関係復帰運動が日沖氏等が中心に画策され漸次具体化の歩調を辿るに至る。

一、同年二月十日第一アリアンサ中央校で補習科開校。

一、昭和九年二月四日移住地現状打開の為来ア中の西沢理事移住地内関係有力者を招致信濃移住組合今後の方針に関し重大案を発表非常なセンセイションを起す。

一、西沢理事の声明によって二月限り輪湖・北原両理事引退後任として馬場留四郎、十川計一の両氏が任命された。

一、重大声明を発表一切の要務を果した西沢理事は三月十七日帰途についた。

一、昭和九年三月十六日第一アリアンサ一区竹本花子（二五）が伯人ジェラルド・フランシスコ（二七）の為に強姦を目

的でピストルで射殺された。

一、同年五月一日第一アリアンサ移住者が政府の負債半減令をたてに信濃移住組合に債務の軽減を画する為負債者大会を開き気勢をあげ負債整理協会を設立するに決定委員長に瀬下登氏が当選した。

一、今年度の珈琲収穫予想一万四千俵と信濃移住組合事務所が発表（第一移住地分）

一、同年五月廿五日宮崎高等農林学校長松岡氏視察の為来ア。

一、鳥取組合のブラ拓移管後信濃鳥取両扱移住者の自治体の合流案進捗中の処具体化昭和二年以来存続して居た第二アリアンサ会を名実共に解体又分離後出来た鳥取農会も同時に解消第二区長会の名のもとに合流に決したので昭和九年五月廿七日第二アリアンサ会の解体式を行った。

一、去る六月二分案通過を契機として日伯、移民問題の悪化を憂慮し急拠来伯された海外興業会社社長井上雅二氏は七月十二日視察の為来アされた。

一、昭和九年九月七日第一アリアンサ入植十周年記念に相当するので七日から九日迄三日間信濃移住組合、アリアンサ会共同主催のもとに記念祝賀会を盛大に行った。

日誌抄　一九三五―一九四九

○一九三五年（昭和十年）

二・一一　イタリヤ・エチオピア攻撃開始

三・七　第一アリアンサ共栄会について輪湖俊午郎氏提案

二九　総領事館副領事菱川敬三氏来村△アリアンサ地方父兄会設立

四・一　第一アリアンサ小学校グルッポ・エスコラール昇格

二七　聖州産業組合奨励局監督官カルモ・オスカーレ氏来村し産業奨励の講話

二八　アリアンサ・ホテルに於いて産業奨励局監督官の歓迎会を開く

五・七　アリアンサ時報社中川権三郎氏訪日旅行出発

二六　中央小学校両角春子教師死去

パードレ・エミーリヨ・キルセス氏来村、カトリコ教会堂の定礎式挙行、△島貫志賀子刀自、アンデス山脈を越え大アマゾソを下り、リオより聖市を経て来村（十八日）キリスト教会堂に於いて歓迎会

八・三　中央小学校清水明雄教師辞任

九・十九　珈琲精選工場全焼、アリアンサ会役員夜警村民交

替焼跡整理に出賦

一〇・二二　珈琲精選工場再建委員会開催

〇一九三六年（昭和十一年）

一・二　珈琲精選工場再建は工場焼跡と決定す

十四　ビイラノーバに黄熱病発生是久氏死亡

二・二二　中央小学校父兄会を教育会と改称す

二六　東京麻布三聯隊現役兵約千三百名反乱　△帝都に戒厳令　△岡田内閣総辞職

二九　反乱兵帰順す

三・九　広田弘毅内閣成立

二〇　アリアンサ一円に黄熱病猖獗を極め岩本丑一氏死亡

四・四　北原地価造氏帰日の途につく

五・一二　第二医局藤井金吾氏死去

六・二一　第一アリアンサ日本語小学校々合落成式

二六　第一移住地事務所に於てバポールの商談

七・一〇　ブラ拓加藤好之氏バポール問題に調停

一五　黄熱病による死亡者十五名の慰霊祭を行う

七・一七　東京市戒厳令解除さる

八・一六　第一アリアンサ農産加工組合創立総会

ガラサイ駅鉄道開通式

二七　移住組合連合会前専務理事梅谷光貞氏死去

一〇・八　武田三三工学士聖市へ転出
一〇　日本国勢調査、在伯同胞も調査
一一・十四　第一医局の閉鎖命令
二七　アリアンサ会常任幹事勝田正彦氏死去
二九　アリアンサ会解散
一二・三一　十川計一理事の排斥運動

〇一九三七年（昭和十二年）
一・一〇　アラサツーバ郡よりグアララッペス・バルパライゾの二郡分割　△プラシード医来植
一三　十川計一氏医局問題の為出聖
二六　十川氏医局問題に声明書発表
二九　十川氏遭難事件
二・二　林鉄十郎内閣成立　△医局問題調停のため輪湖俊午郎・日沖剛両氏来村
六　共済会によってアラサツーバ菊池円平医師五週間来診と決す
一五　医局問題についてバウルー領事館藤本書記生多羅間鉄輔両氏来村
三・一四　自由開業医師を迎えるに決す
四・二　北原地価造氏ラプラタ丸にてサントス入港
四　アリアンサ会復興、会長岩波菊治氏
六・三　近衛文麿内閣成立

二七　アリアンサ会長辞任、北原会長就任
七・七　北支事変勃発
八・一三　北支事変上海に波及す
八・一五　南京渡洋爆撃開始
九・三　信濃移住組合理事西沢太一郎氏サントスに上陸す
一〇・三　ノーバアリアンサ産業組合創立総会
四　西沢太一郎氏アリアンサ移住地に着
一〇　西沢氏歓迎会、日本の現状と支邦事変についての講演
一四　第一回母国献金、第一アリアンサ九、〇一六ミル（ミルは　金へんに千の当て字を使っている　）
一一・六　日・独・伊防共協定調印
一六　ブラ拓主事矢崎節夫氏来村
二〇　第一アリアンサ入植十三回記念式、西沢氏講演、夜演芸会
二三　ミランドポリス駅より郵便物初到着
一二・二三　支那首都南京陥落

〇一九三八年（昭和十三年）
一・二六　ローマ字綴は一月以降諸届及旅券は新綴によると発表（日本）
三・一二　西沢理事経済五ケ年計画を更に二ヶ年延長と各

区区長と懇談会

一四　トラベッサ一区より西沢理事入植者と懇談会開始

四・二〇　第一移住地諸施設物を産業組合に譲渡と西沢理事発表

五・二八　西沢理事聖市に於いて第一移住地のブラ拓委任管理を決定調印

六・八　西沢理事区長会を招集し移住地完成並に自治体統制一元化案を提案す

一二　一元化自治体組織についての比例代表三十一名の第一回委員会開催、特別委員選出

一四　移住地事務所ブラ拓へ事務引継行う

一五　第一回一元化特別委員会を開く

三〇　木村貫一郎工学士聖市にて死去

七・一二　張鼓峰事件勃発

二四　第一アリアンサ一元化協同組合定款審議

三一　同上

八・一二　張鼓峰事件現地協定

二一　協同組合創立委員会第一回を開く

二三　坂根総領事日本語学校にて講話、第三アリアンサへ向う

九・七　伯国独立記念式、婦人会不用品即売会、汎アリアンサ農産品評会、伯光団歌舞伎芝居

一八　協同組合創立特別委員、産組、加工組合役員との合同につきての予備交渉決裂
二五　岡山合同新聞従軍記者多賀安郎氏講演会
二七　十川計一氏帰国出発
一〇・一六　第一アリアンサ協同組合創立総会
一〇・三〇　アリアンサ会解散、協同組合へ合流
一一・一九　教育会解散、協同組合へ合流
二〇　入植十四週年記念式、督学官の通達により「君が代」合唱禁止、日の丸国旗掲揚禁止　△青年弁論大会　△映画の夕
三〇　共済会解散し協同組合に合流す
一二・二〇　注精衛重慶脱出し仏印河内に着

○一九三九年（昭和十四年）
一・七　アリアンサ入植最初の地点へ記念碑建立案石戸義一氏より提案
一四　勧業部青木技師、コチア産組下元氏来村し産組に関する講話
一五　全ア産組合同案へ代表北原、瀬下両氏決定　△ブラ拓嘱託医第二より第一出張診察と確定
自動車賃三五ミル診察料一〇ミル、夜間は倍額
一八　全ア倉同産業組合役員代表によって選出
二六　グルッポエスコラール、ベネジット校長転勤

二七　ジュゼ・ピエダーデ新校長着任す
二・一三　宮尾・古屋・瀬下等の産組役員聖市へ出張
三・一九　第一アリアンサ女子青年団結成
三一　アリアンサ農業者産業組合創立総会
四・一　ミランドポリス市に産組出張所を設置、第一、第二、第三アリアンサ、ビラノーバ、ノーバアリアンサ、ホルモーザに出張所設置
五・二〇　ノモンハンに於いて日ソ両軍衝突
六・七　産組役員第一に出張し珈琲審議会開催
一四　アラサツーバに於けるノロエステ少年野球アリアンサ・チーム優勝歓迎会
三〇　全伯少年野球にアリアンサ優勝チーム帰る
七・二三　第一アリアンサ珈琲精選工場閉鎖案を巡り運転に全村協力の決議、産組事業合理化案による破紋
二七　米国、日米通商条約廃棄通告
八・二　第二小学校に於いて、リオ派遣の少年団訓練開始、十一月延期の旨受信八月九日解散
一三　グルッポエスコラール校長歓迎会
三一　独軍ポーランドに侵入
九・三　第一出張所産組売店建築委員吉田、小橋、田中三氏に決定　△英国対独宣戦布告
九・八　独軍ワルソーに突入す
一〇　売店建築委員第一回会合

一五　ノモンハン停戦協定成立
一六　秋山照禅氏来村、第一ホテルにて座談会
一七　ソ連軍ポーランドに進軍、△日本青年指導員私山照禅氏第一に於いて講演後第二へ向う。
十八日より青年講習会開始
一九　アリアンサ移住者の収容所朽ち、取壊し作業
産組評議且の出働
三〇　産組農事視察員松田美一、吉田栄の両氏出発
一〇・一〇　リマ少佐移住地通過チエテ移住地に向う。
一行第一グルッポ校参観
一一　外国人登録事務受付開始（産組社会部）
一一・一〇　明年度産組役員選挙、各セッソンにて施行と決す
二〇　入植十五週年記念式　△入植記念碑建立
△精米所前庭に於いて演芸会
三〇　ソ・芬開戦
一二・九　産組役員選挙開票
一四　ソ連・国際連盟より除名さる
一七　在植二年に亘る西沢理事の送別会、年後二時半ミランドポリス駅へ出発

〇一九四〇年（昭和十五年）

一・一八　ビラノーバ組合員代表坂手、松田、和田の三氏藤原茂管理事務所長を訪問し、五十キロ所在の珈琲精選工場譲受交渉行う

二〇　ビラノーバ産組組合員総脱退

三・一　ビラノーバ組合員脱退撤回、珈琲工場運転と決定（産組事業合理化案を巡りて）

三・一四　長谷謙一氏畜産研究の為リオグラソデ州に向う一ヶ年出張

一七　第一出張所売店建築の具体的就働法決す

四・一〇　売店新築敷地作業開始

二〇　産組はオリエソテ自治区承認す　△売店敷地作業終了

二二　大工棟鉄鈴木豊一氏売店建築作業に取掛る

五・一七　独軍マヂノ線突破す

六・九　第一売店建築上棟す

一〇　伊大利参戦

一七　フランス独軍に降伏す

七・一五　全アリアンサ運動クラブ設立案決定

八・一　アリアンサ移住地歴史編纂委員会開催二日間（ブラ拓主催）藤原・伝田・瀬下・北原・吉田・田中・橋浦・椎野・井浦・森田・宮尾・松沢・坂手・今福・古屋・大久保の各委員

一六　バルパライゾ新郡長カルデス・アルーグ氏来村

す

二八　第一出張所新売店に於いて開業

二九　産業組合員ＮＯ・二七五茂村徳太郎氏定款第十八条Ｃ・Ｄ・第二十一条Ｇ・Ｈの各条項に違反並に該当、理事会に於いて除名

三一　バストス移住地へ農事実習生一ヶ年派遣、塩田、山本の二君

九・七　新築売店落成祝賀会、夜伯人バイレ

二三　産業組合臨時総会、定款改正、除名決議

二九　アリアンサ運動クラブの発会式

一〇・一　日本国勢調査、全版図人口、一億五百二十三万六千百一人。

内地人口、七千三百十一万四千三百八人と後日の発表

△南米銀行資本一千コントス、十五支店開業　△産業組合愛組貯金五十コントス超過

一三　元鳥取海外協会理事、橋浦昌雄氏の送別会

二三　ブラ拓管理事務所、産組との合流案決定

二七　全アリアンサ男女青年団結成　一一・三　運動クラブ発会記念大運動会、各セッソン対抗競技　△坂根総領事より日本屏風一双女子青年団に寄贈

一一・一〇　紀元二六〇〇年祭式典　△ブラ拓管理事務所移住地功労者表彰伝達式挙行

二〇　皇紀二千六百年奉祝式、入植十六遇年記念祭、

夜演芸会開催

一二・三〇　ブラ拓管理事務所閉鎖

〇一九四一年（昭和十六年）

一・五　藤原管理事務所長聖市本部へ転出

六　産組中央会主催中堅青年講習会へ産青団より十三名、青年団より六名出発す

一四　トラベッサ二区高木氏方伯人ヅッカこと服毒自殺

二二　長谷理事リオグランデ州より帰る

二・二　トレスバラス、バストス、チエテ、アリアンサ四移住地関係者本日より自治連盟大会開催ブラ拓より加藤好之、井久保治両氏臨席、来会者の我移住地観

一、地味は想像以上肥沃である

二、道路も想像以上よい

三、植民者に接し魅力を感じた。

吾々もかく経営してみたい

四、セッソンに各出張所が設置されていることは他の移住地に見られない風景である

五、労力不足か、又畜力応用に欠けるのか荒廃地が点在する

六、全般的に意気消沈、疲労したのではあるまいか

一六　産組総会、五口増資案通過

三・二〇　農林省技師、長尾氏ブエノスアイレス丸にて十二日サントス港へ入り来村、各セッソンを二十七日迄講演行脚

四・一三　日・ソ中立条約成立

一八　移民官ゼッフェルソン氏来村産業組合機構の調査を行う

二三　農工商務省生産課の地質鉱物技師来村

二六　アリアンサ畜産加工組合創立総会開催

五・一〇　皇紀二千六百年祭に伯国陸上選手監督として訪日したる井上清一氏の感想発表談あり

一二　ヒットラー元首の後継者ヘスはメッサーシュミット単葉機でスコットランド、グラスゴー附近に来り落下傘によって着陸

六・八　岡田英定夫妻の講演、一夜講習会

二〇　南大河州水害義損金受付（社会部）　△各セッソンに於いて頻発する対伯人事件に対し産組社会部は自警網注意書発表

二六　独伊・対ソ宣戦布告

七・一　アリアンサ内薬局事業の統合

六　スポーツクラブ総会、役員改選、部長ドトール・エルメス氏当選す

一〇　畜産加工組合バポール据付を行う

二六　ビラノーバ入植十五週年記念祭珈琲精選工場移

転落成式挙行

八・七　第二アリアシサ入植十五週年記念祭、全ア農産品評会、各セッソン対抗野球試合

一二　第一アリアンサ地権登録終了者三十一名

一九　吉川徳弥氏死去

二七　訪首旅行より帰伯せる輪湖俊午郎氏夫妻来村

三一　元東京植民学校長崎山比佐衛氏の追悼会　△伯国内邦字新聞本日限廃刊、日伯新聞葡語欄のみとなる

九・一三　ドトール・エルメス医辞任、送別会開催

一四　ブラ拓井久保氏来村

一六　第一グルッポ校長アルシーデ・パイバ・オリベイラ氏就任　△降霜、朝三・五度

二二　移住地嘱託医後任交渉のため吉田理事出聖

一〇・一五　聖市日本病院より小野誠医師采村着任、カーザデサウーデを第一アリアンサに設く

一一・五　カーザデサウーデに於いて伯人の盲腸手術の嚆矢

二〇　入植十七週年記念祭、全ア青年対抗野球、演芸会

二六　日米第四次会談、米国日本提案を拒否す。最後案提出

一二・八　対米通牒手交、対米英宣戦布告　△ハワイ真珠湾攻撃、マレー半島へ皇軍上陸　△日仏印軍事協定調印

一〇　独伊対米宣戦布告　△伯国中南米人以外の枢軸国人の資産凍結令の発布

一二　枢軸国人の集合禁止、銃火器、写真機、望遠鏡の所持禁止

一五　香港陥落す

二六　産組役員会等一切届出許可を必要と命令

○一九四二年（昭和十七年）

一・二　比島マニラ市自軍占領す

七　看護婦上条隆子嬢カーザデサウーデに就任

九　リオ・デ・ジャネイロに於いて汎米会議開催さる

一九　畜産加工場に於いて製氷試運転

二三　汎米外相会議に於いて枢軸国へ国交断絶案可決さる

三〇　枢軸国の伯国に於ける大使領事館午後四時を期して閉鎖

三一　枢軸国人の集会、母国語の禁止

二・九　移住地内の銃火器警察へ提出

一四　在住届作製事務開始（社会部）

一五　日軍シンガポール占領　△ホルモーザ十区奥井、加藤両家へ怪伯人現わる

二〇　第三出張所用謄写版刑事へ提出

二二　第一出張所用謄写版バルパライゾ警察へ提出
二八　アリアンサ産組・畜産加工組合の定期総会　△定款変更（理事九名を三名とす）理事、監事総辞職
三・一　畜産加工場に於いて同組合の臨時総会
九　ジャワ全島日軍占領
一〇　枢軸国人の旅行禁止
一二　伝田駐在員、馬場嘱託バルパライゾ警察へ出頭す
一五　ホルモーザ、アリアンサの交通遮断、十九日解除さる
二〇　警察より午後五時より向う七十二時間を限り旅行許可と通達さる
二二　村警吏、墓地墓標に日本文字を禁ず
四・一八　郡外旅行解禁
二八　郡外旅行禁止さる
五・五　産業組合臨時総会、警察の承認を得たる理事監事は組合員の承認形式によって就任
一五　植民者財産申告開始
三一　外国人登録証に写真及指紋の貼付
六・四　伝田駐在員、馬場嘱託聖市警察に召喚出発
二〇　降霜、霜害調査開始
三〇　刑事、警兵によって小野誠医の家宅捜索
七・六　第二回目降霜
一七　産業組合員の現勢調査開始

八・三　医師の住宅建築、基礎工事中沢氏によって始む
八　第一及第三出張所事務所日本語使用の故によって三日間閉鎖命令
二二　伯国対独伊宣戦布告
九・一五　医師住宅建築上棟
一八　アンドラジーナ警察八人の乗馬隊ホルモーザ十区各戸毎に捜索
一九　写真機、ラジオ、測量機、双眼鏡等警察へ捉出すべしと発表　△産組臨時総会を開く
三〇　移住地内二十一歳以上徴兵適齢者調査
二・一　伯国貨幣単位の変更、クルゼイロ単位実施
三　産業組合養蚕部設置、生繭、蚕種の取扱
一六　聖市に軟禁中の馬場氏解除釈放さる
二三　ミランドポリス郡設置の請願署名開始
一二・三　多羅間鉄輔氏死去
一〇　聖市軟禁中の伝田、森田両氏釈放さる

〇一九四三年（昭和十八年）
一・四　小野医師後任としてエリオ・シソトラ・ブランドン氏来村
一一　小野医師辞任退村
二・五　ノーバアリアンサ公会堂備品盗難
九　南太平洋方面ガダルカナールより日軍転進

三・二四　警兵フジオの件で木村庄太郎氏の家宅捜索
五・二七　産組、砂糖、塩、石油の配給制実施
二九　アッツ島日軍守備隊全員玉砕　△聖市日伯産業杜の矢崎節夫氏来村
六・二五　日本学徒、戦時動員体制確立
七・一〇　サントス港近海にて米・伯船舶数隻撃沈さる　△サントス港一帯に亘り枢軸国人の退去令
二五　伊国ムッソリニ首相辞職
八・二八　輪湖俊清氏蚕室、山焼に類焼す
九・三　連合軍伊大利本土へ上陸作戦開始
八　伊大利無条件降伏
一二　産組ガラサイ倉庫全焼す
一五　降霜、珈琲樹、桑樹に被害甚大
二九　ゾルゲ事件判決、尾崎秀実以下死刑
三〇　アリアンサ最初之入植地点の碑文日本字なる故被覆す
一〇・五　蚕種製造所建築案の為養蚕家代表会合し収入一割績立を可決す
一二・二一　ホルモーザ十区へ警察特高課と称し外国人登録証の提示を求め署名料を徴す

○一九四四年（昭和十九年）

一・二四　養蚕家代表会議第二自治会館に於いて開催、政府

蚕糸局技師臨席、蚕種製造所建築寮決定

二五　蚕糸局技師、北原氏と蚕種場候補地検分す

二六　アルゼンチン対日・独国交断絶

二九　故多羅間氏墓碑建立金募集の為、問崎三三一氏来村　△養蚕家非国民説一月頃より漸く感んとなる

二・一　米軍マーシャル群島へ上陸

三　第一薬局へ金沢銑三郎氏着任

一六　アルゼンチン、ペロン大佐のクーデター

一七　米軍トラック島へ来襲

三・三　江南京政府首席名古屋帝大病院に入院す

二七　蚕種場へ工藤信平氏就任決定

四・一一　ホルモーザ工藤氏宅の盗難

一九　ゼツリオ・バルガス大統領五十五回誕生日

三〇　蚕種場建築定礎式、後シュラスコあり

五・一一　木村庄太郎氏宅の家宅捜索、ラジオなし

二一　米機動部隊小笠原諸島東方に出現

六・一五　米軍サイパン島に上陸開始

一六　北九州へ米機初来襲　△独新兵器V・イ号出現

二六　スペイン名誉領事ルイス・アイレス氏移住地死亡者調査の件で来村

七・一八　サイパン島全員戦死発表　△東条英機内閣総辞職

二一　米軍グアム島へ上陸

二二　小磯・米内内閣成立　△第一評議員、養蚕家代表

会合し養蚕非国民説による対立に善処

二三　米軍テニアン島に上陸

二九　米機満州に初来襲　△第二アリアンサにテユース問題起り一般人情況不明となる

八・四　小磯内閣一億総武装を決定

七　第二アリアンサ入植祭、第二対第三青年対抗野球

一九　バルパライゾ警兵来村し伝田駐在員を連行

二七　五区より出火し中央区に延焼、組合パスト二域、雑作地二域被害　△第四区に出火し一区及四十キロ森林一帯に延焼　△第七区出火

九・一　結婚披露、建築、山焼その他・一切の集会は村警に届出可しと重ねて通告

八　蚕種揚検鏡掛受講の為めカンピーナスへ女青出発

一〇　第一グランドにて各区対抗野球

一一　第二アリアンサ三十一キロ方面の山焼残火三十二キロより三十四キロ方面に延焼

一五　米軍ペリリユウ島、モロクイ方面に上陸

一七　第二アリアンサに於いて第一、第二、ノーバアリアンサ青年対抗野球

一九　ソ連、フィンラシドと休戦協定調印

二二　七区より延焼した山火は第四区の中部大部分を焼く

二三　村岡氏宅の暴行伯人逃亡、翌警察送り

三〇　グアム島、テニアン島の日軍全滅と発表
一〇・一　産組原蚕飼育所上棟後倒壊
四　第二亀沢氏木造蚕室深夜全焼す
六　佐藤清治氏蚕室類焼
一〇　米機動部隊沖縄に初来襲
一二　台湾沖航空戦
一三　ホルモーザ数氏の蚕室全焼事件
二〇　米軍レイテ島に上陸
二四　フィリッピン沖海戦
一一・一〇　注清衛名古屋病院にて死去
二四　蚕室放火事件で第二回目の参考人として、宮尾、斉藤以下数氏ガラサイ警察へ　△帝都へＢ２９の初空襲
二五　蚕室放火事件参考人として北原・渡辺両氏ガラサイへ
二六　蚕室放火犯人ガチミーより自供
一二・一六　ミランドポリス新郡長産阻本部来訪　△米軍ミンドロ島に上陸

〇一九四五年（昭和二十年）
一・一　ミランドポリス郡制実施祝賀式、本日に限り日本レコード使用を許すと　△小磯首相「比島決戦は天目山」と重大放送
八　第一産組従業員庭球瘍開き

九　米軍ルソン島上陸
一四　ビラノーバ若杉氏蚕室へ放火事件
一六　ビラノーバ木戸氏蚕室全焼　△放火容疑者数名、ミランドポリスよりバルパライゾ警察、アラサツーバ、ペペンナポリスへと護送
一七　ビラノーバ蚕室放火犯人自首す
二・四　ヤルタ会議開始
七　産組蚕種製造所上棟
一六　米機動部隊より一千機本土に来襲
一八　米本土に日本気球焼夷弾落下の報
一九　米軍硫黄島に上陸開始
二五　東京神田の中心焼失　△大宮御所の一部空爆炎上　△産組総会畜産加工組合欠損に対する改革案可決
三・一　硫黄島日本人全滅
一〇　東京西北地域米機夜間空爆により大火災
一二　ノーバアリアンサに於いて蚕室全焼事件
一七　硫黄島失陥確認
二一　硫黄島失陥公表さる
二七　米軍沖縄慶良間諸島に上陸開始
四・一　蚕種場初生産の蚕種配布発表　△米軍沖縄本島に上陸開始
五　日・ソ不可侵条約は不延長とソ連通告す　△小磯内閣総辞職

七　鈴木貫太郎大将組閣を終る
一二　ルーズベルト大統領逝去、副大統領トルーマン氏大統領に就任
二八　ムッソリーニ処刑さる
五・二　ベルリン陥落、ヒットラー総統爆死と発表
七　ドイツ無条件降伏調印
八　ドイツ降伏により今明二日休業
二一　ブラ拓伝田駐在員聖市へ転出
二三　旅行許可証不必要となる
二五　米機によって東京の大半焼失
二八　ヂフテリヤ発生、予防注射通知
六・一　大阪大空襲さる
三　グルッポ校男女生エスコテーロ教練、第二小学生とフットボール試合
六　伯国対日宣戦布告
七・三　ミランドポリス所在マタラゾ会社生繭買付中止
一〇　米艦上機千二百東京を襲う
一四　友邦たりし伊大利対日宣戦布告
一七　ポツダム会談開始
一八　伯国欧州出征兵帰還、産組休業
二六　ポツダム宣言、米・英・中国共同声明発表
八・七　米機広島市に原子爆弾投下
八　ソ連対日宣戦布告

九　長崎市に原子爆弾投下
一〇　御前会議によってポツダム宣言受諾の公電発せらる
一四　終戦の大詔喚発
一五　太平洋戦の終結大詔、玉音放送、鈴木内閣総辞職
△伯国郵便物検閲解除
十六　日本大捷の怪ニュース移住地内に伝達さる
一七　東久邇宮内閣成立
一八　日本連合艦隊はマリアナ万面にて米艦四百隻を包囲せりとの怪ニュース
二二　米艦船千余隻は日本軍の前に或は撃沈され或は降伏す等の怪ニュース
二八　米先遣占領軍厚木飛行場に着陸
三〇　マッカーサ元帥厚木飛行場に着陸
九・二　米戦艦ミズリー号上で降伏文書調印　△大詔喚発さる
七　グルッポ校にて第二及ホルモーザ小学生と共に教練後フットボール試合
二二　沖本磯満氏日本大捷、日本船リオ入港のニュースもたらす
二七　日本船リオ入港報導を巡り移住地内雑然、真偽確認の為、大久保産組員出聖
二九　一般組合員・蚕種場見学

一〇・四　ノーバアリアンサ日章旗掲揚事件
五　東久邇宮内閣総辞職
九　幣原喜十郎内閣成立
一八　勝田正通氏アラサツーバ市にて死去
二八　第二グランドにて青年野球試合、時局と対照し甚の挙を批判さる
一一・一五　マノエル・ミランドポリス新郡長就任式、A・Bのアリアンサ＝チームは・ミランドポリス軍と祝賀野球
一八　故勝田氏追悼会を基督教会にて行う
二三　ミランドポリス方面に臣道連盟と称する戦勝団ありの報入る
一二・一　梨本宮を始め各界戦犯容疑者五十九名に逮捕令
五　全アリアンサ産婆さん会第二アリアンサで開催
十六　近衛文麿服毒自殺
二三　アリアンサ農業者産業組合と畜産加工組合の合同の決議　△元産組監事ジョン・マッシャード氏死去
二七　極東委員会、対日理事会設置さる

〇一九四六年（昭和二十一年）
一・一　天皇神格否定の詔書喚発さる
一八　日本公職追放令案要綱決定
一九　ミランドポリス警察より日本語使用禁止通告さる
二一　前州知事フェルナンド・コスタ氏逝去

二八　全ア青年団役員会、四ケ年振りのシネマ上映相談

二・四　待望のシネマ上映禁止さる

一一　第二電気部森青年就働中過失即死

二一　印度・海軍反英暴動

二三　元大将山下奉文マニラにて死刑執行

三・一八　産組貸付金回収の為各個交渉開始

一九　第一男女青年作文集第一号発刊

四・一　聖市野村忠三郎氏特攻隊一味に射殺さる、古屋重綱氏避難

五　国際連合対日理事会第一回開館　△ＢＢＣ放送は四・一事件に関係の百五十名拘留せりと発表す

六　北米区より秘密結社同人の嫌疑にて警察に引致さる

一一　産組常務理事古屋清正氏カンポス・ジョルドンにて死去

一三　夜モレモト区員大多数ミランドポリス警察へ引致さる

一六　写真機、双眼鏡等所有者へ返戻

二二　幣原内閣総辞職、政局担当の用意ありと社会党発表

二六　日本人口調を施行、総人口七三、一一〇、九九五

二八　聖市より釈放の臣道連盟員を出迎えたる数十名ミランド駅に於いて警察に引致さる

五・一　第二自治会館にて故古屋氏の追悼会
三　東京裁判開廷戦犯者東条以下二十八名、大川周明博士法廷にて発狂
五　グルッポ校児童第二小学校へフットボール試合に出発
八　社会党単独内閣奏薦を幣原首相拒否
一四　自由党鳩山一郎公職追放、吉田茂総裁就任
十五　カーザサウーデに於て産婆さん会
二二　第一次吉田茂内閣成立
六・一二　脇山甚作氏殺害されたる報
一八　全ア青年団機関紙月報創刊
二一　第一アリアンサにて夜臣道連盟員と目さる三名ミランド警察へ引致
二五　トラベッサ一区二区に盗難事件頻発と発表
二六　長谷謙一氏北パラナへ転出
七・六　金森国務相「日本国」と呼称言明す
二五　ビキニ島にて原子弾水中試験
八・八　旅行者は警察の許可証必要となる
一〇　移転、旅行禁止となる
一一　第一中央区に於いて挙動不審の外来邦人三名捕わる。
午後三一キロ、三二キロ地区により数名警察に引致さる

一二　午前中八区より数名、夕刻第一アより四名警察に引致

一五　ミランドポリス郡一帯に亘る臣道連盟員、其他を留置場へ

一八　第二自治会館に於いて警察署長時局と治安に関し訓示

九・一　移住地内不穏の気配あり産姐マキナ関係夜警を行う

七　伯国独立記念式後児童体操エスコテーロ行進、家族運動会、萎縮生活に伸長感

一一　日本向航空郵便取扱の報入る

一四　日本各地発行の新聞十数種来る

一〇・七　日本憲法改正案両院通過

二〇　日本向葉書取扱通知

一一・二　戦後最初の慰霊祭挙行

三　日本新憲法発布

二六　第一にて黄熱病予防注射施行

一二・一一　ミランドポリス小野医師を会長とする有志共済会発足

一五　ミランドポリス駅にてサンソタンク爆発、被害甚大

十六　爆発被害のミランドポリスに取片付応援出動　△ドトール・エリオ医師辞任

〇一九四七年（昭和二十二年）

一・一　パウリスタ新聞、ブラジル時報の二邦字新聞創刊される

一九　聖州知事、議員選挙、十七、八、九の三日間アルコール飲料販売禁止

二六　アリアンサ基督教会戦後初礼拝式

三一　蚕種場工藤主任辞職　△日本全国労働組合、二百六十万ゼネスト決行予定へマ元帥中止命令全国へ放送

二・二三　産組総会一九四六年度欠損十六〇コントス積立金七九コントスを充当決議

二八　第二アリアンサ、モレモト区組合総脱退調停中

四・一　日本に於ける教育六・三・三制実施

一三　馬場氏パラナ転出送別茶話会

一九　山城康明医師来村

二一　ビラノーバ戦後最初の運動会

二五　ミランドポリス新郡長ベネジット氏就任式　△向う十五日間会合禁止令通達さる

五・三　日本新憲法実施

八　山城医師着任

九　集会禁止来る十四日迄延長さる

二八　産組蚕種場政府買上請願案役員会通過

六・一　新憲法実施により吉田内閣総辞職後社会党片山哲

内閣成立　△チェテ、アリアンサ合同俳句会蚕種場にて開催
二二　戦後第一回シネマ上映
七・一七　両米銀行ミランドポリス出張所開業式
二六　ミランドポリスにて汎ノロエステ相撲予選
三〇　産組後援ピラスヌンガにてトラクター講習四ケ月、芝田、長谷川、伊東、五十嵐の四名出発
八・四　第二に於いてラザール神父広島にて体験したる原子弾投下の模様、戦時戦後の講演
八　疑似天然痘第一中央に発生、種痘施行通知
二六　戦災救援金第一回送金
九・七　伯国独立記念式、第一アリアンサ入植二十三週年記念祭、男女青年各区対抗競技、小学生競技、家長競技、夜演芸会熱演翌午前六時に及ぶ
八　暴風雨第一中央以南中心
九　降雹二十二キロ方面中心、珈琲蕾被害
一九　産組本部にて篤農家座談会
一一・二　慰霊祭、献金箱の盗難事件
六　産組運搬部使用家屋全焼
一一　今雪一雄氏住宅、蚕室全焼
一二　産組申請中たりしカンポ・デ・コペラソン認可と発表
一六　鈴木抱春氏来村森田郎氏宅にて俳句大会
二〇　首藤氏住宅類焼

一二・二　スペイン名誉領事ルイス・アイレス氏へ記念品贈呈

〇一九四八年（昭年二十三年）

一・二二　参議員副議長松本治一郎氏国会開院式に於いて陛下に拝謁拒否、参議院は彼に自重を望む意見書を手交

二・一　産組二コント増資案、第一組合員総会、各セッソン分離案提議あれ共不承認

七　産組更生研究会日本語学校に於いて開く

一〇　片山内閣総辞職

一五　第一アリアンサ最初の入営兵壮行会

一八　入営兵出発、第一、七名、第二、二名、オリエンテ一名

二三　国会は民主党、芦田均内閣主班に指命

二九　産組総会、二コントス増資案通過、増資特別積立金五ヶ年凍結案決す

三・一〇　芦田内閣成立

一八　ビラノーバ社会部分離案役員会に提出

二五　第一男子青年体力テストを行う

六・二四　産組欠損各個組合員分担額一、四三六、七〇と決定

七・一　太田音一氏就働中、前雇用伯人に殺害さる

三　殺人犯アンドラヂーナ方面にて逮捕さる

九・七　第一入植二十四週年記念祭、第一対第三少年野球、伯人第一対第二フットボール、夜演芸会
一七　三保光治氏失火家屋全焼
一〇・七　芦田内閣総辞職、西尾国務相強制収容さる
一九　第二次吉田茂内閣親任式
一一・一七　藤森末太郎氏落雷のため感電即死
一九　元枢軸国人資産凍結解除ピーザ代案財政委員会通過
一二・一九　産組臨時総会、定款変更
二三　衆議院解散　△東条氏以下七戦犯の絞首刑執行

〇一九四九年（昭和二十四年）
一・一　マッカーサー元帥日本国旗の掲揚を許可す
二〇　トルマン大統領就任
二三　吉田首相に依って解散されたる衆議院議員選挙
二六　奈良法隆寺炎上、国宝焼失
二八　資産凍結解除法伯国下院通過す
二・一五　衆議院議員選挙の結果、民主自由党絶対多数により吉田茂内閣成立
二七　産組総会北原常務辞任、宮尾常務理事就任
三・二　資産凍結解除法案伯国上院へ提出さる
二七　全ア青年相撲大会ホルモーザにて開催
三一　産組本部へ第一より従業員給料増額陳情

四・二　第一アリアンサ入植二十五週年記念事業研究委員会

五　第一トラベッサ一区三人組なる盗難数戸に及ぶ

一〇　第一青年図書箱放火事件、午後中央区にて庭球用具倉庫放火事件

二三　単一為替レート北米貨一ドル、日貨三百六十円と決定

五・七　二十五週年史編纂委員会開催、瀬下、蓮沼・光田・内海・吉田・岩本・湯田・北原・石戸・西沢・芦部の諸氏

一〇　第一中央高野毅氏蚕室全焼

一七　高野父子ミランドポリス警察へ召喚

二一　第二回二十五年史編纂委員会開催、委員長北原地価造氏、編輯者吉田栄氏に決定

二七　第一アリアンサ会館建設委員会開催

二九　第二にて力行会支部総会、輪湖俊午郎氏臨席日本力行会再建について語る

六・九　第一にて宮尾厚氏臨み力行会員会

一九　全ア棉作農談会を蚕種場にて開く

二七　アリアンサ会館敷地々均し作業開始

二八　ソ聯抑留邦人第一回引揚高砂丸舞鶴入港

二九　アラサツーバ安瀬耕地に於ける農談会参加者十数名出発

七・一　国連統計局一九四七年世界人口、二十三億二千万

と発表

六　アリアンサ会館定礎式　△日本国鉄総裁下山定則氏の轢死体発見

一五　伯国日系学生団長三沢哲明君一行六名着座談会、教育映画を行う　△日本、三鷹駅無人電車突走る

十六　アリアンサ教会堂にて田名網七五三吉・田村秀郷両師の講演会

二三　米・北大西洋条約批准

二七　聖公会監督メエルセエル主教・伊藤牧師の説教

八・一一　チエテ移住地入植二十週年記念祭、ノロエステ十チームの野球試合

一六　アリアンサ会館上棟、野溝実氏作業中負傷

二〇　全米水上に於いて日本選手快勝す

二四　北太西洋条約発効

二九　聖市に於いて各産組代表免税問題協議

九・一〇　聖州体育局伯国水上連を通じ日本水上選手招請状を発す

二三　英米はソ連に原子爆弾ありと発表す

一〇・一　第一回訪日旅行者チエテ在住田中儀一郎氏の日本実情談、アリアンサ各地で行う　△中華人民政府成立

日誌抄

○一九五〇年（昭和二十五年）

一・五　比叡山延暦寺災上

一五　第一会館にて全ア男女青年弁論大会（第二回）

二・二六　第十一回産組通常総会、各セッソンに於ける

二　ソ連中共政府を承認、国民政府に国交断絶通告す

二一　第一トラベッサに盗難事件

三〇　第二にて全ア青年柔剣道大会

二・三　第一青年六十余名伯国語夜学遇二回開始

五　ノーバアリアンサ産組出張所閉鎖棚卸

二〇　ミラノドポリスにてリマ大佐歓迎

一二・二三　ソ連、山田元大将らを細菌兵器使用として起訴す

三〇　ソ連、ハバロフスクにて細菌裁判、全被告に重労働の宣告を下す　△ビルマ、印度は中共政府承認

一九五〇―一九六七

購買・信用部の分離経営決議承認さる

三・四　第一アリアンサ出張所組合員総会、内部理事監事選出　△遊佐監督・古橋・橋爪・浜口・村山の日本水上軍着伯

三・一六　今日から以後産組購買部信用部分離経営に移る

四・二三　二三の二日間全ア少年野球大会が第三グランドで開かれた。

五・二一　ホルモーザにて第四回全ア青少年陸上寮技大会

五・二四　第一会館にて新里貫一氏の講演
六・二三　今日から三日間全ア青年野球大会、県産品評会、手芸品写真展が第二アリアンサで催される
六・二五　朝鮮戦争勃発、北鮮軍三十八度線突破
六・二九　第一ア第一区瀬下氏宅にてノロエステ農談会
七・二　西沢太一郎氏追悼会（第一アリアンサ教会にて）
△金閣寺炎上
八・六　第二アリアンサにてノロエステ陸上競技大会参加リンス、カフエーランジヤ、ビリグイ、アンドラジーナ、プロミッソン、アリアンサの六チーム
八・一七　リオ国際微生物学会議に日本より住木、田宮、緒方の三博士出席
八・二七　ノーバアリアンサにて全ア女子青年バスケットボール大会開催
九・七　伯国独立記念日、第一ア入植二十六週年記念祭、昼運動会夜シネマ
一〇・三　伯国総選挙（開票結果大統領にゼッツリオ・バルガス氏当選）
一〇・八　母の日は五月の第二日曜ときまっているが、今年は第一アで延期されて今日になった
一〇・一〇　元枢軸国人資産凍結令解除法案（上院案）最後の関門の下院を通過
一一・五　中共軍満鮮国境を越え北鮮軍に加入

一一・六　邦人資産凍結解除法案を大統領署名し裁可となり全面的に解放さる
一二・三　アデマール・シルバ選手三段跳に十六米の世界タイ記録
一二・一五　聖市在外事務所員聖市に着、所長野崎正勝氏、所員和田規矩男氏

〇一九五一年（昭和二十六年）
二・二五　産組総会
三・一五　州議事堂で新州議認証式、日系州議田村氏の姿が眼を惹く
三・二三　今日から三日間弓場農場で四移住地野球大会、アリアンサ、チエテ、バストス、トレスバラス
四・九　聖州体育局招待日本庭球代表藤倉五郎、隈丸二郎着伯
四・一一　トルーマン米大統領マックアーサー元帥を罷免
四・一二　リッヂウェイ新任国連軍最高司令長官東京に入る
四・二一　多羅間家の養子となった東久邇俊彦氏着聖
四・二九　第三アにて第五回青少年陸上競技大会
五・一三　ミランドポリス市の開業医小野誠氏（元アリアンサ医師）リオ街道で自動車事故で死亡
五・二〇　第二アにて全ア少年野球大会
六・三　今年度入営兵壮行会、入営者、上条亨、新井晃、

浅見巌の三名

六・五　日本陸上団着聖、監督南部忠平、沢田文吉、高橋進、岡野栄太郎、菊地由起夫、田島政治の六名

六・一五　今日から三日間第一アリアンサにて全ア青年野球大会

八・七　第二アリアンサ入植祭、農産品評会、手芸写真展

△全伯青連が招聘した東京相撲協会派遣の猪山理事（元幡瀬川）武蔵川理事（元出　羽の花）検査役秀の山（元笠置山）行司式守勘太夫の一行来聖

八・八　アリアンサの産みの親永田力行会長夫妻来植さる

八・一〇　第一アリアンサ会館にて永田会長の全ア合同歓迎会

八・一四　移民の父水野竜翁逝く

八・二六　フォルモーザにて第四回女子バスケットボール大会開催

九・五　五十二ヶ国の全権団が出席サンフランシスコ会議開幕　△野崎聖市在外事務所長に帰国命令

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植廿七週年記念祭、運動会、演芸会

九・八　対日講和条約調印式終る、日米安全保障協定締結

九・九　天理教中山正善管長ほか四名着伯

九・一五　一六の二日間第二アリアンサにて奥ノロ野球大会閑かる。

アリアンサ、ミランドポリス、弓場、アンドラジーナ、ペレイラバレット、グワララッペスの六チーム

一〇・二九　板門店予備会談、停戦境界線に妥結

一二・七　聖市在外事務所長に石黒四郎氏着任

〇一九五二年（昭和二十七年）

一・一一　一二の二日間第一アリアンサ会館にて４Ｈクラブ講習、講師永田会長、講習生男子青年三十六名女子青年二十九名

一・一三　第一アリアンサ移住地最後の七十名に対し地権譲渡、全部終る

二・二四　産組定期総会

三・一五　戦前戦後を通じて在伯日本人の権益を擁護して来た堅市スエーデン領事館の日本人権益部解消、事務一切は在聖市日本政府在外事務所に移管さる

四・二〇　第一グランドに於いて全ア少年野球大会

四・二七　伯国政府はリオ、聖市の在外事務所を前者は大使館、後者を総領事館と認める旨通告

五・二八　第二にて第六回全ア陸上競技大会開催

六・八　桜美林学園設立者清水安三氏の講演会

六・二〇　今日から三日間第三アリアンサにて全ア青年野球大会、農産品評会開催

七・二三　ヘルシンキでアデマール・シルバ選手三段跳に十六米廿二の世界新記録

七・　アリアンサ産業組合はブラ拓施設及残存土地を金五百コントスにて買取る（譲渡物件、棉花工場、第二精米所ミランドポリス倉庫残存土地）

八・二一　ヘルシンキオリンピック水上千五百米で、一位ハワイの紺野、十八分三十秒、二位日本橋爪、十八分四十一秒四、三位ブラジル岡本、十八分五十戸秒三

八・二九　第二アリアンサでホルモーザの上村忠摘さん伯人に刺殺さる

八・三〇　附近のカッポエラに潜伏していた犯人を逮捕

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植廿八週年記念祭

九・二七　修養団主幹蓮沼門三氏来村

九・二九　戦後初の駐伯大使君塚慎氏着任

一〇・一　アリアンサ農村実習学校第二アリアンサ蚕種場にて開校

一〇・五　第一ア出張所薬局主任金沢銑三郎氏竪市にて死亡

一〇・二六　金沢氏の追悼会

一〇・二八　東本願寺法主大谷光暢氏夫妻来村

一二・二二　コロニア歌壇の巨星岩波菊治氏逝く

一二・四　元サンパウロ総領事現神奈川県知事内山岩太郎

氏着聖

○一九五三年（昭和二十八年）

一・四　秩父宮殿下薨去

一・一五　ブラ拓は管理事務一切を産業組合に引継ぐ

一・一九　立体農業研究家横山春一氏の講演

一・二〇　アイゼンハウアー元帥米大棟梁に就任

一・二二　産組通常総会

一・二八　今日から三日間全ア青年修養講習会第二アリアンサで開催、講師蓮沼門三氏、大谷暢慶氏その他

三・一　第一アリナンサ出張所組合員第四回総会

三・五　ソ連スターリン首相逝く

三・六　マレソコフ・ソ連首相にきまる

三・一四　日本衆議院で吉田内閣不信任案通過、国会解散、総選挙は四月十九日に決る

三・二一　賀川螢彦先生来ア、講演

三・二二　聖市々長選挙行わる、開票の結果ジャニオ・クワドロス氏当選

四・二　星野立子、中村波奈子の二俳人着聖

四・一二　第二アリアンサで全ア女子バスケットボール大会、優勝第二アチーム

四・一九　日本で総選挙行わる。

第一党は自由党

四・二二　ミランドポリス市コマルカ昇格祝典あり

四・二四　日本で参議院議員選挙、自由党勝つ

五・一〇　第一アリアンサで全ア陸上競技大会開催

五・一二　石黒総領事来ア、全ア合同懇談会催さる

五・二九　英国遠征隊世界の最高峰エヴェレストを征服

五・三〇　三一の両日第二アリアンサに於いて汎ノロエステ陸上競技大会催さる

六・二　英エリザベス二世女王戴冠式行わる

六・一六　君塚大使初の聖市公式訪問

七・五　聖州、パラナ州の珈琲栽培地に大降霜

七・二七　朝鮮休戦成立、三ヶ年の動乱終る

八・一　アリアンサ医局に大槻正幸医師就任

八・一三　日本南米親善協会理事長原田亀雄氏来ア、講演

八・一四　移民の父水野竜翁の墓碑サンパウロ墓地に建つ

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ第二十九周年記念祭

一〇・一〇　鳥取県知事西尾愛治氏来村　△石黒総領事に帰国命令

一〇・二五　志村監督引卒の鈴木・山下の両水泳選手着聖

一一・六、七、八日国際水上大会（アグアブランカ）

一二・二五　大戦後八年間米軍の軍政下にあった奄美大島日

本へ返還

○一九五四年（昭和二十九年）

一・九　長野県副知事中村勝治氏来村

一・一六　第一アリアンサグルッポ校長アルシーノ・デ・オリベイラ氏転勤

一・二一　原子力潜水艦ノーチラス号の進水式挙行

一・二五　聖市創設四百年祭厳かに敢行わる

二・二八　第二自治会館にて産組通常総会

三・一　米国ビキニ環礁で水爆実験、第五福竜丸に被害

△矢崎節夫氏逝く

三・七　第一ア出張所第五回総会　△全ア女子青年バスケットボール大会オリエンテにて催さる

三・二四　日本館建設担当者大江教授ほか四氏着聖

三・二六　今日から三日間第二アリアンサに於いて四移住地野球大会催さる。

二十六日夜移住地事情座談会、二十七日夜俳句大会、二十八日夜音楽大会

四・一〇　ミランドポリスで大豆祭

四・二六　千葉総領事着任

五・三〇　日本館の上棟式挙行さる

六・一　西本願寺大谷光照門主夫妻来ア墓参の後、会館

に於いて七十才以上の大人に記念品贈皇さる
六・一三　第二アにて農産品評会、少年野球大会催さる
七・七　ピラチニンガ文化クラブ学生会の学術講演会、夜教育映画会
七・二一　ジュネーブ会議においてインドシナ休戦協定が調印され八年間の戦争終幕
七・三一　アリアンサ農村実習学校生徒不足のため閉校
八・二一　二二日の二日間第一アリアンサで４ＨＣ講習会、講師林・永田氏
八・二四　ヴアルガス伯国大統領自殺、カフェーフィリヨ副大統領、大統領に就任
九・六　聖市日本館公式イナグラソン
九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植三十周年記念祭、グルッポ小学生及び家族慰安運動会、夜シネマ、△第三アリアンサ正願寺落成式
九・九　戦後第一回養蚕移民四家族入植
九・一〇　大宅壮一氏弓場桑場で講演
九・二七　函館港外で青函連絡船洞爺丸が転覆千六百名遭難
一〇・三　州知事、上院議員の一部、下院議員の選挙行わる
一〇・一三　岡崎外相を団長とする四百年祭慶祝使節団、日航機で聖市着

一〇・二三　三日に行われた選挙結果州知事にジャニオ氏当選、田村幸重氏下院議員に当選した

一一・七　混血児の母沢田美喜夫人来村講演

一一・一〇　養蚕移民状況視察のため農学博士小平権一氏来村

一二・七　吉田内閣倒る、鳩山内閣生れる

一二・一〇　産業組合の委託販売税その他に関する法案が州知事の署名により実施さる

一二・三〇　産組蚕種製造所州政府へ譲渡

〇一九五五年（昭和三十年）

一・一五　第一アリアンサにて豊島農民福音学校長藤崎盛一氏立体農業の講演あり

二・一九　君塚大使帰国

二・二四　千葉総領事帰国

三・六　産組通常総会

三・一三　第一出張所第六回総会

三・三〇　安東義良大使、磯野勇三総領事着任

四・三　鶴順吉氏ミランドポリスにて現金時計等強奪さる

六・五　東京都婦人少年室長高崎節子女史来ア「戦後十年間の日本婦人の歩み」の講演あり

六・二五　二六両日第一アにて農産品評会

八・二四　河野一郎農林大臣来伯

九・七　伯国独立記念日、第一ア入植祭

九・一五　日本女子陸上界のホープ南部敦子さん着伯

九・二一　アルゼンチンペロン政権倒る

一〇・三　大統領選挙行わる。

結果は大統鎖にクビシェッキ氏副大統領にジョン・ゴーラール氏当選　△今日より三日間第二アリアンサにて全ア青年修養講習会開かる。

出席男二十八名女子二十六名

一〇・二七　曹洞宗管長高階瓏仙大僧正来ア

一一・二　慰霊祭

一一・一一　護憲クーデター戒厳令布告さる

一二・一七　サンパウロ日本文化協会創立総会

一二・一八　大阪商船の神足元船長夫妻来伯

一二・二〇　力行会理事永田泉氏来村

〇一九五六年（昭和三十一年）

一・一一　大槻医師辞任、ミランドポリス市に移転開業

一・三一　ジュセリーノ・クビシェッキ新大統領就任式

二・一一　空軍将校反乱事件起る
二・二六　産組通常総会
三・七　大阪商船の神足元船長夫妻来村
三・二　第一ア出張所第七回総会
三・二六　前田副領事来村日本事情の講演
四・三　神沢久吉氏次男義人医学士アリアンサ医局に就任
五・六　在サンパウロアリアンサ学生会より「母の日」感謝のカード送らる
六・二三　神沢義人医師辞任
七・四　生長の家教主谷口清超氏来聖
七・九　堀田医学士神沢医の後任として着任
七・二〇　香川県知事金子正則氏来村
八・一　前伯国大使君塚慎氏急逝
九・七　伯国独立記念日、第一ア入植祭
九・二五　第一アリアンサグルッポ校図書館設置、一戸当り四十クルゼイロス寄附
一一・三　救済会の渡辺マルガリーダ夫人に日本政府から藍綬褒章贈らる
一一・一七　日伯文化普及会創立総会開かれ会長にアルメイダ氏決定
一一・二五　北パラナ・エスペランサ本願寺八十山凡水師来村

一二・八　メルボルンオリンピック大会終る。
総合で日本九位、伯国二七位
一二・二三　鳩山内閣総辞職の後を受けて石橋内閣誕生したが、首相病弱のため五十七年二月辞職岸外相にバトンを譲る

〇一九五七年（昭和三十二年）

一・二八　曹洞宗南米開教総監新宮良範師来村
二・二四　産組通常総会
三・三　女子青年（第十回）男子青年（第一回）バスケットボール大会ホルモーザにて催さる
三・六　アフリカに新国家ガーナ誕生
四・二七　二八両日第二アリアンサにて全ア少年野球大会
五・一五　クリスマス島にて英、水爆実験
五・一六　来年日本移民五十年に当りサンパウロにて祭典を催し又記念事業の計画につき寄附金募集始まる
五・一九　第一アリアンサに於いて全ア青少年陸上競技大会催さる
六・三　ミナス製鉄所建設の日伯協定調印式リオ大使公邸で行われる
六・七　今日から三日間第三アにて全ア青年野球大会、農産品評会催さる
七・四　ソ連共産党中央委員会はマレンコフ元首相、モ

ロトフ元外相、シエビロフ外相、カガノヴイッチ中央委員を党幹部会から追放と発表

八・四　第二アリアンサ自治会館にて第一回全ア増産研究会あり

八・三一　茨城県東海村の国立原子力研究所で日本で始めての原子炉の火入れが行われた

九・七　伯国独立記念日、入植三十三周年記念祭、昼運動会、夜演芸会

九・二〇　今日より三日間第三アリアンサにて修養講習会

九・二五　コチア産組専務理事下元健吉氏脳溢血のため急逝

九・二六　第一アリアンサに於いても日本移民五十年を記念して第一アリアンサ墓地に納骨堂建立の議案決定する

九・二九　第一会館にて全ア青年弁論大会

一〇・四　ソ連のタス通信は世界最初の人工衛星か打上げられたと報じた

一〇・二七　聖州農業拓植協同組合中央会発足

二・一一　磯野総領事ポルトガル公使に任命さる

一二・一八　最高裁判所長官田中耕太郎博士夫妻着聖

一二・二八　磯野総鎖事の後任に鈴木耕一氏決る

〇一九五八年（昭和三十三年）

一・五　医局勤務中の堀田医師マリリヤに移転
三・二　産組通常総会
三・八　オリエンテに於いて全ア男女青年バスケットボール大会
四・一八　山本喜誉志農学博士伯国外相から南十字星章を受ける
四・二〇　第三アにて全ア少年野球大会
四・二二　北山茂ドットールアリアンサ医局に就任
四・二七　納骨堂建立起工さる
五・一八　第二アリアンサにて第十二回全ア陸上競技大会催さる
五・二一　サンパウロ理論物理学研究所々長として招聘された武谷三男博士着聖
六・一一　第一会館にて本年度入営兵士壮行会、羽広登、竜田ジョーヂ、高木将、長尾剛、倉島タカハルの五君、十七日出発バウルー迄行ったが入営せず帰村　△三笠宮両殿下リオに御到着
六・一三　第一アにて今日より三日間全ア青年野球大会、農産品評会、手芸写真展
六・一七　三笠宮両殿下サンパウロに御到着
六・一八　この日を中心に移民五十年祭行わる
六・二二　第一アリアンサ墓地にて石戸牧師司式の下に納骨堂落成式、納骨最初の記念式、移民五十年祭慰霊式の三式行

わる

六・二四　八十山凡水師のお話と幻灯（第1会館にて）

七・一一　長野県農地経済部長橋詰美雄氏来村。
十二日第一会館にて歓迎会開催

七・一四　伯国科学審議会招聘の理論物理学の権威湯川博士夫妻着聖

七・一八　豊島農民福音学校長藤崎盛一氏再度来村、第一ア会館に於いて「立体農業のあり方」について講演

八・五　移民五十年祭理事会は実態調査部を五十年祭委員会から切り離し独立決定みる

八・六　ジュケリー病棟建設定礎式行わる

八・一四　カナダ在住四十年聖公会牧師中山吾一先生の講演会第一会館にて行わる

八・一六　日伯合弁ウジミナス製鉄所の地鎮式行わる

九・七　伯国独立記念日、第一アリアンサ入植祭、会館附属館落成式、祝賀立食会、敬老会、運動会、演芸会、シネマ

九・一二　今日から三日間第一会館にて４ＨＣ講習会、講師林・永田、片岡氏

九・一七　州議候補内山良文氏の政見発表会午後五時より第1会館にて開催、引続きシネマ無料公開

九・一八　コロニヤ実態調査本部から川久保武夫氏出張、第一会館にて全アの調査員二十名に調査の講習をする

九・二六　今日から三日間第二ア自治会館にて修養講習会

開催

一〇・三　総選挙行わる。
開票結果は知事にカルバーリョ・ピント氏当選

一〇・一八　総選挙の結果コロニアから連邦下院に田村幸重氏、州議員に平田進、内山良文の両氏当選

二・二一　慰霊祭、午前十時より斎場修理未完のため会館にて挙行

○一九五九年（昭和三十四年）

一・一　キューバ革命はバチスタ大統領が、ドミニカに亡命、二年越しの内戦は革命軍の勝利に終った。△ソ連月ロケット第一号「ルニック」打上げ

二・二一　汎ノロ準青年野球大会第二アリアンサにて催さる

三・三　ミランドポリス市への通学車初めて出る

三・三　元首相鳩山一郎氏急逝

三・八　産組第二十回通常総会

三・一五　第一ア出張所第十回総会

三・二二　第一アに於いて全ア男女青年バスケットボール大会開催

四・一〇　皇太子継官親王殿下と正田美智子さんの御結婚式が皇居賢所で行われた

四・一二　産組臨時総会（第二自治会館）一元化承認、分離経営に終止符。

△全ア少年野球大会（第一グラウンド）

四・一三　クルベアグリコラの発会式行わる

四・二四　今日から三日間第一会館にて修養講習会催さる

五・一〇　母の日、蓮沼信一氏より母の会結成提案あり

△サンパウロ州総務長官ドットール・マルシオ・リベイロ・ポルト氏来村、歓迎会開かる

五・一七　第三アグラウンドにて全ア青少年陸上競技大会開かる

五・二西　前米国務長官フォスター・ダレス氏腸癌で逝去

五・三〇　曹洞宗南米開教総監新宮良範師来村、第一会館にて「婦人と教養」と題して講演

六・一　古賀ドクターアリアンサ医局に就任

六・六　午後七時半より第一会館にて安輿　鈴木、芳賀、沖村、広田五君の入営壮行会開催

六・一二　今日より三日間第二アリアンサにて第十五回青年野球大会開催さる

六・二八　日本移民五十年祭を記念してコロニアがブラジル側に贈るジュケリー精神病棟贈呈式行わる

六・二〇　母の会発会式

七・一五　農務長官ドットール・ジュゼ・ボニフアシオ氏クルベアグリコラの総会に出席のため来村

七・二四　ヨーロッパ各国の訪問を終えた岸首相ブラジルを訪れた

八・四　上条亨氏（P・S・D）末出守氏（P・L）郡会議員に当選

九・七　伯国独立記念日、入植祭、昼運動会夜演芸会

九・一二　ソ連月ロケットルニック第二号打上げ

九・二六　史上最大の被害を招いた伊勢湾台風

二・二一　慰霊祭　△サンパウロ総領事鈴木耕一氏は本省転勤、後任にはリオ大使館石井参事官が総領事に任命さる

一二・三　入植記念石碑の土台石採集に参加した土屋富雄君アバニヤンダーバにて溺死

○一九六〇年（昭和三十五年）

一・一九　日米新安保条約調印

二・一四　第三会館にて第十一回ノロエステ青年雄弁大会開催

二・二三　皇太子のお子さま浩宮御誕生

二・二八　産組通常総会

三・一八　南米新聞主筆菊梢三氏講演会

三・二五　今日から三日間第三アリアンサにて修養講習会開かる

四・三　男女青年バスケットボール大会(フォルモーザ

に於いて）

四・一七　全ア少年野球大会が第二アで開かれたが、第一、第二、第三チーム一勝一敗同率にて降雨のため中止

四・一八　韓国李承晩政権崩壊す

四・二一　ブラジルの首都移転、ブラジリアにてクビチシェキ大統領司会のもとに厳そかな遷都式が行われた

四・二四　前週の少年野球再開。

一位第三チーム

五・八　母の日

五・二二　第一グラウンドで全ア青少年陸上競技大会開催

六・一〇　今日より三日間第一アリアンサで全ア青年野球大会、農産品評会、手芸写真展催さる

六・一九　安保反対のデモで女子学生樺美智子さん死亡、五百数十人の重軽傷という犠牲者が出た

六・二一　チリー南部のコンセプション市一帯が前後三回にわたる激しい地震に襲われ死者一千負傷者一千罹災者総数十万にのぼる被害を受けた。

この地震により大津波が起り一万七千三百キロを距てた日本の太平洋岸一帯を襲い死傷者一千流失倒壊家屋六千流失破壊船舶千七百隻とかってない甚大な被害を与へた。

七・六　聖市ピラチニンガ学生クラブ員十八名奥地見学に来る。

夜第一会館で青年団員と座談会及教育映画上映

七・一九　岸内閣総辞職の後を受けて池田内閣発足
七・二七　第一アリアンサグルッポ校舎完成
八・二八　全ア青年一日修養講習会
九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植三十六年祭、運動会、敬老会、演芸会
一〇・三　ブラジル大統領選挙（ジャニオ・クワドロス氏勝つ）
一〇・八　文化センター建設委員会発会式
一〇・一二　浅沼社会党委員長は比谷公会堂で池田自民党総裁、西尾民社党委員長との三党首立会演説中暴漢のため短刀で刺殺された
一〇・二〇　第十区電灯架設イナグラソンを行う
一一・二〇　入植記念石碑除幕式行ある
一・一二七　第十二回全ア青年弁論大会

〇一九六一年（昭和三十六年）

一・三　サンパウロとマットグロッソ州境を流れるパラナ河にウルブプンガ電力会社発足、五ケ年計画で発電所建設へ
一・二〇　ケネディ米大統領就任
一・三一　ジャニオ大統領就任式挙行さる

二・二　米国最新型大陸間弾道弾打ち上げに成功
二・四　ソ連重量六トン半の大人工衛星を打ち上げ軌道に乗せることに成功
二・一二　第一ア会館にて汎ノロ幼少青年柔道大会催され、ミランドポリスと第一ア合同、グワララッペス、ラビーニヤ、アンドラジーナ、アラサツーバ、ペレイラバレットの六チーム
二・一九　サンパウロ同仁会の細江ドクター講演（第一ア会館にて）
二・二六　第二十二回産組総会
三・九　ソ連犬を乗せた宇宙船の回収に成功
四・九　第一アリアンサにて全ア男女青年バスケットボール大会行ある
四・一〇　安東大使に帰国命令
四・二　ユダヤ人虐殺戦犯アイヒマンの公判開始さる
四・一二　ソ連人間を乗せた宇宙船の打ち上げに成功（ガガーリン少佐）
四・一六　第三アリアンサにて全ア少年野球大会
四・一七　反カストロ派キューバに上陸したが、十九日には殆んどせん滅され侵攻作戦失敗に終る
五・五　米最初の宇宙人を乗せた「レッドストーン」を大西洋上で回収（アランシェパード中佐）
五・六　後任駐伯大使に田付景一氏と決まる

五・一四　母の日、第一ア男女青年・クルプアグリコラ部員共催で会館にて母の日をお祝する

五・二一　第二アリアンサにて全ア青少年陸上競技大会催さる

五・三一　ドミニカの独裁者トルヒヨ暗殺さる

六・一六　今日から三日間第三アリアンサにて青年野球大会、農産品評会、手芸、写真展催さる

六・二一　石井総領事、大沢移民部長来村

六・二九　石戸義一牧師米寿の祝賀会

七・四　フエラリー議員提出の農村労働者擁護法案下院を通過

七・二八　マヌエル・サントス選手全日本水上選手権大会百米自由型で優勝

八・二五　ジャニオ大統領突如辞任、マジリー下院議長臨時大統領に就任

八・二九　日本聖公会八代司教弓場農場訪問

九・二　憲法修正案両院で可決「議会制」制定さる

九・七　伯国独立記念日、入植三十七周年記念祭、運動会、演芸会

九・八　ジョン・ゴーラール氏大統餌に就任、初の議院制内閣成立、首相にタンクレード・ネーベス氏就任

一一・二　慰霊祭

一一・一九　夢二アリアンサにて全ア青年弁論大会開催

〇一九六二年（昭和三十七年）

一・七　郡長ジェラルド・ブラーガ氏及デプタードネチーニヨ氏を迎えフットボールカンポ及カデイヤの落成式行わる

一・一九　ピラシカーバ農大より六名来ア、植林について講演

一・三一　米州外相会議は正式にキューバを米州から除外することに決定

二・一一　オリエンテにて全ア男女青年バスケットボール大会開催

二・二五　産組通常総会

四・五　第一ア会館にて日本より来伯した小豆正夫牧師の説教あり

四・一五　第一アリアンサにて全ア少年野球大会催さる

五・一一　国賓待遇の吉田元総理一行リオに到着

五・一二　吉田元総理一行聖市入り

五・一八　吉田元総理一行離伯

五・二〇　全ア青少年陸上競技大会（第三アリアンサにて）

六・九　一〇両日第三アリアンサで農産品評会、青年野球大会催さる

七・三　聖市ガルボソ・ブエノ街で日系母娘殺傷事件発生

七・一〇　ネーベス内開総辞職の後をうけてブロッシヤード・ダ・ロッシャ内閣承認さる

七・一六　石井総領事に帰国命令

八・五　教会堂にて森山牧師の紙芝居

八・一九　第一アで一日修養講習会

九・七　伯国独立記念日、入植三十八週年記念祭、運動会、芝居、バレー

九・九　鶴我七蔵新サンパウロ総領事着任

九・一五　ブロッシヤード内開総辞職、エルメス・リマ前労相臨時首相に任命さる

九・二二　第三アリアンサグルッポ校舎落成式行わる

九・二六　前首相ブロッシヤード氏脳溢血で死亡

一〇・七　十州知事、上院議員、下院議員、州議、市長市議員選挙、開票の結果サンパウロ州知事にアデマール・バーロス氏当選

一〇・二五　七日行われた選挙で日系では連邦下院に田村平田（サンパウロ州）宮本（パラナ州）の三氏、州議に東野、内山、森本、野村、仲村渠（以上サンパウロ）上野（パラナ）の諸氏当選

一〇・一六　今日から四日間第一会館にて中央会主催料理講習会開かる
一一・一四　国際水泳大会出場の山中毅選手来聖
一一・二五　第一会館にて全ア青年弁論大会

〇一九六三年（昭和三十八年）

一・八　一月六日に行われた国民投票の結果現在の議会制度に反対、大統領制の勝利が確定
一・一五　聖市ジャバクワラ区で旅客機が日本人宅に墜落、四人即死、重軽傷三人を出す
一・二三　産組中央会の農業振興センター発足
二・二四　産組通常総会
三・三　第三アリアンサにて全ア男女青年バスケットボール大会催さる
四・三　俳人高野素十さん着聖
四・一四　石戸義一牧師昇天
四・一五　故石戸牧師告別式（村民葬）
五・一二　母の日
五・一九　コロニアの保健衛生に献身した高岡専太郎医博死亡　△第一アリアンサにて全ア青少年陸上競技大会開催
六・一三　生長の家谷口総裁夫妻着聖
六・一四　今日から三日間第一アリアンサにて青年野球大

会、農産品評会、手芸、写真展が催さる

六・二八　故石戸牧師追悼会（教会堂）当日は故人の生誕満九十才に当る

七・三一　山本喜誉司博士死去

八・八　サンパウロとパラナ州に強い霜が降りカフェーなど農作物に被害甚大

八・二七　文化協会新会長に中尾熊喜氏決まる

九・七　伯国独立記念日、入植三十九周年記念祭

九・一〇　パラナ州の山火事によって死者百名多数の負傷者が出た。

米国から消防隊到着

九・一一　鶴我総領事来村、第一会館にて講演

一〇・一三　ブラジリアで海空軍の下士官グループが反乱を起したが、十三時間後鎮圧された

一〇・八　日本政府は故間崎三三一さんに勲五等瑞宝章贈与を閣議で決定

一〇・二六　プロヅットール倉庫ＫＫの加藤好之社長死亡

△ドミニカでクーデターが勃発、ボッシュ大統領追放さる

一一・一　南ベトナムにクーデターが起りゴ・ジンジェム政権崩壊

一一・二　慰霊祭

一一・八　九両日第一会館にてＣＥＤＡＣ主催手芸料理講習会

一一・二二　テキサス州ダラス市でケネディ大統領暗殺さる
一二・七　八両日第一アリアンサにて森山牧師による児童文化後援会文化展及び大型紙芝居催さる

○一九六四年（昭和三十九年）

一・一　ドットトールジョルジ・マルリー・ネット氏郡長に就任
一・　四　京野四郎州議来ア
一・一九　第二アにて全ア青年弁論大会
二・九　第一会館にて汎ノロ青年弁論大会開かる
二・二六　産組通常総会
三・八　第二アリアンサで全ア男女青年バスケットボール大会開催
三・一四　一五両日ＣＥＤＡＣ主催料理・手芸・造花講習
三・三一　ジャンゴ政府打倒革命起る
四・一〇　リンス市の多羅間氏一家サンパウロに転住
四・一二　去年亡くなった石戸牧師の追悼会
四・一五　カステロ・ブランコ将軍大統領に選ばる
五・一二　一三日第三アにて第十四回農産品評会、手芸展、全ア青年野球大会
五・一七　第二アリアンサにて全ア青少年陸上競技大会開催

五・二六　印度のネール首相逝去

六・八　ジュセリーノ・クビシェッキ元大統領に十年間政治活動禁止の追放令出る

六・二六　新潟を中心に戦後最大の地震あり、火災も併発

七・一二　第二ア会館にて修養講習会催さる。講師蓮沼・菊地・平井の諸氏

九・六　入植四十年祭第一日、弓場牧師による先亡者慰霊ミサ、運動会、シネマ

九・七　伯国独立記念日、入植祭第二日、郡長、郡会議長、中央会理事長・中川領事等出席のもとに入植四十年祭記念式が行わる。

北原地価造氏へミランドポリス名誉市民権、日本政府から藍綬褒章、地理学協会から、「ブリガデイロ・ジョゼ・ヴイエイラ・コート・デ・マガリヤソエス」章が贈らる。開拓功労者へ感謝記念品贈呈、敬老会、シュラスコ会、夜演芸会

一〇・一〇　東京オリンピック開幕

一〇・一三　フランス大統領ドゴール氏サンパウロ訪問

一〇・一五　ソ連フルシチョフ首相辞任　△英国総選挙は労働党勝つ

一〇・二六　池田首相前癌腫で入院中、総理を辞任

一一・　二　慰霊祭

一一・一六　日本政府首相に佐藤栄作氏指名さる

〇一九六五年（昭和四十年）

一・五　今日から十日迄修養団伯国連合会主催奥ノロ少年少女講習会が第一会館にて催される

一・七　スカルノ・イソドネシア大統領、国連脱退を宣言

一・一八　サンパウロに集中豪雨、メルカード一帯湖水と化す　△日本より中村牧師着村

一・二四　チャーチル元英首相九十才で逝去

二・七　全ア青年弁論大会

二・一三　一四両日中村牧師持参の日本の児童作品展示会

二・二八　産組通常総会

三・一八　ソ連では二人乗り人工衛星を打ち上げ、史上初めて人間を五米離れた宇宙空間に脱出させることに成功

四・一一　石戸牧師二周年追悼ミサ

四・一八　ボストンマラソンで重松優勝

四・二五　体操の相原、中山選手来伯

五・九　母の日

五・二三　第三アリアンサで全ア青少年陸上競技大会開催

六・三　米国は宇宙船ジェミニ四号を打ち上げ、ホワイト少佐が二十分間の宇宙遊泳に成功した

六・一一　力行会が八月来伯する日本海上自衛隊の親善遠

洋練習艦隊に「南米の日系人へ」と三万冊の書籍を依託　△第二アリアンサで全ア青年野球大会と農産品評会催さる

七・　八　前国務相河野一郎氏死去

七・一五　米国の火星ロケット「マリナー四号」火星の撮影に成功

七・一九　朝鮮初代大統領李承晩氏ハワイで死亡

七・三〇　文壇の長老谷崎潤一郎氏死去

八・八　日本海上自衛隊練習艦隊の「あきづき」「てるづき」「ゆうだち」「むらさめ」がレシーフェに入港、伯国訪問の第一歩を印す

八・一三　池田前首相肺炎で死去

八・一四　第一ア会館で東京オリンピック写真展開かる

八・三一　日本海上自衛隊練習艦隊四隻サントス入港

九・五　アフリカの聖者シュバイツアー博士逝去

九・七　伯国独立記念日、入植四十一周年祭、運動会、シネマ

九・八　当移住地創設者の一人輪湖俊午郎氏チエテの自宅にて逝去

九・二三　日本・ベネズエラ、伯国の国際親善野球鐘紡球場で開幕、二十五・六日はサンパウロ、二十八日マリンガ、二十九日はマリリヤで幕を閉じた

九・二六　故輪湖俊午郎氏の追悼会が第一ア教会で行われた

一〇・一四　今日から十八日迄第四回世界柔道選手権大会リオ市で開催、重量級でヘーシンク、中量級岡部、軽量級松田、無差別級猪熊が優勝　△事業団サンパウロ支部長大沢大作氏死亡

一〇・二一　スエーデン科学アカデミーが東京教育大学教授朝永振一郎氏にノーベル物理学賞授与と発表

一一・一四　大河内辰夫氏急逝

一一・一八　日本政府初の生存者叙勲蜂谷専一氏と大河内辰夫氏(急逝)に対する勲五等瑞宝章伝達が総領事館で行わる

△故大沢大作氏に勲五等旭日章の叙勲決まる

一一・二〇　図書館建設について合議

一一・二六　故輪湖俊午郎氏に勲五等瑞宝章叙勲きまる

一一・三〇　皇太子妃美智子さま二人目口の男子御出産

一二・一五　米の有人衛星ジェミニ六号と十二日前に打上げられたジェミニ七号のランデブーに成功と報ぜらる

○一九六六年（昭和四十一年）

一・四　世界最大のタンカー東京丸（十五万重量トン）の試運転

一・五　サンパウロ市内に集中豪雨、低地帯の浸水被害甚大

一・一一　シャストリーインド首相タシケントで客死、

△各産組購買部局で扱う家庭用品の免税廃止

一・一九　インド新首相にインディラ・ガンジー女史

一・二五　第一ア会館にて東京オリンピック映画（市川崑監督）上映

二・三　ソ連のルナ九号月面に軟着陸に成功

二・八　マットグロッソ州松原植民地で小川孝三郎さん一家九人の惨殺事件

二・二七　産組通常総会

三・一　サンパウロ総領事鶴我七蔵氏に帰国命令

三・六　サンパウロ一帯に集中豪雨、史上最大の被害を受ける　△第二アにて全ア青少年陸上競技大会

三・一一　サンパウロ総領事に近藤四郎氏（ポルトアレグレ総領事）に決定

三・一二　第一アリアンサ図書館定礎式　△瀬下登氏逝去

四・一七　故石戸牧師の三周年の礼拝

四・一九　ボストンマラソンで日本の四選手上位を古む

五・七　産組第一アリアンサ事務所落成式

五・九　中共で水爆実験

五・一一　元慶応義塾々長小泉信三氏死去　△ＮＨＫ交響楽団一行百二十人が来聖

五・一二　産組臨時総会

六・五　アデマール・バーロス・サンパウロ州知事が大統領令によって追放さる　△米ジェミニ九号のサーナン飛行士

が二時間五分の宇宙遊泳の新記録を樹立

六・一一　一二日の両日第一アリアンサで農産品評会、全ア青年野球大会催さる

六・二三　外国語放送禁止令出る、日語ラジオも解消

七・四　第三ア会館にて産組臨時総会(信用部廃止・定款改正)第三ア購買部建物のイナグラソン

七・二〇　米ジェミニ十号史上初の二重ランデブーに成功

七・二四　二五両日第二アリアンサ入植四十年祭、敬老会、シュラスコ会、運動会、演芸会

八・三　東本願寺法主大谷光暢氏御夫妻一行着聖

八・六　パラナ、サンパウロの一部に降霜、特にパラナのカフェーは四十―五十%の減収予想　△女子バレーボールのニチボー貝塚ヤシカに敗れ連続記録二五八でストップ

八・一六　東本願寺法主大谷光暢氏御夫妻来村、第三アリアンサ正願寺参詣　△日本厚生省が六十五年度の平均寿命男六七・七三才、女七二・九五才と発表

八・二一　今日から五日間アラサツーバで行われた青年野球ノロ予選でアリアンサが優勝、全伯大会ノロ代表となる

九・三　十二州で知事の間接選挙、サンパウロではアブレウ・ソドレー氏当選

九・七　伯国独立記念日、入植四十二周年祭、図書館落成式、運動会、シネマ

九・一八　アリアンサ郷友会第二回例会聖市文化センター

で開かる（出席二五〇名）

九・二三　日本移民援護協会が連邦政府公認の社会福祉団体に正式決定

九・二八　椎名外相夫妻訪伯

九・三〇　椎名外相夫妻一行聖市入り

一〇・三　上下両院で大統領間接選挙、大統領にコスタ・エ・シルバ元帥、副大統領にペードロ・アレイショ前教育相が選ばれた

一一・二　慰霊祭　△日・米・パナマ国際プロ野球参加の東映チーム水原監督以下二十七入来伯

一一・一五　連邦上院下院並に州議員の直接選挙全国一斉に行われる。

開票結果は日系では下院に田村、平田（サンパウロ）宮本、上野（パラナ）の四氏、州議に野村、森本、仲村渠、京野（以上サンパウロ）佐藤（パラナ）の五氏が当選

一二・八　ドットール・ジョルヂ・マルリー・ネット氏（州議）のサンパウロへの移転につき送別会が第一会館で催された

〇一九六七年（昭和四十二年）

一・一　商品流通税が実施に入った

二・四　第二アリアンサで電気・電話・グルーポ校のイナグラソン

二・五　第二アにて全ア青年弁論大会

二・九　今日から貨幣価の呼称変更、千クルゼイロが一クルゼイロノーボと千分の一になる

二・一二　移住地史編纂についての第一回相談会

二・一九　第一会館にてノロエステ青年弁論大会催さる

三・三　釜野ジョージさんの次男クロービス君（七才）が三十二キロのパストの水溜めにて魚釣り中あやまって水中に落ち溺死

三・五　産組通常総会

三・一五　コスタ・エ・シルバ氏大統領に就任

三・一八　移住地史編纂のための区長会開かる

三・一九　カラガタツーバで集中豪雨あり、山崩れで被災者三千倒壊家屋三百戸と報ぜられる

四・二　中村牧師送別会

四・一五　移住地史編纂委員会、委員に色川、瀬下、上条、高木、蓮沼、岩本、光田、弓場、浅野、小橋、北村、岩本、広田、大峡、北原、神沢、佐藤、工藤、新津、安田、田中、森、渡辺、山上の諸氏委員長北原地価造氏、編輯主任岩本辰四郎氏と決まる　△東京都知事に社・共推選の美濃部亮吉氏当選

四・二五　前西独首相アデナウアー氏の国葬行わる

四・二九　天皇誕生の日　△第二アリアンサでグルッポ校開校式

五・一四　母の日

五・二一　第一アリアンサで全ア青少年陸上競技大会開催
五・二二　ペルー、アルゼンチンを経て皇太子御夫妻ブラジリアにお着きになる
五・二四　皇太子御夫妻聖市着
五・二八　皇太子御夫妻マイアミ向け離伯さる
六・五　アラブ連合とイスラエル戦斗開始　△田付景一大使に帰国命令
六・八　アラブ連合とイスラエル停戦に同意
六・一六　今日から三日間第三アで全ア青年野球大会、農産品評会が催される
六・二六　第二自治会館で産組臨時総会
七・一八　前大統領カステロ・ブランコ将軍セアラー州ムズリー上空にて飛行機事故で急逝
七・二一　今日から三日間第三アリアンサ入植四十年祭記念碑、電気、電話イナグラソン、野球、盆踊り
八・二　全日本フットボール・チーム来聖
八・一四　第一アリアンサにミランドポリス中学の分校が設置されることになり、そのイナグラソンが催された。
十六日より授業開始
八・一八　ミランドポリス―第二アリアンサ間電灯つく
九・七　伯国独立記念日、第一アリアンサ入植四十三周年祭、運動会、シネマ
九・二〇　新任駐伯大使千葉皓氏着任

九・二一　水田大蔵大臣来聖

九・二三　早川崇労働大臣来聖

九・二五　今日から五日間リオの近代美術館で国際通貨基金・世銀第二十二年次総会が開かれ日本から水田大蔵大臣、宇佐美日銀総裁等出席

九・二九　サンパウロ州知事が州の流通税に関して法令に署名。

野菜果実と同じく鶏卵肉鶏も生産費七〇％を差引いた残り三〇％に十五％の税をかけることになる（七月一日から来年六月三十日迄一ヶ年）

一〇・一八　ソ連の金星ロケット四号金星に軟着と新聞は報ず

一〇・二〇　吉田茂元総理八十九才で逝去、葬儀は三十一日国葬で行われる

一〇・三〇　二十七日に打ち上げたソ連の無人衛星コスモス一八六号と三十日打ち上げたコスモス一八八号のドッキング（結合）に成功

二・一　今日から来年二月末まで夏時間として一時間時計の針を進める

一一・二　慰霊祭

一一・三　秋の叙勲で宮坂国人氏勲三等旭日章、宮腰千葉大氏勲三等瑞宝章を受ける

一一・九　第一会館で実写映画（皇太子南米訪問、東海道

新幹線、アジヤオリンピック）

一一・一九　アリアンサ郷友会第三回例会聖市文化センターで開催さる

一二・三　第二アリアンサ自治会館で全ア青年修養講習会催さる

○一九六八年（昭和四十三年）

一・五　今日から五日間伯国修養団林間学校第一アリアンサで開かる。

一・一四　各地より集った生徒約七〇名

一・二七　第一アリアンサで喉自慢大会

二八日第二アリアンサで全ノロエステ準青年野球大会、出場七チーム、ミラソドポリス・チーム優勝する

二・四　第一会館で全ア男女青年弁論大会催さる

二・二二　中学敷地隣接地一アルケールを田中治男氏から寄付を受け運動場造成を決める

二・二五　第一アで男女青年バスケットボール大会　△第二アで産組通常総会

三・一　夏時間終る。

今日から時計の針を一時間遅らす

三・一〇　故瀬下登氏の二週年のミサ教会で行わる　△第三アで陸上競技大会

三・一三　第一会館にて南伯産組技師平松薫氏のブドー栽培についての講演あり

四・三　駐日大使館で松下幸之助、宮城幸治、永田稠三氏にブリガデイロ・コート・デ・マガリャンエス章の伝達式

四・四　米国の黒人指導者マルチン・ルーテル・キング牧師暗殺さる

四・五　小笠原諸島返還協定調印さる

四・七　故石戸牧師五週年ミサが教会堂で行われた

△移住地史編纂委員会

四・二九　天皇誕生の日、第一会館で再び平松薫氏のブドー栽培の講話

五・六　夜四二キロの岩本茂晴氏トラットール事故で死亡

五・一二　郡長サベール氏出席の下に運動場造成始働式を行う

五・一三　パリーで米国と北ベトナムの和平会談始まる

五・一六　北海道方面に大地震、震度七・八、十勝沖地震という

五・二二　第一アで日本から派遣されて来た青年指導者湯浅甲子氏の講話

五・二六　聖市クリニカ病院でブラジル初の心臓移植手術が行われた

六・一　三重苦の聖者ヘレン・ケラー女史八十七才で死

亡

六・五　北米カリフオルニヤ州で大統領選挙運動中のロバート・ケネディ氏アラブ出身者によって頭部を狙撃され翌六日死亡

六・一四　第二アで今日から三日間全ア青年野球大会と農産品評会

六・二三　第二アに農業センターを造ることになり農務長官代理出席してその定礎式行わる。△日葡辞典編纂に心血を注いだ野田良治翁日本の自宅で死亡

七・二一　第三アリアンサ入植祭

七・二五　第二アリアンサ入植祭

七・二七　聖市自由メソジスト教会牧師林博氏夫人林香さん伝道のため来村

七・二八　今日から運動場造りに第一アの全トラクターを動員交代で出賦する

八・八　札幌医大で日本初の心臓移植手術行わる

八・一七　第二ア自治会館で明治百年移民六十年の祝賀会が催された

八・二〇　ソ連・東独・ポーランドの軍隊がチェコに侵入、干渉と新聞は報ず

九・七　第一アリアンサ入植祭、新運動場で家族運動会、中学校敷地内に演芸会場を造って夜演芸会、午後七時頃教育長官ウリヨーア・シソトラ氏を迎え州議ドットール・ジョル

ジ、郡長等出席の下にジナジオの定礎式が行わる。

演芸会は弓場のバレエ、青年の芝居岩見重太郎一場、有志の芝居浮名の横櫛（源氏店）一場中途でミランドポリスへの通学車十周年を記念して関係功労者表彰式が行われた。

三人の市長、歴代父兄会長、相談役、首唱老永田、内海、麦生田、佐藤の四氏。

運転手アリピオ氏に記念品感謝状を贈る

九・二一　エルベルト・レビー農務長官来村、六月二十三日第二アで定礎式の行われた農業センター予定地を見、第三アリアンサへも農業センターを造るとて定礎式を行い後弓場のバレエを見物

九・二二　聖市文協サロンで在聖アリアンサ郷友会開催さる

九・二四　産組臨時総会（定款改正）

九・二九　第二アリアンサでカーザラボーラの池尻、湯朝の両技師を招いて農業センターについての座談会催さる

一〇・一　色川猷次牧師（九六才）昇天

一〇・一二　メキシコで五輪大会始まる

一〇・二七　メキシコオリンピック終る。

日本は金メダル数では米ソに次ぎ三位

一一・一　米国ベトナムでの北爆停止命令出る

一一・　二　慰霊祭

一一・三　第二で全ア準青年野球大会

二・五　米大統領選共和党ニクソン氏勝つ。

下院議員・上院議員の一部選では民主党過半数を占める

一一・一五　共和宣言日、市長・市会議員選挙行わる

一一・二六　昨日の選挙でミランドポリス市長にローレンソ氏当選、市議にアリアンサから上条亨氏当選

二・二三　満四十四年入植記念日を祝って第三会館で有志会食す同時に敬老会を催す

二・二六　日本自民党総裁選、過半数で佐藤栄作氏三選

△アリアンサ中学校建設予算六三万Ｎ$認可さる

一二・三　初生雛のＩＣＭ免税となる

一二・一〇　ストックホルムにて今年度ノーベル文学賞を日本の川端康成氏が受賞

一二・一四　教会で北米から宣教のため来伯した前田伊都子氏の説教　△聖市地下鉄起工式行わる

一二・一五　前田さんの講演会が第一会館で行われる　△夜会館にて仮称第一アリアンサ文化協会設立について合議

一二・二一　移住地史編纂委員会

〇一九六九年（昭和四十四年）

一・一　第一アリアンサ文化協会創立総会、会長に田中

治男氏、副会長に小橋義雄氏選ばる　△今年度サンシルベストレ競争に参加した日本の沢木啓祐選手は二位に入賞、一位はベルギーのローランツ

一・二〇　米ニクソン政府発足

一・二一　六区在住の藤川孝一（二十二才）君パストのアスーデに落ち溺死

一・三〇　ジュピアダムの始動式が行われ十四基の中三基が発電を開始

二・一　今日から疏菜・生魚・果実・卵・食鶏は全面的免税。珈琲を除く未加工食産物の第一次販売は免税、珈琲を除く農畜産物の輸出も免税となる

二・二　第三アリアンサで男女青年の弁論大会

二・二三　産組通常総会、△第三アリアンサで男女青年バスケットボール大会

三・二　第二アリアンサで全アインファソチル陸上大会催さる

三・一二　元州知事アデマール・バアロス氏パリーで心筋梗塞のため死亡

三・二八　米アイゼンハウアー元帥死亡

四・五　第一会館でアリアンサ農業者産業組合三十周年祭を催す

四・一三　第一グラウンドでノロエステインファンチル陸上競技大会が催された　△第二アリアンサで産組臨時総会

四・一五　今日からバタタ・セボーラ・アーリョ・花卉・マンヂョーカの州ＩＣＭ全面的に免税となる

四・一八　皇太子妃美智子さま初めての女子御出産

四・二一　ボストンマラソンで日本の釆谷義秋選手二時間十三分四十九秒で優勝

四・二七　第二アリアンサで全ア少年野球大会　△二十五日の国民投票に敗れ仏ドゴール大統領辞任

五・九　四十五年史編纂委員会

五・一一　母の日、第一会館で午後四時から母に感謝の会が男女青年によって催される。

夜シネマ

五・一六　アリアンサ文化協会連合会生る

五・二五　第一アリアンサで全ア青年陸上競技大会

五・三〇　森山牧師アサイで昇天

六・七　第三アリアンサ八木修平氏の長女早苗さん（十九才）が同家に働いていた青年阿部剛に絞殺された

六・一三　今日から三日間第一アリアンサで全ア青年野球大会、農産品評会催さる　△日本政府閣議で聖市総領事近藤四郎氏キューバ大使に栄転きまる

六・一五　仏国大統領決戦投票でポンピドー氏勝つ

六・一九　ジュピアダムの最初の発電機三基の始動式が一月三十日行われたが、故障があった為か本日再び大統額出席の上行われた

六・二一　日本滞在十三年のスエーデン牧師エリック・サンベリー氏が第一会館で幻灯会を催す

七・一〇　サンパウロ州、パラナ州に降霜、パラナ州のカフェー被害甚大

七・一六　米のアポロ十一号打上げ、月旅行へ出発

七・二〇　アポロの二飛行士月に初めての足跡を印す

七・二一　第三アリアンサ入植祭

七・二四　月旅行を終えたアポロ十一号無事帰還

七・二五　第二アリアンサ入植祭　△アプレウ・ソドレー知事を迎えてミランドポリス市クリニカ病院のイナグラソン

八・七　聖市にて伊藤八十牧師昇天郎

八・一五　サンパウロ総領事後任に大口信夫メキシコ公使が発令れた

八・二八　日本の高校選抜野球選手聖市着　三十日中央線鐘紡球場を皮切りに各地で試合を行う

八・三一　コスタ大統領病気のため一時休職、陸・海・空三大臣によって政務が代行される

九・三　北ベトナム大統領ホー・チミン急性心臓病で死亡

九・七　各区対抗野球、夜夕食会

九・二一　アリアンサ育ての親北原地価造氏逝去

九・二二　故北原地価造氏告別式アリアンサ文化協会連合会葬にて行わる

九・二八　故色川猷次牧師の一週年ミサ

一〇・五　第五回アリアンサ郷友会聖市文化センターで開催さる

一〇・一六　四十五年史編纂委員会、委員長代理に田中治男氏が推選さる

一〇・二七　夜産組第一アリアンサ出張所売店の盗難、多額の商品が持ち去らる

一〇・三〇　ブラジリアにて正副大統鋭・閣僚の就任式、大統領にエミリオ・ガラスタズ・メジシ前第三軍司令官が、副大統領にアウグスト・ラデマケル前海相が就任、商工大臣に安田フアビオ・良治氏就任、日系から初めての大臣である

一一・二　慰霊祭

一一・八　故北原地価造氏四十九日追悼会

一一・一四　米国ケープ・ケネディーから第二回月旅行のアポロ十二号が発射さる

一一・一九　ワシントンで日米首脳会談、一九七二年に沖縄返還合意に達す

一一・二七　農牧品に対するＩＣＭ免除案連邦下院を通過（養鶏飼料・肥料・農薬晶・トラクター・農機具等）

一一・三〇　産組臨時総会

一二・二　日本衆議院解散、総選挙は二十七日と決まる

△故北原地価造氏に九月二十一日付で日本国から勲互等瑞宝章が贈られ、本日聖市総領事館でその伝達式が行われた

一二・七　第一アリアンサグラウンドで全ア準青年野球大会

一二・一七　病気療養中であった前大統領コスタ・エ・シルバ氏逝去

一二・二〇　中学校舎落成式を兼ねて入植四十五周年を挙行、慰安運動会・中学校舎のイナグラソン・シュラスコ会・祝賀演芸会

社会・文化篇

一、移住地の人口動態

一、第一移住地人口動態

第二次世界大戦、それに続く戦後の暗い社会状勢から漸く平静に戻った感じのコロニアであるが、戦争が終って旅行や移転が自由になると共に新開地の通例というか、日本人の移動癖というか、邦人のいちじるしい移動が始った。

これには二つの流れがある。

一つはサンパウロ市或はその近郊へ、他は開拓の最前線であるパラナ州やマットグロッソ州へと。

前者は子弟の教育に便利であること、幾らかでも文明の恩恵に浴した生活をという理由からであろう。

後者は子孫百年の計をというのであるようだ。

吾がアリアンサの村もこうした流れにもまれて漸時世帯数が減少していった。

第一アリアンサの人口を一九四九年と一九六七年とを比較して見ると次の如きである。

一九四九年

	戸数	人員
日系人	一九七	男　七八四
		女　七七五
		合計　一、五五九
伯人	五四	男　一九四
		女　一八一
		合計　三七五

一九六七年（四月末）

日系人	一三二	男　四〇九
		女　三五五
		合計　七六四
伯人	九八	男　三〇三
		女　三〇〇
		合計　六〇三

右表に見る如く十六年程の間に且系人は半減し、伯人は約倍に近く増加している。

二　各区別人口

各区別に見るならば（一九六七年四月調）

日系	戸数	男	女	戸数	伯人 男	伯人 女
一区	七	四二	四〇	八	二〇	二四
二区	一二	四〇	三六	二	七	七
三区	一〇	二四	二一	二七	七九	七二
四区	二七	七七	五八	一	四	四
五区	六	二三	二二	一	三	三
六区	三	一〇	九	一二	四三	三五
北米区	五	一八	九	五	一三	二五
七区	一三	三九	四五	一四	五四	四五
十区	一二	三四	二六	一四	三六	四二
中央区	三七	一〇二	八九	一四	四四	四三
計	一三二	四〇九	三五五	九八	三〇三	三〇〇

合計　七六四　六〇三

転出については種々の理由によるものであろうが、転出の踏み切りを容易にさした主たるものは子女の通学に余りにも遠いこと、或は日常生活に不便な位置にあることがあげられる。

即ち中央区に遠距離の処程転出が多くそのあとは牧場に変りつゝある。

三、入植時から今日までの家族員数の変遷について

現在第一アリアンサに居住している日系家族の中一一二戸について入植時から今日(一九六七年末)までの家族員数の変遷について調べてみた。

	調査戸数	入植時の家族員数	入植時の人の現在者	現在家族員数	村外に膨張した数
中央区	三六	一二六	八九	二一五	一〇八
一区	六	三二	一六	五五	九
二区	一〇	三六	一六	九四	二八
三区	七	二四	一五	三六	五
四区	二三	五八	三一		

	一三八	四四		
五区	五	一四	一一	
三六	一四			
六区	二	八	四	
一八	二一			
七区	一〇	二九	一六	
六四	五一			
十区	九	三五	一八	
五〇	四二			
北米区	四	一三	五	
一八	一一			
計	一一二	三七五	二二一	
七二四	三三三			

一戸当り平均　三、三五一、九九　六、四六　二、九七

註　村外に膨張とはアリアンサ外に嫁に行った人と子供の数及び仕事をしている人の数である。

入植当時一戸当り平均三、三五人であったものが、家族の者で死亡或はアリアンサ外に転出した者があるために入植当時の人で残留している者平均一、九九人即ち一家族平均二人に足りないことになる。

そして子供が生れ嫁が来、孫が生れ現在の家族の人数は平均六、四六人であり、なおアリアンサ外に膨張した人数は一戸平均二、九七人約三人となっている。

出生と死亡については記録なく不明である。

一九六六年末全アリアンサ（第一、第二、第三）日系人口は一、三九五人（ＣＥＤＡＣ調）であった。

四、在住者名簿

（第一アリアンサ一九六七年四月現在）

一区

氏名	出身県	渡伯年
瀬下猪市	長野	一九二五
竜田範穎	新潟	一九二九
上条亨	ブラジル	

松井進	〃	
色川信	宮城	一九三二
伊藤忠雄	長野	一九一九
野溝実	〃	〃

二区

中原博史	山口	一九二六
河西　喜代治	長野	一九三六
蓮沼良彦	ブラジル	
大沼武巳	長野	一九五九
弘田清	山口	一九五〇
蓮沼裕	ブラジル	
米山久雄	長野（帰化）	一九三六
大久保元枝	兵庫	〃
今井常吉	東京	一九三三
高木由松	千葉	一九三一
藤沢富治	北海道	一九三三
中原輝雄	山口	一九二六

三区

本間　重雄	北海道	一九五七

若木茂晴　ブラジル（父）　一九二六
川辺重雄　秋田　一九六三
井手口一郎　宮崎　一九五八
細谷トシノブ　奈良
山本高明（不在）
光田秀也　岡山　一九二六
光田満喜太　〃　〃
山口誠実　千葉　〃
神崎照喜　高知
城野ダビ（不在）
浅田清水（不在）
宮本健一　広島　一九三二

四区

山本伝之助　島根　一九二八
玄永俊夫　福島　一九六四
高村睦雄　ブラジル（父）　一九三一
中沢武　長野　一九三〇
越智猪市　愛媛（入植）　一九五一
浅野修一　岐阜　一九三四
弓場勇　兵庫　一九二六
弓場稔　〃　〃

弓場基	〃	〃
今本武士	北海道（入植）	一九四一
高島弥寿夫	東京（入植）	一九六二
佐藤啓	北海道	一九三五
望月数太郎	鳥取	一九二八
杉島英樹	東京（入植）	一九六二
箕輪勤助	長野	一九三五
上沼実	〃	一九三四
浜村利一	山口	一九二八
長縄辰吉	岐阜（入植）	一九五六
矢崎正勝	東京（入植）	一九六三
小原久雄	〃	一九六一
滝本勝雄	北海道	一九五六
中出良一	石川	一九六五
武野武男	東京	一九六〇
登丸博	群馬	一九六二
織田一美	大阪	一九六二
武木敦夫	東京	一九六一
丸橋直次	奈良	一九六六

五区

浅見新蔵	福岡	一九二六

蓮池運幸　香川　一九三五
小橋義雄　北海道　一九二八
北村武志　長野　一九一九
輪湖俊晴　〃　一九一九
佐々木源作（不在）
山崎（不在）
丸山文好　長野　一九三七

六区

小田忠　熊本　一九二七
岩本辰四郎　和歌山　一九二九
藤川孝一　ブラジル
隅田忠三（不在）　愛媛　一九三七
中野市雄（不在）　ブラジル（父）　一九二七
深尾政晴（不在）
香林敬祐（不在）
香林広（不在）
丸山安蔵（不在）

七区

田井幾三郎　京都　一九三四

早川貞夫	東京	一九五八
中村邦雄	長野	一九三五
富岡源治	群馬	一九二七
篠原ゆたか	ブラジル	
佐藤収	北海道	一九三五
小野太右エ門	福島	一九二七
小野進	ブラジル	
神沢久吉	長野	一九二一
橋本彦槌	山口（入植）	一九四一
真島ジュゼー	ブラジル（父）	一九二〇
北原地価造	長野	一九一七
坂口年春	熊本	一九五四

十区

新津今朝雄	長野	一九三四
新津寿賀造	長野	一九三四
新津英三	〃	〃
田中勇次郎	新潟	一九三三
杉崎三郎	長野	一九三三
工藤信平	〃	一九三一
小松進		一九五九
堀田栄次郎（不在）	長野（父）	一九三六

川畑三一	〃	一九三三
古壷久		
加藤俊也	東京	一九三六
奥井千賀夫	大阪	一九三二
小田切勝一	青森（入植）	一九四一
北米区		
広田丈作	新潟	一九三五
大泉たつ	宮城	一九三五
栗岡政行	ブラジル	
倉島弥太郎	長野	一九三〇
大峡寛	ブラジル（父脩）	一九一九
中央区		
山田省吾	長野	
北山昇	ブラジル	
坂上峰造	青森	一九三五
百瀬累雄	長野	
羽田寅雄	ブラジル	
釜野千秋	〃	
青木定喜	長野	一九三七

芦部亮一	〃	一九六〇
渡辺五八	福島	一九二七
森平蔵	〃	一九三〇
木村三雄	新潟	一九二六
花木真蔵	愛知	一九三二
林瑞穂	長野	一九三八
長谷川賢三郎	福島	一九二九
上坊寺祐信	富山	一九三〇
竹原幸雄	広島	一九二七
木村庄太郎	〃	一九二六
山上武雄	長野	一九三六
清水昭美	〃	
若栗武雄	富山	一九三三
若栗信雄	〃	〃
若栗幸一	〃	〃
堀江周二	〃	一九三四
山田稔	茨城	一九二七
永井徳治	富山	一九三三
高野毅	長野	一九三一
長谷秀吉	鹿児島	
釜野ジョーヂ	ブラジル	
関義秀	長野	一九二九
常田義智	東京	一九三三

山上今朝雄	長野	一九三六
加藤八十吉	東京	一九三二
安田敏勝	北海道	一九二九
内海亮	ブラジル	
田中治男	長野	一九一九
山口一郎	富山	一九二九
今川範春	徳島	一九二九

五、第二アリアンサ内の七十才以上の老人氏名（一九六九年四月）

氏名	氏名
漸下へい	上条藤尾
藤沢はな	今井常吉
光田みちよ	山口誠実
浅見おと	小田辰喜
北原地価造	北原はるみ
中村カツノ	真島タカエ
富岡リキ	篠原カネ
北山金作	北山光江
芦部亮一	芦部篠江
若栗たみ	加藤八十吉

木村庄太郎　木村こいと
坂上峯蔵　長谷川賢三郎
高野毅　花木真蔵

六、一九五〇年以後に物故された家長氏名(一九六九年十二月)

入植四十年を過ぎた今日、当時青年壮年であった者も漸く老境にはいる。

家族を率い第一アリアンサに入植して村建設のために尽力され、一九五〇年以降に物故された家長(他に転出後亡くなられた人も含む)の氏名を左に掲げ謹んでその冥福を祈る次第である。

氏名	氏名
輪湖俊午郎	瀬下登
上条佐和太	中原三蔵
藤沢庫吉	河西出水
若本千代太郎	弓場為之助
藤森茂里	高村実
吉田栄	西田惣太郎
上条源治	渡辺助一

榎並武一
湯田維
天野昇三
藤川数人
大泉多四郎
新井弥十郎
山田浅吉
堀田一衛
馬場留四郎
大峡修
平井芳雄
勝浦時雄
森田正栄
山田義一
吉川利
山口一郎
網倉留平
原英実
浅見文蔵
色川猷次
小河原延衛
北原地価造

小林英俊
中野貞雄
天野暹
貞池隆一
岩波菊治
浅井松三郎
篠原幸次郎
新津珍吉
内海栄郎
金沢銑三郎
石戸義一
黒田正治
座光寺与一
堤伊八
石川安太郎
若栗才次郎
網野晴慶
近藤修一
岩本茂晴
光田満喜太
新津今朝雄
今井常吉

二、移住地の保健衛生

アリアンサ産業組合の誕生と共に移住地すべての面に一元化が成り医局薬局の保健衛生面も産業組合の運営に委せられて来たのである。

一九四七年四月着任した山城医師は二ヶ年の契約であったが、再度再三の契約によって一九五二年末まで診療に従事された。

同医師辞任により後任を物色、ゴヤソベー出身の小出氏ノーボ・オリエンテの笠原氏、コレゴリーザの高橋氏と交渉したが、いずれも承諾を得るに至らず新任の医師がきまるまで臨時の処置としてアラサツーバからミランドポリス市に移転して来た外科医コンラッド氏に交渉、一週に二回（火・金曜日）午前八時より十時迄出張診療を受けることになった。

五三年八月一日にいたり漸くカサッパーバ出身の大槻正幸医師の着任を見た。

就働時間は午前八時より午後六時迄で八月五日に発表された料金表は左の如きものであった。

医局料金表（一九五三年八月五日より）

共済会員　　員外

診察料		クルゼイロ
	時間内	無料
	時間外	四〇、〇〇
往診料		クルゼイロ
	時間内	一五〇、〇〇
	時間外	二五〇、〇〇
血液検査		七五、〇〇以上
皮下、筋肉注射		二、五〇
血管注射		五、〇〇
手術料		八〇〇、〇〇以上
処置料		三五、〇〇以上
分娩処置		五〇、〇〇
健康診断書		五〇、〇〇
入院料（カーマ費）		三五、〇〇
		八〇、〇〇
		一二〇、〇〇
		三五〇、〇〇
		五〇〇、〇〇
		一五〇、〇〇以上
		三、〇〇
		六、〇〇
		一三〇〇、〇〇以上
		一五〇、〇〇
		一〇〇、〇〇
		七〇、〇〇

一九五四年十二月より大槻医師はミラソドポリス農村病院勤務（一日三時間）となったが、十二月末の契約満了まで定期の回診は続けられた。

然るに五五年ジャニオ・クワドロス氏が州知事に就任するや

所謂ジャニオ旋風が吹き荒れ、前年一月以降に就職した役職員（政党関係の者）約五千名が解職され、病院・学校・農業技師等もそのあふりをくったのであったが、大槻医師もその一人として農村病院を辞職し、アリアンサ医局に再就職を希望、従来通りの条件で契約期間は三月より十二月末までということで診療に従事された。

同医師は一九五六年一月十一日辞任、ミランドポリス市に移転、開業したがアリアンサに後任医師が決定するまでの間、定期の巡回診療を依頼し、週二回（火金曜）正午から第一医局より順次巡回診療にあたられた。

同年四月三日アリアンサ出身の神沢義人医師の就任をみたが同医は北米に留学がきまり六月二十三日辞任したので七月九日リンス出身の堀田医師を迎えた。

堀田医師は在任一ヶ年半の後、一九五八年一月五日辞任してマリリアに移転、後任としてアリアンサ出身の北山茂医師と交渉、四月二十二日着任した。

組合側としては二ヶ年位の勤務を希望していたが、一ヶ年にして去り、専任の医師の見つからぬまゝ、ミランドポリス農村病院に勤務中の古賀ドクターと交渉、同病院と兼務の形で、午前中は農村病院に、正午より午後六時までアリアンサで診療することになり六月一日就任した。

古賀ドクターも一九六〇年四月に退職、その後医師を物色したが、奥地に就職を望む人は稀有の有様であり、加えてアリア

ンサ医局が毎年赤字の累積でその額数百コントスに達していたために経営困難を理由に医局閉鎖に踏み切られたのであった。

同時に今日迄組合員によって作られていた医療共済会も六〇年度で中止することになった。

共済会費

年度	会員	一人月額	年総額
		クルゼイロ	クルゼイロ
一九五一	三二四	一五、〇〇	五八、三二〇、〇〇
一九五三	二八九	二〇、〇〇	六九、三六〇、〇〇
一九五五	二四八	四〇、〇〇	二九、〇四〇、〇〇
一九五八	二一〇	六〇、〇〇	一五一、二〇〇、〇〇
一九五九	一九〇	七〇、〇〇	一五九、六〇〇、〇〇
一九六〇			九八、〇〇〇、〇〇

今後は病者はミランドポリス市の医師に依存することになったのであるが、道路はよく整備され、交通は便利になったとはいえ移住地が無医村に転落したことは一抹の淋しさを感ずる。

医師の居ない処の薬局もその薬の売れ行きに影響するものである。

産組は遂に一九六七年に至り第二アリアンサ薬局を採算がと

れないとして閉鎖したが、第一薬局も亦遅かれ早かれ同じ運命にあると聞く。

医師助手としてミランドポリス農村病院に勤務中の湯朝医師が一九六九年一月から毎水曜日午前八時から十一時までの間、第一アリアンサ医員住宅にて医療診察に（無料）従事（郡の費用にて）していたが、同医師は三月正規の試験に合格、正式の外科医として同病院に八時間勤務となり為に四月からは第一アリアンサでの診療医は欠員となっている。

（一九六九・四・二五）

三、道路及交通

ノロエステ変更線の開通により移住地外への交通は一段の便宜を受けることになったのであったが、更にサンパウロ州とマットグロッソ州を繋ぐ州アスファルト遠路がパラナ河沿岸のジュピア迄完成されるに及んで（完成は一九六〇年頃）交通は飛躍的に便利になった。

午後七時にミランドポリスを出発するオニブスは翌朝六時にはサンパウロ市に着く。

鶏卵・果実の如き新鮮さの尊ばれる貨物も近郊のものと大差なく聖市中央市場に供給し得るようになった。

エソプレーザ・オラビオ・シルバによるオニブスはアラサツーバ―ペレイラ・バレット間を一日片道四回、往復八回アリ

アンサを通過する。

一九五〇年第三アリアンサ在住の丸山氏によって始められた第三アリアンサ―ミランドポリス間往復のオニブスはアリアンサ住民に多大の便宜を与えたのであったが、一九六四年に廃止になった。

一九六七年になって第一アリアンサ、第二アリアンサ、第三アリアンサの小学校の先生のためのタクシーがミランドポリス―第三アリアンサ間を二往復している。

朝ミランドポリス市から第一ア、第二アを経て第三アへ教員を運ぶ。

帰りは第三アから第一アに出てミランドポリスへ。

午後は第一アを経て第三アへ。

そして第三アから順次第二ア第一アの先生達を乗せてミランドポリス市に帰るのであるが、先生達を乗せていない時は希望者はこれを利用することが出来る。

別に第三アリアンサからミランドポリス市へ一往復する伯人経営のタクシーもある。

近年各戸が経済的に余裕を持つに至ったので移住地内でも自家用車の数が段々増え、交通の不便はさして感じなくなった。

一九六七年四月の調査によると第一アリアンサ内の自動車（貨物・乗用車合せて）の数は五十一台となっている。

耕作だけでなく運搬にも使用されるトラクターの数は九十四

台であった。
道路は適時郡のトラットールによって修理されるので移住地内は全般的に良好である。
なお近き将来ミランドポリス―ペレイラ・バレット間も舗装されるであろうといわれている。

四、教育

帰国か？　永住か？　の岐路に立っていた移住者達も第二次大戦の結末が来て、伯国永住の肚を決め、腰を落ちつけるに至ったと見られる。
そして経済的安定を得るにしたがって子女を学校に通わす者が次第に増加していった。
現今日本人二世のブラジル各方面に浸透活躍する様はまことに目覚しいものがある。
第一アリアンサの教育については三つに大別される。
一、現地に於けるグルッポ校並びに日本語夜学
二ミランドポリス市に中等学校以上の学校に昼夜通学車による通学並びにアリアンサにジナジオの設立
三、通学車以外、又通学車が出る以前に村から出て勉学したもの、例えば大学・特殊の専門学校で勉強した者などである。

一、グルッポエスコラールその他

一九三五年グルッポエスコーラに昇格した第一アリアンサ小学校は植民者によって建てられた校舎で授業が続けられていたのであったが、一九五八年八月に至り州当局によって新校舎の建築に着手され、一九六〇年七月二十七日完成するに至った。

新校舎は前面三十九米、校舎坪数五百二十平方米である。

グルッポ校就学動態

年号		児童数	計	総計
一九四九	日系	男	二二五	
		女	一七五	四〇〇
	伯人	男	四七	
		女	四五	九二
一九五七	日系	男	八五	四九二
		女	九四	一七九
	伯人	男	六四	
		女	七〇	一三四
一九六〇	日系	男	五九	三一三
		女	五七	一一六
	伯人	男	九四	
		女	七六	一七〇
				二八六

一九六七　日系　男　二七
　　女　三六　六三
　伯人　男　九一
　　女　六六　一五七　二二〇

一九四九年には四〇〇の日系児童があったが一九六七年には六三名に減少、他面伯人児童は九二名から一五七名に増加している。

移住者が戦後他に転出した結果が此処にも現われているのである。

中央区のグルッポ校のほかに第三区(四十二キロ)に郡立小学校（三年制）がある。

設立は一九五五年で今日も継続している。

日本語教育は篤志家による夜学、日曜学校等細々と行われているに過ぎない。

一九六五年来アした中村牧師は在村二ヶ年の間平生は夜学で、学校休暇中は昼間熱心に日本語指導にあたられた。

同師帰日後は教会関係者によって続けられている。

二、アリアンサ農村実習学校

「珈琲よりも人を作れ」の目標を持つアリアンサ移住地に教育施設としては小学四年のグルッポ校以外にない状況を憂え一

九五二年北原氏の主唱で農業実習学校の設立を見たのであったが、時期至らずというか二年末満にして閉校するに至った。

左にその状況を記載する。

○アリアンサ農村実習学校開設について

ブラジルの農村に於ける子弟教育はグルッポ校を卒業しただけでは日本語は勿論ブラジル語でさえも不充分で日本の義務教育九ヶ年に比して時間的にもその質に於いても不完全且つ低級のもので実社会へ出て不足するものが多々あると思う。

さりとて町のジナジオに出すことは事情ゆるさない人が多い。

従って農村に於いてなお一、二年葡語の修学の必要がある。

それに吾々農村に住むものとしては今迄の粗放農業では地力も減退し、経済機構も変り、今後多角的集約農業に移り経営の合理化を計らねばならない状態でそれには農業知識の修得が必要である。

又日系人としてはブラジル語は勿論日本語の読み書きが出来る程度に進めたい。

集約農業、経営の合理化例えば地力維持、肥料問題、病虫害の防除法、品種の改良、農業の機械化等の諸問題の研究と実施に迫られている。

然るにサンパウロ州に於いてはそうした農業教育機関が甚だ

少い。

ピラシカーバ農科大学の外はピラスヌンガ、ヂヤポチカバール、プレシデソテ・プルデンテその他一、二ヶ所エスコーラ・プラチカ・アグリクルツーラがあるのみで一般の利用には困難の点がある。

以上を要約すればブラジル語の補修と日本語の読み書き農業教育史に精神教育を施し堅実なる農村中堅青年を養成したいと考えた。

なお将来は生徒の教育のみならず村の試験場、研究所、農事相談所になる様にしたいと広い構想を以て学校開設にふみ切ったのである。

それに蚕種場の土地建物が利用されることなく雨ざらしになっている状態、これを利用することは一石二鳥であると考えた。

○学校の内容

一、校名　アリアンサ農村実習学校(エスコーラ・プラチカ・ルラール・フアゼンダアリアンサ)

一、校長　名誉校長　坂手磯雄（ミランドポリス在住弁護士）

一、教師　主任教師　神山太郎（宮崎高等農林卒業）

葡語　アリー・エンリッケ・ペレーラ(第二アリアンサ・

グルッポの先生）

農業及ブラジル事情　ドットール・ジョン・アルフレッド・メネーゼス（カーザ・ラボーラの農業技師）

一、講師　岩本辰四郎、宮尾厚、塩田主基雄

一、経営責任者　北原地価造

其他課外講師として村内の有識者篤農家の諸氏

一、修業年限　二ヶ年、年令制限なく十二才以上男女を問わず

一、教授科目　普通科、葡語・算術・理科・作文（日本語の読み書き）修養・農業科・農業大意・肥料・地力維持・測量・作物栽培・畜産その他

一、授業時間　午前八時より午前中　学科、午後葡語・農場実習

一、教育方針　人格教育・勤労主義・自治的訓練

一、授業料　月額金壱百クルゼイロス（当分）寄宿生希望の者には寄宿舎の便を計る（但し自炊のこと）

一、農業講習会　助成事業として三移住地にて農事講習会を開いた

一、開校一九五二年十月一日

一、場所　第二アリアンサ蚕種場に於いて

一、経費　授業料、産業組合、産組中央会及び三移住地からの補助金、農場収入、篤志家の寄付金

一、生徒数　最高十五名

一、閉校一九五四年七月三十一日

開校後一ヶ年と九ケ月にて遺憾ながら閉校せざるを得なくなった。

其の理由は生徒の主なるものが十三―四才で一家の可働労力であるため順々止めたのと、ミランドポリスに寄宿舎(個人経営)が出来そこからジナ　ジオに通う便宜が得られたということから中途退学が出て、最後に生徒二名となり経営も困難であり最初の目的にも沿わないので残念ながら閉校に決したのである。(北原地価造)

三、ミランドポリス市への通学車

○通学車を出すまで

一九五八年頃第一アリアンサの薬局は青年達の寄り集り場所で、そこで若い者が自分達の将来、村の将来について議論し合っていた。

私の日語夜学生の内海祐・麦生田精三・曾根原義司などもその仲間であったが、薬剤士永田マリオがその中心人物であった。

これらの青年は日本語の旧制中学二年の教科書を終えていた。

これ以上日本語を教える必要もないので、常に私は伯語の必要性を強張していた。

「新聞や農業雑誌位は読む様に」と。

それで青年達がいろいろ相談し合った結果、同じ伯語を学ぶにも第一に永続きすること、第二に何かの資格をとること、を条件とした。

そこでミランドポリス市の夜学の商業学校に通う案が出たのである。

そのためには自動車がどうしても必要である。

それを郡役所から出して貰うように前記三君が交渉することになった。

まず通学を希望する者がどれ位いるか調査する必要がある。

私は夜学に通って来る者について調べたが、昼間炎天下の農場に労働し、なおその上毎晩ミランドポリスに通学するのは体力的に無理だとするもの、それに年令的に過ぎたものが多いために通学を希望する者は少人数であった。

一方交渉に当った三人は郡長はじめ郡会議長、町の有力者を訪れ自分らの考えを述べ賛同を懇請したのであった。

初めは郡長アルシーノ氏も「趣旨は結構なことである、考慮してみよう。」ということであったが、なかなか確答を得ることが出来なかった。

このような例は当時サンパウロ州にはなかったからであろう。

けれども三君はひるむところなく、数度にわたって訪問懇請を続けたのであった。

その熱意が遂に郡長を動かし、通学車ＯＫを得ることに成功、而も昼間は中学校の生徒を運ぶように頼り計ってくれた。

郡会の方も当時の郡会議長ブラガ氏の骨折りで無事に通過したのであった。

だが問題は通学生徒をかなりの数に集めなければならない。

そのためには毎年正月催されているアリアンサ出身の学生と青年の座談会にこの問題をもち出して討論強張することにしたのである。

丁度この日サンパウロのコレイオ・パウリスターノの記者鈴木氏がみえて青年のための講演があったので来会者五百人を越える盛況であった。

いよいよ座談会の最後に通学問題を出したが、学生側からも父兄からも「昼間働いて夜十八キロも通学するのは無理ではないか。」「苦学の困難さ。」などの論が出て司会者側も押され気味であったが、幸いに北原さん田井さん等の通学車賛成論があり、最後に内海君、麦生田君私が通学車を出すことの宣言をして村民学生の協力を願ったのであった。

三月から学校が始まる。

生徒をすぐ集めねばならない。

通学希望者の父兄の集会を催して相談打ち合せを行ってとにかく協力して貰うことになった。

夜学の商業校に通学を希望するものは第二アリアンサを含めて十四名で人数が少いから内海、麦生田両君にも入ってもらい、永田君はカザードであったが前任地で商業三年の課程を終えていたので四年に入学。

中学生は年中通じて出入りが多かったが年末には三十名になった。

色々の問題はあったが一九五九年三月一日朝六時第二アリアンサを、六時半第一アリアンサを麦生田君のカミニョンが(郡からの通学車が未だ出来ていないため)中学生二十五名を乗せてミランドポリス向け出発した。

比の日これを発起した青年三名の歓びは一しおであったが、私もどうかこれが永続きしてくれるよう祈ったのであった。

なお参考のため通学車に対するミランドポリス市役所の法令を記すれば次の如きである。

○郡法令　三三〇号

ミランドポリス郡長アルシーノ・ノゲイラ・デ・シリオ

郡法令三三〇号を発令する。

一、学生通学車による通学費用はミランドポリス郡会でこれを決定する。

A、学生一名一ケ年間のタッシャを二千五百クルゼイロと決定する。

B、このタッシャは商業校生徒には免除す。(昼間農業のた

めに尽くしているから）

C、このタッシャはカミニョンの修理費、モートリスタの月給支払いにあてる。

二、プレフェイツーラでは一九四六年型カミニョン、シブロレーを学生通学車として使用する。

三、前記タッシャは前金でプレフェイツーラのカイシャに納入すること。

（此の納入金事務はプレフェイトの台帳に記入する）

四、此の法令は新聞に発表されて後効力を発す。

一九五九年六月二十二日

ミランドポリス郡役所

郡長　アルシーノ・ノゲイラ・デ・シリオ

書記ワルデミー・フランシスコ・ゴルミオ

〇学生会・父兄会機構

通学生は男女二名の団長・副団長を選挙によって決める。

団長は通学途上学生の監督をなす。　父兄会

一九五九年は初年度であり未だ組織的でなかったので永田マリオ・佐藤収・内海祐・麦生田精三の四人の合議制であったが、産業組合から色々の世話になるので後に安田氏（第一出張所長）に相談役を依頼する。

一九六〇年度になって通学生も中学五十五名、商業生二十五

名になったので二月二十日父兄会を結成する。

通学生父兄会と称す。

会長　一名

副会長　第一アリアンサより一名、第二アリアンサより一名

会計　書記を兼任

外交　後に会長が兼任

内部連絡　副会長が兼任

相談役

通学生父兄会役員氏名

年号	会長	副会長	会計
一九六〇	北村武志	神山太郎　羽広政吉	麦生田広　永田マリオ
一九六一	北村武志	長谷川恭一　神山太郎	佐藤収
一九六二	北村武志	塚田修吾	田井祐　佐藤収
一九六三	小橋義雄	寺島庄七	羽田寅男
一九六四	同右		同右
一九六五	上坊寺祐信		同右
一九六六	高木由松	竜田ジョージ	竜田ジョージ
一九六七	同右	永原立雄　上坊寺祐倍	同右

○通学車運転手氏名

一九五九　麦生田精三、チットタトン、菊地政晃
一九六〇　菊地政晃、麦生田精三、アリピオ・フェルナンデス。

アリピオは六〇年十月より一九六七年末も継続している。

○九年間のミランドポリス市長氏名

一九五九―一九六〇　アルシーノ・ノゲイラ・デ・シリオ氏
一九六〇―一九六三　ジエラルド・ブラーガ氏
一九六四―一九六六　ドットール・ジョルジ・マルーリー・ネット氏
一九六六―一九六七　サベーロ・トロモソテ氏

○ミランドポリスの学校に通学車で通った生徒数（一九五九年―一九六七年）

中学校			
年号	第一ア	第二ア	第三ア	計
一九五九	二〇	一〇	―	三〇
一九六〇	四三	一二	―	五五
一九六一	四六	一〇	四	六〇
一九六二	四六	一三	六	六五

一九六三	四七	二〇	六	七三
一九六四	五五	二九	一〇	九四
一九六五	五〇	三四	二一	一〇五
一九六〇	五九	四三	一八	一二〇
一九六七	五三	四〇	一八	二一
計	四一九	二二	八三	七一三

高等学校（一九六三年開校、夜学）

一九六三	三			三
一九六四	七	一		八
一九六五	二	一	二	一四
一九六六	一一	二	二	一五
一九六七	一四	七	三	二四
計	四六	二	七	六四

師範学校（一九六五年開校）

一九六五	一	二	二	五
一九六六	八	三	三	一四
一九六七	一〇	二	三	一五
計	一九	七	八	三四

商業学校（夜学）

一九五九	一一	五	｜	一六
一九六〇	一二	一一	｜	二三
一九六一	一六	一三	｜	二九
一九六二	一二	一二	｜	二四
一九六三	一〇	七	四	二一
一九六四	一〇	五	三	一八
一九六五	七	三	｜	一〇
一九六六	五	六	｜	二
一九六七	四	四	四	一二
計	八七	六六	一一	一六四

高等商業

一九五九	一	｜	｜	一
一九六〇	二	｜	｜	二
一九六一	三	一	｜	四
一九六二	四	一	｜	五
一九六三	七	三	一	一一
一九六四	五	四	一	一〇
一九六五	三	三	二	八
一九六六	四	二	四	一〇

一九六七	四	二	一	七
計	三三	一六	九	五八

総計　一、〇三三

註　第三アリアンサは一九六一年より通学車始まる。
此の外にセージ・音楽学校に通学している者二、三名あり。

○市役所へ支払った車賃

年号	人数	金額コントス	
一九五九	三〇	七五	中学生だけ
一九六〇	八〇	一一五	通学生
一九六一	九三	三〇七、五〇〇	全員
一九六二	九七	三一八、〇五〇	〃
一九六三	一〇二	五〇〇	〃
一九六四	一三〇	一、九六〇	〃
一九六五	一四二	二、九五〇	〃
一九六六	一七〇	八、四〇〇	〃
一九六七	一六九	一〇、〇〇〇	〃

○通学車の一日走る粁数

第三アリアンサ―第二アリアンサ　九粁
第二アリアンサ―第一アリアンサ　九粁
第一アリアンサ―ミランドポリス　一八粁
昼夜二往復　一四四粁

○通学点描

◎初期の商業生が少いため、内海祐・麦生田精三君（廿二三才）も入ってもらったが、昼は自動車の仕事や畑の仕事、青年団の仕事で疲れているので教室内で居眠りをしたり、教室から逃げ出したりして随分先生を驚かした。

◎商業校長ペードロ・パウ氏は初めての通学するアリアンサの学生には特別に計らって試験は受けたが、全員入学させてくれ、又グルッポを卒業していない者にも席があいている時は聴講生として入れてくれた。

授業料も初年度はまけてくれた。

◎初年度の年末試験には商業のアリアンサ通学生は一番から五番、七番から十番まで取って校長さんを驚かせた。

中学生も殆んどが上席であった。

◎通学生は各年を通じて日系二世が九十九％であるが、最近では伯人の地主の子供も第一では多くなってきている

◎通学車は初めは腰掛けもなかったが、産組が板を寄付してくれ、一九六〇年中頃にはエンセラーダの屋根が出来た。
次年度は生徒数が増えたため更に大きな車と取り換える。
前の車は今でもミランドポリスのゴミ運びに用いられている。
◎初めの車はボロクソでいつも破損ばかりしていたので臨時の車を出さなければならないことが度々であった。
一九六〇年のこの車の市役所の赤字は三百七十コントであったが、父兄会もこのため不時の出費が多かった。
◎通学車始まって九年後の今日、学校を卒業したものでグルッポ校の先生をしている者四、五人大学へ通っている者五、六人、結婚した者四人、村で農業に従事している者四人、又コンタドールとして務めている者も三名ある。
◎女の子は師範学校に進む者が多い。
今日師範生徒は全部女子である。

○結び
ミランドポリス市の学校に通学車を出してアリアンサの生徒を通わすようになってから今年で九年になる。
こんなに長い年月続くとも又こんなに盛大になるとも希望はしていても、実際に考えてはいなかった。
せいぜい五年も続けば上々と思っていた。
それが九年そうして朝百廿名、夜五十名の学生が通学してい

る。

これは役員始め父兄の教育に対する熱意と協力によるものであり四代の市長の理解ある処置の賜である。

終りに此の通学車の種子を蒔いてくれた永田マリオ・内海祐・麦生田精三の三君と七年二ケ月の長年月何らの事故もおこさず朝四時より夜十二時一時までも多数の学生を運んでくれたモートリスタ、アリピオ氏に深く感謝の意を表する次第である。

此の通学父兄会・学生会が益々発展してアリアンサの教育のため貢献されんことを祈り筆をおく。

（一九六七・八月　佐藤収）

四　第一アリアンサ出身大学・高等専門学校在学者数（一九六七）

大学		専門学校	
農科大学	二	高等工業	二
医科大学	五	師範学校	九
工科大学	三	高等商業	五
文理科大学	四	高等学校	一七
商科大学	四	農学校	一

航空大学　二　クルシーニョ　三
文理大学院　一　高等キミカ　一
芸術大学　一　計　三八
計　二二

○第一アリアンサ出身大学在学生名簿（一九六七）

若本数照　ピラシカーバ農大
浅見　新　同右
光田実　サンタカーザ医科大学
浅見八千代　ウベラーバ医科大学
中野孝三　ソロカバナ医科大学
北山節夫　マナオス医科大学
山上静子　カトリック医科大学
浅野啓二　サンパウロ大学工科
新津健二　同右
藤森岸郎　サンベルナルド工科大学
佐藤キクコ　マリリア文理科大学教育学
坂上峰　サンパウロ大学文理科教育学
渡辺アメリア　同右
渡辺信子　サンパウロ大学文理科物理
山上昭和　カトリック大学院
高村富男　サン・ジョゼ・ドス・カンポス航空大学

山上アケボ　同右
田井豊　バウルー商科大学経済科
富岡勇　カトリック商科大学経営学
蓮沼学　商科大学経済科
羽広誠三　商科大学
田中清子　サンパウロ芸術大学

五　第一アリアンサ出身大学・専門学校卒業者数（一九六七）

大学		専門学校	
医科大学	八	農学校（中等）	七
文理科大学	四	高等商業	二一
商科大学	三	師範学校	一七
農科大学	三	高等工業	三
歯科大学	四	職業学校	四
獣医科大学	一	薬学校	一
陸軍大学	一	製図学校	一
看護婦大学	二	盲唖学校教師養成所	一
工科大学	三	看護婦（中等）養成所	一
法科大学	一	英語学校（速記）	一
神学大学	一	計	五七
音楽学校（九年制）	一		

○第一アリアンサ出身大学卒業生（一九六七年迄）

大場セルジ　サンパウロ大学獣医科
藤川一夫　サンパウロ大学文理科
隅田直樹　リオプレート医科
神沢義人　リオ・デ・ジャネイロ医科大学
　北山茂　同右
北山勝　同右
神屋良子　パウリスタ医科大学
米山郁夫　カトリック大学商科
新井ジュリオ　同右
佐藤信　同右
工藤図南　ピラシカーバ農科大学
北山欽一　リオプレート文理大・歴史
渡辺マリーナ　サンパウロ大学文理科教育学
山上昭和　カトリック大学院文理科
田中次郎　ピラシカーバ農科大学
瀬戸伯次　サンパウロ大学歯科
瀬戸政広　同右
釜野千冬　アラサツーバ歯科
坂上葉子　同右

新井ヒロミ　陸軍大学
藤森シゲミ　サンパウロ大学鉱物科
鈴木梯一　サンパウロ大学法科
鈴木吾一　サンパウロ大学工科
鈴木威　マッケンジー大学工科
堀部公正　サンパウロ大学医科
勝田芳弥　リオ・デ・ジャネイロ大学医科
勝田輝弥　同右
勝田俊弥　サンパウロ大学工科
行方敬郎　ピラシカーバ農科大学
長谷川聖子　サンパウロ大学看護婦学校
金沢アキ子　同右
渡辺葉子　サンパウロ音楽学校
以上

六、第一アリアンサにミランドポリス中学の分校設置さる

一九六七年八月十四日午後二時第一アリアンサグルッポ校にてミランドポリス中学校分校のイナグラソンが行われた。アラサツーバの中学監督官ドーナ・アウリヤ氏、ドットトール・ジョルジ州議、市長・ミランドポリス郡全議員、中学の先生達多数来会。

ドーナ・アウリヤ氏と北原地価造氏によってテープが切ら

れ、ミランドポリス中学校長ボルドニー氏の司会でインスペットーラ、郡長その他の挨拶があり、日本人では高木父兄会長、北原地価造、第三アリアンサ代表小松進、第二アリアンサ代表森田一男の四氏の日本語での挨拶もあった。

後第一アリアンサ会館で祝賀宴が催された。

八月十六日から授業が開始された。　授業時間は午後十二時三十分開始、四時十分終了である。

グルッポ校の二教室と新築の図書館二室を暫時の教室として使用している。

初年度生徒数は一年生三〇名、二年生二九名、三年生二一名、四年生一七名、計九七名である。

教師は

校長（地・歴）ドットール・ロベルト・ジェラルデ
体操（女）　エーガ・サンパイオ・ビオンヂー
仏語・図画　マリヤ・ペルペッツア
葡語　マリオ・デ・サント
手工　ノエミア・フランコ・リカルド
理科　セツコ・池田
英語　シルヴィア・フエーラス・デ・アブレウ・ゴルミア
数学　トシオ・杉坂
体操（男）　ワルテル・ピント・ティシューラ
事務員　ラウル・シモンエス・ペッツア

の諸氏である。

なお通学車は第三、第二の中学生を第一まで送り迎え、及びミランドポリスの夜学一往復となっている。

○中学分校開設の経緯

一九六六年にはアリアンサから通学車によるミランドポリス市への通学生徒数は前記の如く中学一二〇、高等学校一五、師範一四、商業一一、高等商業一〇、合計一七〇名を数えた。

丁度その頃州立ミランドポリス中学は生徒過剰、校舎狭溢のためラビーニヤ市に分校設置が具体化していたのに鑑みて〝アリアンサにも中学の分校が欲しい〟と北原氏が州議に立候補していたドットール・ジョルヂに談話の中に洩らしたのがきっかけだといわれている。

ミランドポリス中学では実際に一九六七年度の過剰生徒の処置に頭を悩ましエステーベ精綿所の建物の一部を借用する話まで出ていたという。

この時郡議上条亨氏がアリアンサに分校設置を慫慂したため、州議ドットール・ジョルヂ並に郡長サベーロ氏が州教育局に働きかけ、その実が結んでアリアンサに分校が開設されることになったのである。

一九六七年一月末頃には既に第二アリアンサに中学分校が設直されるとの報が伝わっていたのであるが、四月十八日第一アリアンサで催された全ア通学生父兄会役員会の席上で分校開設

の話題が出て、第一アリアンサの役員は家族数が多いこと、同時に通学生徒数も過半数を占めていることで第一アリアンサに開設されるべきを主張。

第二側はジストリットであること、新築のグルッポ校に臨時開校の場所があることのために第二アリアンサに開設される見込みで、位置決定は教育局に委ぬべきを主張、位置についての運動はすべきに非ずと申入れ、ここに端なくも第二第二間に中学分校争奪戦の幕が開かれたということになる。

二十二日には第二アリアンサ父兄会から「中学校建設に関する会合には絶対出席しない」と電話通告があった。

第一アリアンサでは通学生父兄ほか有志が四月廿二日に会合を催して中学分校を第一アリアンサに誘導する運動を協議し、アラサツーバ市の中学校監督局並にサンパウロ州教育局に出張し調査、陳情することを決めた。

かくの如く第二第二アリアンサ間に分校位置問題についての紛争が漸く熾烈とならんとするのを憂慮して、第三アリアンサ小松進、島崎正夫両氏が仲介に立ち、四月廿五日第二・第二アリアンサ父兄役員の間に次の如き協定を結ぶに至った。

一、何処に中学校が出来ても全アリアンサが協力すること。

二、今後絶対に政治運動をしないこと。

四月廿九日の第二アリアンサ・グルッポ校新築校舎開校式にドットール・ジョルヂ州議、サベーロ・ミランドポリス市長等の案内で州内務長官ドットール・アントーニオ・オランダ・デ・

フレイタス氏並に校舎建築技師ジョゼー・ボアーリン氏が来アしたが、途中第一アリアンサに立ち寄り、小学生、中学生、父兄村民の歓呼に迎えられ、内務長官並に建築技師の挨拶があり、続いて郡議ドットール・ジェソネルの歓迎演説があって、第二アリアンサへ向ったのであったが、ドットール・ジェンネルの演説の中にアリアンサ中学分校に言及し、分校は第一アリアンサに開設されるであろうが、確報は後日アラサツーバの中学監督官によってもたらされるであろうとのことであった。

五月十七日中学監督官ドーナ・アウリヤ氏が来アし、第一アリアンサ・グルッポ校舎並に図書館(臨時教室予定)を視察し、第二アリアンサに向い、第二アリアンサ・グルッポ校視察後、第二グルッポ校長阿部富子氏と同道再び第一アリアンサに来り。

産組第一事務所にて詳細の調査を行った。

一、現在中学に通学中の第一、第二、第三アリアンサ別生徒数

二、各セッソン別来年度中学に入学予定の生徒数

三、各セッソン別小学生の数

四、各セッソンのグルッポ校四年生の生徒数

(各校長の署名を付して)

以上の調査書を作製しサンパウロ州教育局に提出せよとい

う。

此の頃第二アリアンサ側としても州教育局に働きかけて運動しているとの噂もあり、第二第二間の紛争に頭を痛めていた州議ドットール・ジョルヂ氏が自ら調停役を買って出た。

即ち五月二十九日午後二時半からミランドポリス市役所会議室に第二・第二・第三アリアンサから代表者各五名宛出席してもらい、そこでジョルジ氏から調停案を出し、意見の交換をし、決論を出したいという申し出があった。

第一からは田中、北原、上条、上坊寺、高木の五氏、第二はホルモーザ・イデアールの在住者を含めて二十数名、第三からは連絡不十分のため小松、八木、島崎の三氏が出席した。

この中から三名宛の代表者を出して調停案を議することになった。

ドットール・ジョルヂ氏の案は学校位置問題を決定するのに投票によるか？　テクニカメンテ(技術的)にするか？　の二案であった。

相談の結果投票案は少数でテクニカメンテに研究して決定することにきまる。

技術的とは現在中学校に通学している生徒数、今後のグルッポ校卒業予想数、各セッソンの在住者数等の意であった。

そこでジョルヂ氏は「各セッソンから至急に右の統計を出してもらって、それを持って行って教育局に提出し、教育長官の裁量に一任する」ということで散会した。

勿論中学分校の位置決定は州教育局の手にあるわけであるが、位置問題の紛争による第二第二アリアンサ間の対立の気分が益々濃くなり、このままで置くと全ア的に見て重大な結果をもたらすことを憂えて、産組の八木修平、井上金之助、上村卓爾氏等が主となり各セッソンからも委員を挙げて中学校開設準備委員会を作り、六月十八日、廿六日の両日第二アリアンサに於いて全ア父兄会役員会を開いて、融和を目的にこれ勉めたが、所期の目的に到達することを得ず、決論なきまま散会したのであった。

八月十一日に至り午後三時頃アラサツーバの中学監督官ドーナ・アウリヤの命によりドットール・ロベルト・グラウシヨ氏から〝ミラソドポリス中学校の分校は第一アリアンサに開校することに決定した。

よって八月十四日朝食後イナグラソンを挙行するからその準備をせられたし〟と電話で通知があった。

かくて八月十四日午後二時のイナグラソンとなったのである。

○中学分校開設後の通学生父兄会の動き

八月十四日中学分校が開校になったのであるが、過渡期のため色々の問題が次々と起きて来て、全ア的な受入れ態勢が出来ていないため、これらの問題は全部父兄会に持ち込まれる。

先ず第一アリアンサ・グルッポ校の井戸・天井・事務室等の修理が急を要するので、直ちに着手、主として安田敏勝氏を煩らわす。

分校の小使の給料は本校の予算には無いのでアリアンサで負担して欲しいという。

来年度（六八年度）入学希望者約七五名あり、分校長より来年度二教室増加の準備申出でがあった。

グルッポ校の井戸その他の修理費約二・五〇〇・〇〇新$並に分校備品約一・五〇〇新$を州政府から支給して貰うための書類と同時に中学校舎建築促進の願書を携え、委員田中、上条、米山、竜田、富岡の五名が八月廿九日出聖州政府当局と折衝の結果、修理費は一応検査の上、物品にて支給する。

又分校の備品についても教師の机、腰掛、戸棚等支給されることに話がつく。

更に右の委員達が州会計検査院長官ドットール・マルショ・ポルト氏と会見、中学校舎建築促進請願書を提示、〝来年度入学希望者が七五名もある〟と話したところ、同氏が〝よし！尽力してやろう〟ということになり、直ちに学校建設局と折衝してくれた結果、話が急に進んで敷地の撰定のため測量師を出張させるから、その準備（一ヘクタール位二・三ヶ所候補地を挙げること）をせよとの話になった。

敷地は一応政府に売却の形をとること、無償提供は却って費用がかゝるとのことであった。

右の事情により敷地は第一アリアンサ中央区安田・八木・田中三氏のロッテを候補地とする。

九月八日学校建築技師高橋耕一氏が来村、予定地を測量した結果、田中氏ロッテ一〇〇M×九五・五Mに決定する。

九月十六日敷地を政府に移譲するため田中氏が出聖し手続きをする。

同年十二月廿七日に土地売買契約の登録を終り十二月廿九日ミランドポリス不動産登記所にて移譲登記を完了する。

土地移譲が甚だ速やかに行われたことに法務局所長ドーナ・バンダ氏も驚いていたという。

これはドットール・マルショ・ポルト氏の尽力のお蔭である。

一九六八年度の生徒増加による教室不足に対しては郡役所と折衝、結局のところ第一アリアンサの元病院を改造して二教室を造り充当する。

分校費用のうち小使の給料はアリアンサが負担するが事務員の給料は郡から支給されるということであったが、十一月になって事務員から「三ケ月も働いているが市長は給料を払わない。

又月給五〇新$では子供ではあるまいし働くわけには行かぬ。

これについてアリアンサ側で何とか解決をつけて欲しい。

ここ二、三日のうちに解決してくれなければ事務室を閉鎖ず

る。」という申し出かあった。

試験期も迫っているし、今やめられては困るから、委員が郡長と交渉すると、「今年は予算がないから月給五〇新$しか払えないが、来年は最低給料は支給する。」と約束する。

他方事務員と交渉して月額一〇〇新$と決め、差額五〇新$を四ケ月分二〇〇新$をアリアンサから支払うことにする。

生徒一人当り二・五〇新$宛支出することに決り解決する。

こうした問題は校舎が建築され、学校の運営が本格的に行われるまでは絶えず起る事柄であろう。

父兄会長高木氏としては父兄会では力が弱いから、全アリアンサが一丸となった強力団体を結成し、その中に中学校建設促進会と云う様な委員会を作って推進することを希望、各セッソンの意見を徹したが、九月廿三日の会合では第一アリアンサは小橋氏起草の全ア教育全案を提出、第二アリアンサは中学校開設準備委員会が全ア的なものであるからこれに立案を依頼すると云う。

第三アリアンサは廿七日に至って第二と同じく準備委員会に依頼すると報告があった。

註　小橋氏案による全ア教育会の目的は、

イ、アリアンサ移住地内及び其の周辺の地に居住し、ミランドポリスの高等学校、師範学校、商業学校、アリアンサ中学校等各種学校に入学したる学生を支障なく　通学せしめること

ロ、各種学校との連絡及び父兄との仲介
ハ、教育事業について郡役所及び対外との交渉
ニ、教育に関する調査研究及び実施というにあった。

なお学校建設問題は急を要ずるものであり、当局から何時通知が来るか分らない。

その場合此方の受入態勢がないと困るので、全ア的団体が出来るまでは今まで通り父兄会が責任を持って処理することと申合せた。

○第一アリアンサ分校建設促進委員会

中学分校が開設されて以来、こと中学分校に関する問題は父兄会が主体となって処理して来たが、かかる教育問題は父兄だけに委すべきでなく、村全体が関心を持つべきであって、第二アリアンサには自治会があり、第三アリアンサには区長会があって、そのセッソン全体の意向によって動いて来ている。

第一アリアンサも遅れ馳せながら各区々長、父兄会役員、有志の合同会議を一九六七年十一月十三日に開いて第一アリアンサだけの分校建設促進委員会を結成、委員長以下役員を選出した。

委員長田中治男、副委員長北村武志・小橋義雄・総務部安田敏勝・長谷川恭一・上坊寺祐信・永井徳次・蓮沼裕、渉外部上

条亨・米山久夫・富岡源治、会計部佐藤収・羽田寅男、書記小橋義雄の諸氏に決まる。

これら委員は父兄会の第一アリアンサ委員も兼ねることになる。

かくして第一アリアンサとしては全アリアンサ合同への準備態勢が整った訳であり、この分校建設促進委員会が第一アリアンサ文化協会（後記する）の設立につながることになった。

○アリアンサ州立中学校舎建築

一九六七年十二月寸九日中学校々舎敷地を州政府に移譲の登記が完了し、六八年九月七日第一アリアンサ入植祭当日来村された州教育長官ウリョア・シントラ氏の手によって中学校舎の定礎式が行われた。

同年十月十一日に発せられたデクレート五〇・五三七によって「ジストリット・ロティロの第一グルッポエスコーラ校舎内に六七年八月十四日設置されたジストリット・ロティロの州立中学はミランドポリスのノエミア・ジーアス・ペロッティ州立中学の分校たることはこれを取消す」との布告が出て、分校ではなくアリアンサ州立中学と認められたことになる。

そうして十一月二十六日に至ってアブレウ・ソドレー州知事によって校舎建築予算六三万新$が認可された。

右による建築入札は一九六九年一月二十七日ミランドポリス

市役所に於いてドットトール・ジョルヂ州議、新旧ミランドポリス市長、市会議員、アリアンサ各代表立ち合いの下に行われた。

ビリグイ市のベロラ建築会社は九三一・七六五・七二新$、同じくビリグイ市のベルマ会社は九二一・四一一・一〇新$と応札したが、政府予算六三万新$との差額が莫大であるため決定は後日に持ち越されることになった。　二月三日ドットトール・ジョルヂ州議並にミランドポリス市長が出聖し、学校建築局と折衝し九万新$の予算追加を得、またベルマ会社からは七万新$の入札額からの減価の確約をとりつけることを得たが、更に二月十一日右州議、市長並に上条、米山等出聖、再交渉を行った結果、州から更に一万新$の追加、ベルマ会社からも更に一万新$の減価の約を得、結局差額十一万余新$はミランドポリス市役所と現地アリアンサにて負担することとし最後的決定となる。

かくして六八年九月七日ウリョア・シントラ教育長官によって定礎式の行われたアリアンサ州立中学校舎の建築工事はベルマ会社の手によって一九六九年二月十九日地均し作業から開始された。

校舎内容は、普通教室十八、特別教室五、医療室一、歯科室一、図書室一、教員室一、校長室一、その他バスケットボール・コート二、遊園地（芝生）管理人住宅等、となっている。

ベルマ建築会社による建築工事は着々と進渉、アリアンサ側

としては十一月二十日の入植四十五周年記念日に兼ねて落成祝を行いたい希望であったが、電気配線工事と井戸掘工事が間に合わず、一ケ月後の十二月二十日入植祭を兼ねて行われた。

この学校は小・中学を綜合したもので、現州知事ロベルト・コスタ・デ・アブレウ・ソドレー氏の母堂の名前を貰ってセントロ・エヅカシオナール　〃ドーナ・イダリーナ・ソドレー〃と命名された。

来賓として州学校建設局長ドットトール・アントニオ・カルロス・デ・アブレウ・ソドレー・フィリオ氏、ドットトール・ジョルヂ・マルリー・ネット州議、ドットトール・ジョゼ・ワシントン・ボアーリン前学校建設局長、産業組合中央会理事長ドットトール・フランシスコ・アントニオ・トレード・ピーザ氏、メトロ理事ドットトール・アルマンド・コスタ・デ・アブレウ・ソドレー氏、サンパウロ電力センター副総裁ドットトール・ジョゼ・コスタ・デ・アブレウ・ソドレー氏その他近隣の郡長、アラサツーバ文化協会々長佐藤忠国郎氏等の出席を得た。

当日のプログラムは午前八時から祝賀運動会、午後四時校舎入口のテープはミランドポリス市長ローレンソ・マルコ・フェルナンデス氏の息女と市会議員上条亨氏の子息の二人によって切られ、校舎内の参観、五時からシュラスコ会、夜は演芸会が催された。

午後九時舞台上から前記来賓の祝辞、地元役員の挨拶があり、州知事のメッセージはドットトール・ジョルヂ州議により、

ブラジル日本文化協会長宮坂国人氏の祝辞は佐藤アラサツーバ文化協会長によって代読された。

かくしてアリアンサ住民待望の中学校舎が完成され、来年三月め学期始めを待つことになった。

純然たる農村に中学校舎の建設はブラジルにては極稀れなことで、本年八月モヂ・ダス・クルーゼスのコクエーラ植民地に完成したものに次ぐ第二番目のもののように思われる。

メジシ現連邦政府の構想になる義務教育年限九年への延長案はこれが実現の時期はいつになるか不明であるが、農村に於いては校舎の問題、教師の問題に就いて大いなる困難が横たわっている時、アリアンサではその間題は解決されたことになる。

（一九六九・十二月末）

五、宗教

第一アリアンサにアリアンサ基督教会、四十二キロに聖公会の教会がある。

四区にて天理教の布教をしていた木村石之助氏はパラナに転出、後を継ぐ者なし。

仏教は第三アリアンサに正願寺あり真宗が盛んである。

またミランドポリスの仏教会も盛んな動きをしている。

一、アリアンサ基督教会の動き

一九五〇年

五・二二　北米より新里貫一牧師（盲聾二重苦）来村

五・二四　新里牧師第一ア会館にて講演

五・二九　夜教会で新里牧師伝道集会

七・二　西沢太一郎氏の追悼記念会

七・二六　聖公会監督が四十二キロ聖マルコ教会訪問

八・二一　小野牧師が七区公会堂で伝道集会

一二・　森山牧師が各区で紙芝居を行う本年は菊地牧師が毎月第一水曜日巡回家庭集会を継続している。

一九五一年

六・一五　カール・ハーン師一行が第二アリアンサ・ホリネス教会で伝道集会

一一・　森山牧師が紙芝居に各区巡回、弓場牧師が毎月第二日曜日に巡回礼拝を受け持つ。

一九五二年

一・六　昨年八月より滞在中の永田会長が日曜礼拝を司会する。

九・二一　清水安三牧師の日曜礼拝説教あり

一九五三年

三・二一　賀川豊彦氏の講演会が第一アリアンサ会館で行われた。

一九五四年

一〇・三一　黒田正治兄急逝

ありあんさ基督教会報はこの年より毎月欠かさず発行、今日に到っている。

一九五五年

五・一三　日本から来伯した織田金雄牧師の講演（第一会館にて）

一二・一二　新らしいオルガン着く

一九五六年

九・六　ホリネスの赤城牧師の伝道集会、色川牧師健康の都合で日曜礼拝は今年で止めることになる

一九五七年

二月　弓場牧師聖市移転のため巡回礼拝を止める。

菊地牧師の巡回家庭集会はいつ止めたか不明である。

九・二　小野牧師の伝道集会

一一・一〇　勝浦秀雄氏名儀ダッタ三つ分教会に譲渡さる（公認ならず）

一九五八年

一・五　浅見新蔵氏が石戸牧師より聖職技手を受く

六・二二　墓地納骨堂の落成式、石戸牧師司式す。

一九五九年

五・一〇　母の日に州知事秘書来村挨拶する。

六・二八　教会のカフェーの最初の収穫

九月より　小野牧師が第二日曜日礼拝に巡回して下さることになる。

一九六〇年

一一・二〇　アリアンサ入植記念石碑除幕式石戸牧師司式する

一九六一年

八・二九　日本聖公会八代司教が弓場農場を訪問

一九六二年

四・五　日本より小豆正夫牧師来村、第一会館にて説教

本年は青年の礼拝活撥に行わる

一九六三年

四・一四　復活節の朝石戸牧師昇天、翌日葬儀

五・二六　ブラジル聖公会監督シエレル師が当会堂にて按手式をなす

一二・七、八日森山牧師の児童文化後援会文化展及大型紙芝居第一会館で催さる。

青年の礼拝は佐藤礼兄のミランドポリス移転で自然消滅となる。

一九六四年

九・六　アリアンサ四十週年記念礼拝を弓場牧師を迎え教会堂で行う

一二・二一　ペレイラバレットで小野牧師の葬儀、当教会代表参列する

一九六五年

一・二四　日本より招聘した中村牧師の礼拝説教あり

二・一三、四日中村牧師持参の日本児童作品展示会

四・一八　復活節に平松実馬大衆伝道者のお話がある筈の所、病気のため同行の中沢氏が代行する。

八・一　島貫牧師の追悼記念礼拝

九・二六　輪湖俊午郎氏の追悼礼拝

一一・一五　第二アリアンサで日本人ミッション宣教四十周

年記念伝道集会あり田名網、山本両牧師の説教

一九六六年

五・一七　菊地、斎木、山本牧師の伝道集会

六・一八　芦部猪之吉翁追悼記念礼拝

九・七　第一アリアンサ図書館落成記念礼拝、中村牧師司式

一九六七年

一・一五　教会関係者の慰霊祭を行う

四・二　中村牧師の送別礼拝

五月より　ガララッペスの山本牧師が毎月第一日曜に次ぐ水曜日の夜巡回礼拝、聖餐式を司式して下さることになる

六・七　佐竹、坂問、吉田三氏の平信徒伝道集会

一一・一一　聖市メソジスト教会牧師夫人林香姉一行の伝道集会

一九四九年から復活節には全アリアンサ日曜学校及びペレイラバレットの合同礼拝が始まり、各セッソン廻り持ちとなる。一九五四年十一月までは大人礼拝は毎月第二及び第四日曜の二回だけの集会であり、第二日曜は巡回牧師が受け持ち、第四日曜は神沢久吉、浅見新蔵、田井幾三郎、坂上峯蔵、黒田正治の五氏と石戸師が交代で礼拝を守り、女子青年も有志の者はつ

とめて出席していた。

同年十二月からは毎日曜礼拝を守ることになり、黒田正治兄急逝後は鶴子夫人が代って六名が交代で行って来た。

五六年七月黒田姉が出聖し、その代りに赤羽熊雄兄が入り、六三年四月石戸師の昇天後は蓮池兄が代りとなる。

かくていつも六名の線で礼拝を継続して一九六五年中村牧師の招聘まで続いた。

中村牧師着任後は上記六名の兄弟が各礼拝の司会を交代で受け持ち、浅見兄が六六年身体の具合悪く欠席するようになり山本伝之助兄がこれに代る。

一九六七年四月中村牧師辞任帰国後は司会は婦人により奨励は主として上記六名と芦部亮一兄が加わって毎日曜の礼拝を継続している。

一九六〇年頃から礼拝に出席する者漸次少くなり時には二、三名のこともあり、石戸牧師昇天後は無牧教会の状態となったので日本力行会長永田稠氏へ牧師の斡旋をお願いしたところ、小金井の信愛教会牧師力行会員の中村千別氏を推薦して下さり、実現して一九六五年一月に二年間の契約で着任された。

中村牧師在任二ケ年間に受洗者三十二人を数え、キリスト教婦人会を作り、毎水曜夜の祈祷会、毎月第一火曜の早天祈祷会、毎月一回の墓参会、毎木曜の家庭集会が行われ今日まで継続して実行されている。

毎日曜の礼拝も一五人―三〇人の出席者がある。

現在の教勢は正会員四五名、日曜学校生徒五〇名教師五名、キリスト教婦人会員は一五名で毎月第一日曜日を例会日としている。

その他夏冬のグループ校休暇中一ケ月日本語学校を開く生徒約四十名教師三名である。

中村牧師在任中当教会の会則を作成しこれを葡文に翻訳して正式にカルトーリオに登録すべく準備中である。

（一九六七・神沢久吉）

二、納骨堂建設と斎場修理

○納骨堂

一九二六年に認可され埋葬を始めたアリアンサ墓地は約三十年間に一万平方米の面積も殆ど埋葬を了したので納骨堂建立の必要にせまられていた。

一九四九年墓地管理は郡に移り、墓地の区画整理をなし中央道路に沿って左右両側へ十七・五米宛を永久墓地に設定し、古い墓の掘り起しが始められた。

在住者は勿論転住等により縁者不在の者のため予め新聞広告をなして呼びかけたのであるが、縁者のない遺骨は新しく用意した壷に入れて保管し、納骨堂が建立されてこれに納めたのである。

一九五七年九月二十六日評議員会にて来年の日本移民五十年祭を記念して第一アリアンサ墓地に納骨堂建立の案が提議され可決された。

越えて翌五八年四月十九日各区代表による第一回建立委員会が開催され、建設専任委員として北山金作、北村武志、色川信、安田敏勝の四氏が選出された。

堂の型式については仏式か、キリスト教式か或は折仲したものかでいろいろ論議があったが、結局アリアンサ・キリスト教会堂と同型のもので三米×四米に縮小したものを建てることに落着いたのであった。

場所は墓地斎場の西側で四月廿七日起工、左官はオズマール。

六月二十二日落成式を挙げる運びになり、村の人々多数の出席を得て納骨堂落成式、納骨最初の記念式、日本移民五十年祭慰霊式の三式が石戸牧師司式のもとに挙行された。

（一九六七・安田敏樽）

○合葬遺骨名簿

第一アリアンサ墓地委員会

保管番号　氏名　年令　死亡年月日

保管年月日

一、　有賀邦子　三　一九二六・一〇・三
一九五五・一〇・三一
二、　有賀昭二　三　一九二九頃
同右
三、　有賀邦平氏の幼児　一九三〇頃
同右
四、　無名伯人の子　一九二七頃
同右
五、　井上静子　二一　一九二七
同右
六、　西田はるえ　一七　一九二七頃
同右
七、　吉田三千枝　一九　一九四八・七・二六
一九五五・一二・二七

一九五八年六月二十二日納骨堂落成式、納骨堂最初の記念式、日本移民五十年祭慰霊式当日、右記七個の遺骨を新築成れる納骨堂に納む。

保管番号　氏名　年令
死亡年月日　保管年月日

八、	ジョゼ・カソジド・デ・ソーザ方	死産	一九五一・二・三
九、	マリヤ・アマーロ・デ・リーマ	小児	一九五一・二・八
一〇、	セバスチョン・セベリーノ方	死産	一九五一・二・八
一一、	青木モモ代	小児	一九四七初め頃
一二、	中川初音	三〇	一九四一末頃
一三、	西本輝	二一	一九二九・六・一九
一四、	佐藤登志子	五	一九二七・一一・
一五、	佐藤サヨ	五四	一九三六・五・一九
一六、	山本安市	二七	一九三九初め頃
一七、	佐々木仙吉	四九	一九三八・一二・三一
一八、	佐々木アケミ	一	一九四二・一二・四
一九、	山田栄	四	一九二六・

二〇、百瀬三郎　七五　一九五〇

一九六二

○斎場修理

一九五八年六月納骨堂が出来たが、墓地の斎場（一九二八年十月建設）が木造のため永年風雨にさらされ危険の状態になったので、古い建物は長谷川氏に売却、会館付属館の残余の煉瓦と一般村民の寄附とにより煉瓦建てのものに修理する（一九五八年十一月）。

大工は北山金作氏これに当る。

三、アリアンサ入植記念石碑

アリアンサ入植記念碑は故石戸義一牧師発想のもとに村民の協力により現地点（三十六キロ米の地点）に一九三九年アロエーラ材にて全長四米半、三十四糎角材をもって建立されたものであるが、これを永久に残すには如何に鉄の木といわれるアロエーラ材でも不可能であるから、一九五九年これを石碑に代えることを石戸牧師より提唱され村民有志と相談し、先ず委員会を作り建立にあたることになった。

碑の大きさ、土台、植樹等は地方にある記念碑を参考にし、

尚グワララッペス市在住の中川実庭園師にお願いすることに話がまとまり、同氏の承諾を得たが、さて資金については一文なしから始めるので、これは寄付金による他なく、その方面は石戸氏が自ら募金を担当する故、他の委員は建立方に力を注がれたしとてアリアンサ外の地方の募金に石戸氏は出発。

他の委員は古い記念碑の除去、地均し（主に盛り土）土台石の搬入に当る。

土台石と云っても格好のよい苔の生えた自然石との条件のため近くにはなく、遠くイタプーラ及びアバニヤンダーバに中川氏同伴で出張検分、結局アバニヤソダーバ発電所附近に沢山見出したが、何分にもよい石は地形の悪い処にあり、人力で運び出しそれからチェーンブロックで自動車に積み込まねばならぬ。

一トン以上もある石は時間がかかる。

中央区、一区、弓場農場の人々をはじめ各区の人を動員して搬入に一週間余りを費す。

盛り土は牛馬、トラクターを動員してこれも重労働ではあったが兎に角終了。

石碑は石戸氏が募金行脚に出かける時、委員代表も同行リンス市内藤石工所に適当な石材を見出しこれを予約購入することにする。

高さ二米半、巾一・二米、厚さ四〇糎のもの。

台字は石戸氏の筆になるもので、表面には「神は愛なり」あ

りあんさ最初の入植地点と年月日を書き、裏面は葡文にて購入面積、元所有者名、最初の入植者氏名、年月日、と日本文でも同様のことを記される。

整地、土台石の搬入、石碑も出来上り、組立てには中川氏が毎日石の位置や或は配置された石の取り替え等で手間もかかったが、兎に角見事な出来上りであった。

一九六〇年十一月二十日今は故人になった輪湖俊午郎氏・瀬下登氏・座光寺与市氏・石戸義一氏と次々物故され、現存するは北原氏只一人となったが、村民多数と右の方々の出席を得て石戸氏司式のもとに盛大な除幕式が峯げられた。

記念碑建設に際し士台石採取に出働、水難に遭われた土屋富雄君の冥福を祈る。

（一九六七・六・三〇　安田敏勝）

記念碑建設収支計算

収入の部　寄附金	クルゼイロ 二四一・八七八・五〇
支出の部	
記念碑及諸材料購入費	九八・七七九・〇〇
自然石採取及運賃	八〇・八二〇・三〇
整地及建立費	一一・二四〇・二〇
旅費	三五・五二九・〇〇

印刷物及通信費	五・二八・〇〇
記念写真費	七・〇〇〇・〇〇
除幕式及諸雑費	三・四〇〇・〇〇
支出合計	二四一・八七八・五〇

○自由移民最初の入植地点記念碑建設資金募集趣意書

我が大和民族が古来幾度か海外発展を試みたものの中、最も好果を収め得たるは対伯移住であった。

昨年既に渡伯移民五十年祭となって現われた事は周知の事実である。

此の貴重なる移民歴史は之を後世に伝え世世の人心を指導激励するためには唯文字書冊にのみ托して事足れりとせず一目瞭然視覚に収め得る物の形にしておく必要がある。

彼の独逸人は他民族の思いも及ばざる処即ち自国大敗戦の記念碑をミュンヘン郊外に建立した。

而して我が日本に於いては旧新日本国の授受を行うたる二人の代表者の其の一方なる西郷南洲の立像は首都上野公園の高台にありて東京湾を眼下にし、遥かに房総の天地を睥睨している意気実に壮なりと云うべし。

之を思えば我等も亦蹶然奮起せざるを得ない。

実は本年六月二十八日の私の満八十五才の誕生日迄にと思い、これまでに後世への私の遺物として木質大額面二個を作

り、其の一つを教会に又他の一つを墓地斎場に献納し尚且つ自分の墓標を作り上げた後、私はいつもの如くに自炊自洗の日々を送っていたのであったが、よく考えて見ればたとい数日或は多くて一ヶ年の残生といえども、之を善用すれば以て事をなすに足る充分の時日である事を悟り得た。

或は中途にして斃るるような事があろうとも必ずや後継者の出現することあるを私は信じて疑わない。

されば私は何をするのであろうか、何をするどころではない私には張り切ったる弓に番えたる矢の如くに其の発射を待っている一つの事業がある。

これは左記の如くである。

一九〇八年笠戸丸が第一回移民を乗せて横浜よりサントスに入港してから十七年目の一九二四年迄には其間に醸成せられたる移民熱が益々その度を加え、遂に自由移民即ち自作農民を送り出し得るに至りたるが、之が実現を期するには相当の資力と才能と努力とを要する。

此の気運に着目したるは我が移民事業界に其人ありと知られたる日本力行会長にして時の信濃海外協会幹事なる永田稠氏その人であった。

氏はアリアンサ移住地建設のために渡伯して自ら其の先頭に立ち采配を振った。

先づ現地理事二名の中、北原地価造氏を首長とする先発隊五名をルッサンビラ駅の南方三十六キロの地点に送った時は一九

二四年十一月二十日、地は奥ノロエステのアリアンサであった。

此の日永田氏は聖市の本部にあり、理事の他の一人なる輪湖俊午郎氏はバウルーにあって後方任務に没頭していた。

それから十五年の後、私は前記日本自由移民の最初の入植地点に其到着日の夜天幕を張ったる其地点を明らかにして之を後世に伝うる必要あるを感じ、全村民の協力を得て其の地点に附近森林中の鉄木の最大なるものを撰び、之を用いて地上高さ三米の記念碑を建てた。

今一九五九年の記念日迄に其記念碑は満二十年を経過せんとしている。

此の二十年間私は之を半永久的より永久的施設に建て直さなければならぬとの一念一日も心頭を去ることはなかった。

実に今蹶起せざれは再び起つ日はないので、之が建設資金を得るために私は身丈にも近い長杖を曳きつゝ巡礼の旅に出かけました。

此の年になって私の体力はそれを許すかどうかは判りませんけれども御訪ね致したる時は何分の御報謝を御願中上ます。

吾人は何人も永久に之を消費し尽す事の出来ない真心の籠ったよき記念物を此の愛する国土に建て遺して置きたい事を心から希う者であります。

而して此の事が神の御経論になる宇宙美化完成への大事業の其の片鱗の一つにだも数えられ得るなれば光栄の極みでありま

す。

一九五九年八月一日

アリアンサ基督教会牧師　八十六才　石戸義一

前記の文面は石戸氏が広く在伯同胞を訪問して記念碑再建趣旨に賛同を得るために執筆したるものなるが、地元都合により先づアリアンサ区域内は勿論広く区域外に在る旧新アリアンサに縁故を有せらるゝ諸彦に再建御協力を背負う事を以て先決問題とし、本件に関し最も詳細を極めたる同氏起草の趣意書全文其ままを以て記念碑再建の趣意書と致しましたから御覧の上何分の御協力を御願申上ます。

アリアンサ最初の入植地点記念碑再建委員会

○石戸氏募金行脚概要

石戸氏は八十六才の高齢にも拘らず前記趣意書を携えて募金行脚に出発、アリアンサ出身者並に縁故の深かった人々を訪問した。

ノロエステ線を振り出しにパウリスタ本線及び延長線、イタケーラ、モヂ・ダス・クルーゼス、スザノ、サンジョゼ・ドス・カンポス、ポッソ・デ・カルダス、サンパウロサントス、ニテロイを巡回し、折返しパラナ州ロンドリーナ、ウライ、ローラ

ンジヤ方面迄足を延ばし、あの八十有余才の老体でよくも歩いたものと驚き入った次第、而も一度帰村してから更にイデアール、ペレイラ・バレット、アンドラジーナにも出向かれたのであった。

サンパウロ市のアリアンサ学生会より老人一人に募金さすことに大変心配して当方に連絡があり、こちらも出向いて迎えに行くつもりであったが、幸い無事に帰村された時ホット安堵の胸を撫で下ろしたのであった。

然し氏はこちらの心配をよそに正に意気軒昂たるものであった。

ちなみに石戸氏行脚による募金総額は十五万七百六十八クルゼイロス五十センターボスで、アリアンサ内寄附は第一、第二、第三アリアンサを合せて九万一千百拾クルゼイロス総計二十四万一千八百七十八クルゼイロス五十センターボスであった。

（一九六七・六・三〇　安田敏勝）

○土屋富雄君の水難

入植記念石碑建設はグワララッペス市の庭園師中川氏に委嘱し、アバニヤソダーバ発電所附近から土台石を採取、搬出したことは前記したが、これに関連して搬出のために出働した土屋富雄君（三十一才）が水難に遭うという事件が突発した。

アリアンサの歴史の第一頁を永遠に表わす入植記念碑の建設に附随して起った悲しくも悼ましい出来事であった。

左に当時建設委員代表であった安田氏の詳細な手記を掲げる。

中川庭園師と同道で視察した結果、アバニヤンダーバ発電所附近に適当な石材を多数見出し、これを運ぶことになり、同地帯の管理をしているリンス歩兵団司令部の搬出許可をとり、更にアバニヤンダーバ河畔に駐屯する分隊長の許可を得たので、一九五九年十二月三日中央区の人々及び産組従業員を含めて約十名カミニョンにて早朝出発、河畔着は午前九時頃であった。

庭師と私は取り敢えず駐屯隊長に今日より石材を引つづき搬出することの通告と挨拶のために同乗者を河辺に待たせ、自動車にて駐屯所に出向いている留守中(この間約一時間)に土屋君が河の流れに魅せられたのか、只一人水泳を始めたが、同所は発電所が二ヶ所隣り合せにあり、河巾も狭く水勢は奔流をなして、極めて危険な個所とされている処で、見ていた同僚の話では泳いでいるうちにどんどん下流に流され、橋梁下に入った時に姿が見えなくなったという。

橋梁下には所謂コーボという岩穴があり、水勢で吸い込まれて岩の一ヶ所にひっかゝっているだろうとの附近の漁師等の言にしたがい取敢えず死体の浮き上る見張りをすると同時にジョゼ・ボニフアシオ警察署に届け出で警察の協力を頼む。

一方石材を採取して直に引返しアリアンサに連絡をつけるこ

ととし、私と中川氏は同地に留り河畔に住む漁師の協力方を依頼する。

夕方より降雨あり、ちょっと晴れそうにもなく夜中は只死体の浮き上るのを祈るのみで何らの処置も出来ない。

翌日は家族の方並に応援の人々が電灯の用意までして来る。

此の日も一班は石材を運び、三名程河畔で見張りをする。

然し死体は遂に上らず。

その次の日北村梅三君(遭難者の義兄)と共に下流まで漁師のモーターボートで拾キロ米程下り、小さな滝の手前まで行ったが見当らず、既に下流に流されたか戎はまだコーボの何処かに張り付いているか何れかだが、一応漁師の方々に依頼して三日目に帰宅する。

石材運搬も場所が悪いし加うるに重いので容易でない。

河原で自動車の入れる処はよいが、さもなくば人力で場所まで搬出後自動車にチエーソブロックで積む。

それでも皆さんの協力によりその他の事故もなく、兎に角一応必要量の石材搬入は一週間位で終了。

死体の方はその後警察からも地元からも連絡がなかったが、七日目の夕方ビリグイ警察から連絡があり、ビリグイ奥ブリターマ市附近の川に一死体が上り橋脚に結んであるとの報に接し、北村氏外中央区員を動員して死体収容の棺及びプラスチコ製の大型袋(これは釜野昌晴氏の提案でカーザ・モレーラにて購入)を用意して現地に向う。

現地にて警察署に出頭し死体収容と診断書の件で話し合う。ブリターマ市には医師不在のためビリグイ市まで死体を運搬して死亡診断書を作ることにする。

北村氏その他の人の確認を得て死体を収容したのであるが、一週間も経過していたので腐乱・肥大・悪臭で手のつけようもない状態であったが、どうにかプラスチコ袋に入れ、地元の人々に厚意を謝して警察署長同道でビリグイ市に着いたのが丁度土曜日の夕方であった。

中央公園前の教会堂裏手の伯人医師に署長の紹介で診断を依頼したが、如何なる理由かその医師から診断を拒絶された。

診断書がなければ同地を出発することが出来ないし加うるに持金も残り少なく途方に暮れたのであったが、元アリアンサ在住の大峡ルイス君が此の地に居住するのを思い出し、同君宅を釜野氏同道で訪れ事情を説明、金策と医師の斡旋方を依頼した処幸にもビリグイ市に開業早々の笠原ドクターを照会された。

同医師とは学生団でアリアンサ訪問の折、旧知の間柄であり又大槻ドクターの前に一度同氏の家郷を訪問してアリアンサ村医として就職方を懇請したことのある因縁もあり大変好意的に一切を処理し、加うるに一文の料金もとらず診断書を貰った時は全く感謝の極みでした。

アリアンサ墓地に着たのは翌朝の二時頃、一応地下に安置し、その日の午前中に家族、村の人々と共に厚く埋葬したのであった。

（一九六七・六・三〇　安田敏勝）

六、青年団

一九三九年全ア産業組合の合同後、一九四〇年十月産組の傘下に全アリアンサ男女青年団が結成されたのであったが、間もなく第二次世界大戦に遭遇し一時中絶の止むなき状態を過ごし、戦後徐々にその活動を復活するに至ったのである。

運動部、文化部、産業部と夫々毎年行事計画をたて事業を行っている。

運動部では男女青少年陸上競技、青年・準青年・少年の野球はノロエステから全伯に繋るものであり、アリアンサ内だけのものにはピンポン大会、男女バスケットボール大会が行われる。

文化部活動は月報発行により本部各支部の連絡に資し、又弁論大会、懸賞作文の募集を行っている。

産業部は全アを通じての行事は農産品評会の開催だけである。

第一アリアンサ支部青年としては全ア的行事に協力する他に産業部は農場を経営し、カフェー栽培、雑作、牧場設備等を行って来ており、文化部は作文集(フェニックス)を謄写刷りによって年三・四回発行し巡回日誌を廻して相互練磨に資して来たためであったが、これら文化的活動は近時徐々に下火となり、いつの間にか影をひそめつゝあるやに見受けられる。

なお産業組合中央会によって始められたＣＥＤＡＣ（後記する）の農事講習は男子青年により又女子講習は女子青年がその主メンバーとなって受講している。

一、第一アリアンサ男子青年

〇一九五〇年

第一ア支部役員　支部長　蓮沼裕、副支部長　上田学、運動部　山本久勝、文化部　瀬戸郁夫、産業部　上田学

一・八　四移住地野球大会がチエテ球場で行われ、弓場・アリアンサ合同して出場することになり第一より蓮沼、羽田二名出場する。

一・一五　第一ア会館にて全ア弁論大会、出場十七名、一位中西すみ子、二位今井博、三位蓮沼良彦、弁論大会後全ア青年定期総会が開かれ役員選挙をする。

団長に高田正巳副団長に竹内冠選ばる。

一・二三　全ア役員会で各部長推選　総務部長　酒井次男、文化部長　高木春雄

産業部長　上田　学、運動部長　赤井光雄

四・二二　二三日第三アリアンサにて第二回全ア少年野球大会が催さる。

優勝第三。

五・二一　第三回全ア陸上競技大会（於フォルモーザ）
一位第一ア、二三四点、二位第二ア一九四点、三位ノーバ一四〇点
六・二三　今日より三日間第二アリアンサにて第五回全ア青年野球大会、農産品評会、手芸写真展開催。野球　優勝は第二ア。
七・二　西沢太一郎氏の追悼会に参列
七・七　八・九日汎ノロエステ少年野球大会がアラサツーバで行われ、アリアンサ・チーム決勝戦でチエテに敗れ二位となる。
八・六　第十七回汎ノロ陸上競技大会第二アリアンサグラウソドに開催、優勝リンス・チーム、二位アリアンサ・チーム
八・二七　第三回全ア女子バスケットボール大会がノーバ・アリアンサで開かる。
参加チーム、第一、第二、第三、ノーバ・オリエンテ、フォルモーザ、第二優勝
九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植廿六周年記念祭、昼間家族慰安運動会、夜シネマ。
一〇・七、八両日アンドラジーナにて奥ノロ野球大会が催されアリアンサが優勝
一〇・八　全世界の人々が母の日として母人に感謝の祈を捧げるのは五月の第二日曜日であるが第一では延期　されて今

日に至ったのである。

松井康子さんの開会の辞、母の日の歌、色川先生の「母の日の意義について」のお話、男女青年の感謝の言葉、有志の方々のお話があり、二部に移りお菓子を頂きながら踊ったり歌ったりして和やかに一日を過す。

一二・一〇　農場作業の後、定期総会、役員の改選を行う。

団長上田、副団長蓮沼、運動部蓮沼、産業部山田、文化部今井。

〇一九五一年

三・二三　今日から三日間弓場農場にて四移住地野球大会が催された。

青年準青年共アリアンサ軍優勝する。

四・二九　全ア陸上競技大会（第三アにて）優勝は第一アリアンサ・チーム。

五・一三　第十八回ノロエステ陸上競技大会がアラサツーバで開催され、一位アリアンサ一四七点、二位プロ　ミッソン九二・五点、三位リンス八五点

本大会の結果ノロエステ選手に選抜されたアリアンサ出身者は蓮沼、佐藤、米山、山田、河井兄弟、酒井、若菜、村谷、光田、内田の諸君であった。

五・二〇　全ア少年野球大会（於第二ア）一位第二ア、二位第一ア。

六・三　今年度兵隊さんの壮行会。入営者は上条亨、新井晃、浅見威の三君。

六・一五　今日から三日間第二アリアンサに於いて第六回全ア青年野球大会が催される。

第一、第二、第三、オリエンテ、フォルモーザ、ノーバ・アリアンサの六チーム参加。

第一アリアンサ優勝する。

八・二六　フォルモーザにて第四回全ア女子バスケットボール大会開かる。

九・七　アリアンサ入植廿七周年記念祭家族慰安運動会、夜演芸会

九・一五　一六両日奥ノロエステ野球大会が第二アリアンサで開かれた。

参加チーム　アリアンサ、ミランドポリス、弓場、アンドラジーナ、ペレイラバレット、ガララッペスの六チーム。

成績一位弓場、二位アリアンサ。

九・三〇　第二アリアンサで全アの役員会。

役員改選行わる。

団長蓮沼、副団長河井、酒井、文化部竹本、産業部宮崎、野球部田辺、陸上部河井と決まる。

〇一九五二年

第一アリアンサ支部役員　支部長　山本久勝、副支部長　山田峰雄、文化部　中村和夫、産業部　米山久夫、運動部　蓮沼裕

一・五　第一アリアンサ会館にてシネマ「我が生涯の輝ける日」上映

一・一一　一二日４ＨＣ講習会が第一会館で行われる。講師永田調先生。

四・二〇・　全ア少年野球大会（於第一ア）

五・一一　母の日

五・一八　第六回全ア陸上競技大会が第二アリアンサで催された。

得点は第一ア一八八点、ノーバ二八四点、第二ア一六五・五点であった。

六・七、八両日リンス市にて汎ノロ陸上競技大会行われアリアンサからは少年少女青年合せて四十五名参加。

昨年に続いて今年もアリアンサが優勝する。

六・二〇　今日より三日間第三アリアンサにて全ア青年野球大会、農産品評会催さる。

野球はＡＢ二組に分けてリーグ戦、Ａ組の勝者ノーバとＢ組の勝者第二アとの決戦となり第二チーム優勝する。

八・二二　今日より三月間ミランドポリス球場にて汎ノロ野球大会、参加十一チーム、アリアンサが優勝する。

九・五　今日より三日間聖市にて全伯野球大会の筈だったが雨のため延期。

七日より八、九の三日間行われる。

七日カンポはまだまだグチヤグチヤの中をカッポンボニートと対戦、二対〇でアリアンサ敗れる。

八日はオエステに七対四で勝ち、九日プレジデソテ・プルデソテに七対五で勝った。

本大会に優勝したのはオズワルド・クルスであった。

〇一九五三年

第一ア役員　支部長山田、副支部長蓮沼、産業部米山、文化部伊東、運動部蓮沼。

一・四　第二ア会館で学生と青年の座談会が開催された。

二・二八より三月二日まで第二アリアンサで修養講習全開かる。

講師は蓮沼門三、大谷暢慶、瀬下登の諸先生。

三・三より一週間サンパウロ見学旅行。

三・二一　第一会館で賀川豊彦氏の講演。

四・一二　第二アリアンサで女子バスケットボール大会

第一、第二、第三、ノーバアリアンサ、オリエンテ、ホルモーザの六チーム。

第二アリアンサ優勝す。

五・一〇　第一アリアンサにて全ア陸上競技大会が催された。

以後一九五六年九月までの記録逸失不明。

〇一九五六年

九月の定期総会で選挙の結果第一役員　支部長　蓮沼良彦、副支部長　伊藤和夫、運動部　田中吉宣、文化部　内海柘、産業部　斉藤千晴

一一・三　全ア青年役員改選　団長藤沢トシ夫、副団長蓮沼裕、野球部河井ビットリオ、陸上部村井トシミ、文化部幸島、技芸部青木恵子

一二・二三　第一アリアンサ男女青年弁論大会、弁士十一名。夜はのど自慢大会を催す。

〇一九五七年

一・一　新年会

一・六　第一会館で全ア青年とアリアンサ出身学生の座談会

二・一七　第一会館で全ア青年の感想発表会、後全アピンポン大会。

三・三　第十回女子青年並に第一回男子青年バスケット

ボール大会がホルモーザに於いて開催された。
男子一位フォルモーザ、二位第三ア、女子一位フォルモーザ、二位オリエンテ。
三・一〇　一週間の予定でピラシカーバ、サンパウロ、サントス見学旅行に出る。
四・二七、二八日全ア少年野球大会、第一アリアンサチーム優勝。
五・一二　母の日、母に感謝の会を催す。
五・一九　第一にて全ア陸上競技大会、一位第二ア、二位第三ア、三位第一ア。
六・七　八、九日第三アリアンサに於て全ア青年野球大会、農産品評会催さる。
野球成績、一位フォルモーザ、二位第一ア。
九・七　伯国独立記念日、入植三十三年記念祭、昼運動会、夜演芸会
九・一五　第一ア青年の総会、役員改選、支部長内海拓副支部長伊藤和夫、文化部溝上哲治、運動部麦生田精三、産業部小野進
九・二〇　今日から三日間第三アリアンサにて修養講習会開催。
九・二九　第一会館で全ア青年弁論大会、全ア青年定期総会、夜のど自慢大会が行われた。
弁論一位深尾正治、二位椎野美恵、三位溝上哲

治、役員選挙では団長に藤沢、副団長蓮沼、文化部内海、産業部伊藤、野球部河井、技芸部青木恵子。

一・二　慰霊祭

一・九　全ア青年役員会、文化部、運動部の事業計画を練る。

〇一九五八年

一・一　新年会

一・三　第一アのど自慢会。

一・五　コレイオパウリスターノの記者鈴木氏の講演後佐藤さんの司会で青年と学生の座談会を行う。

一・一一　第二アにて全ア役員会、各部事業予算を練る。

一・二七　二八日牧場の草植え

二・九　全ア卓球大会（於第二ア）団体一位第二アチーム、二位第一チーム。

二・二七　映画「背番号十六、十代の誘惑」第一会館で上映。

三・七　「偽れる盛装」「ばらと拳銃」上映。

三・九　オリエンテに於いて全ア男豊目年バスケットボール大会（男子二回、女子十一回）催さる。

成績は男子部フォルモーザ、第三ア、第二ア、オリエンテ、第一アの順。

女子部フォルモーザ、第二ア、第一ア、第三ア、

オリエンテの順。

五・一一　母の日

五・一八　第二アグラウンドで全ア男女青年陸上競技大会催さる。

一位第二アチーム、二六七点、二位第一ア二四〇点、三位第三ア二三八点、フォルモーザ、ノーバ、オリエンテの順。

六・一三　今日より三日間第一アリアンサにて全ア青年野球大会、農産品評会、手芸、写真展開かる。

野球最後の日は雨天のため一日延期十六日になる。

優勝は第一アリアンサチーム。

六・二二　移民五十年祭、納骨堂竣工慰霊式が墓地で行われた。

六・二三　「孤独の人」「おしどり喧嘩笠」第一ア会館で上映。

七・二五　今日より一週間サンパウロ、サントス方面見学旅行、男女二十九名。

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植祭、慰安運動会、敬老会、演芸会。

九・一二　今日より三日間第一会館にて４ＨＣ講習会、講師は林、永田、片岡さん。

九・一六　映画「隣りの嫁」「大あばれちやっちや娘」上

映。

九・二六、二七、二八日、第二アリナンサにて修養講習会。

一〇・五　第一ア青年総会、役員改選、支部長　溝上哲治、副支部長　蓮沼良彦　産業部　小野進　文化部　内海柘、運動部　田中吉宣

一〇・一二　第二ア会館にて全ア青年弁論大会、定期総会、のど自慢会が行われた。

役員改選では団長内海、副団長蓮沼、文化部溝上、野球部深尾、産業部尾関、陸上部河井、柔道部小林、技芸部川畑悦子。

〇一九五九年

一・一　男女青年新年会を会館で行う。

一・三　第一アリアンサのど自慢会

一・五　全ア青年主催学生と青年座談会

二・一五　アラサツーバでノロエステ青年連盟主催の日語及び伯語の第十回弁論大会が催された。

アリアンサからは八人の弁士出場、団体成績はノーバ・プロミッソン、プロミッソン、アラサツーバ、アリアンサ、リンスの順。

二・二一　第六回ノロエステ準青年野球大会が第二アリアンサで開催された。

参加はアリアンサ、アンドラジーナ、アラサ

ツーバ、ガラサイ、リンス、ミランドポリス、ペレイラ・パレットの七チーム。

二・二二　野球第二日目優勝はミランドポリスチームに輝く。

夜第二ア会館にて映画「椎の実学園」を上映。

三・八　第三アにて全ア男女青年卓球大会開催さる。

団体順位、一位第二ア、二位第三ア、三位第一ア、四位オリエンテ、五位フォルモーザ、個人では男子部高木（オリエンテ）竜田（第一）森田（第二）女子部柴田（第二）村井（第三）丸山（第三）の順。

三・二二　男女バスケットボール大会を第二アリアンサにて催す。

成績順男子フォルモーザ、オリエンテ、第二ア、第三ア、第一ア、女子第一ア、フォルモーザ、第二ア、オリエンテ、第三ア。

四・二四　今日より三日間第一ア会館にて全ア青年修養講習会開催さる。　講師は菊池、桑原、瀬下、蓮沼の諸氏。

五・一〇　母の日。

会館で男女青年主催による感謝会を開く。

会開始直後昨日来アされた州知事秘書マルショ・ポルト氏が見えられ母への感謝の言葉を述べられ、予想しなかった特等会になった。

五・一七　第三アリアンサにて全ア陸士競技大会が開かれ

た。

一位第三ア一七六点、二位第二ア一五三点、三位第一ア一四九点、四位フオルモーザ一〇六点、五位　オリエンテ一七点。

五・二三　早朝麦生田君の自動車でサルチーニヨへピクニック。

翌日午後帰る。

六・六　午後七時半より第一会館にて安田、鈴木、芳賀、沖村、広田の諸君が来る十日マットグロッソの兵営に入営されるのでその壮行会を開催。

六・一二　一三、一四日第二アリアンサにて第十五回全ア青年野球大会が開かれた優勝第一アリアンサチーム

六・二八　午前七時半より一日修養講習会閑かる。

講師　瀬下、蓮沼両氏。

七・二五　今日より五日間にわたってリンス市でノロエスチーノが開かれる。

アリアンサから陸上競技に男子部では小松、蓮池、大石、佐竹、大泉、女子部では大泉姉妹、藤沢、小松、北山、野球部では佐々木、山本、望月、高木の諸君が選出された。

八・一三　今日から四日間ペンナポリス球場で汎ノロエステ青年野球大会あり、アリアンサチームは三位とな　る。

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植三十五年記念祭、運動会、演芸会、歌舞伎「稚児桜夜半の嵐」が好評だった。

九・二〇　第一アリアンサ定期総会、役員改選、支部長内海、副蓮沼、文化部新津、産業部岩本、運動部上沼

九・二七　第三アリアンサで全ア青年団定期総会、役員改選行わる。

団長蓮沼、副河井、文化部溝上、産業部尾関、野球上坊寺、陸上河井、柔道森田、技芸部山本タエ子。

（注・１２２ページ＆１２３ページが欠落）

会開く。

男子一位第二ア、二位第三ア、三位第一ア、四位オリエンテ、女子一位第一ア、二位第三ア、三位第二ア。

四・一六　全ア少年野球大会が第三アリアンサで行われた。

成績は第三ア、第二ア、第一アの順。

四・二三　全ア青年役員会を第二ア会館にて開く。

新役員を選挙する。

団長村井、副内海、陸上部佐竹。

五・一四　母の日、第一アリアンサ男女青年、クルベ・アグリコラ部員共催で第一会館で母の日をお祝いする

五・二一　第二アリアンサ運動場で第十五回陸上競技大会が開催された。

一位第三ア三六一点、二位第二ア三二五、三位

第一ア二一二点、四位オリエンテ五六点、五位ホルモーザ三九点。

六・一六　一七、一八日第三アリアンサにて青年野球大会、農産品評会、手芸・写真展、野球一位第一ア、二　位第三ア、三位第二ア、四位オリエンテ。

七・二三　第一ア男女青年及学生でサルチーニョ、イタプーラへピクニックをする。

参加者五十八名。

七・三〇　第一ア男女青年定期総会、役員改選、支部長男子麦生田精三、女子浅野孝子、副支部長男子伊藤常雄、女子山本文子、産業部浅野茂、運動部男子上沼博、女子大泉和子、文化部男子内海柘、女子岩本セイ。

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植三十七周年記念祭、運動会、演芸会。

九・一四　第一ア男女青年役員会。

さきの定期総会で選挙された支部長麦生田君が辞任したので後任に副支部長伊藤君が支部長に副支部長には上沼博君が推挙された。

九・一七　第二ア会館で全ア男女青年の役員選挙が行われた。

団長村井、副麦生田、産業部伊藤、陸上部佐竹、野球部上沼、夜はのど自慢大会を行う。

一一・一九　第三アリアンサ会館で第十二回全ア弁論大会が

開催された。

弁士はポ語三名、日語二十五名であった。

一一・二二　第一会館にて映画「戦国群盗伝」「夜を探せ」上映。

一二・二三　映画「裸の大場」「山の音」上映。

〇一九六二年

一・一　新年会、夜バイレ。

一・三　第一アリアンサのど自慢大会。

一・四　全ア青年団主催学生と青年の座談会第一ア会館にて行わる。

一・一九　ピラシカーバ農大から六名植林運動班来ア第一会館にて植林について講演あり、夜教育映画。

二・二　オリエンテに於いて全ア男女青年バスケットボール大会開催。

男子一位第三ア、二位オリエンテ、三位第二ア、四位第一ア。

女子一位第三ア、二位第二ア、三位第一ア。

三・四　蓮沼先生が訪日から帰られた歓迎会を母の会と合同で行う。

お土産にピンポンのラケットを頂く。

四・一五　第一アリアンサにて第十六回全ア少年野球大会を開く。

第一アリアンサチーム優勝する。

五・一三　母の日、母に感謝の会を開く。

五・二〇　第三アリアンサに於いて全ア男女青年陸上競技大会が開催された。

一位第三ア四二二点、二位第一ア一九三点、三位第二ア一一九点、四位フォルモーザ五四点、五位オリエンテ一九点。

六・八　九、一〇日第二アリアンサで全ア青年野球大会並に農産品評会催さる。

野球は第三アリアンサチーム優勝する。

七・八　九日ミーリヨ収穫二〇五袋と三〇キロ。

七・二四　午後七時出発、セッテケーダス見学旅行に出かける。

二十九日朝帰ア。

八・五　第一アリアンサ青年役員改選。

支部長男子浅野茂、女子岩本セイ、副支部長男子伊藤常雄、女子新津典子、文化部男子長尾剛、女子藤川みつえ、陸上部男子加藤俊一、女子大泉和子、野球部上沼博、産業部蓮池マリオ。

八・一九　第一会館にて一日修養講習会。

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植三十八周年記念祭、運動会、演芸会、

九・一六　全ア男女青年団定期総会。

各部事業報告の後、役員改選を行う。
団長麦生田精三、副村井敏彦、文化部内海祐、産業部　伊藤常雄、陸上部佐竹幸雄、野球部　佐藤克郎、手芸部　紺野美恵。
夜はのど自慢大会を催す。

一〇・一四　第三アリアンサにて全ア男女青年卓球大会を開く。
団体一位第三ア、二位第二ア、三位第一ア、四位オリエンテ、個人男子一位佐藤、二位依田、三位島崎、女子一位村井、二位小松、三位村井。

一〇・二八　第一ア男女青年団と母の会合同で初めて父の日をお祝する。

二・二五　第十三回全ア弁論大会が第一ア会館で開催された。
ポ語の部一位蓮沼学、二位内海すゞ子、三位前川カオリ、日語の部一位仲馬一二三、二位相川やえ子、三位椎野千春、夜はバイレを楽しむ。

〇一九六三年

一・一　新年会

一・二　学生と青年の座談会。
夜八時から十時まで幻灯、後十二時までバイレ。

一・五　第一アリアンサのど自慢会。

三・三　第三アリアンサにて全ア男女青年バスケットボール大会を開催、男子七回、女子十七回目である。

男子Ａ組は第三ア、Ｂ組は第一ア。　女子Ａ組は第二ア、Ｂ組は第三アが夫々優勝する。

三・二四　サルチーニヨの滝にピクニック。

四・二〇　二一両日ミーリヨ収穫一八八袋と五七キロあった。

尚二十一日には第三アリアンサで少年野球大会が催された。

四・二八　第一会館で全ア男女青年役員会あり、団長麦生田君家庭の都合で辞任したので後任に俵田哲夫君が　選ばれ、副団長に浅野茂君、書記に藤川美津江さんが選ばれた。

五・一二　母の日、十一時半開会、歌あり、あそびありで賑やかだった。

最後に雪山讃歌をうたって四時解散五・一九

全ア青年陸上競技大会(第一アリアンサにて)第三ア優勝四一二点、二位第二ア二四二点、三位第一ア二〇一点。

五・二六　ミーリヨ収穫一八八袋と五キロ。

四月に穫ったのと合せて三七七袋あった。

六・一四　一五、一六日第一アリアンサに於いて全ア青年野球大会、農産品評会、手芸・写真展開かる。

野球はＡ組Ｂ組共第三ア優勝、二位は第一ア。

七・六　七日プロミッソン市でノロエステ陸上競技大会が行われた。

八・四　第一ア男女青年定期総会、役員改選、支部長男子浅野茂、女子新津典子、副支部長男子内海柘、女　子大泉和子、文化部男子色川、女子内海すゞ子、陸上部男子加藤俊一、女子森良子、野球部上沼博、産業部　伊藤常雄。

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植三十九周年記念祭、運動会、演芸会、

九・二二　全ア青年団定期総会、役員改選団長依田、副浅野、文化部内海、産業部小松、野球部島崎、陸上部　佐竹、手芸部藤川美津江、夜はバイレを楽しむ。

九・二九　蓮沼信一氏による修養一日講習。

二・一　第一会館で全アピンポン大会。

一位第三ア、二位第一ア、三位第二アチーム。

個人A組一位依田、B組一位竜田、女子一位大泉洋子。

○一九六四年

一・三　ジュピアへピクニックする。

一・五　州議京野四郎氏の来アを機に郡長ドットール・ジョルジ氏を招待、両氏の講演を聴く。郡長はアリアンサの図書館建設には出来るだけの援助をすると約束され、京野氏は農村電化のために尽力を惜しまないと約束してくれる。

一・一一　第一アリアンサのど自慢大会。

一・二九　第二ア自治会館にて全ア青年弁論大会開催。

ポ語の部一位蓮沼学、二位岩本カズテル、三位内海すゞ子、日語の部一位依田さよ子、二位小林真矢、三位市川洋子、夜はバイレが行われる。

一・二六　第一ア青年役員会で第一ア青年団を正式に内国人団体として登録することに決める。

ＡＳＳＯＣＩＡＣＯ　ＣＵＬＴＵＲＡＬ　ＥＳＰＯＲＴＩＶＡ　ＤＥ　ＰＲＩＭＥＩＲＡ　ＡＬＩＡＮＣＡ略してＡＣＥＰＡとする。

二・一〇　汎ノロエステ弁論大会を第一ア会館で開催。

団体一位アラサツーバ、二位アリアンサ、三位プロミッソン。

三・八　第二アリアンサに於いて全アバスケットボール大会、女子Ａ組一位第二ア、二位第一ア、三位第三ア、男子Ａ組一位第三ア、二位第一ア、三位第二ア、四位オリエンテ。

四・一二　夜全ア素人のど自慢大会が第一アリアンサ会館で行われる。

五・一　ＡＣＥＰＡ最初の役員選挙。

団長浅野茂、副・内海柘、書記蓮沼学、会計竜田ジョージ、文化部色川剛、運動部上沼ヒロシ、女子部大泉和子、藤川美津江。

五・一〇　母の日

五・一七　第二アリアンサで全ア陸上競技大会、第三ア優勝。

二位第二アリアンサ。

六・一二　一三、一四日第三アリアンサで青年野球大会、農産品評会、写真手芸展、野球はＡＢ二組宛出して試合する。

Ａ組は第三ア、Ｂ組は第一アが勝つ。

七・一二　第二アリアンサで一日修養講習会あり、講師は蓮沼、瀬下、菊池、平井の諸氏。

七・二六　第一会館で市長ドットール・ジョルジ、市議ジエンネル・ビイエイラ・サントス氏と座談会を開く。

八・二　第一ア男女青年役員改選。

団長男子竜田ジョージ、女子岩本セイ、副・色川剛、女子内海すゞ子、陸上部加藤俊一、女子森良子、産業部玉川ジョージ、文化部内海柘、野球上沼博。

八・六　七、八日ＣＥＤＡＣ講習会。

九・六　七日入植四十周年記念祭。

九・一八　夜八時より日本兵庫県篠山大学生と男女青年団員との座談会。

一〇・一八　全アリアンサ男女青年団役員改選、団長依田、副浅野、文化部内海、陸上部中山、野球部島崎、女子委員大泉和子、内海すゞ子、村井タエ子。

一二・二〇　第二アリアンサで卓球大会。

一位第三ア、二位第一ア、三位第二ア、四位オ

リエンテ。

〇一九六五年

一・一　新年会、夜はバイレ。

一・二　ジュピアへピクニック。

一・五　今日から十日迄伯国修養団の奥ノロエステ林間学校が第一会館で催される。

講習生八十数名各地より集る。

一・三一　第一アリアンサのど自慢大会。

二・七　第一会館で全ア弁論大会。

ポ語一位蓮沼学、二位山上アケボ、三位浅見アラタ、日語一位島崎清。

二・二八　第一アリアンサで全アバスケットボール大会が行われた。

四・二五　第一ア球場で全ア少年野球大会が催され、第一アリアンサが優勝する。

五・九　母の日

五・二三　第三アリアンサで第十九回全ア陸上競技大会が催された。　一位第三ア、二位第一ア、三位第二ア、四位オリエンテとなった。

六・一一　一二、一三日第二アリアンサで全ア青年野球大会、農産品評会、手芸展、野球は十三日で勝敗決せず翌十四日決戦の結果、一位第三ア、二位第二ア、三位第一アとなった。

七・一九　から二十七日迄男女青年サンパウロ方面見学旅行。

八・一　サンパウロ方面見学旅行の感想発表会、午後第一ア青年役員改選。

団長内海柘、副玉川ジョーヂ、書記色川剛、文化部弓場新、運動部加藤俊一、女子部色川和子、小田君子

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植四十一周年記念祭、運動会、シネマ。

九・一二　第三アリアンサで全ア青年団総会、役員改選

団長依田、副斉藤、文化部内海、産業部小松、運動部中山、上沼、女子部村井・椎野。

九・一九　サルチーニヨヘピクニック。

一〇・二一　二六日、十一月四日、二十一日十二月五日の五日間グルッボ旧校舎の取壊し、釘抜作業をなす。

一一・一四　第三アリアンサで全ア男女青年卓球大会を催す。

〇一九六六年

一・一　新年会、夜バイレ

一・二　アラサツーバのカソツリークラブヘピクニックする。

一・一六　林さんのアメンドイン収穫をする。

一二七袋しか出来なかった。

一・二三　第一アリアンサのど自慢大会。
中島さん指導の踊りの披露もあった。
二・三　第三アリアンサで全ア男女青年弁論大会が行われた。
三・六　第二アリアンサで全ア陸上競技大会が催された。
三・一二　第一アリアンサ図書館定礎式。
四・一六　夜八時より第三アリアンサにて全アのど自慢大会を催す。
五・八　母の日
五・一〇　第一会館で入営兵の壮行会。
本年度入営兵は岩本アキオ、若栗アキオ、林春樹の三君。
五・二一　二一日修養講習会、講師蓮沼信一、星タカ子先生。
六・一〇　一一、一二日第一アリアンサで全ア青年野球大会、農産品評会を催す。
野球はA組一位第一ア、二位第三ア、三位第二ア、B組第二ア、オリエンテ、第三ア、第一アの順。
七・二一　三日の両日第二アリアンサで第三十八回ノロエステ陸上競技大会催さる。
アリアンサ、ペレイラ・バレット、アラサツーバ、アンドラジーナ、プロミッソン、ノーバ・プロミッソン、

リンス、ゼツリーナの八チーム参加。

七・二三　第一青年団総会、役員改選。

団長男子高木収、女子小田キミ子、副・新津尚司、女子大泉陽子、文化部弓場新、運動部加藤俊一。

後森姉妹のアラサツーバ移転の送別会。

八・一二　から十五日にかけてアラサツーバで行われた野球大会にアリアンサが優勝、全伯大会へ駒を進めることになった。

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植四十二周年記念祭、図書館落成祝、敬老会、運動会、シネマ。

九・二五　第三アリアンサで男女青年バスケットボール大会が行われた。

一〇・二　サルチーニョへピクニック。

一〇・九　第一会館で全ア青年団総会、役員改選、団長斉藤洋、副島崎清、文化部椎野正子、産業部松山和夫、運動部小松ペードロ、野球部上沼博、女子部大泉陽子。

二・一三　第一アリアンサにて全ア卓球大会催さる。

結果一位第三ア、二位第一ア、三位第二ア、四位オリエンテ。

〇一九六七年

一・一　新年会、夜はバイレ。

一・二　ボッテーリヨの滝にピクニック。

一・三　おえら方のお話を聴く。
出席して下さった方々はドットール・ジョルジ氏夫妻、郡長サベーロ氏夫妻、郡会議長ペードロ・パウロ氏、北原さん、田中さん、八木さん、島崎さん。
一・七　夜第一アリアンサのど自慢大会。
二・五　第二アリアンサで全ア弁論大会。
二・一九　第一会館でノロエステ弁論大会。
参加したのはアリアンサ、アラサツーバ、プロミッソン。
三・一二　第一回少年陸上大会が第一アリアンサで催された。
一位第一ア、二位第二ア、三位第三ア。
三・一九　第二アリアンサにて奥ノロ野球大会が催された。
アリアンサ、アンドラジーナ、ミランドポリス、ペレイラ・バレットの四チーム参加。
三・二二　第一ア青年の団長高木君辞任、新津尚司君団長となる。
四・一六　第一会館で全アのど自慢大会。
五・一四　母の日
五・二一　第一アリアンサで全ア陸上競技大会が行われた。
六・一六　一七、一八日第三アリアンサで全ア青年野球大

会、農産品評会。

七・三〇　第一ア青年総会、役員改選。

団長男子　神沢盛大、女子箕輪タニ子

副　〃　高木収、　〃　安田トシ子

文化部　弓場新、　〃　堀江マユミ

運動部　加藤俊一、〃　望月タカ子。

八・一〇　から十三日迄ガララッペス市で行われた汎ノロエステ野球大会でアリアンサチーム第二位となる。

九・七　伯国独立記念日、アリアンサ入植四十三周年記念祭、運動会、シネマ。

九・一七　第二アリアンサで全ア青年団総会、役員改選

団長松山和夫、副団長島崎タダシ、文化部弓場新、椎野正子、陸上部上坊寺オサミ、長井ツカサ、野球部上沼博・加藤俊一、女子部市川アキ子・龍野正子。

九・二四　第一ア男女青年イリヤ・ソルテーラにピクニック、参加七〇名。

一〇・二二　第三アリアンサで全ア準青年野球大会を催す

一位第一ア、二位第二ア、三位第三ア。

二・一九　第二アリアンサで全ア卓球大会一位第三ア、二位第一ア、三位第二ア、四位オリエンテ。

一二・三　第二アリアンサ会館で修養講習会開催さる。

二、第一アリアンサ女子青年

女子青年の記録は一九五〇年から一九六〇年七月迄が逸失して不明であるため、それ以後の行事を記載する。

〇一九六〇年

七・二五　役員改選。
　団長内海淑子、副団長浅野孝子、文化部岩本せい、運動部大泉和子。

一一・一三　羽広ふじえさんから造花を習う。

一一・二〇　入植記念石碑の除幕式。

一一・二七　第二アリアンサで全ア男女青年の弁論大会が行われた。

一二・四　料理講習、先生は渡辺えつ子さん。

一二・一一　全ア青年役員会、来年二月十九日にノーバ・プロミッソンで行われるノロエステ弁論大会に出場するアリアンサの選手は左記の如く決まる。
　ポ語の部　溝上哲治、佐竹オズワルド、十川タカ子、溝上悦雄、小松タカ子。
　日語の部　中馬一二三、村井敏彦、内海柘、蓬沼良彦、田中武、椎野美恵、椎野千春、村井和子、村井妙子、藤川美津江。

一二・一八　長谷川さんから生花の講習を受ける。

一二・二四　例年の如くクリスマスのお菓子つくり。
おまんじゅう、カステラ、ビスコイトを作る。

○一九六一年

一・一　二時より新年会、夜バイレ。
一・三　男女青年主催でのど自慢大会。
一・八　長谷川さんの指導で生花の陳列会を開く。
佐藤さんの司会で正午から会館で学生と青年の座談会。
一・二一　羽広ふじえさんから造花講習、ダリヤとローザモッシンニヤを教えていたゞく。
一・二二　昨日の続き造花講習。
一・二九　川畑つね子さんに造花（菊花）の作り方を教えて頂く。
午後男女青年揃って弓場農場で歌の練習。
二・五　前週と同じく歌の練習「仕事の歌」「若者よ」「おゝプレネリ」「雪山讃歌」「娘さん」以上。
二・一二　奥ノロユステ柔道大会が第一アリアンサ会館で催された。
女子青年で売店を開く。
二・一九　蓮沼先生が訪日されるので男女青年、母の会合同で壮行会をする。

三・一二　第二アリアンサ会館で全ア男女青年第五回ピンポン大会が催された。

四・二　長谷川先生から生花の講習。

四・九　全ア男女バスケットボール大会。

男子第四回、女子第十五回大会である。

四・三〇　母の日のためにカーネーション作りをする。

午後母の日の歌の練習。

五・一四　母の日。

お母さん方約六十人出席して下さる。

男女青年の感謝の辞、北原さんのお話の後レクリエーションで一日を楽しく過す。

五・二一　第二運動場で全ア陸上競技大会。

六・四　望月よう子さんからお人形の作り方を教えて頂く。

六・一六　一七、一八日、第三アリアンサで青年野球と農産品評会、手芸・写真展。

七・九　みんなで本をみながらお料理の稽古をする。

七・二三　サルチンニョへピクニックする。

男女合せて　五十八名。

七・三〇　第一ア男女青年役員改選が行われた。

女子部役員、団長浅野孝子、副団長山本文子、運動部大泉和子、文化部岩本せい。

九・三　入植祭の準備、女子青年は万国旗造り。

賞品包みなどする。

九・七　入植三十七周年記念祭、昼運動会、夜演芸会。
女子役員でお料理を持ち寄り、サラダを作って盛り合せて敬老会の接待をする。

九・一七　第二会館で全ア青年の定期総会。
夜はのど自慢大会をする。

九・二四　造花の講習、先生は川畑つね子さん。

一〇・一五　料理講習、山本文子さんにカヌドの作り方を教えて頂く。

一〇・二二　慰霊祭の花作り。

一一・一九　全アリアンサ弁論大会が第三アリアンサ会館で開かれた。
夜バイレ。

一二・三　岩本せいさんに造花（菊の花）を教えていたゞく。

一二・二四　女子役員でクリスマスのお菓子作り。
去年と　同じくおまんじゅう、カステラ、ビスコイト。

〇一九六二年

一・一　男女青年御馳走持ち寄りで新年会、夜は七時半からバイレ。

一・三　午後八時からのど自慢大会。

一・四　第一会館で学生と青年の座談会。

一・七　電気、カンポ・デ・フットボール、カデイヤのイナダラソンが開かれた。

女子青年も母の会員にお手伝いして御馳走作り。

接待役をする。

賑やかな一日でした。

一・二八　高木その子さんに雪餅とうぐいす餅の作り方の講習をして頂く。

二・一一　全アバスケットボール大会がオリエンテで行わる。

二・二五　川畑妙子さんに造花（ゆりの花）の作り方の講習を受ける。

午後より男女青年で感想発表会を行う。

三・四　蓮沼先生が日本から帰られたので男女青年と母の会で午後一時から歓迎会を開いた。

日本からのお土産話しを伺い、二時頃から渡辺夫人にレクリエーションの仕方を教えていたゞく。

蓮沼様からはピンポン用具をお土産に頂く。

三・二五　森本アントニオさんの講演。

四・一　男女青年でミーリヨ取りをした。

今日の収穫　約八十袋。

四・八　内海とし子さんにお料理の講習をして頂く。

四・一五　全アリアンサ少年野球大会が第一アリアンサで催された。

第一ア優勝す。

四・二九　川畑妙子さんに造花の講習をして頂く。

母の日のカーネーション作り。

午後母の日の歌の練習をする。

五・六　長谷川先生から生花の講習を受ける。

午後は母の日の歌の練習をする。

五・一三　母の日、男女青年とクラブ員とで御馳走持ち寄りで感謝のおもてなしをする。

午前十時半より礼拝感謝の辞、蓮沼、瀬下様のお話。

正午より二部に一移り、お茶菓子、レクリエーション。午後三時半開会する。

五・二〇　第三アリアンサで青少年陸上競技大会、優勝は第三チーム。

第一女子青年もカップを貰いました。

六・八　九、一〇日青年野球大会と農産品評会が第二ァリアンサで開催された。

野球は第三が優勝、品評会　は農産物が割合少かったが、手芸品が多くとてもきれいだった。

六・二四　第一ア男女青年役員会。

入植祭、見学旅行の相談、十時頃から長谷川さん指導で生花の練習する。

七・二四　午後七時出発でイグアスー瀑布見学旅行に出る。

男女青年三十七名参加。

二十九日朝帰村する。

八・五　第一アリアンサ男女青年役員の改選があった。

新女子役員は団長岩本せい、副国長新津典子、文化部　藤川美津江、陸上部大泉和子。

八・一二　アメンドイン・サウガードの作り方を浅野孝子さんから教えて頂く。

八・一九　第一会館で全ア一日修養講習会。

蓮沼、瀬下先生、色川夫人のお話を聴く。

後、州議候補京野四郎氏の演説があった。

九・七　よいお天気に恵まれ第一アリアンサ入植三十八周年記念祭を賑やかに面白く過ごす。

昼運動会、夜演芸会。

九・一六　第三ア会館で全ア男女青年定期総会が開催された。

蓮沼先生より「青年の本質」と題してお話を聴く。

ついで役員の改選があった。

一〇・一四　第三ア会館で全ア男女青年第六回ピンポン大会

が開かれた。
団体優勝第三チームと個人優勝者佐藤克郎君にカップが贈られた。
一〇・二〇　慰霊祭が近づいたので今日はお花つくり。
クレポンを十一マッソ色とりどり買った。
四十三の花束が出来、一つ三十クルゼイロで売ることに決める。
一〇・二八　男女青年と母の会で会館の修理祝いと兼ねて父の日のお祝いをする。
セルベージャ、ガラナ、お茶菓子で歌ったり賑やかな一時をすごす。
一一・二一　慰霊祭、九時半会館に集って花環をつくり十一時の慰霊式に参列する。
一一・一一　長谷川さんから生花の講習、午後は川畑つね子さんから造花のブローチを教えていたゞく。
一一・二五　全ア弁論大会が午前十一時より第一アリアンサ会館で開催された。
日語の部二十六名、ポ語七名の弁士。
夜は十一時までバイレを楽しむ。
一二・九　お料理講習と陸上競技の練習。
一二・二四　女子青年全員でクリスマスのお菓子作り。
おまんじゅう、カステラ、ビスコイト二百人分を作った

〇一九六三年

一・一　新年会、夜はバイレ。

一・二　第一会館で学生と青年の座談会。
夜は幻灯を写して頂く。

二・三　長谷川さんから生花講習を受ける。
後お料理の勉強。

二・一七　グワラサイからバスケットボールの練習試合に来る。

三・三　第三アリアンサで全ア男女青年バスケットボール大会が催された。

三・一〇　新津典子さんからボルダードを教えていたゞく。
後、森さんのおばさんから歌を習う。
「おぼろ月夜」「乙女の祈り」

三・二四　第一アリアンサ男女青年でサルチーニョへピクニック。

四・一四　復活祭、ペレイラ・バレット、第二・第三アリアンサから集まり、第一の人達を寄せると五百人位　の人数であった。
女子青年の手でカフェーの用意をする。
午前九時頃牧師石戸先生が亡くなられた。

女子青年と母の会の人々で夕方花輪をつくる。

四・二一　男女青年で昨日と今日ミーリヨ収穫をする。

第三アリアンサで今日行われた全ア少年野球大会優勝は第三アチームであったと。

四・二八　全ア青年役員会が第一会館で開かれた。

五月十九日の陸上大会の役割り。

全ア団長、副団長が辞めたのでその後任についての相談があった。

結局団長に　依田哲夫さん、副に浅野茂さん、書記に藤川美津江さんに決まる。

五・五　長谷川さんから生花を教えて頂く。

午後は母の日の歌のけいこ。

五・一二　母の日、十一時より礼拝、感謝の辞、北原さん蓮沼さんのお話。

午後はレクリエイションで五時まで楽しく過す。

五・一九　全ア第十七回目の陸上大会が第一グラウンドで開かれた。

第三優勝す。

六・二　大泉和子さんと竜田きみ子さんからカリントウとエンパジンニヤの作り方を教えていただく。

六・八　麦生田精三さんがサンパウロへ移転されるので中央区並びに第一男女青年で送別会を催す。

六・九　長谷川さんから生花の講習を受ける。

六・一四　一五、一六日三日間にわたって第一アリアンサで青年野球大会と農産品評会、手芸・写真展が催さ　れた。

六・三〇　正午より第一会館にて石戸先生の追悼会が行われた。

七・六　七両日プロミッソン市でノロエステ陸上競技大会が行われた。

第一アからコジネイラとして美津ち　ゃんと典ちゃんに行って頂いた。

七・二一　男女青年でサルト・ボッテーリヨへピクニックする。

七・二八　新津典子さんからパンノデアモストラ・ポルダードアモンを教えて頂く。

八・四　午前十一時より男女青年で感想発表会を行ない、後、役員改選が行われた。

女子部役員は団長新津典子、副団長大泉和子、文化部内海すゞ子、陸上部森よし子。

八・二五　第一男女青年の役員会を開く。

女子団長に選ばれた新津典子さんが退団されたので大泉和子さんに団長をして頂くことに決まりました。

九・七　入植三十九年記念祭、運動会、演芸会。

九・二二　全ア男女青年団定期総会。

九・二九　午前八時半より全ア男女青年一日修養会第一会

館で行われた。
講師は蓮沼、瀬下先生。
一〇・一三　第一会館で全ア青年役員会。
第一の女子青年は慰霊祭の花つくり。
一〇・二〇　今日も花つくり。
一一・二　慰霊祭、女子青年は九時に集合、大きな生の花輪を二つ作り、十一時からの慰霊式に参列する。
一一・一七　午前八時より新津典子さんと箕輪うめよさんからボルダードアモンのパンノデアモストラを数えて頂く。
午後はピンポンの練習。
一二・一　第一アリアンサ会館で全アピンポン大会を催す。
一二・二四　例年の如く日躍学校の生徒のためにクリスマスのお菓子作りをする。
二百人分作る。

〇一九六四年

一・一　午後五時より新年会、夜バイレ。
一・三　ジュピアへピクニックに行く。
全ア男女青年で州議員京野四郎氏の講演を聞く、夜バイレを行う。
一・一一　夜八時半より第一ア男女青年ののど自慢会が行

わる。

一・一九　第二アリアンサにて全ア青年の弁論大会が催された。

弁士ポ語六名、日語十八名。

一・二六　バスケットボールの練習。

午後森おばさんから料理ボンバを教えて頂く。

二・一〇　ノロエステ弁論大会が第一アリアンサ会館で開かれた。

弁士と役員の食事は第一女子青年の受け持ちであった。

二・二三　女子集会、内海鈴子さんからボルダードを教えて頂く。

三・八　第二アリアンサで全アバスケットボール大会が行われた。

男子は第一、第二、第三、オリエンテの四チーム、女子は第一、第二、第三の三チーム参加。

四・一二　午前十一時より石戸先生の追悼会がキリスト教会で行われ、女子青年も参加しました。

夜全ア素人のど自慢大会が第一会館で行われた。

五・三　長谷川のおじいちゃんに生け花を教えて頂く。

アルモッサ後、母の日のカーネション作り、午後は母の日の歌の練習。

五・一〇　母の日。
男女青年とキリスト教会とで例年通りお母様方をお招きして一日楽しく過しました。
五・一七　第二アリアンサで全ア陸上競技大会が行われた。
第三アリアンサが優勝。
五・二四　ボルダードとサッコーラの講習。
六・七　小橋節子さんからおいしいアンパンの作り方講習。
藤川美津江さんからブラウスにボルダする花文字のボルダの仕方について教えて頂く。
六・一二　一三、一四日第三アリアンサで青年野球大会と農産品評会、写真・手芸展が開かれた。
七・一二　第二ア会館で一日修養講習会。
講師は蓮沼、瀬下、菊池、平井の諸先生。
八・二　第一アリアンサ男女青年の役員改選が行われた。
女子部役員は団長岩本せい、副団長内海すゞ子、陸上部森佳子。
八・六　七、八日、ＣＥＤＡＣ講習会。
九・一八　夜八時より日本兵庫県篠山大学生三名と男女青年の座談会。
一〇・一一　書籍の整理、後、醤油マンジュウ作りの講習が

ありました。

一〇・一八　全アリアンサ男女青年定期総会。
夜七時半より十一時までバイレを行う。

一一・二　慰霊祭。

一一・二二　午前九時より長谷川さんに生花を教えて頂く。
午後セダックの講習でならった手芸(犬のぬいぐるみ)を川畑さん、箕輪さんから教えて頂く。

一二・二四　クリスマスのお菓子作り。
ビスコイト、ふかしまんじゆう、カステラ。

〇一九六五年

一・一　午後三時より新年会、夜バイレ。

一・二　ジュピアへピクニック。

一・五　今日から十日迄修養団の奥ノロ林間学校が第一会館で開かれる。
八十数名のごはん炊きは女子青年が引受ける。

二・七　午後一時半より第一会館で全アリアンサ弁論大会が開かれた。

二・二八　第一アリアンサで全アバスケットボール大会が催された。

三・一四　午前九時より長谷川さんから生花講習、十一時半から料理講習。

三・二一　会館で手芸、編物、の講習。

四・四　川畑とく子さんから押し絵の講習をして頂く

四・一一　第二アリアンサでのど自慢大会がありました。

四・一八　料理講習（ピポキンニョとボーロ・シンプレス）

四・二五　母の日のカーネーション作り。

少年野球大会に来られている審判員の方方のカフェーつくりをする。

五・二一　長谷川のお爺ちゃんに生花の講習をして頂く。

お昼から料理（玉子人形）の講習。

五・九　母の日、朝七時半集合で準備、十一時開会、閉会は四時でした。

五・二三　第三アリアンサで全ア陸上競技大会が行われた。

六・二一　から十四日迄第二アリアンサで野球大会と農産品評会が行われた。

七・一九　今日から一週間第一男女青年でサンパウロ市方面見学旅行。

八・一　サンパウロ方面見学旅行感想発表会。

午後役員改選。

女子団長色川和子、副団長小田君子となる。

九・七　入植記念祭、運動会、シネマ。

九・一二　第三アリアンサ会館で全ア男女青年団総会。

九・一九　サルチーニョへピクニック。

一〇・二四　ぬいぐるみ（ピングイン）を色川和子さんから教えて頂く。

一一・一四　全ア男女青年ピンポン大会が第三アリアンサで行われた。

一二・五　お料理講習（支那マンジュー）陸上競技練習

一二・一二　和川和子さんからみずたま刺繍とアプリカソンを習う。

後、役員会。

一二・二四　クリスマス用お菓子作り。

〇一九六六年

一・一　午後三時より新年会、夜バイレ。

一・二　アラサツーバのカンツリークラブへピクニックする。

一・二三　第一アリアンサのど自慢大会、最後に中島さん指導の踊りの披露がありました。

一・三〇　先週の日曜にＣＥＤＡＣ講習で教わつた毛糸編物のアモストラの続きを森とみえさんと大泉陽子さんから教えていただく。

又川畑若子さんにボルダードを教えていただく。

今日色川和子さんが退団されましたので小田君

子さんが団長となりました。

二・三　第三アリアンサで全ア男女青年弁論大会が開催されました。

二・二七　九時より長谷川のおぢいちゃんに生花を教えて頂く。

三・六　お昼後太田きみ子さんに刺繍を習う。

三・一二　第二アリアンサで全ア陸上競技大会が催されました。

三・一三　図書館定礎式。

昨日亡くなられた瀬下さんの葬式の花輪作りをする。

全員葬儀に参列する。

四・二六　夜八時より第三アリアンサでのど自慢大会がありました。

五・八　母の日、中村牧師の司式で礼拝を終り、弓場新、小田君子さんの感謝の辞があり、余興に移り中島さん指導の踊りが終ったのは九時でした。

五・一〇　夜八時より第一会館で入営兵の壮行会がありました。

若本アキオ、若栗アキオ、林ハルキさんの三人。

五・二一　夜八時より玉川ジョージさんとシロさんの送別会。

五・二二　一日修養講習会。
講師蓮沼信一、星タカ子先生。
六・一〇　一一、一二日第一アリアンサで全ア青年野球大会、農産品評会が催さる。
七・二一　三両日第二アリアンサで第三十八回ノロエステ陸上競技大会催さる。
七・二三　第一アリアンサ男女青年団総会、役員改選が行われ、女子部では団長小田君子、副団長大泉陽子と　なる。
後森姉妹がアラサツーバ移転につき送別会を行う。
八・一二　一三、一四、一五日にアラサツーバで行われたノロエステ野球大会に我がアリアンサチームが優勝した。
女子青年四名炊事班として行く。
九・七　入植祭、図書館イナグラッソン、敬老会、運動会、シネマ。
一〇・九　第一アリアンサで全ア青年団総会、役員改選がありました。
一一・一三　第一アリアンサで全ア卓球大会。
一二・二四　ナタールのプレゼント・ドーセ作りをする。

〇一九六七年

一・一　午後三時から新年会。

一・二　ボッテーリヨの滝にピクニック。
一・七　第一アのど自慢会。
二・五　第二アリアンサで全ア弁論大会。
二・一九　第一アリアンサ会館でノロエステ弁論大会が行われた。
三・二六　二七日ＣＥＤＡＣ主催の料理、手芸講習を受ける。
五・一四　母の日。
五・二一　第一アリアンサで全ア陸上競技大会が行われました。
七・三〇　第一アリアンサ男女青年団総会、役員選挙がありました。
　女子役員は団長箕輪タニ子、副・安田トシ子、書記内海スズ子、文化部堀江マユミ、運動部望月　タカ子。
八・一〇　から十三日迄ガララッペス市で行われた汎ノロエステ野球大会にアリアンサチーム第二位になった。
　女子青年四名炊事に行く。
八・一三　父の日、約二十五名のお父さんが出席して下さる。
八・一四　第一アリアンサにジナジオの分校が出来ることになり、そのイナグラソンが行われた。
　女子青年五名炊事の手伝いをする。
八・二七　山本久枝さんからバナネイラの花の作り方を教

えて頂く。

後ピンポンの練習をする。

九・七　入植四十三周年記念祭、運動会、夜シネマ。

九・一七　第二アリアンサで全ア青年団総会、役員改選がありました。

九・二四　第一アリアンサ男女青年約七十名イリヤ・ソルテーラにピクニックする。

一〇・五　六日セダック主催料理と手芸講習会。

一〇・二二　第三アリアンサで準青年野球大会が行われた。

一一・一九　第二アリアンサで全アピンポン大会が行われた。

一二・二四　第一女子青年と母の会の人々でナタールの子供達へのプレゼントのドーセを作る。

三、第一アリアンサ会館附属館

（接待室及炊事場）

第一アリアンサ会館は入植二十五週年記念として一九四九年に建設されたのであるが、本館だけでは種々不都合を感ずるにいたった。

例えば講演会などの時講師の控え室が欲しい。

茶菓の接待等にも不便である。

女子青年、婦人会などの料理・活花その他の講習会、小集会

にもどうしても必要とのことで一九五八年七月十七日委員会により煉瓦建五米×八米の接待室、四米×六米の炊事場を建設することになった。

専任委員は納骨堂の場合と同じく北山、北村、色川、安田の四氏であった。

当時の郡長アルシーノ氏と交渉、二万枚の煉瓦の寄贈を受け、その他村民の寄附金により計一三七コントの費用をかけて竣成した。

九月七日の入植祭当日は午前九時から十時まで会費三十クルゼイロスで落成式を行った。

その後、利用価値を百％発揮、集会、結婚披露宴等村民のために大いに役立っている。

（一九六七・七月　安田敏勝）

四、図書館

農村に在る子女はグルッポ校を卒えると重要な稼働力として自家農園に活動する。

勉学の方途としては僅かに夜学或は読書によるほかないありさまで、青年団には図書部はあるが限られた予算内で購入する図書は年内に五・六冊を数えるに過ぎない。

こゝに図書館設直の要望が青年団から持ち上ったのである。

即ち一九六四年の入植四十周年記念事業の一つとして図書館

建設案が青年団から提起されたが、当時としては盛り沢山の行事と費用があまりにも膨大になるため見送られたのであった。

越えて一九六五年十一月二十日各区委員及び青年団・母の会役員によって図書館建築委員会が開催され建設への第一歩が踏み出されたのである。

此の日選任された委員は小野太右工門、山田省吾、瀬下猪市、安田敏勝、岩本辰四郎、田中治男の六氏であった。

館の内容すなわち書籍整備はアリアンサ外に在る村出身者にも応援を願うとして、建物は村内寄附によって賄うことに決め、委員並に青年役員によって寄附募集が始められたのである。

ここに図書館建設について附記したいことは移住地開設当時一九二七年に信濃海外協会により建築された小学校舎煉瓦造り一棟及び一九三三年村民の寄付によって建てられた木造校舎一棟、計二棟が一九六〇年州政府によるグルッポ新校舎の落成後は空家となり州学務局の所有物として荒廃するに委せられていた。

これを掌中に入れて新しい図書館に利用することによって、移住地創設当時からの由緒ある学び舎の憶い出とし、将来へのよき記念となるであろうと考えたのである。

そこで郡長に相談したが、口約束だけではものにならず六五年二月二十二日アンドラジーナの州学校監督局をグルッポ校長同伴で訪い相談する。

同局としては建築物に対して手を出すことは出来ないが、旧校舎が荒廃して危険であること、その土地を運動場に利用したいから小学校としてはその取り壊しに同意するとの意味の書類を作製してくれる。

六月三十日前記中学校側の旧校舎解体要望の書類を持って出聖し、州建設局に出頭、長官に面会して希望を申入れたところ、よく理解してくれて直に技師を派遣してくれる。

この技師の言によると州の財産として土地は登録されているが、建物は目録にはない。

然し今となっては競売にするより他に入手の方法はないと云う。

月末に再び出聖して至急決定して欲しいと申入れると州としては評価五〇〇コントと云う。

中学校側では完全なセルカが入用と申入れてあった為めそれを個人の責任において建設する契約書を書かされ、解体許可を得たのである。

かくして十一月二十日の委員会の発足となり、弓場農場の人々によって作業が始まったのである。

前記小学校旧校舎の材料は上材は図書館の上材に利用し他の材料は青年会の諸君の労力奉仕によって分解し、それぞれ売却して六〇〇コントスの収入が得られたのである。

又ミランドポリス郡長の好意によって瓦、煉瓦、セメント、石灰等資材約六〇〇コソトスの寄付があった。

一般村民よりの寄付も今までに例のない多額が寄せられたのであった。

翌一九六六年三月十二日中村千別牧師司式のもとに定礎式が行われ、北原地価造氏の手で第一番の煉瓦が置かれたのが午後一時三十分であった。

工事は弓場農場の人達によって入念に進められ、両年九月七日入植記念日当日村民一同、郡長、郡議等多数列席の上、落成式が行われた。

建物は旧小学校舎を縮小した形となり、アリアンサ会館西隣り、前面十四米、奥行六米、高さ三・五米、二室に分たる、窓九ケの近代式のものである。

図書館建築の収支計算を示せば

	金額新クルゼイロ
収入の部	
九七戸分寄付金	二・九九五・〇〇
郡役所より煉瓦その他	六〇〇・〇〇
第一ア青年団	六〇〇・〇〇
その他三口	一五四・四九
計	四・三四九・四九
支出の部	
建築総額	三・九二二・七六
差引残高	四二六・七三

現在約一千五百部の書物がある。

これが管理には青年会があたることになるであろうが、末だ内部整備の出来ないうちに即ち一九六七年八月十四日第一アリアンサにミランドポリス中学の分校が設置されることになり、そのイナグラソンが行われ、十六日から始まる授業のためグルッポ校の二教室とこの新築図書館が教室として使用されることになった。

中学の校舎が新築されるまでは当分図書館としての機能を発揮することが出来ないことになった。

（一九六八・二月　田中治男）

七、母の会

一九五九年五月十日　母の日

男女青年団主催で母に感謝する会が中央区会館で開催せられ、その席上、蓮沼より左の趣旨により母の会結成を提案した。

一、健康問題について研究し語り合い度い。

二、子供の教育について考えたい。

三、生活の改善と合理化をはかりたい。

四、趣味と娯楽を取り入れ、明るい暮しを工夫したい。

五、母として婦人としての教養を高めたい。

時間がなくて相談することが出来なかったので三十日新宮さんの講演後みんなの意見を聞くことゝなる。

五月三十日（土曜）講演会

午後一時より第一会館に於いて曹洞宗南米開教総監新宮良範師の「婦人と教養」について御講演あり多数の参会者があった。

母の会結成については六月第三土曜（二十日）一時より発会式をかねて相談会を開くこととなる。

六月二十日　発会式

一時より新館にて母の会発会式を挙ぐ。

出席者

長谷川（七区）加藤・麦生田・大峡（中央区）北村（五区）丸林・長尾・岩本（六区）釜野・小河原・松井・森・安田（中央）川畑（十区）田井・佐藤（七区）坂上（中央）浅見・蓮池（五区）橋本・真島・小野・新井（七　区）浅田（三区）山本

（四区）高木（二区）脇坂（一区）蓮沼（二区）奥井（十区）芳賀・中原（二区）小橋（　五区）瀬下（一区）・杉崎・羽田・加藤・新津・堀田（十区）以上席順で三十八名。

蓮沼より趣旨を説明し、みんなの意見により次の申合せをなす。

一、集会は母の日を別として年四回とする。
二、時間は十二時開会、三時半解散とする。
三、十クルゼイロ会費でカフェーを共にする。
四、若い人も年輩者も一緒に集る。　五、シーカラ一個宛寄付しそれを使用する。
六、お茶は中央区の人達が奉仕する。
七、代表に瀬下さん長谷川さんを推選。
八、各区代表は、一区瀬下、二区蓮沼、三区浅田、四区浅野、五区北村、六区岩本、七区新井、十区加藤、中央区釜野。

以上決定し、釜野さんから母国訪問の土産話を拝聴し、和気あいあいの中に散会した。

○母の会規約

一、会員　第一アリアンサに在住する既婚の婦人を以て組織

する。

二、目的　健康の増進、趣味の向上、生活の改善、子女の教育、教養の高揚に努め、家庭を明るくし、住みよい村作りを以て目的とする。

三、役員　顧問数名、村の名士を推薦する。

相談役数名、母の会々員の功労者。

代表二名、同じ資格で会の運営をはかる。

会計一名、記録係一名、各区に区代表を置く。

四、任期　各役員の任期は一年とし、再選は妨げない。

五、総会　定期総会は一月中に開催し、前年度の行事報告、会計報告、役員改選を行い、新年度の計画その他を協議する。

六、費用　会費、バザーその他の利益金、寄付金を以て充当する。

七、会費一人年百クルゼイロとし、一家族に二人以上加入する場合は一人を増す毎に半額増額する。

八、例会　月一回とし、日曜とセマナを交互に行う。

九、社交　会員の家族の結婚には記念樹を、不幸には花輪を会の代表が贈呈する。

十、財産　会の財産は代表保管の責を負う。

八月十五日　集会

十二時半開会、蓮沼より終戦記念日で自粛すべきことを挨拶し、瀬下さんから農村生活の礼讃、健康と食物、手軽に出来る家庭療法について二時までお話あり益する処多かった。

カフェーの時間に長谷川夫人より原稿朗読により挨拶あり、三時過ぎより長谷川さんから生花の御指導があった。

会計に釜野夫人を推選したが、手が痛いからと辞退され坂上夫人を煩わすことになる。

出席者三十四名。

九月二十七日　役員会（長谷川さん宅）

午後二時長谷川さん宅に集る。

出席者　瀬下、長谷川、坂上、蓮沼、新井、加藤、北村、釜野夫人。

蓮沼司会のもとに次の相談をした。

一、会員名簿作成について

登録された会員は八十名、名簿は各戸に配布のこと。

二、集会日について

日曜がよい者とセマナがよい者とあり、その時の都合により交互にすること。

三、集会の車便について

一区・十区は瀬下さん、二区・三区は蓮沼、六区は長谷川さんで奉仕する。

四、十月の集会について

十二時より一時半まで瀬下さんのお話、二時カフェー、この時間に佐藤さんにお産の手当てについて。

二時半より四時迄長谷川さん御指導の生花。

五、一月の集会について

十日頃弁当持参、チエテ見学に行く。

六、坂上さんに会計の外、記録、通知もお願いする。

七、新井さんから会館に箒一本寄付せらる。

十月十八日　集会

正午開会、瀬下さんから「家庭に於ける主婦の地位」に就いて有益なお話があり、カフェーの折には佐藤さんから「産婆の間に合わぬ時のお産の手当て」についてお話があり、長谷川さん御指導の生花で四時半散会した。

出席者三十四名。

十二月八日役員会（瀬下さん宅）

出席者　瀬下、長谷川、蓮沼、浅田、北村、釜野、坂上夫人、瀬下氏、蓮沼氏。

一、名簿作成に就いて

姓名、年令、出身県、渡伯年月日、入植年月の五項目を　記入したいが、調査容易ならず。

二、会費について

「家で二名以上の会員があっても交替に出席する者が多いので分担金は一人いくらとせず一戸いくらとする。

三、お祝いとお見舞について

会員の家族に不幸のあった場合はその区の支部長が会を代表してお見舞に行くこと。

又結婚の場合も支部長がお祝いに行くこと。

四、正月のピクニックに就いて

チエテ行きを延長してイタプーラ、サルチーニョ迄とする。

炊事道具を持参して自炊し、他にガラナ一袋、煎餅一缶を購入し新年会をする。

費用は一人百五十クルゼイロとし、プラット、ガルホ、シーカラは各自持参する。

別に砂糖（長谷川）醤油（漸下）　カフェー（北村）塩（浅田）味噌（加藤・蓮沼）寄付。

米一リットル（後に徴収）二十五日までに申込者を取まとめる。

自動車はベンジョーカ。

四十二キロ三時半出発一区を廻る。

期日　一月七日

五、料理講習を開きたい（蓮沼）
六、不要品交換会を開きたい（長谷川）
記念撮影して散会
（以上蓮沼信一記す）

〇一九六〇年（以下行事記録に止める）

一・二四　集会、支那そばの講習、講師は百瀬タカオ氏。
会費は年百クルゼイロとして二回に納めること。

三・一八　集会、十時半より南米新聞主筆菊池稍三先生の講演会を産組社会部と母の会共催で開く「癌と高血　圧はなぜなるか？　そしてその予防法と治療に就いて」の講演で砂糖、肉類の害を説かれる。
イタプーラ行きは当分延期することに決める。
二時半より集会を開催、会長の任期を二年にすることを決め、会長の改選を行ったが満場一致で長谷川・瀬下様が再選された。

五・一　集会、生活改善についての研究。

五・二一　ミランドポリス婦人会の招待で明日行われる婦人会扱いの披露宴の様子を見学に行く（役員その他　七名）

六・一三　母の会創立一週年記念日、兼ねて五区山本ユクヨ夫人の送別会を行う。

一〇・一　集会、会則の審議あり、会長の任期を一年とする。

例会は月一回とすることにきめる。

芳賀夫人より御主人創作になる「母の会の歌」を披露される。

後慰霊祭の花輪を作る。

一一・二〇　アリアンサ入植記念日、入植記念石碑の除幕式が行われ、母の会からは長谷川会長が祝辞を申述べました。

午後三時より集会、火を使用しない石鹸の作り方の講習（講師は浅田夫人）

一二・一一　総会、役員改選、代表長谷川・蓮沼さん、会計坂上さん、書記渡辺さん、相談役、瀬丁・上条・新井夫人が推選されました。

〇一九六一年

一・一五　新年宴会、今年度上半期行事予定報告、母の会で集会の度に修養の糧となる読物として修養団の「自ゆり」が推薦される。

二・一二　ノロエステ柔道大会が会館で行われました。

此の日母の会では少しでも資金を獲得しましようと各区から一人宛お手伝を出して頂いて支那そばを作って売りました。

二・一九　男女青年団、母の会共催で日本訪問の蓮沼様の壮行会が催されました。
後、サンパウロ同仁会の細江ドクターの講演がありました。

三・二六　二月廿二日出発三月二日帰村のサンパウロ方面見学旅行の感想発表会（男女青年、母の会員）がありました。
一時より弓場さんに居られる楠野さんから「子供の絵と家庭」と題して有益なお話を拝聴しました。
三時半より「やきぎょうざ」の料理講習。

四・二三　お菓子の講習と座談会、澱粉で作る木の葉型のお菓子の講習、講師は小野さんのお嬢さん。
二時より長谷川夫人の司会で「子供のしつけ」についての座談会。

五・一四　母の日。
今日の母の日はアリアンサ基督教会クルブアグリコラ、男女青年団の主催なので日曜学校の子供達の姿もみえ賑やかなことでした。
開会十一時三十分、神沢さんの母の日の祈り、日曜学校生徒たちのお話、石戸先生の講話、讃美歌、石戸先生の祈稿があって一部は終りました。
二部に移って内海女子青年団長、麦生田男子青年団長の母への感謝の辞、百瀬クルブ代表、北原様、色川牧師等の方々のお言葉があって、男女青年合唱の母の日の歌で二部

終了。

休憩三十分の後茶話会に移り閉会したのは四時三十分でした。

五・三　今川さんのカザメント料理作り。

母の会が一さいを委せられての料理作りは始めてのことなので皆々頑張って働きました。

手伝いは中央区八名、お客様は子供を入れて七十名。

お料理の品数九種類、好評でした。

ちなみに当日の入費一切六コントス余、母の会では手数料一コソト頂き、他に五百クルゼイロの御寄付を頂きました。

六・一一　母の会第二回誕生日。

今日のお客、小野牧師、瀬下さん、芳賀さん、男子青年十二名、女子青年十六名、クルブ員六名、母の会出席者四十四名。

六・二一　石井総領事御来村

石井総領事一行四人がアリアンサを御訪問された。

午前十時アリアンサ入植の地点の記念碑を訪ねられ、弓場養鶏場に向われる。

十一時ホテルにてアルモッソをされる。

今日の御馳走は母の会が腕によりをかけて作っ

たもの、フリチソニヨ（フランゴ・レイチ）ラザーニャ、エンパーダ等を作って大変好評を頂く。

食後アリアンサ会館で御講演があった。

六・二九　石戸義一牧師の八十八才米寿の祝賀会がアリアンサ会館別館で行われた。

お祝いのボーロを母の会で作り石戸さんに差し上げた。

七・一五　弓場さんからシネマのフイッタをお借りしてシネマの夕べを催す。

「遥かなる愛の彼方に」と「第三波止場の決斗」の二つ。

七・二三　浅田さんの送別会及料理講習。

八・一三　例会並に料理講習。

九・二四　芳賀・羽田両夫人の送別会。

一〇・七　シネマの夕を催す「秋日和」

一〇・二二　シネマの夕べ「美しき母」「私は貝になりたい」の二本立て。

一〇・二九　花輪作りと役員改選

慰霊祭の白と水色のきれいな花輪を二つ作る。

弓場さんのシネマを母の会でやるかどうかを相談、結局中央区の会員が手伝って毎週一回催す。

入場料の一割五分を母の会が貰うことにきめる。

後、役員の改選を行う。
会長長谷川、副会長蓮沼、会計坂上、書記渡辺。

一一・二　慰霊祭、母の会より花輪二つ奉納する。

一一・六　山田夫人御母堂のお葬式に母の会から花輪を送り、代表その他会員参列。

一二・一八　忘年会。

〇一九六二年

一・七　新年宴会、福引き。

二・一八　お醤油作りと支那料理（牛肉の甘煮）講習。

三・四　訪日から帰られた蓮沼様の歓迎会、日本のおみやげ話あり。
男女青年にはピンポンの用具を、母の会には随想録の本をおみやげに頂く。

四・一　おすし、手提袋作り講習。
第三アリアンサ婦人会から六人の方が見える。

六・七　来る九・十両日第二アリアンサで開かれる品評会に出すために手提げ袋の仕上げ。
大峡夫人指導でお菓子作りをする。
サッコーラやカルテーラ等約七十点の品を箱に入れて第二へ発送する。

七・七　ウルブプンガ発電所見学。

午前七時半カミニョンで出発。
折悪しく寒くて皆々ふるえながらの旅。
発電所を素通りしてトレスラゴアに向う。
町をぐるぐるカミニョンで廻って見学、プライヤでアルモッサをする。
白砂が眼のとゞく限りつゞいていてちょっと日本の海辺を思わせる。
水の中へ入ったり、カノアに乗ったり、石を拾ったりしてゆっくり遊ぶ。
次に発電所に戻り約二時間見学する。
その規模の大きいのに驚いたり感心したりする。
帰路アンドラジーナに寄り動物園を見、アリアンサに帰着したのは午後七時頃であった。
参加子供共で七十八名。

七・二二　色川様の親戚の方から日本事情及び幼児のしつけ方等について大変有益なお話を聞く。

八・二六　料理講習と沖村さんの送別会、

一〇・一六、一七、一八、一九の四日間、中央会主催によるお料理講習、講師は荻窪かおる先生。
第一日、エチケット、第二日、オードブル、第三日、肉料理、第四日、おすし。
母の会から八名受講する。

一〇・二八　父の日と会館改築祝い。

一一・一八　森君枝夫人指導でおとうふとおあげの講習。
大峡よし子夫人から造花の作り方講習。
尚十月十六日の講習でならったテーブルマナーを皆様に御披露する

一二・二三　忘年会、役員改選。
十一時よりロシア料理プロンチキ・プロシキーの作り方講習、二時より忘年会。
役員改選が行われたが昨年通り再選さる。

〇一九六三年

一・二七　新年宴会。

二・二四　お料理講習と座談会。

三・三一　生花の講習と瀬下様の講話。

四・二一　蓮沼夫人からブラジルの歴史(ブラジル発見から独立まで)のお話。
瀬下様から正食のお話を聞く。

六・二　先頃亡くなられた石戸牧師、工藤浪代さん、内海栄郎さんのお墓参りをする。
会館に帰って品評会　の日の相談をする。
各自二品以上の出品をすること。
手打ちうどんとおまんじゅうを作って売るこ

と、花材を持ち寄って杉崎夫人の御指導で生花展に一役買うことに決定。

二時より会員全部カミニョンで色川牧師の御病気見舞に行く。

六・一四　一五、一六日、農産品評会。

七・二一　サボン作り。

お料理講習。

出来上ったお料理を持って代表七・八人北原様のお見舞に伺う。

お元気なお姿に接して皆々安心して喜び合う。

七・二八　ウルブプンガ方面見学旅行。

弓場のおぢい様の御逝去の報で中止する人が多勢出来て、思いの外の少人数で淋しいピクニックになった。

参加二十七名。

九・一一　鶴我総領事来アされる。

母の会でアルモッサ作り、産組より三コント寄付して頂く。

九・一四　若栗信雄さんの結婚披露宴の料理を母の会で引き受ける。

一〇・七　慰霊祭の花輪作り、斉場と石戸牧師、工藤さんのお墓に上げるので合計六つ作る。

午後蓮沼夫妻、麦生田さん、永原さんの送別会を行う。

二・八　九日セダック本部より山添、工藤両先生がみえて手芸とお料理の講習会あり、母の会より五名受講。

一二・二二　忘年会、役員改選。

先月お料理講習でならったアルゴリンニヤスとパステイス・エンフロールを作り、出来上ったところでお茶を飲みながら忘年会に移る。

役員改選は選挙の結果、左の如く決定する。

会長長谷川、副会長渡辺、書記玉川、会計坂上。

〇一九六四年

一・一一　新年会

二・一六　焼そば、ビスコイトの作り方講習。

篠原様のお葬式に母の会より花輪をおくる。

三・一四　セダック主催の料理講習会に母の会より八名受講。

三・一五　同じく手芸、造花、母の会より三名受講す。

三・一二　本日はお彼岸、十一時より一同墓地に向う。

花・お線香をあげ讃美歌を歌う。

墓参をすませ会館に　戻り例会を開く。

四・一二　アリアンサ基督教会で十一時半から石戸義一先生の一週年追悼会が開かれ、長谷川、渡辺、森、釜野、安田、玉川さんたち参列する。

四・一六　お料理講習
一、オーボス・レシアードス・コン・フランゴ
二、オーボス・ネパードス。
次いで座蒲団作り、十五校仕上げる。
五・三〇　新津様のカザメントの料理を引受ける。
料理品目十種類、お客様三〇〇名（子供を入れて）
六・二一　母の会第五回記念日　支那そばを作り頂きながらお話に花が咲く。
七・四　高木、山本両家のカザメント。
母の会と女子青年で料理を引受ける。
母の会員十二名、女子青年五名出動する。
七・二二　お芝居の幕の古いのを解いて染めなおしをすることになり、各区一枚宛洗濯をして来ることにする。
ついで敬老会の贈りもの座ぶとん裁断及び母の会用の座ぶとんカバーを十五裁ち十二時終了。
シネマは八月より会員制にし会員外は普通料金（三〇〇クルゼイロス）を頂くことに決まる。
八・三〇　釜野様送別会。
九・六　入植四十年記念祭。
朝八時よりアリアンサ基督教会堂にて先亡者慰霊ミサ、午後運動会、夜シネマ。
九・七　入植四十年記念式が会館で行われる。

日本政府から北原様に藍綬褒章が贈られ、移住地建設の功労者永田様、輪湖様、北原様の三方に村から記念品が贈望されました。

サンパウロから領事さんも見えられ、其他来賓大勢で盛大に記念祭が行われました。

尚七十才以上の老人十七名に記念の座ぶとんを贈皇する。

午後はシュラスコ会、夜演芸会。

一〇・四　先月はお彼岸で墓参りのはずでしたが、都合悪く集合することが出来なかったので、今日その代りの集会。

丁度サンパウロから蓮沼夫人が見えられ、久し振りに夫人を中心に四方山話しに花を咲かす。

午後から弓場農場の小林先生からフォークダンスを教えて頂く。

一〇・二五　慰霊祭の花輪作りをする。

一二・一三　忘年会、役員改選。

行事報告、会計報告の後、役員改選。

顧問に長谷川やよい。

会長　安田静子、副会長　渡辺静枝、会計　坂上りよう、書記　玉川つな子、文化部　岩本袖、生活部　森花

〇一九六五年

一・一二　新年宴会とお洗濯講習。
一・二三　役員会、中村牧師歓迎会。
四・一一　石戸牧師二週年追悼会に参列。
四・一八　第二アリアンサにて復活祭合同礼拝。
四・二五　杉崎夫人から「残飯利用のおやつ」の講習を受ける。
五・一　会員八十名イタプーラ、サルチーニヨにピクニックをする。
五・九　母の日、男女青年団から招待される。
六・二〇　母の会第六回記念日、北原様、蓮沼様、中村牧師の御出席を得て初めての試み全アリアンサ婦人会合同集会を行いました。
七・九　シネマの値上げについて相談、小島さんに踊りを教えていたゞく。
八・一一　日本からみえられた色川様に指圧療法を教えていたゞく。
八・一五　岩本様よりアメンドインの菓子作りを習う。
小島様から踊りを教えていたゞく。
八・二二　二九日、九月四日踊りの稽古。
九・七　入植記念日。
九・二六　浅野様のカザメントのお料理作り。
一〇・一〇　慰霊祭の花輪作り。
一一・二　慰霊祭、墓参。

一一・二一　高大あや子さんにお料理の講習をして頂く。
一二・一九　忘年会、役員選挙（前年通り）

○一九六六年

一・一六　新年宴会並に訪日される北村夫人の歓送会、小島様に踊りを教えて頂く。
午後蓮沼先生、星たか子先生にお許を聞く。
星先生から子供の遊戯を教えて頂く。

二・二〇　渡辺順子さんにパベエとメーザ・デ・アメンドインのお菓子作り講習を受ける。
母の会の歌の刷り上ったのを配布する（一部二

○クルゼイロ）

三・二二　母の会の顧問瀬下登様のお葬式。
母の会員も参列し、渡辺副会長弔詞を述べる。
同日第三アリアンサ婦人会より十五遇年記念日に招待を受け母の会員十四名参列、岩本文化部長祝辞を述べ、安田会長連合婦人会の歌の経過報告をする。

三・二七　訪日より帰られた北山夫人のお土産話を伺う。
途中で言葉に困った話、故郷のたゝずまいが意外にせゝこましく、ブラジルは広いとつくづく感じたお話等
次に六月催される品評会の出品について相談、一人一品、売上げの一部を母の会に寄付して頂くこと。

四・二三　工藤様のカザメントを引受ける。
今月よりカザメントのある区の会員が全責任を負うこと。
役員は当日だけ手伝う。
四・二四　色川夫人、奥井夫人にアバカテのサボンの製法を教えて頂く。
五・八　母の日、男女青年から招待されました。
五・二二　工藤夫人の三回忌追悼会をする。
同日玉川夫人の送別会。
六・一一　一二日全アリアンサ農産展が第一アリアンサ会館で催され、母の会員の出品物も即売されました。
六・一八　芦部様御兄弟がお父様の追悼会を催され、中央区母の会員でお料理作りを受けもつ。
七・六　第七回母の会発足記念日、中村牧師のお話があり、ついで森君枝夫人の送別会を行う。
七・一五　川畑・若粟様のカザメント料理を引き受けました。
七・三〇　竜田・近藤様のカザメントの料理を母の会が受け持つ。
八・二一　渡辺夫人にいわしのかば焼きの講習を受ける、趣味の時間として俳句の作り方を習う。
九・七　入植記念祭、午前十時より図書館落成式があり十一時より運動会、夜はシネマが上映されました。

九・二五　連合婦人会の歌の練習。
一〇・二三　慰霊祭の花輪作りをする。
一一・二　慰霊祭、墓参。
一一・一三　役員会、来年度役員改選について相談、次にアラサツーバの勝田夫人からサンパウロの精薄児えの援助を求めて来られたので、母の会員一人一枚宛サッコの寄付をすることに決まりました。
一時中止していたシネマをまた家族制で復活することにきめる。
一一・二〇　例会、午前は教会に礼拝に行かれる方が多いので中食後生花講習をする。
一二・一七　忘年会、役員改選。
五月に移転された玉川夫人から母の会へお便りを下さる。
先月精薄児のために送ったサッコの礼状をサンパウロの神山様より頂く。
なお昨年講習を受けた洗濯屋さんより三十日頃シネマを上映して下さるとのお便りを頂きました。
来年度役員は顧問長谷川やよい、会長岩本袖、副会長安田静子、書記渡辺静江、会計坂上りよう、文化部杉崎チトセ、生活部森花の諸夫人に決まりました。
一二・二三　母の会員輪湖つるよ様御病気のところ二十三日永眠され、翌二十四日告別式があり、母の会員も参列しまし

た。

〇一九六七年

一・一四　安田様・新津様両家のカザメントの料理を引受ける。

一・一八　料理品目七種、お客様四百名。

一・二一　家族制シネマ上映。

一・二九　シネマ上映（家族制）

訪日より帰られた北村夫人の歓迎会、祖国日本の事情を聴かせて頂く。

今年度会費一ヶ年一コントと決定、二回払いでも可。

中原祝様・内海せい様入会される。

二・一九　奥ノロ弁論大会が第一アリアンサ会館で催さる。

当日母の会役員出働、審査員その他お客様に食事作り奉仕する。

二・二〇　岩本・渡辺夫人母の会を代表して田井夫人の病気お見舞に伺う。

二・二六　例会、お料理講習。

奥井夫人・杉崎夫人から茄子料理の講習。

三・一九　例会、読書会、婦人公論より新しい民族の誕生・

高浜虚子先生の写生の話・女の徹底的研究等朗読される。

四・二　各団体合同で中村牧師の送別会。

四・九　シネマ上映（家族制）

四・二三　例会、サボンの製法、岩本夫人にアメンドインで石鹸の製法を教えていたゞく。

家族制シネマ上映

五・一四　母の日、男女青年団から招待されました。

五・二一　家族制シネマ上映。

五・二八　例会、料理講習、安田夫人からひな鶏の紅あげ講習を受ける。

六・二五　例会、料理講習、岩本夫人からライスカレーの作り方講習。

六・二九　第二アリアンサおかぼ婦人会の八週年記念日に招待されました。

母の会員二十三名参列す。

七・九　家族制シネマ上映。

七・一六　例会、松井様、百々瀬様がパラナへ移転されるので例会を兼ねて持ち寄りで送別会をする。

七・二三　シネマ上映（家族制）

八・一三　父の日、男女青年団と合同でお父さま方をお招きして父の日を祝う。

母の会よりおすし・漬物など用意する。

九・七　入植記念祭、四十三週年を迎えました。

九・二四　例会、料理講習、安田夫人・岩本夫人に支那料理を教えて頂く。

皇太子御夫妻の訪伯記念の実況レコードを母の会で購入しましたので、みんなで試聴する。

一〇・　五・六日セダック主催料理・手芸・造花講習、母の会員三名受講。

一〇・二九　例会、金婚祝、料理講習、慰霊祭の花作り。

長谷川夫人・瀬下夫人の結婚五十年を会員でお祝いする。

サンパウロ希望の家市川幸子様より先日お送りしたサッコの礼状がとゞく。

一一・一二　第一アリアンサ会館で全ア連合婦人会員が集りサンパウロ自由メロジスト教会連合婦人会長林香先生から「信仰について」と題し有益なお話を聴く

一一・二六　例会、蓮沼さん御夫妻の訪日土産のお話を伺う。

一二・一七　忘年会。

来年一月五日より行われる林間学校の食事つくりについて打合せ。

サンパウロ希望の家へ年末慰問に卵一打半宛持ち寄り荷造りして送る。

色川房子様より水汲み三個、ふきん六枚寄付される。

八　農業振興センター（ＣＥＤＡＣ）

産業組合中央会が農村経済・文化の向上、地方産業組合の強化を狙って農村青年育成のため農業振興センターを発足せしめた。

一九六三年一月廿三日聖市本部の発会式を行い、ありあんさ支部の創立総会は二月十七日第三アリアンサ会館にて行われ、その活動が始まったのである。

Ｃｅｎｔｒｏ　Ｅｓｔｕｄｏ　ｅ　Ｄｅｓｅｎｖｏｌｖｉｍｅｎｔｏ　Ａｇｒｉｃｏｌａ　Ｃｏｏｐｃｅｎｔｒｏを略してＣＥＤＡＣとする。

一　農業振興センター要綱

一、友情と愛郷の精神によって協同組合の進展を期する。
一、心身を修練し、勤労を楽しみ、有為な社会人となる。
一、農業技術を学び、生産を高め、国家の発展に寄与する
一、土を愛し、土に根ざした農村文化をうち立てる。
一、人道の大義に則り、農村にあって平和と共栄に貢献する。

二　農業振興センター趣意書

先頃まで農業立国と謳われたブラジル農業の基盤は貧困と疾病に耐え大原始林と斗った開拓者によって築かれました。

それも古い史実ではなく、今日までの発展をもたらした開拓者は私どもの身近かな父母であり、祖父母であります。

そして現在の既耕地はその遺産に他なりません。

しかし広大かつ肥沃な土地は自ら天恵依存の粗放農業と云う形態をつくりました。

その結果地力の減退を招き病虫害の蔓延と云う状態に立至り農業生産は減少の一途であります。

加えて人為的な工業優先主義は農業生産に欠くべからざる肥料農薬・農機具その他の高騰となり農産物価格との不均衡を生じております。

一方今日の食料供給に円滑を欠く事態から云って又産業上の外貨収得のポルセンターゼンから見ても農業に対する国家の依存度は何よりも高いのであります。

しからば農業の技術・経宮経済の両面より迎えた変革期に如何に対処するかがわたくしどもの大きな問題となってきたのであります。

先づ粗放略奪農業からの脱皮として合理的な施肥技術や栽培管理技術を修得して単位面積当りの収量の増加を計るとともに品質の向上に心がけなければなりません。

国家的な工業化及農業の集約化から起る労働力不足は稼働力の配分―協業―機械化の線で解決してゆかなければならないし投下資本も短期に又確実に活かさなければ経営に支障を来たす程、農業も企業化して来たのであります。

畜産に於てもこの傾向が著しいのであります。

これには組合関係の技術員だけでなく政府関係の有能な技師の協力を得て巾広いその専門的な技術と経営の指導がなされなければなりません。

受け入れる農村にあってもラボーラの前線にある中堅層の熱を結集させ組織化する必要が生じて来ました。

合せて女性の育児や料理又家族の保健衛生に対する責任は重くなり、これに対する指導も農村振興上欠くことは出来ません。

この新しい組織（ＣＥＤＡＣ）は修養団体ではなく、農村の経済力を向上させる団体であり、実際農村に役立つ人間を一人でも多くつくり出す組織であります。

農村経済・文化の向上、地方産業組合の強化には中堅層に期待する事大であり、農村の人々が将来の夢を托せる運動を目的とするものであります。

おわりに組合員及び組合関係者各位に本センターの趣旨に賛同の上、こぞって参加御協力を賜りたいと存ずる次第であります。

一九六二年十月　産業組合中央会指導局

三　農業振興センター（ＣＥＤＡＣ）本部年間活動計画

一、農畜産指導

Ａ　各支部に亘って年四回以上の講演会及座談会を開催する。

講師は中央会関係技師及州政府関係技師その他

Ｂ　各支部に亘って年二回以上の実施指導。

Ｃ　養鶏講座を年一回開き、中堅養鶏家の養成につとめる。

Ｄ　年一回本部又は適当な地で技術研究の発表会及懇談会を行う。

Ｅ　本部に於てＣＥＤＡＣ会員の農畜相談にあずかる他、土壌分析についても便宜を図る。

Ｆ　「中央会便り」紙上に本会々員むきの指導記事を増加する。

Ｇ　各支部より代表者を撰抜し、先進地の農畜産を視察研究する。

二、組織指導

Ａ　年一回産業組合理論の講演を催す。

講師は中央会幹部及産業組合奨励局指導員。

B　年二回以上販購売局の職員を交えて現地にて流通関係の座談会を行う。

三、保健衛生指導

A　年一回現地にて健康診断を行う。
　同仁会医師又は現地医師。

B　年一回家庭保健及育児についての講演会を開催する
　講紬は右に同じ。

四、料理指導

年一回現地にて料理作法の講習会を行う。

五、視覚指導

A　年二回以上現地にて教育及文化映画を上映する。

B　スライド投映による農畜産指導を多くする。

六、文化指導

現地の要望に依り講師を斡旋する。

七、運営指導

Ａ　支部の設立運営に協力する。

Ｂ　支部の行う運動及催しものに協力する。

以上。

四　農業振興センター支部活動計画

各支部は、本部より行われる活動の他、それぞれの地域に於て次の活動が行われる様つとめる。

一、農畜産エスポジソンに協力し、エスポジソンの末だ開かれていない地域ではこれの開催につとめ、主催する。

二、各支部に於て毎月一回農畜産技術の研究会を開き、会員のレベル向上を計る。

三、会員相はかって各地の農業視察を行う。

四、支部直営の試作地を設け共同研究しながら協業の精神を湧養し、その収穫物をもって支部運営費の一助とする。

五、各種作物の競作及試験栽培を行う。

六、新しい産業を導入する場合、支部の名で適性事情等を調査し、地域産業の発展につとめる。

七、その他地域で起った農業上の諸問題についてはＣＥＤＡ

Ｃの名で積極的に解決に参加する。

八、文化・体育活動の他、本会の趣意に合致する諸事を実行する。

五　農業振興センター初期役員氏名

理事長　村崎重典、副理事長　樋口秀雄、書記理事　山田和文、企画理事　山田和文・坂本清享。

組織理事　木田清志・長友契蔵、産業理事　山口昌弘・香山正賢、文化理事　掛下正義、渉外理事　小松盛重、会計理事　亀田恙一、女子理事　山添勝子、顧問　フランシスコ・アントニオ・トレード・ピーザ、堀清、石川文夫、小倉信吉。

六、ＣＥＤＡＣアリアンサ支部

一九六三年二月十七日第三アリアンサ会館に於いてＣＥＤＡＣアリアンサ支部創立総会が開かれた。

当日の議事並に発表された支部役員氏名は左の如くであった。

一、開会　八木修平一

一、挨拶　ア産組理事長　北原地価造

一、挨拶　本部理事　　山田和文
一、アリアンサ支部役員発表
一、一九六三年度事業方針の検討並承認
一、閉会　八木修平

アリアンサ支部役員氏名

顧問　北原地価造、安田敏勝、小松進、寺島庄七
支部長　八木修平、副支部長　上村卓爾、第二書記　羽田寅男、第二書記　村井敏彦。
第一ア班長　浅野茂、第二ア班長　川上義彦、第三ア班長尾関弘里、フォルモーザ班長　寺島博。
農産部委員　蓮沼良彦、伊藤和男、瀬戸郁夫・貞池ジョージ・小松甫・松山和夫。
畜産部委員　小野保・島崎正雄・佐野真一・森田久夫・色川望。
文化部委員　北山実・藤沢俊男・佐竹行男・上条亨・平田良夫。
女子部委員　藤川みつえ・岩本せい・新津のり子・崎山きみ子・寺島恵子・森田奈々子・南あきみ・小松道子・　椎野みえ・佐藤しのみ。

一九六三年度行事

三・一四　第二ア会館にて講習会

一、コペラチビスムに就いて　村崎会長

一、奥地の珈琲栽培について　山田技師

四・六　農事講習（於第一ア）

一、果樹栽培について　坂本技師

四・二二　ＣＥＤＡＣ員にてアラサツーバ市ネストレー牛乳加工場見学。

参加四〇名。

六・二五　第二アリアンサにて講習会

一、一般農事に就いて　山田技師

一、農村労働法について　ドットール・小松盛重

一、一般栄養にづいて　工藤瑞代

一、婦人の礼儀作法について　山添勝子

七・二六　ＣＥＤＡＣ役員会

一、バストスに於ける農事講習会に参加した報告　　細田英夫、支部長会議出席報告　　八木修平

八・二三　第二アリアンサにて講習会

一、最近のブラジル経済事情　　村崎会長

一、果樹について　　渡辺技師

一、野菜について　　香山技師

一一・八　九日第一会館にて講習会、手芸講師は山添先生、料理は工藤先生。

一一・一五　一六日視察旅行、参加二十八名。マリリア種鶏場、バストス種鶏場、バストスの養鶏家、ポンカン、西瓜作り見学。

一二・二一　役員会、本年度行事を振りかえって見、又今後の行き方を検討する。

〇一九六四年

一・一〇　第一会館で第二回通常総会を開く。本日は特別出席として総領事館の福田首席領事、渡辺領事、中央会から堀主事、中島地方局長、ＣＥＤＡＣ

本部より樋口副理事長、山田技師及田中技師の出席あり。

一、開会　　羽田第一書記
一、事業報告及会計報告　　八木　支部長
一、本部事業報告（伯語）　　田中技師
一、本部新年度事業計画　　山田技師
一、新役員選出
一、新年度事業計画　　八木支部長

続いてアリアンサ産組理事長北原氏・中央会堀主事・中島地方局長・福田首席領事・渡辺領事の挨拶があり、八木支部長の閉会の辞で会を閉じた。

本年度役員は総支部長・総副支部長・第一・第二書記とも前年度と同じ。

第一ア支部長小野保、女子部新津典子、第二ア支部長森田寿男、女子部崎山キミ子、第三ア支部長尾関弘里、女子部、南あゆみ、オリエンテ支部長、松山和夫、文子部山崎峰子、フォルモーザ支部長寺島博、女子部平田としえ。

一・五　　六日見学旅行、参加三十四名

バウルー近郊酒井農場の高地水田を視察、小田農場の養豚及アバカシー栽培視察、帰途ビリグイの原本農場の棉作を見る。

五・二一　視察旅行、参加六十七名。
プレジデンテ・プルーデンテの柿原農場及び農学校見学、イヌビヤのスイス人の珈琲園見学。
八・三　四、五日短期農産講習会開催。
講師は渡辺・田中・長友技師、大杉早苗さん、古沢ルジアさん、和田ヒロ子さん。
参加延人数男子八一名、女子二五九名。
九・二六　二七日見学旅行。
参加三八名。
モンテ・アルト方面セボーラ・マモン及低地開拓の見学。
グワタパラ移住地の低地開発の米作を見る。
一二・三　四日、女子講習会、料理及手芸、講師は大杉さん、古沢さん、和田さん。
一二・一四　ＣＥＤＡＣ本部総会あり上村氏出席す。

〇一九六五年

四・六　ＣＥＤＡＣピエダーデ支部員十八名秋山一郎氏の引率で奥地視察に来る。
八木、上村両氏案内でアリアンサの篤農家四軒程歩く。
夕方第二産組本部で座談会をなし、ペレイラ・

バレット向け出発す。

六・二〇　ペレイラ・バレット市に於いてＣＥＤＡＣ主催第二回棉作者発表大会開催され、アリアンサから参加者三〇名。

六・一九　第一アリアンサに於いてＣＥＤＡＣ支部第三回通常総会。

特別出席者は木多本部書記理事並にチエテ支部長志津野氏。

支部員出席三〇名。

一、開会　八木　修平

一、一九六四年度事業報告　八木支部長

一、〃　会計報告　羽田　書記

一、決算書並に予算審議

一、新役員選出

ついで木多本部書記理事、田中アリアンサ産組理事長、並びに志津野チエテ支部長の挨拶があり、来会せる山　田省吾・神沢久吉・高木由松の諸氏が所感を述べて閉会となった。

本年度役員　総支部長　上村卓爾、総副支部長　八木修平、第一書記　羽田寅男、第二書記　村井敏彦

第一ア支部長　浅野茂、女子部　新津典子、第二ア支部長、森田寿男、女子部　細田ミチ子、第三ア支部長

尾開弘里、女子部　清水久子、オリエンテ支部長　谷口運富、女子部山崎峰子、フォルモーザ支部長　寺島博、女子部椎野正子。

八・　ＣＥＤＡＣ本部総会あり、八木氏出席。

本年度役員改選の結果、

会長　田中次郎、副会長　山田和文、第一書記　木多清志、第二書記　和田ヒロ子氏となる。

九・二四　二五日、第一及第二アリアンサにて講習会、参加第一ア卅名、第二卅四名。

一、北伯地方視察談及全伯産組大会に出席して　村崎氏

一、立毛品評会について　長友技師

一、農業簿記について　長友技師

一、女子のエチケット及男女交際　大杉さん

一、田中会長を中心にして座談会。

一〇・六　役員会、協議事項

立毛品評会について打合せ。

第一回目はアメンドイン、柿、ミーリヨの三種とする

中央会技師を中心に巡回審査をする。
審査方法は収穫七十点とし記録五点、青田五点、管理二十点として百点満点とする様に決定する。

〇一九六六年

二・五　視察旅行、参加二四名。
ペレイラ・バレット方面の棉作見学、高橋正悦氏・山本正夫氏・関氏の棉作を見る。

五・一七　機関紙第一号発行。

五・一八　一九日視察旅行、参加三〇名、
オウリーニョス方面視察、ムソドノーボ植民地、オウリーニョス組合のマンジョーカ及カンナ工場、バストスの養鶏家六軒訪問、ブラ拓製糸工場、信太加工場を見学する。

六・一七　ＣＥＤＡＣ本部総会、上村氏出席、本部新役員、会長橋本正敏、副会長山田和文、第二書記和田ヒロ子、第二書記木多清志。
本年度より運営を一月一日より十二月升一日迄とすることに決定。

六・二二　支部役員会、協議事項
一、本部総会報告

一、立毛品評会最終報告
一、本部定款の再検討

立毛品評会入賞者

棉の部
一位　谷口君、六一六アローバ
二位　蓮沼君　五四六アローバ
三位　寺島君　五〇九アローバ
アメンドインの部
一位　新津君三七七俵
二位　八木君、三五六俵
三位　森田君　二四二俵
ミーリヨの部
一位　山崎君　二四二俵
二位　竹原君　二三〇俵
三位　村井君　二二六俵

八・一三　機関紙第二号発行。
八・一九　ＣＥＤＡＣ本部総会、上村・八木氏出席、本部定款について改正の必要あり、その決定の為めに臨時総会を開催、定款改正委員にアリアンサ八木・上村、チエテ志津野、オウリーニョス鈴村、本部橋本・山田・石川主事に委任される。

九・一〇　第二アリアンサ及第三アリアンサに於いて農事講習会。

一、棉・アメンドイン・カフェーについて　銅山技師
一、石灰と人生　香山技師

九・二二　二三日、女子講習会
料理　大杉早苗さん
手芸　古沢ルジアさん
活花未生流　池田セキ先生

一〇・二二　第四回通常総会（於第一会館）
上村支部長の開会の辞についてアリアンサ産組専務八木氏、ＣＥＤＡＣ本部会長橋本氏・同副会長山田氏・チエテ支部長志津野氏の挨拶があり、一九六五・六年度立毛品評会の成績発葬並に寿彰があった。
上村支部長より本年度事業報告、羽田書記により会計報告があって、新役員の選出を行って閉会した。
新役員　総支部長上村卓爾、副支部長村井敏彦、第一書記蓮沼良彦、第二書記尾関弘里。
第一ア支部長浅野茂、女子部内海鈴子、第二ア支部長森田寿男、女子部　細田ミチ子、第三ア支部長、尾関弘里、女子部清水久子、オリエンテ支部長、谷口運富、女子部松山トシ子、フォルモーザ支部長寺島博、女子部椎野正子。

○　一九六七年

一・七　　八日、視察旅行、参加三〇名。
　　アララクアラ線ポッポランガ、方面
　　阿部農場のクルバ・デ・ニーベルを見学、渡辺農場の養豚、伊藤農場のカフェーを見学する。

二・一二　　第一アリアンサにて農事講習会参加三〇名。
一、冬作物の栽培について（アーリヨ・セボーラ・バタチーニヤ）　香山技師

二・二六　　二七日、女子講習会、料理及手芸、講師大杉早苗・古沢ルジアさん。

三・一〇　　機関紙第四号発行。

四・九　　ミランドポリス支部員十八名藤森君の引卒にて来ア。
　　八木・上村の案内で中林・可知・小松・瀬下・山田の諸氏農場を訪問する。

四・二五　　役員会、協議事項
一、第一ア支部長辞任につき後任選出、新支部長竜田ジョージ、女子部瀬下タミ子となる。

一、五月の行事について。

四・二八　本部通常総会

上村出席

新役員選出、会長橋本正敏、副会長山田和文、第一書記木原信夫、第二書記和田ヒロ子。

地方理事鈴木（オウリーニョス）山本（ピエダーデ）上村（アリアンサ）

五・七　視察旅行、参加四〇名。

ラビーニヤにて牛の肥育を見学、アグアッペイにてソージヤ・ペレーネ栽培見学。

五・二六　二七日　女子講習会、手芸及料理、講師、古沢ルジア、大杉早苗さん。

六・一八　第三アリアンサにて全ア農産品評会を青年と共同で催す。

八・二五、二六、二七日第三ア支部にてバストス、オウリーニョス、マリリヤ、バウルー方面視察旅行をする。

九・二　機関紙第五号発行。

九・九　役員会。

一、カンピーナス農産講習会参加報告　新津光一・神沢盛大

一、オウリーニョス・バストス方面視察談　蓮沼良彦・小松

力

一、第三回立毛品評会開催について

一、九月・十月の行事について。

第二回立毛品評会入賞者

棉の部

一位　島崎、三九二アローバ

二位　谷口　三七三アローバ

三位　新津三三八アローバ

アメンドインの部

一位　新津　四〇六俵

二位　八木　三一三俵

三位　寺島　二四六俵

ミーリヨの部

一位　寺島　二六七俵

二位　山上　二一六俵

三位　林　二一三俵

九・二七、二八日　女子講習会、講師は大杉早苗・古沢ルジアさん。

（一九六八・三月、上村卓爾）

ＣＥＤＡＣ本部活動の財源は産組中央会の委託販売税の半額払戻し分によって賄われて来たのであったが、一九六七年初めから委託販売税が廃止され、代って商品流通税が実施されたため、その資金源を失って、来年度から活動を中止せざるを得なくなった。

然しアリアンサ支部では本部からのテコ入れはなくとも従来通りの活動を継続することを決議し張り切っている。

九　移住地の機械化と電化

当移住地の一般植民の機械化と電化の実現は他の邦人集団地に先行し得なかったようである。

入植者の素質そのものがインテリー植民地とか温室植民地と評されていただけあって、植民者各自が日本在住当時、地方に於いても、都市においても中流以上の生活をしていたものが少くなく、従って学歴に於いても旧制中学以上、大学出身者も多数入植していたし移住地の建設も極めて早かったにも拘らず前記の文化生活上の必須目が遅れ勝ちであった。

あえて仙人生活を望んだわけでなく、不熟練の農業に追われ、あるいは子弟の教育に専念し、習俗の異なる地球の対処点

で理想的移住地を建設すべく、またひいては地域社会の発展の基礎工作に力の限りをつくして他をかえり見る余裕がなかったというのが実状であろう。

一　機械化

開拓数年後畜力による耕転から機械化に移行し始めたのは共同経営では弓場農場である。

養鶏業兼種鶏場の全盛時代一九三六年にいちはやくインテルナショナル製高馬力のトラクター入手を始めとし両三年のうちに八十馬力以上の独逸製その他高馬力の無軌道もの五台、ガソリン二十四馬力五台を入れ、ミーリヨその他雑作地の株抜き、耕転に従事し、また高馬力のエステーラ・トラットールを駆使して広範囲の道路修理に活躍したものであるが、これは恐らくブラジルに於ける邦人集団地としてもトップであったろう。

当時はミランドポリスやガラサイ市役所にも高馬力の道路修理用トラットールがなかったので周辺の人々は目をみはっていたものであるが、無軌道トラットール三台はいつのまにか姿を消したようであった。

「移住地の文化はまづ道路から」という標語のもとに好漢弓場やその同志によって遠くはペレイラ・バレットまで見事に幹線道路は修理されたのであるから超打算の奉仕行動であって、周辺の喝采を博したものである。

余談に入るがその当時弓場農場では炊事場の設備や特大の洗濯機械も据え、農村文化生活の最高設備をしたものである。

尚一般移住者も、ミシンだけは日本の農村より逸早くゆきわたったのであるが、これは開拓当初から労力不足の必然的要求から普及したものであり、洗濯機は一九五〇年頃第二アリアンサの中村文夫君が製作販売したものを好事家が入手したものである。

一般の植民者がトラットールを導入したのは一九四九年頃第一アリアンサの長谷川賢三郎氏、数ヶ月遅れて色川信氏等がフォード二十四馬力のものを入れ機械化の先鞭をつけたのがトップである。

長谷川、色川両家ではその後高馬力のトラットールを入手したばかりでなく多種多様の農業用機械類を入れている。

特に長谷川氏の令息はピラスヌンガ農学校で講習を受けたので大形の収穫機その他大ガラージに農機具があふれていて、機械化の権化のような壮観を呈していたものである。

その後二二年たらずして全アリアンサにフォード二十四馬力のトラットールが二十台内外入り、所有者はその隣人の土地も耕転または請負耕起をしたので急激に栽培面積が拡大したのである。

それと同時に棉、ミーリヨ、アメンドイン等を主とした投機的農業経営熱が必然的に二世の間に競い起って来た。

一九五八年には州政府の融資対策に便乗してヘルグソン三十

五馬力のトラットール（バーター制による輸入品？又は当国への工業進出の宣伝用であったか）が一挙に二十一台導入されたのである。

これを入手の時バルパライゾの代理店まで購入者が受取りに行き、第一の中央区にズラリならんだときは眼映ゆいばかりの壮観であった。

一九五八年であっただろうか。ジュセリーノ政権が確立されてからの政策では外国資本導入による国内工業の発達はめざましく、国産車の普及を計った。

同時に甚しいインフレをともない、他方労働法制定、最低賃金の設定等当然として農機具類の値上り、農薬品・肥料等も同時に高騰を示したにもかかわらず、農業融資も積極的に行われたので外国製・内国製を加えてトラットールばかりでなく自家用車の数も増え、一九六六年には全アリアンサの所有台数は大要次の数字を示した。

	第一	第二	ホルモーザ	計
トラクター二四—五〇馬力	八八	三五	三〇	三〇	一八三
クリチバドール	七	三	三	二	一五
自家用車	一七	八	八	五	三八
カミニョン、カミニョネッタ	一四	八	一八	五	四五

この機械化趨勢と同時に農業経営の実権は漸次二世に移行され、投機的農業経営はその覇を競うごとき観を呈し止むべくもなかったのである。

二　電化

アリアンサ移住地内に於ける電化実現のトップは自家発電にしろ、水力電気にしても不思議のように最後的にブラ拓によって一九三五年頃から売り出されて開拓者が入りこんだフォルモーザ地区の十区である。

歴史的年代から先ず自家発電について記述すれば一九三六年頃弓場農場が当時第三アリアンサの一隅で真砂氏のあとを引受けた曾山氏が製糖工場に設置の目的で購入しておいたドイツ製五馬力のモトールによる二ＫＷの発電機を入手し、青年ホームの一隅に据付けたのが始祖である。

それによってほのかな曙光とは云え同志の青年達に明るい夢をもたせたのである。

産組関係ではブラ拓事務所の所在地第二アリアンサの精米工場がその後二十八ＫＷの装備をしてやや威力を示したのであるが、一九四〇年に弓場農場の種鶏場としての最盛期であってインターナショナルの六十馬力のモートルにより四十ＫＷしかも二重装備の発電をし、十台余の孵卵器をフルに運転し、又場内全域を電化していた。

第一アリアンサ中央区の電化の初期は一九三五年頃であったろうか。

久米重次氏によって中央区の住宅街路に電灯がつけられたのであって、初めはカフェー工場のバポールを利用して発電したものである。

その後個人経営から組合へ委譲され木村庄太郎氏が主としてその任に当っていた。

カフェー工場が火災により焼失後は製材所のバポールで運転していたが、一九六二年一月七日当時の郡長ゼラルド・ブラーガ氏よりヂーゼル機関及発電機の貸与を受け運転を続け、一九六四年九月七日かねて工事を進めていたイタプーラの水力電気の導入が入植四十年祭を期して突貫工事が間に合い当日待望の電灯が十区・一区を経て中央区に至り四十年祭に花を添えたのであった。

一九四四年第二次世界大戦の最中、第二アリアンサ中央区に州政府の半強制的な組合経営の大蚕種場が建設されてその運営に強力な電力が要求され、産組本部事務所と棉花部・精米所・市街地等への送電も含め、独立した発電所が設置され、バポールにより八十ＫＷの発電機が据付けられたのであった。

一般植民者の自家等電は一九五七年以降であり養鶏家によって始められたもので第一アリアンサでは瀬下・北原・岩本・高木の諸氏とその他二・三あり、第二アリアンサにても一・二のものが仄かなあかりを灯したのである。

能力は二―一〇ＫＷ程度のもの、中にはトラットールのデーゼルを利用したり、トバタや井関のものを利用して水揚げにも兼用し、さらに小規模の機械の運転にもそれらのデーゼルは利用されたものである。

最後にようやくイタプーラの電灯会社送電による本格的電化の記録にはいろう。

イタブーラ電灯会社により奥ノロエステ最奥の雄都を約束されていたアンドラジーナ市方面の有力伯人の大耕地の電化は一九四〇年代に実現し、わがアリアンサ移住地近接のミランンドポリス、ガラサイ両郡の大耕地では一九五〇年代に入ってようやく実現しかけたのである。

元ガラサイ郡長ジョゼー・マルケス氏直営の三二〇耕地が電化したのは一九五七・八年頃と記憶するが、その時はイタプーラ電灯会社とその子会社とも云うべき工事請負のオルテマは将来電気事業の発展を期してガラサイ市の町はずれに小規模ながらトランスフォルマドールを設置したのである。

一方その以前に既に電化していたパラーシオ耕地(アリアンサ移住地の隣接地)とは前記三者一体の謀議協定が成立していたようである。

そのために三二〇耕地が電化すると間もなくパラーシオ耕地では隣接の三二〇耕地へ切替え接続を行い、過剰化した高圧線をとりはずし、工事請負会社オルテマに売込み、自己の耕地全般の電化を目論み又さらに将来耕地外への延長時の権利金にも

相当する差額利益を打算していたのである。
それらの状勢下にあってかっての弓場農場へ第一に売込み方がもち込まれたのであるが、当時既に落陽状態のきざしがあって僅か二百コントの投資も困難であったようである。
当時弓場氏は「今二〇〇コントあれば十区中、電化できるんだがなあ」と欺息まじりに語った事を追憶する。
アリアンサ移住地の一隅十区が電化したのは一九六〇年九月二十八日であった。
運命は皮肉である。
弓場農場が分離して立退いたあと、その一隅へ五アルケールの土地を入手した伯人マノエル・ダンタ氏が同年七月三日オルテマの現場工事担当者ジョゼー氏を同行して十区の堀田栄次郎氏を訪れ十区の電化勧誘に来たのである。
直に筆者に連絡があり如何にすべきかの相談があった。
筆者はその時直感的に電化の好機到来と意を決したのである。
われわれ十区の入植者の多くは長野県出身者であるが、永住を目的としており、一般植民のおちいり易い孤立的な利己主義にとらわれず、常に地域社会の発展のために協同精神の湧養につとめ入植当時より手をつなぎ合って隣保互助主義に徹していたのである。
電化の問題も協同作者や区の集会の際によく話題に上り待機していたのであった。

そこえ電化問題が持込まれたのである。

とはいうものの電化未だしとみた者も少なからず、既に一・二年前から井戸の水揚げ用として風車が据えられた家も四戸を数え大陸的風景が展開されていたのであるが、千歳一遇の好機逸すべきにあらず勇躍必成を期して区内へ檄を飛ばし区会を召集したのであった。

さりながら当日の集会は突然のことでもあり不況の芽生えも既にあったので多くの者は疑心暗鬼の面持ちであった。

二・三の同志の熱意によって各自の事情は異るが引込線とメジドールまでは均一負担とし、更に契約金の支払其他借入まで連帯責任とし、一方融通可能のものが一時的立替えをなすことにして電化にふみ切ったのである。

同時に接続の第一アリアンサ一区や中央区の有力者や産組理事へも連絡、同調すべく勧誘したのであるが、みな日和見主義で時期尚早説であった。

そしてわれら十区の結束果断の行動が世論を驚かせたものであった。

結局十区では前記の伯人マヌエル・ダンタ氏を加えた九人が結束してアリアンサ移住地電化の端緒となったのである。

この十区の電化経過の大要を記すれば次の通りであり正にその電撃的成功であったことはブラジル農村空前の快挙であった。

一九六〇年七月三日区有志の集会を行い電化の決議をなしオ

ルサメソトを要求す。
八月八日引込線と各自のメジドールまでは平均負担とす。
但し引込線用の電柱は各自負担とす。
八月十三日アンドラジーナ市オルテマへ出張、電化を確約す。
他方資金借入れの研究を行う。
八月十四日待機中のオルテマはパラーシオ耕地内の工事に着手す。
八月二十五日契約金を払込み正式に契約を行う。
九月二十三日予期以上の送電あり、まばゆいばかり電灯つく。
十月二日イナグラソン・大祝賀会。
以上の次第であるが当時はインフレの初期でもあり諸物価も安かったので、各戸均一負担額は一三五コントであり各戸室内設備は数十コントに止まったのである。
かくして全アリアンサ移住地最後に入植開拓された西南隅の小地主の集いである第一アリアンサの十区が第一番に電化の目的を達成したのであり、いみじくも植民待望の文化の灯をともしたのである。
創立祝賀の宴には当時のガラサイ郡長マノエル・マルケス氏を始め多数名士とその家族が参加し、ガラサイ市街はガラアキになるほどであった。
移住地内の名士も多数参加し総勢千余名の饗宴となったのである。

移住地元老北原氏や郡長始め多数有力者の祝詞をいただき十区々員は大いに面目をほどこしたのであった。

ここに附記して謝意を表するは当時伯銀アンドラジーナ支店長アルバロ・カジューロ氏の好意あふれた御配慮を得たことと見積書検討に対する基本調査並に契約指導立会人として当時の産組第一出張所長安田敏勝氏の助力を得たこと、更に移住地有力者各位の声援を得たことである。

十区に続いて二ケ月後には一区が電化し、十区に遅るること四年、一九六四年九月七日に第一アリアンサ中央区が電気の導入をしたことは前述した。 これに四十二キロ方面が続き、七区に電灯がともされたのは十一月二十八日であった。

その後ミランドポリス―第二アリアンサ間、続いて第三アリアンサ中央区までの電線架設が行われたが、ミランドポリス―第二アリアンサ間の送電は一九六七年八月十八日からであった。

ここ一・二年のうちには全村が電化されるであろう。

一九六一年ジャニオ政権以来ジュピア、イリヤソルテーラにウルブプンガ電力会社が発足しており数百万ＫＷの世界に誇り得る電力の供給事業が数年後に完成されるというから電力には不足を来たすことはないであろうが、農村電気が都市を通じて高圧線だけでも政府の管理とすべきであるとおもうがその実現までに悲喜劇やおもわぬ事故の発生を免れがたいであろう。

（一九六八・二月　工藤信平）

付記

アリアンサから州道を六十四キロの地点、マットグロッソとの州境ジュピアにウルブプソガ電力会社が発足したのは一九六一年一月二日であった。

このウルブプンガ発電はパラナ河をジュピアとイリヤ・ソルテーラでせき止め大人造湖（一千二百平方キロ）を作り、完成すれば前者は一二〇万、後者は三四〇万、合せて四六〇万キロワット出力の大発電となるという。

ジュピア発電所は六八年から送電を開始して一九七一年までに年々三〇万キロワットづつ増設して行く。

イリア・ソルテーラの方は一九七六年までに十一郡の発電機で一七六万キロワットの発電を開始する予定といわれている。

イリヤ・ソルテーラダムはジュピアの上流五十五キロの処である。

三　電話

移住地内電話は一九三三年九月二十二日第一アリアンサ―第二アリアンサ間が開通したのが始まりであり、一九三五年には第三アリアンサにも通じた。

その後一九三九年産業組合が合同してアリアンサ農業者産業組合として発足することにより、ノーバ・アリアンサ、ビラ

ノーバ、ミランドポリス、ホルモーザの各出張所間も電話が架設されたが、ビラノーバ、ノーバ・アリアンサ及フォルモーザの各出張所が閉鎖されてからは第一、第二、第三アリアンサとミランドポリス間のみとなっている。

一九四八年にミランドポリス出張所に市街電話が架設され、外部との電話応待は此処で行われていたが、一九六六年に至り時の郡長ドットール・ジョルジの好意により、ミランドポリス市街電話をアリアンサ迄延長することになり(ミランドポリス―第三アリアンサ間は約三十六キロ米ある)電柱立ての仕事はアリアンサ負担ということで産組評議員を動員して行われた。

一般入植者からの架設申込みはなく、たゞ産組第一・第二・第三事務所にのみ架設された。

一九六七年七月二十一日第三アリアンサ入植祭の当日電話のイナグラソンが行われ、この日から開通している。

電話番号はミランドポリスM・8である。

十　思い出二題

十年一昔と云う。

十五年、二十年は遠い霞の向うに僅かにまばたいているようである。

此処に二十年近い昔の思い出を綴って貰った。

○トラクターの同志会の憶い出　　大森一城

長男がマットグロッソ奥の国境守備隊より除隊して帰った頃（一九五一年）養鶏飼料のミーリョを作るため弓場農場からトラクターの応援があったが、作業中故障を起し自宅で分解修理となった。

初めてトラクターの内部の複雑な機構の組織を見て、その方面に無知な自分は驚きの眼を見張ったのであった。

小指大の一部分品が一つ失われてもあの大きなトラクターが動かないと云う事も。

それを独逸人の若い技手が一人で全部分解・修理・組立てをやっているのを眼前に見て驚異を感じたのである。

そして何とか方法を講じて子供達にもトラクターを持たせたい、それにより学校に行けなかったその時代の若者も或る程度まで科学的に理解ある人生も得られようと。

当時は村のあり方（世界大戦争の渦中にありし為め）から子弟の教育も意のままにならず、青年層が科学に理解がなく、秘密のラジオがあるなどの非科学的な言辞を平気で弄する時代であったので今後なんとかして子供達に科学的要素をと考えてみても、上級学校へ出すには当時の環境が許さない。

でもこのまま鍬一丁の百姓をそのまま続けさしたら人間としての進歩は無し、移民としての目的は達せられなくなるだろうと思った。

それから村の時代の先覚者であり青年層に理解ある産業組合

関係の渡辺五八氏に計り、同志に呼びかけたのである。

その趣意は「村の機械化を計り、農産物の増収を得、青年層に希望を持たすと同時に科学に理解ある人間を村に残しトラクターの払込みが完了すれば若い同志に引渡して村の繁栄をはかるを目的とす。」と云うもので村で初めてのトラクター購入となったのであった。

準備金は一文もなく全部ブラジル銀行からの借り入れであり、同志渡辺・井口君等の必死の運動が効を奏し、有志の官丸、瀬下、有沢、大石等の応援を得て村に初めてマッピー（フランス製三五馬力）四台、ヒヤッチ（六〇馬力）二台の六台購入となった。

何分当時は弓場農場以外にはトラクターは一台もなかった。村に赫色のマッピー四台とヒヤッチ二台がずらりと並んだ時には皆眼を見張ったものである。

なお当時同志井口君の残された日誌に次の記事がある。

新年度計画について相談

出席者大森一城、渡辺五八、堀信一、井口薫、楓井重夫　五十嵐二郎、伊東安定、川上義彦、大森聖也。

今年度耕作トンバ予定　二〇〇アルケール

内訳トラットール関係　一一〇アルケール

一般トンバ注文　九〇アルケール

（一九五二年）

最初はこの線で皆張り切って出発したのだった。

でも生産さえ挙げれば借入金の返済期限の三年目に払込みが出来るだろうと思ったのは無経験者同志の早合点であった。

成程機械の威力は大したものだが、運転不慣れの若い連中ばかり。

故障続出、六台の中毎日一台は修繕である。

当時村では修繕所はなし、その都度ミランドポリス市に持ち出さなければならない。

その上、部分品がなかなか手にはいらない。

その困難を乗り切ってやっと運転に慣れ、自信が出来ると耕地の面積を拡げる。

大面積の耕作になると必然に播種機が必要、消毒機が要るという。

収穫機・運搬車が欲しいとなって、その都度銀行に借入れに走る。

それに対して収入面は農作物が予想の収穫があった年は豊作貧乏の言葉の通り値段が安価で利益が少い。

不作なれば欠損が大きくなり、外に依蝕されてのトンバ賃は種々悪条件が起り回収がなかなか困難となる。

苦しい状態が毎年の連続であった。　或時はトラクターの部分品が入手出来なくてサンパウロ市まで飛行機便で探しに行く

という騒ぎもあった。
又トラクターが転覆して車は大破したが、幸い人命には関せずホッとした憶いもある。
毎年の生産は当時としては驚く程の数字は出したが利益はなく、三年計画の整理が入れ替え入れ替えで約六年、同志の意気も沈み勝ちになる。
総帥の渡辺君と会計の井口君が「今一息だ。頑張れ、頑張れ。」と励まされていたが、その苦しい内容を知る自分には渡辺氏の筆舌に尽し難い苦難に蔭ながら力添えをしていたのである。
当事人事の相談に渡辺宅を訪問した折、奥さんが愛犬に「マッピー」とトラットールの名を付けて可愛がって居られた事を想い出す。
そんな悪条件で同志のうちでも夫婦間で意見が一致せず家庭争議が起る事もあったが、自分は老人役としでそれをなだめ元気つけに廻った。
そのうち掘、楓井、伊東君らは家庭の事情や一身上の都合で同志運動から離れ、村を出られた為め、自分の次男や他一・二の青年を補充して事業の運行に支障のない様計ったが、家でも妻が遂に「パパイ、もうそんな無理は止めて牛でも飼いなさい。」と口に出したが、自分は叱りとはし、「今中止したら整理だぞ。
整理すれば今迄の一切の労苦が無になる。乗りかけた船だ、

沈ませずに岸に着くまで頑張れ。」と。
その妻も今は亡し。
こうして最後迄同志として頑張り通し、一応整理したのを見届け、金は残らなかったが、使い古したトラットールを若い同志に公平に分配して頂いて、最初の主意はかろうじて達したと一同笑ってトラットール同志会は解散したのであった。
此の期間の苦斗は若い同志に良き人生の体験となったであろうし又当時の村の青年層にも農民として科学のあり方に一つの刺戟となって村に残っていると思う。
次にこの同志運動の一つの思い出を記して見よう。
同志運動を起して三年目に続く不況を打開しようと、ルッサンビーラ駅から二つ目の駅ノーバニッポニヤ駅近くのチエテ河対岸の秋永忠次郎氏所有のバクリー湿地帯草原地二百アルケールを借り受け米作りをしたが、何分第二アリアンサから十一キロを経て旧アラサツーバ街道に添うて悪道路を五十キロ、ノーバニッポニヤ駅前から危険なバルサ渡しを越えねばならないので、その目的地に到着するだけでも一苦労であった。
当時の井口氏の日記により其の一端を知り得る。
「午後一時頃重いトラットール『ヒヤッチ』を積んで伯人のカミニョンは僕と五十嵐を乗せて第二を出る。
トラットール『マッピー』はラミーナを績んで楓井、川上、大森の三人が運転して続く。
重いヒヤッチを積んだカミニョンは途中幾度も無気味な音を

立てながらのうのうとつゝがなく廿キロに着く。
後から来るマッピーを待つべくカミニョンを降り休んで居ると程なくマッピーも無事着いたので、出発すべくカミニョンに乗ったが肝心の運転手が仲々バールから出て来ない。
いや出て来ないばかりか、何んという嫌な眼で僕等を見つめで居るのだろう。」
と、あるがこの記事は悪道路で運転手がバクリー迄の運転が嫌になったとの表現であろう。
次の頁には
「今日の夕食は秋永氏自慢の鶏料理なり。
おもむろに鶏をつぶしてアロースのパーリヤにて毛焼きをし（まず一休み煙草一ぶく）カデロンに油をクエーに二杯入れ、玉ねぎ一つ、アーリヨ五つを手でもみつぶして入れ、鶏の玉切れを入れて塩で味をつける。
があまり美味くはない。」
こんな残された日記を読むと当時米作り地帯の堀立のサッペ小屋住いで頑張った若い連中の姿が思い出される。
また仕事以外に興味を持たないように見えた井口君にも詩人の素質があったのかと、思わず微笑が出る。
あれから十五年は経過した。
同志であった井口、堀、楓井、五十嵐、伊東、川上の諸君は現在都会生活で幸福な生活を送られつつあると聞く。
渡辺氏と自分は老人となり、村に残り、現在一軒に一台はト

ラクターを持ち張り切っている若い世代を見ている。
あの時代トラクターを村に取り入れる事を笑っていた人々も皆老人となり、「トラクターを持たない様な時代遅れの百姓には娘は嫁にやれない」という。
これが現在の状態で十年一昔とはよく謂ったものである。

あとがき

当時一つの気分転換という心境から家内と共に俳句に入門して念腹師の指導を受けたが

体賭る　我百姓や　柿を蒔く　　一ノ城
諍へど　共に春待つ　夫と吾れ　　とめ女

これも皆当時の思い出の句である。
当時我が家で俳句会を催した時、山積みにされたトラットールの部分品や故障車が放置されてあるのを見てか

トラットール　幾台つぶして　棉とれり　　種山

こんな句もあったが心通ずるものがある。
当時後援して下さった秋永、宮丸、有沢、大石の諸氏も　皆

別れ別れになったが時折当時を憶いなつかしく思う。

（一九六八・五月）

戦後、移転に次ぐ移転で入植者が減少し、淋しくなっていったのは各区同様であるが、四区委員浅野氏から同区の懐古の文が寄せられた。

○懐古　四区　浅野修一

当四区は東、中、西と三部に分れていて、一九三四年私が入区当時は各部毎に十戸内外、全部で三十戸余りであった。

東部に於いて堅実な経営で中堅をなして居られた夷塚、河市、元山、木村、矢口、上田、中村の諸氏が相ついで退区されるに及び東、中部は殆んどパスト化、無人の境と化し牛の跳梁跋こに任せる仕儀となり、此の勢い漸次最後の拠点西部にも及ばんとして居ったところへ突如弓場氏一行百余名の多勢が一九五六年入区することとなり一度に頽勢を挽回し、他のいづれの区にも劣らぬ程賑やかになった。

そしてその上、同氏は自家発電機により発電、近処隣りへも送電、映写機を購入、毎週一・二本日本映画を上映するので一躍文化生活の恩恵に浴することが出来るようになった。

弓場氏は周知の如くコロニヤ野球発祥当時吾がアリアンサ野球王国を築き、三十数年前末だ道路不完備で養鶏と云えば近郊

業者の特殊産業であった当時、六百数十粁奥の当地で数万羽の鶏を飼い、今日奥地養鶏王国をもって自他共に許すバストスの養鶏の創始者渡辺きわ夫人もかって同養鶏場に教えを受けたと云うのだから、奥地養鶏家で直接間接、有形無形彼の指導を受けない者は皆無と云ってよいであろう。

併し彼は往年しばしば暴力を振るいその被害者は少くないと云うが、近年はあまりその例を聞かない。

時効とすべきであろうか。

人々が若い頃大きな夢、高い理想を描いてもだんだん年を経て現実の厳しさ、冷たさに遭うといつとはなしに利己的になり保守的になるものである。

かって二百余名の彼の同志の人々が二十年の歳月を費して築いた城を一朝にして債鬼に奪い去られるような厳しい現実に遭っても、彼の夢は消えるどころか益々膨脹の一途をたどりその止まる所を知らない。

今では数年前日本から呼寄せた小原氏夫人指導のもとに二十数名のモッサ達はバレエの猛練習、その甲斐あって最初はノロエステ線、次に聖市、アララクアラ線、パウリスタ線と次々に要望を受けて公演、各地で見事な踊り振りを激賞された事は新聞紙上に報導されて御存じの通りである。

同氏を当区に迎えた事を私はこの上もなく誇りに思うものである。

次に当区自慢に故高村実氏の蘭園がある。

同氏は三十数年前未だ原始林が沢山あった当時から熱心に蒐集、その後同好者からの寄贈、交換などにより、今では数百株に上りその奇観驚歎に値するものがある。

蘭マニヤ諸氏否一般素人の方にも一度来訪されんことをお推めする。

なお当四区草分けの最後の一人故藤森氏は六十二年家族にひかれて退区、出聖、昨年逝くなられたとか。

彼は記憶力が強くて当村の生字引的存在であった。

当移住地史編纂に際して彼生きて居ればと呉々も惜しむものである。

第二の故郷として三十数年間住いしたアリアンサに今や彼の魂は帰って来ているであろう。

冥福を祈る次第です。

（一九六七・六月）

十一　創設四十周年記念祭

一九二四年十一月廿日北原理事ほか数名の人達がアリアンサ移住地建設のために入植してから一九六四年は満四十年になる。

九月六・七両日入植四十年祭が賑やかに催された。

千古斧鉞を知らなかった原始の林も開拓四十年にして殆んどその影を消してしまった。

今旦二十万本の珈琲園があり、千五百アルケールの牧場には三千頭の牛が遊歩しており、八万羽の鶏が飼育されている平和な村となった。

開拓は苦難である。

原始の生活から始めて一歩一歩文化を切り拓いて行くその困苦に堪えて来た四十年である。

移植民地は先駆的犠牲者の墓を中心として発達するというが、此処吾がアリアンサも千余の犠牲者の上に成った移住地である。

今日のこの祭典に臨み喜びを分ち得た者は幸である。

四十年の歴史を顧み将来への飛躍の基としなければならない。

四十年祭を催すについて各区より委員が集まり選挙により委員長に田中治男氏、副委員長に大峡寛氏が選ばれた。

そして協議の結果左の如く決定した。

一、先亡者慰霊ミサ

二、創設功労者永田稠・輪湖俊午郎・北原地価造の三氏へ感謝状と記念品を贈呈

三、敬老会

四、祝賀昼食会兼シュラスコ会

五、家族運動会

六、演芸会

七、シネマ

八、記念フラムラ（三角旗）配布

記念フラムラは図案を移住地内に募集、四十通の応募あり、厳選の結果安田直子嬢の図案が当選した。

九月六日　記念祭第一日

午前八時半から弓場繁牧師の司祭による先亡者慰霊ミサがキリスト教会堂で厳かに行われた。

十一時から祝賀家族慰安運動会が催され一日を和気藹々の中に過ごす。

最後に婦人会の「佐渡の恋唄踊り」が披露された。

夜はシネマの夕、「暗黒街大通り」「女嫌い」の二本上映さる。

九月七日　記念祭第二日

入植四十周年記念式が第一会館で行われる。

遠くから馳けつけて来られたアリアンサ縁故の人も多数見える。

出席者約五百名。

来賓としては総領事館から鶴我総領事代理として中川領事が出席され、聖市産組中央会からは理事長フラソシスコ・トレー

ド・ピーザ氏、堀主事、石川氏の顔が見える。
ミランドポリス郡長・郡会議長・郡全議員、ガラサイ郡長等多数の方々の出席を得た。
十時開式の予定であったが領事の到着が遅れたため十二時前、田中委員長の開式の辞があって始まる。
劈頭ミランドポリス都会からアリアンサ開拓の功労者北原地価造氏に名誉市民権が贈られる。
次いで中川領事の手で日本政府からの藍綬褒章が北原氏の胸に飾られ、ブラジル地理学協会よりブリガデイロ・ジョゼ・ヴィエイラ・コート・デ・マガリヤンエス章が同氏に授与された。
来賓の祝辞として郡会議長ローレンソ・マルコ・フェルナンデス氏、産組中央会主事掘清氏、産組中央会理事長フランシスコ・トレード・ピーザ氏、ミランドポリス郡長ドットール・ジョルジ・マルリー・ネット氏、ガラサイ郡長マノエル・マルケス氏等の熱弁があり、その他村内有志数名の祝辞があった。
村としてはアリアンサ創設の功労者永田稠・輪湖俊午郎・北原地価道の三氏へ感謝状と記念品を贈呈する。
なお敬老の意味で七十才以上の十七名の方方に記念の座蒲団を贈り式を終り午後二時半シュラスコ会に移る。
夜は祝賀演芸会が催された。
弓場バレエ団によるバレエと小島弘道氏指導による歌舞伎「管原伝授手習鑑」

見事な出来ばえであった。

近隣の町から村から集った人の数は物凄く、アリアンサ始まって以来の人出であったろう。

なおこの日祝電を頂いた方々を列記すれば、聖州農務局長ルイス・ハイルバンク・バローザ氏、南米銀行副頭坂宮坂国人氏、農務局アラサツーバ出張所農業技師、ゼツリオ・アンジェロ氏、聖州議員東野四郎・野村丈吾・内山良文・仲村渠パウロの諸氏。

祝意の書翰を頂いたのは宮尾厚氏、麦生田卯蔵氏であった。

十二　カンポ・デ・トラモンテ

第一アリアンサ運動場は一九三一年度汎ノロエステ陸上競技大会及び汎ノロエステ・汎ソロカバナ野球大会をアリアンサで挙行するため、小川林氏が青年会長時代、青年六百、家長六百の人員が出働して出来上ったものであるが、このグラウンドのために幹線道路は約直角にクルヴァを余儀なくされており、道路のクルヴァを小さくするには道路がグラウンドを横断することになる。

また中学生の運動ということを考慮に入れて、中学の敷地の傍に別にグランドを造るならば郡としてトラットールその他の援助は惜しまないという。

一九六八年二月二十二日青年会役員とオールド・ボーイスの

合同会議で中学校敷地に隣接する田中治男氏の土地一アルケールを寄付して貰い、ここに綜合運動場を造ることを決め、委員をあげて郡に援助を要請したのである。

五月十二日、時の郡長サベーロ・トラモンテ氏臨席のもとに運動場造成始働式が行われた。カンポ・デ・トラモンテと名付ける。

七月二十六日に至りグラウンド造りの相談会を開き、九月七日の入植祭の運動会に間に合わすべく、第一アリアンサの全トラクターを動員して交代で出賦、一気呵成に地均しを了らすことを決議して、二十八日から着手、八月十六日地均しを完了した。

このために第一アリアンサ内四十七氏のトラクター延べて二百十四台が出働した。

ミランドポリス市役所の地均しトラクターの外に他郡から借用せるものは、ガラサイ郡から大型トラクターを借用せるも故障して仕事にならず、アンドラジーナ郡からカミニョン二台、土を運び上げるもの一台三十日間借用、アラサツーバ郡からトラットール一台、カミニョン一台二十日間使用する。

これらトラクターに使用したガソリン・重油はミランドポリス郡役所から支給された。

その他運動場造成のために第一アリアンサの要した諸費用は総計二・二〇九・〇一新クルゼイロであった。

十三　第一アリアンサ文化協会と全ア文化協会連合会

一　第一アリアンサ文化協会

移住地の初期には自治機関として第一アリアンサ会があり、教育・衛生・郵便・治安等を掌って来たが、一九三八年第一アリアンサ移住地を完全な自治体とすることを目的として一元化運動が展開され、経済と自治を統合した第一ァリアンサ協同組合が生れ、次いで一九三九年四月全ア産業組合が合同して一元化の形をとって今日に至ったのであるが、産組に加入しない者も可成りの数があり、これらの人々は産組員とは別行動をとっていた。

然しこと子弟の教育の問題になると組合員も非組合員も村が一致協力することになる。

一九五九年からのミランドポリスへの通学車問題、次いで六七年からの中学校建設問題、運動場造成等村民打って一丸となって事に当って来た。

この親睦の機運の盛り上りを逃さず又全アリアンサを言に纏めるための前提として第一アリアンサだけでも団結する必要を感じ、中学校関係の集りを利用して分校建設促進委員会（既記）が生れたのであったが、更に進んで仮称「第一アリアンサ文化協会」の会則の起草となった。

一九六八年十二月十五日会則の審議が行われ、越えて一九六

九年一月一日に第一アリアンサ会館に於いて第一アリアンサ文化協会の発会式が挙げられ、次の如く役員が選挙された。

会長田中治男、副会長小橋義雄、総務北村武志、安田敏勝、会計森平蔵・佐藤収、渉外部上条亨・米山久雄・富岡源治、文化部上坊寺祐信・長谷川恭一・山上武雄、体育部丸山文好・小田忠・蓮沼裕、書記長井徳二・竜田ジョージの諸氏。

なおアリアンサ農業者産業組合では一九六八年九月廿四日に開催された定款改正の臨時総会に於いて、今まであった「社会部」は削徐された。

二　全ア文化協会連合会

地理的に相接し、相続いて生れた第二第・第三アリアンサが連絡統制された歴史については一九三一年に信濃移住組合理事水田稠氏の肝煎りでアリアンサ会連合会が誕生したが、実際的に事業成績あがらず両三年で自然消滅に終った(創設十年一六八頁)。

その後、産業組合の合同によって前記せる如くアリアンサ農業者産業組合によって運営されて来たのであるが、産業組合という名によって全在住者を網羅していない憾があったのである。

一九六七年八月十四日に第一アリアンサにミランドポリス中

学の分校が設置されてからは校舎建築促進運動その他教育問題を処理するには父兄会ではその力が弱いから全ア的団体の誕生を希望する者が多く、また大戦後在伯日本人の大移動は奥地農村の人口減少を来たし、アリアンサも例に洩れず、三移住地を合して漸く二〇〇家族を数うるに過ぎない状態であり、これが一丸となるべきであるということは全アの有志の間に考えられていたところである。

現に一九六八年八月十七日第二アリアンサ自治会館で催された「明治百年・ブラジル移住六十年」の祝賀会の席上で発起した第二アリアンサの代表も、招待を受けた第一・第三アリアンサ側の代表もその挨拶に於いて皆んな口を揃えて「アリアンサは一つになるべきである。」「対立的なことは水に流して一緒にやろう」という言葉が聞かれたのであった。

その後数回代表者の会合があったが、中学校位置問題の確執が原因となって一致点に達せず、もの別れに終っていたが、一九六九年五月十六日産組第二アリアンサ事務所に於いて第一・第二・第三アリアンサ並にオリエンテの代表が集って協議、連合会を結成するまでに漕ぎつけることが出来た。

当日の出席者に第一ア田中・小橋・北村・森・上坊寺、第二ア平松・森田・加藤、第三ア小松・島崎・八木、オリエンテ林・松山の諸氏で八木氏司会で話し合いが進められた。

統合一体となることが望ましいのであるが、暫定的に連合体として進むことが申し合わされ、特に第二アリアンサから基本

条件として左の三条件が提出された。

一、四セッソンを一つの連合体として一致した基本問題のみを取り上げて進んで戴きたい。

二、学校問題等は第一次的に父兄会の方で取り上げて貰いたい。

三、政治的な問題もなるだけ取り込まない様に。

但し各セッソン選出の委員の賛意を得た場合はこの限りでない。

各団体から何名かの委員を選出して合議制で行くこと。

各団体の責任者は委員として名を連ねること。

委員長その他の役員は互選によって決めることと申し合せた。

各セッソンの委員は

第一アリアンサ　田中・小橋・森・北村

第二アリアンサ　森田・平松・加藤

第三アリアンサ　小松・島崎・八木

オリエソテ　林・松山

互選の結果、委員長田中治男・副委員長森田和男・小松進・

林一二。

会計小橋義雄、書記八木修平、幹事は他委員全員。

統合一体とまでは行かなかったが、難行の末とにかく手をつなぐまでに到達し得たことは一歩前進したということが出来るであろう。

十四　文藝

かってはインテリー植民地或は文化村と云われ文芸面には歌人岩波菊治氏、俳人佐藤念腹氏、木村圭石氏等の下に多数歌人俳人を擁し、多彩な文芸壇を現出していたが、年と共にこれら文芸人の移転退村するものも多く、移住地に留るものは寂々たる有様である。　近年は句会歌会の催しあるを耳にしない。

歌人では唯一人居残って後進の指導に努力を続けていた脇坂一氏もパラナに去り後に続くものがない。

一　俳句（近詠）

永原亜閃

春愁や　日本を恋ふる　われのみか

水鳥に　暮れ行く　水の明るさよ

移住地の　二本の桜　返花

この土地に　やがて果つる身　種をまく
花種の　花絵のほどに　あらずとも
真直ぐる　椰子は育ちて　涼しけれ
翅ありて　高くより落つ　木の実かな
巌より　挨が立ちて　川滴るゝ
いつまでも　秋暑うして　サングラス
母の死の　淋しさ包む　オーバかな

工藤桑楡

馳け去りし　仔馬の行手や　春の虹
春光や　人工授精　すみし牛
乳呑児と　妻を見くらぶ　墾日焼
大王椰子に　媚るが如く　孔雀椰子
油蝉　四十年史の　移民村
秋扇や　老後の計は　まだ樹たず
邯鄲や　読みふかしたる　植民史
秋草の　花吸い移る　蜂雀
枯草を　やる外はなし　牧枯れて
慰霊祭　造花に娘等は　涙しつ

新津松川

恋もなく　夜業の服も　油じみ
一日の　暇にあかして　草を焼く
水打って　土間の暗さに　よろめけり
借地して　まだまだたらず　綿を蒔く
初孫に　名付けん硯　洗いけり
棉蒔いて　モンペの後に　従いて行く
草若葉　捨子の如く　寝かけおり
書初や　先月分の　わが句稿
日雇は　一人ときめて　草を取る
三日月に　預り孫を　負うて出る

渡辺三鬼

春近き　ピロットといふ　ダムの町
滝音に　ふるいて岩の　木の芽吹く
女王花や　オリオン星座　中天に
伸びる椰子　伸びぬ蘇鉄の　庭せまく
年々に　並木とゝのふ　墓参道
開墾に　曲りし指よ　菊作り
網張って　揺るゝカノアや　江の秋
伐られゆく　古珈琲の　忘れ咲く
大乾期に　入るてう雲の　日々高く
牛臭き　小駅ばかりよ　花サンジョン

筒引俗仙子

股ぐらに　猫を落して　くさめかな
おとなしき　鰐なりしとて　仕止め来し
飛機で立ちし　客の忘れし　椰子団扇
菊根分　ふと嫁ぐ気に　なりし娘と
空を見る　顔暮れてゆく　端居かな
小春日や　事務所に開く　小句会
育ちたる　日本の松や　落し文
月曜は　日曜疲れ　ハンモック
二階まで　飯運ばせて　曝書守
二頁を　読んでは珈琲　干しかへす

中村不朴

蟻の土　かぶって太る　南瓜かな
芭蕉の谷　珈琲の丘　夏の雲
干し上る　マモン干瓢　長短
礼拝の　始まりて居し　落葉踏む
墓参り　昨日めとりし　妻連れて
抜け羽根に　かさむ鶏糞　売りにけり
日本種も　高くなりたる　大根蒔く

十二時の　汽車を合図に　樹海焼く
校庭に　教科書の荷や　パイネーラ
巡回の　師にバイブルの　黴払う

新津稚鴎

どこまでも　焼野どまでも　道一筋
春眠の　双生児は同じ　夢を見む
大粒の　日照り雨降り　マンガ熟る
どびろくの　わが郷愁を　妻嗤ふ
女王花に　ゆきづりの蛾の　あらあらし
郷愁も　なくて頑健　草の餅
牛囁いて　草を離るゝ　春の月
薔薇さして　昼の句会は　久しぶり
二日月　やさし牧場の　扉にもたれ
アリアンサから　嫁が欲しとや　草の餅

杉崎風来

アリアンサより　他知らず　移住祭
畑の径　鹿此方向く　如何しよか
洗礼を　受けし翁よ　クリスマス
夜々の　雨それたる話し　稲の花

午後からは　水かさ増せり　滝しぶき
痩馬の　老と連れ立ち　圭石忌
蛇三つ　叩いて仕事　早仕まい
畑垣に　沿ふて一列　ねぎ坊主
葱坊主　島国根生　抜ききれず
ダム底の　エソジン響く　冬霞

津田静江

機翼の　灯うすくれないや　朝霞
夫の咳　おびえて聞くや　春寒く
春愁や　蝸牛の殻に　何描かん
春昼や　こけし顔して　吾子眠り
日本間の　日本の客に　水を打つ
鐘に　鈴に灯りて　クリスマスツリー
初秋や　葡萄色なる　夜会服
竹の春　竹の柱の　鶏舎建て
万葉の　星の歌好き　星月夜
鍬に　ふれし蟇よ　冬眠には早かろに

宮崎花江

蜜蜂は　巣におさまりて　春日落つ

春月や　たまには酔うて　来るもよし
ばら接木　用意の爪を　切り残す
春宵や　四肢を伸ばせば　湯溢る
帰省して　兄の自慢の　メロン喰ふ
朝霧や　鶏舎々々の　灯暈持てり
捨てがたき　古き人形や　秋桜
飴玉を　入れてマスクを　かけにけり
短日や　牛車に乗せて　貰ひしが
朝寒や　乳牛冷たき　手をきらふ

杉崎ヒヤシンス

群牛を　分け進むバス　枯野道
寒玉子　提げて嫁ぎし　娘を訪へり
例会は　茄子料理とか　母の会
柿喰べて　夫にも買う　異人妻
細き首　のべ生妾酒　移民妻
牧枯れて　牛馬の小径　たてよこに
家のこと　思ひ時雨　見つめ居り
花パイナ　隣家初孫　女の子
大根の　吊し干しあり　新移民
仮住まい　とて大根を　少し蒔く

二　短歌

一九五〇年頃脇坂氏の指導のもと青年の詠める歌、青年団月報より拾う。

光田ひさを

昨夜貼りし　イシチョールの　黒き乾きさえ　足立たぬ今朝の　悲しみとなる

老母に　助けられつゝ　用便をする　些の羞恥心も　いまは起さず

君持てる「椰子樹」有りて　おのずから　話題は歌の　上に落ちゆく

独身者の　吾等の話題は　乏しくて　つゞまりは結婚の　上に落ちゆく

上坊寺裕信

朝涼しき　公園のベンチに　腰かけて　歌のことゞも　君と語りぬ

君も吾も　未婚なれば話題は　期せずして　結婚問題に　ふれてゆくなる

上村よし子

電車より　吾が見て過ぐる　通はたの　咲きてはこらぬ　アヂサイの花

学校へ　急ぐちまたは　霧深く　つける電気の　光あわあわ

上村金映

なだり地の　片側稲は　刈られたり　向ひの側は　青き出穂か

ひねもすを　野良に働き　夜は学ぶ　弟は時折り　居眠りしつゝ

清水いく子

ふる里は　春のたけなわ　桜桃の　花も咲けるか　遠くいて思ふ

もの思ひ　一人眠れず　居る夜半に　流れる星の　白き尾を見き

井浦亮子

夕暮れの　湖におりし　白鳥の　姿は澄みし　水に映れる
ベランダを　立去りがたし　月光の　いよいよ冴えて　夜は
ふけゆきぬ

美智子

草の葉に　鳴くこほろぎの　声きけば　身にしむ寒さ　秋ふ
かまれり

松井康子

昨夜の　夢に見しとて　母の言ひ　給う吾が結婚の　事もす
でに幾度

再移住　脇坂一

パラナ州アシス・シャトーブリアンにて
三十年　住みしありあんさを　後にして　パラナ路遠く　出
立ちゆかむとす
ムダンサに際して
死に近き　瀬下さんの病床に　ひざまずき　短かき言葉　か

わし別れき
　ありあんさを　去りゆく吾と　これの世を　去りゆく老と
はげまし合ひぬ
　はらからの　四つの遺骨を　捧げ持ち　パラナ路遠く　たち
ゆかむとす
　二十年　すぎて掘りたる　父の骨　わが手のうちに　粉とな
りゆく
　亡き父が　遺愛のメノウ　水晶のみ　無機の生命の　かゞや
きを持つ
　霊魂の　不滅と云ふも　はかなかる　人間が生みし　いやは
ての知慧
　エトランゼの　想ひひしゝゝと　湧くものか　コルベーリ
ヨの　荷に夜ふけたどりつ
　ミネーロと　聖州人吾と　ガウーショ等と　いづれ劣らぬ
誇を持ちて
　ゴールドラッシュ　今現実に　この街に　みなぎる活気　思
わざらめや
　パルミットと　ワラビを煮付け　今日も食ふ　山菜料理に
あくこともなく
「大器晩成」と　自嘲に似たる　言葉はき　今日も終日　「カ
ンラン」を植う
　ガウンぬぎて　赤きジヤケツの　牧師(パードレ)と　尼僧
と吾と　シュマロンを吸ふ

原始林(もり)の中に　建てし教会の　十字架に　返照光は
しばし輝く
千匹猿　パルミットの幹　しなう迄　反動つけて　河渡りゆ
く
仏壇に　父母の遺骨は　蔵ひしまゝ　忙し移住の　三月すぎ
たり
ドーナ「ありあんさ」と　人にも呼ばれ　生き々々と　すご
せる妻を　今朝みつるかな
何のはずみか　今宵唐突に　想ひ出ず　上条のバヽアのこと
黒竜のバヽアのこと
十字架と　娼婦先立て　原始林の中　当然の如く　すすむ開
拓
原始林の　中すでに花街も　建ち並び　馬車にゆきかふは
みな娼婦なり
北伯より　また南伯より　移り来て　異民族ここに　融合し
合ふ
人口一万の　街の需用は　満たしめむ　吾がシヤーカラの
乳と野菜に
同月の　光ほのかに　額にうけ　植え急ぐなり　稚き野菜を
楽隠居　等は願はず　ついの日まで　生命のきはみ　畑に立
ちたし
永からぬ　生命とは云へ　荘園に　えがく未来図　夜もすが
らなる

孤独等は　ひま人が持つ　過剰意識　棉のごとくに　つかれて眠る

北米の　女優某（なにがし）　ブラジリアに　耕地（ファゼンダ）「詩篇二十三」を　持つとこそ聞け

「詩篇二十三」は　愛誦の章　シヤーカラに　その名を冠しプラッカ建てむ

パラグワイより　アルゼンチンにかゝる　大き虹　朝の厨に妻とながむる

かのせまき「ありあんさ」の天地に　踊踊して　すぎし三十年　かへりみらるゝ

さまざまの　生活ありて　街の主婦の　つましき買物　みつゝ商ふ

野菜屋　われ朝々の街に　見むものは　生きむがための　もろもろの慾

西南パラナピキリー高原の視察

三十年　たてばこの地も　開けむか　ピキリー山脈　標高七百米

雲海の　ごとくとざせし　モヤの中　ピキリー河カンツー河白く晴れきぬ

幾万アルケールの　原始林深々と　眠り居り　図面（マッパ）に印し　土地買へと云ふ

密輸監視と　ポッセーロ追ひ出しに　兵をとゞめ　開拓前線
いとものものし
天幕の　中炊事の兵の　人恋ひて　熱きコーヒー　吾にもて
なす
武装せる　山案内人（モストラドール）と　原始林（やま）
ゆけば　小屋かたむきて　ポッセーロ住む
原始林の中の　幕舎に兵は　たむろせり　何の任務を　おぶ
るか知らず
良からぬは　いつしか銃口に　消されゆき　サンジョンの夜
の　バイレにぎはし
荒々しき　新興の街の　息吹きに生き　吾も自ら　若返へる
らし

三　詩

一斧の研

モジ　　芳賀芳朗

杳かな々々遠い歳月の流れである四十五年
半世紀をそこに迎えて……
また昨日にも似て一瞬に流れ去るの不思議さではある
希望にはづんだ彼の日が夢の中に今もその斧の木霊が爽かに

響いて来るではないか
入植……
なんと清々しい新世界への一歩であることか
流れずして流れ去った四十幾春秋へ
高く手を翳して幻にも似た「時」へ
憶いをめぐらせ
またいとゞに矢へるものへの愛着が湧く
果して歳月は逝ってしまったのか
あゝ惜しくも愛しくも流れ去って復た帰えるなしの悲愁に佇つ
その足跡を村のこゝかしこに残して余すなきを眺めつゝ……
おさない村を愛と汗とに育てた人々は老いゆき、その大半は四散して広野のあなたこなたへ散り去った
あるいは奥津城という永遠にまた還えるなき地に魂魄と化して尊くも逝ってしまった
なんと彼の地を埋め充たして全村への永久の守りの臥床についてしまったことか
感うたゝ無量、たゞ冥黙して遥かにもしづかに憩いの安きへ手を合わすのみ
惟えば全べての人生と世の造成は
その屍を越え、否、墓所を脱して始めてその新生を拓くを
光と影のいのちの織りなす冷厳な進軍譜ではある
さあれ世上は人生は暗黒のみではない

光の征正くところ晴の消滅しそこに救いを再顕現させてゆく
あゝ境野の渡ての土は痩せ衰えて死なんとするも
その土が育成した真の作物ともいうべき人間のいのちの息吹きは
この国土の広い分野にその真生を遂げて世に光りを投げつゝある
正に人の生くるはパンのみではない
次代を造る、世紀を創るそれ「人」である
今こゝにアポロ十二号は不可能の壁を打ち砕いて月往還の障業を遂げた
人類の夢の花開く世紀の科学の驚異であり勝利である
しかれ世上は人間そのものは果して進歩し真の文明化したであろうか
科学は分進秒歩するに逆比例して
地上はいよゝ人間喪失地帯の拡大とその退化を見るのみ
別世界の天体なる月を踏む正に破天荒の業である
さあれ未開の原始の世界をプラチナと光りかがやく汗に拓く
何かこれに劣るべき
況して半世紀前の一鍬一鋤、一斧々々の万苦を超えてのフロンティヤ精神に於て……
またこゝに新しき革命的「人間」を創るの苦闘において…
至難何をか言わんやである
それ月往還の大業にも勝り「人を造るまた創る」の人間存在

の本命の礎たるにおいて
将又精神的民族の血液を暁野の適地に延いてはこの国原に注ぐべきバイオニヤとしての使命感にこそ
百年刻下の至業を憶うの秋である
人を造って果てんやも
拓人の栄光に莞爾として―

四　作文

伯国教育令によって一九三八年十四才未満の児童の外国語教育が禁止された当時、父兄の子女教育に対する関心が非常に深かったということであろうか。

その当時の児童が青年期に達した時の日本語習得の程度は可成りなものと見受けられたが、いよいよブラジルに腰を落ちつけ此の国に安住と決心して後は子弟も伯国語の習得に努力はするが日本語に対しては疎遠となり、年を経るにしたがって二世の日本語は家庭内の簡単な会話くらいに止まり、読み書き特に書くことは至難のことになりつゝある。

第一アリアンサ男女青年団では作文集「フェニックス」を年三・四回発行していたが、一九六〇年頃から廃刊になったようである。

其の一

一九五一年十一月号フェニックスより転載する。作者の年令は不詳である。

○落ちた水汲みバケツ

百瀬　篤子

夕方私はいつもより少しおくれて夕飯の支度にとりかゝりました。

大急ぎで井戸の水を汲んでいて上って来たバケツを左手でとろうとした時、コレンテとバケツのつるとつないであったはりがねが切れてしまいました。

急に軽くなったと思うとたんにバケツはバチャンと大きな音をたてゝ水底に沈んでしまいました。

昨日はりがねがいたんでいるようだと気がついていたのですが、まだ少しはもつだろうと思いそのままにしておいたからでした。

困ったことをした。

どうしようか、かんがえながらのぞきこんでいますと、ゆれ動いていた水がだんだんしずまって何事もなかったように鏡のようになり私の顔がうつります。

これから拾ったりしていれば日が暮れてしまうので、そのまゝにしておいてほかのバケツをつけてまにあわせました。

翌日なわのはしにかぎをつけて下してそれでひっかけてとり

あげようとしましたけれど、水の深さが二メートル以上もあるのでどのへんに沈んでいるのか見当もつきません。
お父さんが下りて行って竹ざおの先にかまをつけてそれでひき上げることにしました。
竿を持たずに二メートルはどおりて竿を渡してくれとおっしゃいました。
私と一しょに見ていた妹がどっちを下にして？ときまっていることを聞くので、私はあたりまえじゃないの、かまのついている方よと答えました。
お父さんがからかって、違うよかまのついていない方だよと云われました。
妹はそれをほんとうだと思って、そらあっちやん違うってよ、と云ってお父さんに竿を渡そうとしたので、お父さんは笑いながらパパイにせまい井戸の中で長い竿をまわせと云うのかといわれました。
私はおかしくてふき出してしまいました。
妹も恥かしそうに後をむいて顔をかくして笑っていました。
しばらくしてお父さんはバケツを持って上って来てくれました。
これから落さないようにいつも気をつけます。

〇ワン公　加藤静子

去年からお願いしてあったミドリさんのお家から乳ぼなれぐらいの小犬を貰いました。
親の乳が出なくなったとかでとてもやせて可愛いゝというよりかわいそうな位おなかの骨が出ていました。
一家五人の私の家に犬ではありますが一匹ふえたので急に賑やかになりました。
家中で食べ物の心配、夜になると寝場所の心配、雨が降れば小屋の心配で、みんなから可愛がられてどうにか大きくなって来ました。
親の乳が少なかったので少し弱いのでしょう。
いつも腹をこわしてなかなか肥らないし、一時は大きくならないのかと思いました。
それでも腹をこわせば食べないで人間のように薬ものまず、一日中ぢっとしていると治ってしまうようです。
そんな事をくりかえしている中にもうこの頃では子供なら中供ぐらいのところ位に大きくなりました。
夜昼よく吠えてくれるし、月夜の晩などは弟とスモウを取って遊びます。
弟も連れがないので結構犬が相手で面白そうにスモウをとります。
見ていると犬もとても嬉しそうに弟にざれかゝります。
ワン公、ワンちゃん色々な愛称で呼ぼれて可愛がられています。

ごほんを呉れる時、センタ、ドルミ等と覚えました。
弟がかくれれば必ずさがしに行くしなかなか愛嬌のある犬です。
野良から戻れば必ず家の木蔭で番をしております。
よそへ行く時連れて行きませんからいつも家に居ります。
ミドリさんのお家はサンパウロに移って行きましたが、このワン公は何も知らず大きくなって、ワン公の名もよろしくこの頃では弟のほんとうによい遊び相手です。
只猫とは仲が悪いのか、じゃれるのか見つけ次第に追いかけ廻してかみつくようなかっこうをします。
猫も其の時は恐ろしいのか、じゃれるのか一生懸命にウナり乍ら犬に対抗して居りますが、遊ぶのやらけんかやら私には見当がつきません。
この中供ぐらいのワン公が私の家を一そう賑やかにして呉れます。

其の二

一九五九年四月号フェニックスより転載。

〇マッシャード　長尾剛

今頃は何所え行ってもあまり見かけなくなったが、僕がまだ

グルッポにかよって居る頃は四・五月頃ともなればちょいちょいマット切りを見たものだ。
中でも一番よく思い出すのは四十九年頃切ってやいたとなりのマットだ。
三月頃に山切りが始っていた。
毎日朝早くからクワンクワンとマッシャードの音が聞こえて来た。
そしてしばらくするとギーグギーグと何キロも先まで聞える様な音がしてあたりで山びこがするのだ。
遠くで見ていると木が一本たおれる度にそこに大穴があく様に見える。
一度近くで見ようと思ってある日学校の帰りに少しの間見学？に行った。　音のする方え行って見ると丁度太いジヤトバーの木を切っている其最中だった。
二人がかりで小一時間もかゝってカンコソカンコンやっている間僕はジーッと見物。
切り口がふかくなって行くにつれてマッシャデイロはちょいちょい上を見て前より一そう力をいれて来た様に見え出した。
ミキッと小さな音がすると大木がゆれ出しそれと同時にギーッと鳴り出した。
マッシャデイロは手をやすめ汗をふきながらだんだんかたむいて行く木を見ていた。
木は雷のような音を立てゝまわりにあったたくさんの小さな

木々をヘシ折りながらズシーンとあたりをふるわせながら横になった。
下になった小木はしばらくボキボキなっていたがすぐ静かになった。
あたりのけしきは急に変じてまるで魂がぬけた様になった。
そこがまるでガランドウの様になった。
マッシャデーロは一ぶくすると又カンコンカンコンとやりはじめ次々と大木を切りたおしていった。
こういう事が毎日々々ほとんど一ケ月も続いた未はつい此の前まで青々としていたマットも茶色の枯木ばかりになった。
八月頃焼いた。
それから十年たった今ではきいろい色をしたカフェーザールなって毎年雨に流され、そうして大木のかわりにカラビッショがたくさん生えている。

○ねずみ　佐藤一郎

或る夜の事だった。
夜学から帰って来たらまだランプがついていた。
誰が起きているのだろうと思ってそっと戸をあげて見たらお母さんが一人めがねをかけて雑誌を読んでいた。
「ただいま」と云って中えはいった。
後から妹や弟がはいって来た。

時計を見たらまだ十時だった。
まだ早くてランプがついていたので新しい雑誌を出して北側の戸のそばのいすに坐って本を開いた。
だんだんとページをくって行くと一三九ページに「エヂジェルトン・エ・スア・ルス・マヂカ」という題の所え出た。
これは面白そうだ。
これを読んでねよう。
妹連はもう休んでしまった。
お母さんももうねむくなったのだろう本を閉じてメーザから離れた。
「エヂジェルトン・エ・スア・ルス・マジカ」を読み終ったのでそっと頭を上げて棚の上の時計を見たら十一時過きだった。
家の中は静かだ。
たゞ時計がカチカチと静かな音を立てて動いていた。
時計の小さな針が動くのを見つめながら今読んだ本の内容を初めから考えていると、お父さん達の部屋の戸とかべの間から何か小さなものが動いた様子がちらと見えた。
そっと見ると小さなねずみが丸い黒い目を開いて鼻の所を動かしてじっと坐っている。
ねずみは誰もいないと思って出て来たのだろう。
でもすっと明るい所え出た時僕がちょっと動いたのを見て止ったのだろう。

止っているねずみをじっと見つめながら、よくよくこんな危険な場所へ出て来たものだ。

家にはねこが三匹もいるのに出て来るとはよほど腹がへっていると見える。

三匹の猫も今はそとえあそびに行って居るのだろう。

一匹もいないからねずみに取っては幸いだ。

動物は何でも動くものにおそろしがると本で見たので僕はじっとねずみを見つめた。

これからどこえ行くのかな。

米のある所え行くのかな。

それともほかの方えかな。

なかなか動かない。

行儀よく足をそろえて少しえんりよがちに頭を下げて鼻をたえず動かしている。

何かよいにおいかして来るのかな。

それともおそろしい大敵が近づかないかと用心しているのだろうか。

やっと動き出したと思ったら不意に奥の方で「カターン」と音がしたとたんにねずみはあわてゝえんの下にはいってしまった。

ねずみは可哀想だ。

食べる時もあそぶ時も安心して居られないから……

おそくなったのでもう休もうと思ってランプを消したら急に

真暗になってしまった。
しーんとした中にカチカチと時計の音だけが聞こえてくる。

○私の日記帳　川畑妙子

私が日記を書き始めたのはグルッポを卒業して日本語の勉強を始めてからでした。
初めは日記を書く事にたいして何の目的もなく、たゞ姉達のまねをして居たのだけれど、だんだんとものごとを考えるようになり私が年寄になった時に思い出となるために書こうときめました。
なぜこのような事を目標として書こうと言う気持になったかと言いますとおばあちゃんが毎日たいくつで困ると言っていたからでした。
昔の百姓特に女の人は勉強などする必要がないと言われ字を書くのでさえあまり習わなかったのだそうです。
家には色々な本があるけれど絵を見ているだけではほんとうにたいくつだろうと思います。
もしもおばあちゃんに若い時に書き残した記録でもあったなら今は其れがどんなにたのしく昔を思い出させてくれたことでしょう。
此の様な事を考えて毎日なるべくくわしく書く様につとめました。

でも近頃は大分変ってきました。
私も色々な心配ごとにくるしむ様になり何か心の友になってくれるものがほしいと考えるようになったからです。
そうして日記帳にだけはほんとうの気持をうち明けて、自分をなぐさめる様になり、今では日記帳は私にとってなくてはならないものになってしまいました。
毎日日記をつけて居ると勉強になるばかりでなく自分の考えもまとまり、又今まで気がつかなかった悪い所も分り色々反省させられます。
何時も心のさゝえとなり、なぐさめとなってくれる日記をこれからもずっと書き続けて行こうと思います。

其の三

一九五二年度全ア青年作文集より

〇寸感　宮西みどり

静かな夜です。
遠くで虫の鳴く声、なんという虫だか、二つも三つも色々違った声でやさしい音楽、私は静かに聞き入っていました。
昼の疲れでウトウトしかけて、ふと作文のことを思い出しました。

作文を書かねばならない。
私は重荷を背負ったような何だか気がかりの様な気持で庭へ出て見た。
外は意外に暗かった。
時折吹いて来る暖かい風が何となくほゝをなでて行く。
煙ったような空の三日月は消えるばかりにうす赤く何んとなく淋しい気分を起させる。
此の間の集会の時にも作文の話が出ると皆一様に困った因ったの連発だった。
なるほど作文て書けそうでなかなか書けないものだ。
「晩は疲れているし朝はまだ眠いし」など云っていた人もあった。
努力するということはなかなかむずかしいものだと私も同感したのだった。
その私も今作文を書くのにそのむずかしい努力をしているのかと思うと腹だたしいような情ないような気がしてならない。
父が何時か「お前達の年頃で勉強するのに暇がないの余裕がないのなどと云っていたら一生勉強出来んぞ。
若い者に疲れたなどということがあるもんか」といって笑われたこともあった。
成程若い時代に頑張りが足りなくてやがて家庭人となって、今私達が考えている望みや理想に達せられるだろうか。
こんなことを考えると私はどうしても勉強せねばと叫びたい

様な気がする。
文化部長が親切に原稿を依頼せられる度に私達は困った困ったとその〆切期日に遅れ勝ちだ。
原稿の多い程うれしいことはないと部長さんがおっしゃった。
私もこれから一層頑張ろうと思う。　家の人達はすっかり寝入ったらしい。
父のいびきを聞きながら寝床に入った。

○　新年祝賀会迄の元朝　吉田美保枝

朝の冷やかな空気を吸って墨絵のように遠く見える山々を眺めた。
空には一点の雲もなく白々と明けてゆく。
気のせいか目に入るものは皆新らしいものの様そしておごそかにさえ思えた。
美しい日の出と共に父母兄弟と共に声を揃えて君が代を唱えた。
遠い遠い日本にまで届く感じで！
我々の祖国が何時までも何時までも無事であるようにと心をこめて一礼した。
一月一日の歌を合唱して後、父から日本国体と時局のお話しを聞く。

式が終ってお雑煮を頂いた。
私はお料理をしながら自分が過して来た一年間を静かにかえりみた。
それは色々な事があった。
百姓として畠で忙しく過したけれど力をこめて勉強をしようとはしなかった。
そして何一つ上達していない自分を思うと情なかった。
毎年行なわれるスポーツの大会には見物に行った。
弁論大会永田先生のお話、女子青年の集会、色々為になる事が数多い。
一番恥かしい事は私の失敗がその中にまじっている事である。
修養が足りないから常識が備らず失敗をまねいたりしたのだ。
何時も何事に於いても注意して下さる父母の事も思った。
昨年のまゝの自分では父母に満足して頂けないのだ。
時々お小言を頂く時にはきっと其のお言葉を胸に刻み入れ、そして自分をかえり見ようと、心に誓うのである。
何気なく時計を見ると正午近かった。
楽しみにしていた青年の新年会の時間が刻々と迫って来る。
さっきの不安な思いも消え去って、ふと思い出したのが「小さき沙」の歌

小さき砂の一粒も
　　つもれば富士の山となる
我等もたゆまず務めなば
　　ついには登らんあの山にあの峰に

其の四

一九五〇年一月十五日に催された全ア青年弁論大会より

○　頼母しき存在へ　中西すみ子

第二世、特に第二世の女性と言えば非常に頼りない存在の様に世間から見られて居ります。

私自身もその頼りない第二世の女性の一人でありますが、私達としては決してそうした世間の批評に対してこれを聞き流して居る訳のものではありません。

何故に私達第二世の女性が世間から頼りない存在と見られているのかと常に疑問に思っている一人であります。

昨年の六月十八日私達第三の女子青年団はアラサツーバ市へ見学旅行に参りまして、アラサツーバの女子青年達と座談会を開きました時に私は非常に頼りない自分自身を発見して、何と情ない私であった事とあの時程みじめな私を知ったことはありませんでした。

自分の思っていたこと、考えていた事の十分の一も話すことが出来ませんでした。

その上何か知ら自分自身をいやしい者のように考えていた事に気付いて今更ながら自分の無教育を恥かしく思ったことはありませんでした。

これでは世間の人が頼りりない第二世の女性と言うのも無理ではないと思った程でした。

私達と比較してアラサツーバ市の方には大体中等程度の学業を卒えた人達や勉学中の人達のせいか、自分の思っていること、考えていることはすなおに言って居りました。

それから語学が出来るからと思いますが、ブラジルの社会生活の中には深くとけ込んで、そしてそれぞれの道に勇敢に進んで居られる様に見られ大変うらやましく感じました。

唯私達の父母の国日本の精神文化方面にも優れたものがあると思うのに、そうしたものに対して無関心で居られるのが物足りない感じが致しました。

然し私は都会の第二世の女性達が都会の文化の恵まれた環境の中で自分の好きな道に進んで毎日楽しい生活を送って居られるのを見て大変うらやましく思いました。

何とかして自分もあの様な生活をして見たいと思ったことが度々ありました。

特に農村の単調な生活にあいた時にはこの感じは強く私を苦しめました。

然し私は農村の第二世の女性の一人であります。
それも世間から無能呼ばわりされている頼りない存在であります。
何も私一人が都会へ走ったところでそれで農村に於ける第二世の女性の位置が向上されて第二世の女性の問題が解決される訳のものではないと考えました時、私は若しや私と同じ考えの二世の女性が居られるのではないかと気付いた時に非常に明るい希望を持って参りました。
それはこの様な人達が力を合わせ協力して第二世の女性の向上を目的に進んだならばきっと何か出来ると存じたからであります。
最近当地に於いても住みよい村の建設とか農村文化建設とか言って色々と計画されて居りますが、私達第二世と致しましては非常に漠然としたもので、何が農村文化であるかすら理解出来ないひくい教養しか持って居りませんので先づそうしたものを理解するだけの教養の向上が先決問題ではないかと思うのであります。
それには先づ第二世の女性はブラジルの文化を知ることが必要でこれにはどうしても語学の修得が大切と思います。
幸い今年度の新学期より第二世の女性の先生が当地の学校へ赴任されると聞いて居りますのでこの先生にお願いして週二回位の語学の勉強を始めたいと考えている一人であります。
こうして先づ一歩々々第二世の女性は自己を充実させブラジ

ルの良きものを取り入れ、これに私達の父母の国日本の良きものを今のうちに第一世の方より伝えて頂いて、そしてこの二つを私達第二世の女性の胸の中に成長させて行ったならば農村の第二世の女性の教養も一段と高いものとなり、やがて農村文化建設のよき理解者協力者となって今までの頼りなき存在も頼母しき存在となって歓迎されると信ずる者であります。

当移住地も入植廿数年となりましたが、何一つ安心する様な状態になっていないと思います。

唯金もうけばかりに没頭せず、もっと第二世の教育に力を入れ、第二世の教養向上に社会も本気になっていただきたいとおねがいするものであります。

これは特に第二世より第一世の方々への注文であります。

第一世の人達の今までの考え方すなわち金をもうけて自分のものにすれば何でも出来ると言う考え方では不成功に終ると思うのであります。

それよりもお互いが信じ合い、神を信じ単調なる農村をもっとうるおいのある生活に変え、金もうけ主義の生活より人生を楽しむ生活に変えようではないかと考え方を変えて協力していたゞけば、こゝにきっと立派なアリアンサが建設されるものと信ずるものであります。

○　所感　原喜晴

諸君、玄に千九百五十年の新春を迎えお互に気分を新たにして一年の計画をたて、新らしい希望の下に第一歩を踏み出すに際し、青年団の一員として此の年を如何に生くべきか、又何をなすべきかを静かに考えてみたいと思うのであります。

先づ我々の父母の国日本に於いては終戦後五ヶ年を経過した今日、八千万が同胞が焼土の中に立ち上って、平和国家建設のために血みどろの努力をしているのであります。

吾々と年を同じくする青年諸君が祖国再建のために食料増産や貿易の振興に、田園に或は工場に懸命の努力を続けているのであります。

それを思う時、私は平和なこのブラジルのめぐまれたかん境に育ったことを心から感謝すと共に母国の将来に深い関心を持たざるを得ないのであります。

然しひるがえって私自身をかえり見る時にこの国に育った我々は日本の青年諸君とは自ら異った大きい使命と重い責任のあることを知るのであります。

私達は日系ブラジル人として此の国に貢献し、この国をより良くし、より繁栄せしめなければならない使命があるのであります。

この使命に向って努力することはとりも直さず吾々の父母の国の再建に協力することになると信ずるのであります。

吾々が此の使命を全うする為には如何にすればよいか、それは先づ吾々の住む村を良くしなければなりません。

昨年の九月、この会館の落成式の日、アリアンサ開拓の父北原さんは「今後の村の価値は青年諸君の価値如何によって決定するのだ」と言われました。

正に至言であります。

私はこのお言葉を聞いて、我々青年の責任の重太さを痛感した次第であります。

開拓二十五年の月日は夢の如くすぎて、流石の豊沃を誇ったアリアンサの土も次第に地力は哀え、そのために他へ再移住する人々も漸く増えて、各区ごとに歯の抜けた様に人の減って行くのは誠にさみしい限りであります。

後に残った吾々には農業経営の上からも亦村の発展のためにももっともっと勉強しなくてはなりません。

今後の農業が段々進歩して行くにつれ百姓も非常に科学的知識を必要とする様になって来ます。

地力の問題、肥料の問題、作物の選択、薬品、農業機械等の問題、考えれば考える程私は私の知識の乏しい事を恥るのであります。

原始林を切って火を放ち、焼けた後へ作物を蒔いて収穫すれば利益の大きかった開拓初期の百姓の行き方はもうすぎ去った。

本当の科学農業の時代になり、カボクロ農業より本当の近代農業に移って来たのであります。

私の友人の幾人かは中学より更に上級の学校へと進み、或は

商工業の上級学校に希望を持って進みつゝありますが一人として農学校に進む者はありません。

村の事を考える時私は二人の大学生が出るよりは農学校卒業生が村に帰って吾々に協力される方がどれだけ必要かと思うのでありますが、現状ではそれも望めない次第であります。

このために私は本年はポ語の上達を第一にする覚悟であります。

昨年よりグルッポの校長先生により夜学が始められた事は誠によろこばしいことでありまして、これによって出来得る限り勉強し、常識を養い、農業知識を十分に獲得する事が出来る様になりたいと思います。

幸いこの国ではカーザラボーラを始めとして農家の指導機関も完備し又そのための雑誌や記事も沢山出ているのでありまして、私は今後それによって勉強した事を自分の経営の上に応用し、実験して行きたいと考えています。

新年に際して色々の計画をたて、あれもしたい、これもしたいと思っても何事も一時に出来るものではありません先づ農学校程度の農業知識を得る事に努力する事が今年の私の第一の目的であります。

更に青年団の一員としては決定された青年団の計画に充分の力を注ぎ、あくまでも青年らしい純真さと熱情とを持って一致団結し、この村を住み良い楽土とするために努力して行きたいと思う次第であります。

新年に際し私の希望の一端をのべて皆さんの御指導を仰ぎたいと思うのであります。

其の五

一九六〇年度全アリアンサ弁論大会より

〇　村づくりの三つの条件　　中馬一二三

新らしい村つくりは青年に期待すると言われますが、しかしどの程度期待されてよいかは全く未知数であります。

今の青年はなんでもやるかも知れないと言われます。

また反対に青年になにができるものかという両方の見方があります。

そしてその両方とも当っているかも知れません。

ところで先ずはじめに村づくりのエネルギーとなる三つの条件を考えて見たい。

まず第一に新らしい村の理想像すなわち農村像が青年達の頭の中に具体的にはっきりと描かれる事です。

第二に描かれた理想像がはるか彼方の雲の向うでなく、間近に手のとゞくところにかゝげられることです。

第三に青年達の努力に一よって必ずこの理想像に到着できるということを青年達自らが確信することです。

この三つの条件のどの一つが不充分でもエネルギーはわいて来ません。

ではこの三つの条件についてもう少し詳しく述べてみましょう。

先づはじめに農村の理想像、言葉をかえれば農村像又は新らしい村の夢とでも言えますが、このような具体的な目標がはっきりしていない所では決して青少年達の情熱がわいてくるものではないと思います。

青年達の活動はいつも夢の伴うものであるし、夢のないところには積極的な活動は起らないといってよいぐらいのものです。

青年達の描く夢は農村像ができるだけ科学性をもち合理的なものであってほしい事は言うまでもありません。

その為には現実の村の姿を客観的にしっかり見つめる事がまず必要であります。

見つめる方法として最上のものは村の生産で生活に対する科学的な基礎調査をする事であります。

そのような調査をもとにして皆の知識や智恵を集めて話し合ううちにだんだんと将来の村の理想像が浮きぼりにされてくるものであります。

浮きぼりにされた理想像が青年達の脳細胞の一つ一つにはっきり刻入込まれる事がまず大切な事であります。

措かれた理想像がははるか遠くにあって、青年達が努力する

限られた時間内ではとうてい手がとゞくまいと思われるような場合には青年達の心情をゆり動かすような情熱がわいて来ないという事であります。

例えば描かれた像が具体的ではっきりしていて五年なり十年なりの内に青年達の努力の及ぶ範囲内の期間のうちにある程度実現されるという見通しの出来た場合には、その像に向って突進しようとする情熱につき動かされるものであります。

時にはその目標に到達する為に一身を投げ捨てる事もいとわないといった献身にまで情熱が高まる場合さえあります。

実は青年達はその為に献身するぐらいの目標が見つかった時、本当に生きがいを感ずるものであります。

村づくりには農業の生産を高める事が土台になることは言うまでもありませんが、農業の生産力を考える場合、その生産の主体である農民と農民が働きかける客体としての自然と、主体が客体に働きかける場合の媒体である農業技術や農機具などの二つの要素が考えられます。

この三つの要素のどれが欠けても生産力は成りたゝない。

村つくりというと一般に働きかけの対象である土地条件の整備や媒体である農業技術のみを問題とするくせがありますが、生産力の主体としての農民及び農民相互の人間関係を問題にしなければ生産力発展の根本的な解決にはならないという事はもっとも注意をひきねこす必要があります。

良民の考え方や行動を問題とし、グループや部落や村の中の

人間関係を大切な問題として取り扱ったのも理由ある事であります。

新しい村つくりは新しい人づくりなくしてはできません又新しい人づくりは新しい村づくりなくしては進みません村づくりと人づくりは相互に原因となり結果となって結びついているもので両者はっきりはなしては考えられないものであることはどんなに強調しても過ぐることはない。

○逆境に処する道　　植野美恵

私共の父母の祖国日本は風光の明びなことは世界でも有名だそうでありますが、一面天災の多いことも世界有数で地震、台風、津波等聞くだけでも背筋が寒くなるのであります。

昨年は有史以来の台風、伊勢湾台風におそわれ多くの被害を受けたことは私共の記憶にまだ新しいのでありますが、今年はチリー地震が起した津波が赤道をこえて日本の太平洋沿岸を荒したといゝます。全く泣き面に蜂とでも申しましょうか、色々の災害が後をたたないのでありましょう。

然し日本の稲作は神武以来の豊作と言われてから今年で六年も続けで生産記録を更新しているのであります。

この原因はどこにあるのでしょうか。

日本の農家が戦後特に科学する農業に脱皮して、より合理的な栽培を試みて来たに他なりません。

次から次とおとづれる無情な天災のもとにあっても高度の技術によってこの様なおどろくべき成績を挙げているということに私共はある教訓を受けるものであります。

私の身辺にはこれにより反省すべき事柄が沢山あると思うのであります。

先づ従来のお天気任せであった百姓から技術的に成長すべきは当然でありますが、収穫時になって相場が安かったりした場合の惨めな思いは単に経営主だけに止まればよいのですが、一家全部が暗い気拝に陥ってしまう事を考えてみねばなりません。

運がなくて逆境の秋、私共は如何に処すべきでしょうか。

普通逆境になると自暴自棄になって起ち上る意欲を失いがちであります。

又自暴自棄にはならないが、運命に甘んじ、そのまゝ逆境に押し流されてしまう者もあるでしょう。

少し甲斐性があれば世をうらみ、ぶつぶつ不平を並べながらも建てなおしに努力いたします。

何の愚痴もこぼさず意地を張り、歯をくいしはって努力するようなれば上等の方ですが、済んだ事は済んだ事として極めて楽天的に新たに第一歩を踏み出されゝば尚よいと思うのであります。

然しその楽天が唯の気分上のもので、信念的でないならば、若し打撃が二度・三度と続いたとしたら挽回する決意に変化が

あるものかどうか、疑いなきを得ないのであります。
逆境に対処する最上の道は悲運の中に天意を見出して、謙虚に自己を反省すると共に、それを一つの恩寵として感謝する心にならなければならないと思うのであります。
これは個人のみに限りません。
一家も亦このアリアンサの村も例外ではないと信ずるのであります。
日本の戦国時代、有名な尼子の臣山中鹿之助は七難こん苦を我に与えと三日月を仰いで折ったといゝます。

又

憂きことの　なおこの上に　積れかし　限りある身の　力ためさん

この歌の様に志ある老ならば順境は心身をいぢけるものとして排撃し、むしろ逆境を歓迎する気風さえうかがわれるのでありますが、平凡な私共、まして婦女子で人生の浅き体験では出来る範囲内でも非運はさけたいと思うのであります。
然しこれからの春秋を思い万一の場合を考えて申上げるのでありますが、一家に如何ような不遇な日があろうとも敢然と起ち上るたくましい信念があり、村の地力がおとろえて村を棄て去る者が相続こうとも、残った者の和と工夫があれば前途を悲しむ事は決してないと思うのであります。

私共は宿命を達観し、そこに活路を見出す努力を惜んではなりません。

天災国日本が六ヶ年に亘る豊作の実績に教えられて所感を述べさせて頂きました。

五　娯楽

農村社会生活上必要欠くべからざるものに農村娯楽を数えなければならない。

既に青年団の部に記載せる如く、男女青年によって毎年行われている運動競技大会は体育であるとともに最も健全な農村娯楽ということが出来る。

青年・少年野球、男女青少年陸上競技は終戦後まもなく再開され、女子青年のバスケットボール大会は一九四八年から、男子青年バスケットボール及び男女青年卓球大会は一九五七年から開始、毎年行われている。

大衆的娯楽としては映画がある。

年に数回青年団主催で日本映画が上映されていたが、一九六〇年頃から弓場農場で週一―二本の日本映画が上映されるようになり、一九六一年七月以後母の会がこれを借り受け、第一アリアンサ一般へ公開して喜ばれている。

なお特記すべきものに弓場バレエ団がある。

一九六一年入植した小原氏夫人の指導で弓場農場の娘さん達

がバレエの練習に奨み、要請されて各地に公演、好評をうけている。

経済・産業篇

一、アリアンサ産業組合の動き

一　産組更生案（各セッソンの講買部と信用部の分離経営）

第一、第二、第三アリアンサ、ホルモーザ、ノーバ・アリアンサ及びビラノーバが合同、アリアンサ農業者産業組合として一元化の形をとって歩み出したのは一九三九年四月一日であったが、間もなく第二次世界大戦の勃発。

組合の運営もこの渦中から脱する事が出来ず、戦後勝ち負けの対立、繭価の下落、蚕種場不振等困難な状勢の中に十年を経過、四十九年には地理的にミランドポリス市に近接しているビラ・ノーバ及び棉花連作で地力減耗し離村者の続出するノーバ・アリアンサが産組から離脱して行った。

この経済的行き詰まりを打開すべく役員会は更生案として各セッソンの信用部と購買部の分離経営を企画し、一九五〇年二月二十六日の第十一回定期総会に提案可決された。

組合員の熟慮検討の時間を与えるために総会数日前各セッソンの評議員会に更生案骨子を提示していたので波乱もなく承認

されたのであった。

更生案骨子は次の如きものであった。

一、融通資金の獲得について

○購買部と信用部をセッソンの責任とし生産物の全面出荷をはかる

○各セッソンに内部理事・監事を置いて運営の円滑をはかる。

○購買部資金は預金、貸付金の回収、借入金を以て充当する。

○貸付金の回収は三ケ年計画を実行。

○細目は委員を挙げて研究する。

○本部に連帯責任の誓約書を入れる。

○販売部の強化。

○利用部は従前通りとし、部長に理事級の人物を推す。

○総会の承認を経て可及的速やかに実施する。

二、銀行借入金の返済について

○聖州銀行旧債一、六〇〇コントス

○今年度返済三〇〇コントス、利子一二〇コントス○経費の節減（本部縮少その他）をはかる

○不要品の整理
○利用部・販売部の利益金を充当
以上
これに対し各セッソン組合員の意向は、組合の行き詰まりを打開するには人心を獲得しなければならない。
組合員各個の自覚を促すには広範囲よりは小範囲の方が容易であるとの意味に於いて分離経営案に賛成であった。
かくて本部理事・監事並に各出張所長・内部理事・監事によって更生委員会が組織され更生委員会々議が開かれた

○更生案実行に対する誓約書

一九五〇年二月廿六日アリアンサ農業者産業組合第十一回定期総会の決定に基き当組合理事・監事及び所属各セッソンの組合員総会に於いて選出せられたる内部理事・監事を以て構成されたる組合更生案実行委員会はその賦与せられたる所に従い更生案実行の任に当る。
即ち組合更生案の大綱に対し先づその実行すべき具体方法を審議し、添付せる別書決定事項に基き実行に移れり。
然しその目的を貫徹する為め組合本部及び各セッソンはその決定事項を厳守し各々の責を全うし決して各自の義務不履行に依り他に迷惑を及ぼさざる事を堅く誓約するものである。
尚本部理事・監事並にセッソン内部理事・監事は各々の責任

と資格に於いて署名し以ってこれが誓約としての証となす。

年月日

○　更生委員会々議録（決議要項）

期日　一九五〇年三月七日年後

場所　蚕種所原蚕飼育場

出席

本部理事　宮尾厚・蓮沼信一・足立功・高木辰雄・平田隆一・井浦久造

本部監事　佐藤収・小松進・藤沢繁一・竹本要太郎

第一役員　瀬下登・北原地価造・内海栄郎・長尾国広・岩本辰四郎・協坂一

第二役員　椎野源之助・前田藤吉郎・宇野利吉・中林義一

第三・オリエソテ　宮丸孫助・可知利助・大塚家慶・斉藤昇・宮西喜蔵

ホルモーザ　寺島庄一郎・上村弥太郎

一、宮尾常務理事開会挨拶

本委員会は定期総会に決定され、更生案大綱の具体的実行方法と更生案実施による事業予算の審議並に決定の権限を与えられて居りますが、今日各セッソンより選出された皆さんにお集

り煩ってこれから御協議決定を願いたいと存じます。

尚最初に各出張所長より選出された役員の方々の御紹介を願います。

各出張所長より夫々紹介され尚本日欠席された人は第一アリアンサ、田中治男氏・新井弥十郎氏、第二アリアンサ依田乙一氏・塩崎正治氏の四名

二、更生案大綱の宮尾理事説明大意

組合今日の行き語りはその資金難が最大原因である。

この資金難を如何にして打開するか、これは組合事業の責任分担経営に依り、即ちセッソンの責任範囲が明示される事に依り各組合員の真剣な協力が期待され延いて組合員生産物が百パーセント出荷される事により解決の遠を計り度いこれが具体策として

一、購買部の責任経営

即ち各セッソンの責任経営とし、仕入・配給・扱品・値段・資金関係等総べて本部の統轄を離れる完全な独立会計である。

二、信用部事業の移管

セッソン事業資金の特資借入・預金の預り並に払出し・貸付の回収・新貸付等所属組合員との関係を各セッソンの責任範囲とし各自の自覚を促し各セッソンの結束強化を計る。

即各セッソンに信用部事業取扱いに関しその責務と権限を移管すると共に本部は各セッソンの貸付金回収状態を監督して預金支払いの円滑をはかる。

三．生産物集荷面の強化

利用部及び販売部は従前通り大体本部直営とするも組合負生産物の集荷面に於いては各セッソンの責任経営とする。

而して本部は入荷生産物に対し現金制度化を実行し、セッソンと呼応して百パーセント集荷を計る。

四、聖銀旧横倍貴金の支払財源捻出

組合金融大半の障害となっている旧債聖銀への償還　財源を本部経営面より捻出する。

本部購買部・本部信用部解消の機構改革による節約面と不要財産の整理に依る収入を検討し三百コントス位を生み出すことに努力する。

五、内部埋事・監事設置

各セッソン責任経営面運営のため内部理事・監事の機関を設置する。

六、更生三ケ年計画予想

イ、蚕種所施設に対し各組合員の三コントス負担に依り約一千コントス償却

ロ、壱千五百コントスの借入金は約壱千コントスの支払いが出来る。

ハ、組合員各自の赤字征服も三ヶ年で支払いが終る。

ニ、新しい季節産業（養鶏・養蚕有畜業）を実施することが出来る。

七、更生初年度（一九五〇年度）の事業予算を樹てること。

八、セッソンの責任経営に依り他のセッソンに迷惑を及ぼさざる誓約書を取り交わすこと。

三、更生案実行に関し協議決定事項

これより具体的実行方法に悶し協議に入る

一、購買部経営に関する協議決定事項

イ、各セッソンは購買部経営利益にてセッソンの経営経費を賄う。

ロ、各セッソンは組合員の予約註文を受け必需品の共同購入をはかる

ハ、本部購買部機構を解消するが、今後大物の共同購入を取纏めその連絡事務は本部に係りを決定して取扱う。

必要なる経費はセッソンで出すこと。

ニ、小物は各セッソンで直接仕入をなす。

ホ、切り換え時期は来る三月十五日、本部・各出張所は休業して一斉棚卸しをなす。

翌十六日からセッソンの独立会計となる。

ヘ、出張所の経費は購買部利益と販売部手数料にて賄う。

ト、本部がセッソンより依頼を受け大物仕入取扱いの場合、現金にて註文を受付ける。

その場合本部経費は取扱高に応じて負担金を決定する。

チ、在庫品の分配。

三月十五日棚卸しに依る各セッソンの在庫はそのまま引継ぐ。

本部在庫は各セッソンの蚕種所償却損失負担割当戸数に応じて分配する。

リ、在庫品の評価は棚卸し原価を以て各セッソンへ引継ぐ。

ヌ、新購入品の配分、ＰＡ資金にて購入する註文済商品内容

を各セッソンへ報告すること。

分配は三コントス割当員数に従業員数を考慮してなす。

ル、チ項の在庫品代金に対し各セッソンは四月・五月の出荷棉で本部に於いて差引くこと。

ヲ、購買部用リーブロ・デ・フィスカールは本部で用意してやり記帳はセッソンでやる。

ワ、仕入名儀を区別するため各セッソンのインスクリッソンの番号及び支店所在地名を入れること。

カ、購買部決算〆切を三月十五日とする。

二、信用部に関する協議決定事項

イ、三月中入金予定のP・A現金配送算定。

全部外部支払いに充てず、一部現金にて出張所へ充てることに決定。

第一アリアンサへ	約	八一、四〇〇、〇〇
第二アリアンサへ	約	四一、四四〇、〇〇
第三アリアンサへ	約	六六、六〇〇、〇〇
ホルモーザへ	約	八、八八〇、〇〇
合計	約	二〇〇、〇〇〇、〇〇

ロ、薬局勘定は売上げを現金で受入れ、今迄の掛借金の支払いに充て且つ仕入予算をたてる

ハ、特別融資はセッソンの責任でなす。

利率はセッソンにより決めて貰うこ、新しい機構取扱いに対し他に迷惑を及ぼさざる誓約書にはセッソン役員・評議員に署名して貰うこと

ホ、組合員に関する勘定一切を各セッソンへ業務事務とも移管する。

へ、各セッソンの組合員貸付金総額は組合員預金総額までを限度とすることを原則とし、金利については　此の限度内に於ける金利の差はセッソンの収入とし、限度以上の貸付金の場合はその金利を本部に支払い、又貸付けが限度以下の場合はこの金利を本部がセッソンに支払うものとす。

而してこの金利は年一割二分とす。

ト、旧債回収金の流用は毎年役員会でその取扱い力を協議決定する。

本年は各セッソンで流用出来ることに決定、

チ、旧債と新債に一線を引き、新債に対する責任はセッソンが負うものとす。

リ、不在者旧債並に未収金中、回収不能分に対し本部では年々切り落して行くこと、はっきり回収不能勘定は本部で特別勘定を設定して整理法を樹てること

ヌ、出荷生産物代よりP・A及び商品代を差引き、現金を各

セッソンへ支払う。

三、販売部に関して

イ、百パーセントの出荷を計るため第三アリアンサでは出荷誓約書を入れて貰うことになっている。

ロ、本部販売部は各セッソンの入荷棉量に対しアローバに就き五百レース集荷手数料量を支払う

ハ、生産物運賃は各七一セッソン平等負担になる様計算する。

ニ、精農・据置貯金の流用、精農貯金をセッソンで運転資金に流用の場合は本部へ利子を支払う。

据置貯金はセッソンで無利子流用とする。

ホ、綿花部経営委員会設置の件。

綿花部経営方針を樹てる。

経営状態をよく組合員に呑み込んで貰うこと。

組合員の動揺も防ぎ、出荷督励にも働いて貰う。

本部理事の外各セッソンから一名宛委員を選出し報告すること。

四、予算編成方針につき協議

逐次協議決定された更生案実行方法に添った事業予算を作成

し近日中第二回委員会を開催し検討すること、尚今迄作成した予算を参考まで報告し、予算は実行予算を編成することに協議せり。

閉会

○　第二回更生委員会々議決議要項

期日　一九五〇年三月十八日

場所　原蚕飼育場

出席者　宮尾・井浦・足立・椎野・中林・藤沢・宇野・上村・斉藤・蓮沼・小松・高木・竹本・宮西・佐藤・瀬下・岩本・北原・長尾・大塚・宮丸・依田・可知・原

一、一九五〇年度本部事業予算検討の件

本部総務部提出事業予算案に対し審議検討、一部訂正して承認さる。

二、引継在庫品代支払の件

本年四月・五月の出荷綿で完済する前回委員会の決定であったが、逐次減収が予想されその実行は到底困難なれば二ケ年賦とし、本年は次のように生産物精算代金より差引き充当することに訂正。

クルゼイロ　　クルゼイロ

籾　一袋当り　五、〇〇　五千袋で

二五、〇〇〇、〇〇

珈琲　〃　一〇、〇〇　三千袋

一〇、〇〇〇、〇〇

棉花　一アローバ　〃　三、〇〇　八萬八千アローバ

二六四、〇〇〇、〇〇

牛　一頭　〃　三〇、〇〇　五百頭

三〇〇〇、〇〇

豚　一頭　〃　五、〇〇　三百頭

一、五〇〇、〇〇

合計

三三五、五〇〇、〇〇

尚来年のサフラ中に終了する予定のもとに引渡商品金額に対しレトラを入れることに対し承認。

三、ホルモーザ出張所独立経営不能の件

ホルモーザ出張所は前回組合員総会では他のセッソンと同様独立経営で行くということで、その都合で来た処、本日になって急拠組合員総会開催され、審議熟考の結果経営不可能を悟り

責任経営は出来ないということになり、その通知に接したのでその前後処置を本部に任せることに決定。

四、精農貯金・特別据置貯金に関して

イ、精農貯金で昨年中三コントス以上になった分は三コントス返戻する。

それで旧債ある人はそれに充当し、旧債ない人は定期貯金とするよう話合って貰う。

定期にも入れないという場合はそのセッソンで払える状態に於ける範囲で支払うこと。

新らしい精農貯金の一九五〇年三月十五日現在額より増加したる精農貯金に対しては各セッソンより本部に対し年一割二分の金利を支払う。

ロ、本年度特別据置貯金は各セッソンで流用するとしてその使途は本年度の農産以外に本部へ支払う商品代に充当する事を決定承認する。

五、金利並にその他

イ、引継商品代未払に対しては月一歩の利子を計算する

ロ、セッソン特別融資金利はセッソンの任意決定による。

但しセッソンの責任負担とする。

ハ、本部対セッソンの利子計算は年一割二分とす。

ニ、引継商品中特別に切り下げを要する物に対しては監事立会いで評価切り下げを行う。

六、其他事浮打合せ

イ、出張所は毎月末残高試算歩を本部へ提出すること。

ロ、出張所は支払語形・コンタコレンテの月末内訳表を本部へ提出すること。

ハ、購入品代支払手形はヂレットリアにて署名すること。

ニ、中央会との取引きは本部を通じてなすこと。

ホ、会計事務は敏速に処理し、諸報告・会計伝票の本部提出を遅延せざること。

ヘ、薬局・アソーゲの売上げはその月中に精算すること。

ト、棚卸し日を以て一線を引き、責任分担経営独立型態とな す。

チ、畜産部の組合員出荷生産品の精算代金は生産品を売上げてから支払う。

但し一ケ月の余裕があれば支払い出来る見込である。

以上

かくして第一アリアンサ・第二アリアンサ(ホルモーザを含む)第三アリアンサ出張所の分離経営が三月十五日を期して発

足したのであった。

二、分離経営　其の二

分離経営の初年度は単に各セッソンの信用部と購買部の経営を移管したのであったが、第二年目即ち一九五一年度には各セッソンにある工場をもそのセッソンにて経営することになった。

第一アリアンサにては珈琲部・製材所・精米所及び第一電気部を、第三アリアンサにては精米所を経営、ために本部は棉花・雑穀・畜産・運搬部及び薬局を経営することになったが、翌五十二年度には薬局経営も各セッソンに移したと同時に畜産加工場は閉鎖、同年十月に宮丸孫助氏に五百コントス二年賦にて売却、永年赤字で成績不良、目の仇にされていた加工場も終止符を打ったのであった。

代って登場したのは養鶏部である。

既に弓場農場では数万羽の養鶏をやっていたが、組合員養鶏家は極僅かで本年度飼育羽数五千九百羽、生産羽数五千三百羽という数であったが、組合がピント・飼料・資金の斡旋をすることによって次第に羽数が増加していったのである。

○　第二ア出張所本部に移管

一九五三年になって第二アリアンサ出張所では生産少く組合員の利用度低く、貸付金の回収もはかどらず経営困難の理由で経営を本部に移管することを希望するに至った。

分離経営の出発点は更生委員会案より出でたるものであるからこの問題も之を全ア更生委員会に代る全ア役員会を招集して検討協議することになった。

一方第二出張所としては八月末第二管内の総会を開いて更生委員を選出、左の如く更生案を決議した。

一、八月三十一日現在にて預金者・負債者共に整理をなし預金（当座を含む）を定期預金とし、負債者はレトラを入れること。

一、組合員は全生産の一割を積立てる。

一、負債ある者は積立金の中より三〇％を赤字銷却に当てる。

一、　全生産物を組合に出荷する。

一、全組合員はP・A借入に協力する。

一、消費を少くし、予算内で生活する。

その後種々折衝の結果翌一九五四年九月廿八日第二出張所役員会は対本部覚書を承認、八月までに逆のぼって本部が責任を持って経営管理に当ることになった。

その執務機構は次の如きであった。

業務並に信用部総覧―井浦、購買部・薬局・監督―平松
会計出納監督―寺島、社会部・組合員接渉並に販売部調査連絡―岩部、購買部売店係―福岡、薬局―古川、信用部事務（貸出並に回収）―井浦、生産・消費調査―岩部
現金出納並に各種オールデン発行―寺島、組合員各勘定帳簿記帳―辺見。

○　第二次更生委員会

第一次更生委員会によって一九五〇年分離経営に移った当初は本部経営維持費は各事業部門に頼っていたが、各セッソンにある事業部門はこれをそのセッソンの経営に移したため、本部としては綿花部のみに頼ることとなり経営が困難となった。
経費捻出のため一九五四年二月廿四日の役員会に各セッソンに於ける取扱生産物の手数料によるか、或は各セッソンにて分担するかとの提案があったが、更生案として組合員の総意によって今日に至ったものであるから、一応更生案の結果報告をし更に組合員の意見を聴取検討の上決定すべきであるとしてここに第二次更生委員会を組織することになった。
更生委員会は本部理事・監事各セッソンの内部理事・監事・評議員代表二名宛及び各出張所長によって組織された本部役員会として決定的な案は出来ていなかったが、井浦常務の案は

一、組合の一元化の達成
一、組合事業の再検討、再編成
一、組合財産の再評価
一、本部事業方針の検討、予算審議決定

等で、これに対し本部並に各出張所の代参者の意見は、

井浦氏　産業組合の一元化達成を目標に置いて委員会はその間如何なる方法、時期、組合員の意向等種々の面より研究検討して一元化を達成さすことが委員会の仕事だと思う。

分離経営は組合の力を分散する。

集荷販売並に購買等総ての点で不利である。

依田氏（第二ア）第二出張所としては本年度の作柄も良好であり、分離の状態で立直り案を再三練り何とか現在を切り抜ける案も出来、組合員もその心構えでおる。

随って合同、分離何れの場合でも運行の見込みはあるが、合同ともなれば尚結構賛成である。

宮尾氏（第三ア）第二・第三出張所共に独立で経営の目安がつかなくての合同はよろしくない。

分離経営による責任を持って仕事をすることはよいが、現在の状態での合同は不可である。

自身のことを自身で処理出来ないものが合同しても無意味である。

個々が立直ることが大切で単なる合同は本部への依頼心のみ

増長さして弱化する。

高田氏（第二ア）第二ア対本部の関係は更生案に反するものだ。

同じ地域内に二つの購買部・組合員等があることは第二出張所自身運営上大なる支障がある。

内海氏（第一ア）更生案の根本策樹立達成のためには、組合員の精神的経済的利益の尊重、組合員の意向の尊重が大切であって、過去の事も含まれるが将来にも起り得る組合員の考え方を今後取り入れて行くべきで、少数の役員に於いて斯の如き重大なる事を決する訳には行かない。

組合の更生といい、強化といっても根本なる組合員の利益を尊重し並にその意同を尊重しなければならない。

第一出張所役員の名において分離経営を主張する。

問題は組合内の流動資金を作ること、組合員の利便をはかることであって、現状では一元化によって得るところは少しもない。

例えば伯銀よりの借入金等はもっとも組合運営の上で危険の多いものであって、自己資金を保有する場合はあらゆる部門に於いて他に金融を求めずして組合員相互の所謂資金の共同化ということも可能である。

本部に於ける井浦氏案は現在分離経営により弱体化されている組合を本来の一元化に戻し強化したいということであるが、種々議論が出て容易に一致点を見出せない。

随って今後検討研究することとなる。

一九五四年三月十八日に第二次更生計画立案委員会が開催され、次の如き議事が行われた。

一、第二次更生計画目標決定（案）

第一次更生計画により実行された責任分担経営に依り各セッソンが把握した自主独立並に相互扶助の組合精神を益々助長しこれを基準として全ア産組を完全な一元化へ復活せしめることを目標とする。

二、目標達成のため樹立すべき根本策

イ、組合精神の徹底的普及策

ロ、生産経済の強化更生策

ハ、組合財産を検討しこれが健全化する調整策

ニ、組合事業を検討し目標に添うべき単一統合策

ホ、増資計画並に新加入獲得強化策

ヘ、組合運営機構改革

三、根本策（更生案）実行方法

イ、各根本更生案の細部に渉る具体的実行法立案につき

ロ、更生案実行機関につき

四、目標達成期間の決定

更生目標達成の期間を決定する

五、本年度事業方針並に予算審議決定

イ、総務部支出予算財源の問題

ロ、本部所管事業部門の決定並に取扱方針

ハ、セッソン所管事業部門の決定並に取扱方針

ニ、各部門の予算審議決定

第二アリアンサ及び第三アリアンサは合同を希望しているが、第一アリアンサは現状にては到底合同することは出来ないとして分離経営を主張、一元化への途はほど遠きを思わせる。

なお更生案に対する第一アリアンサの主張は次の如きであった。

一、聖州銀行の旧債償還支払に関し不要品の再評価をして可及的速やかに売却して旧債償還を極力進行さすこと。

二、各セッソンにて聖銀負債支払分担額の決定と分担。

三、本部維持費の分担(但し本年度のみ、明年度は更に研究)

四、分離経営による各セッソンの責任の強化(他に迷惑をかけないこと)

五、組合の安定化(経営上の安定、流通資金の強化)

六、資産の再評価

○一九五四年度総務部予算決定

一元化問題は程遠しと見られるが、当面の緊急に解決を要する問題は総務部支出予算の財源についてであり、この問題については専門委員第一ア内海、第二ア依田、第三ア小松の三氏を挙げ調査検討して貰い更に審議することとなる。

五月十四日に至り本部更生委員会小委員会で左の如く総務部予算割当てが提出され各セッソン共に承認した。

一九五四年度総務部予算割当

棉花部カンポ・デ・コペラソン利益

棉種子五万アローバ内合格品三万アローバ一〇クルゼイロとして　三〇〇コントス

各セッソン割当

第一ア　施設別子　三五、五〇〇、〇〇

事業割当　六七、四〇〇、〇〇

（精米・加排・ピンガ・製材・購買・薬局）

計　一〇一、九〇〇、〇〇　―　一〇〇コントス

第二ア　施設利子　五、六〇〇、〇〇

事業割当　一九、八〇〇、〇〇

（購買部・薬局）

計　二五、四〇〇、〇〇　―　二五コントス

第三ア

施設利子　一五、四〇〇、〇〇

事業割当　二七、八〇〇、〇〇

（精米・薬局・購買部）

計　四二、三〇〇、〇〇　―　四三コントス

運搬部・雑穀部・養鶏部　―　四五コソトス

合計　五一三コントス

三、蚕種場政府へ譲渡

産業組合の癌といわれていた蚕種製造所も政府へ買上げ申請に対し一九四八年十月評価委員の来村があったが、その後何の反応もなく、組合の更生問題にはいつも障害になる存在、莫大

な借入金は固定して動かず、聖州銀行は強硬にその返済を迫る。

遂に七年賦償還案となり元金と利息で年々約三百コントス宛なしくずして行くというのである。

更生委員会では少しでも見透しをあかるくするため不要資産を処分しよう、蚕種場も各部分に切り離して売り易くしたらどうか？

大体勘定してみると五・六百コントス位にはなるという。

本造住宅なら処分もつくが大施設（本館）となるとなかなかその処分は容易でない。

いろいろ頭を痛めていた折柄一九五四年八月初め頃全く明朗なニュース第一号が入って来た。

政府がいよいよ本腰になってこの蚕種場を生かす考えがあるというのである。

然し丁度折悪しくヴアルガス大統領自殺という事件が起きたため望みは断たれたのではあるまいかと諦めていたところ、八月末、必要な条件を備えておれば州政府で買取ってもよろしいという通知に接したのである。

組合としては条件を整えるべく必要書類の作製、蚕種場敷地のリンパ、各施設の修理等万全の方法を尽くれて成功に導びこうと懸命の努力。

譲渡問題が次第に具体化し、いよいよマヌエル専務がサンパウロへ諸般の手続きのため出張したのが十月中旬、政府側の複

雑微細にわたる移譲手続、その合法化に次から次と要求される書類整備のため二ケ月にわたる滞在を余儀なくされた。

書類が完備されて後は地権切換え署名、代金受取りの最後の段階に来たのが十二月中旬、一応帰村されて再度十二月二十日出聖、この間十一月末移譲手続きの進行に伴って移譲後直接所管するカソピーナス蚕種局より係官六名現場引き取りのため来村、これが接待、円滑な引渡しのため大変な苦労であったが、各役員の骨折りで滞りなく現場引渡し手続き完了。

管理職員三名着任した。

種々接渉が渋滞したのは税務局で一九四九年度の販売税が滞納のまま解除されていないということで邪魔されていたのである。

即ちそれに差し押えられた蚕種場の代金は滞納税を積み立てねば支払いは許さないということで精算されなかったのである。

丁度幸い十二月十日州知事の産業組合の委託販売税に関する法案（雑編参照）署名と相侯って、強制取立て中の滞納税解除のための裁判費用実費の支払い、一九五四年度法令通り納税、並に税務監督帳簿記帳の証明を地方税務局より取得し、これを送付したのがようやく間に合って十二月三十目地権切換え署名と同時に譲渡代金を小切手にて領収三十一日マヌエル専務は帰組されたのである。

（組合便り）

蚕種場売却内容　　クルゼイロ

売却金額	二、四一二、二六七、四〇
聖州銀行支払	一、三五〇、〇〇〇、〇〇
残高	一、〇六二、二六七、四〇
費用	一、一一九、九一四、八〇
アリアンサ産組２／３分担	七四六、六〇九、八〇
チエテ産組１／３分担	三七三、三〇五、〇〇
残高	三一五、六五七、六〇

施設以来約九年間、毎年悩みの種であった蚕種場、聖州銀行への支払いのために苦しんだ金融、支払延期のために生ずる保証問題、毎年二〇〇コントス前後の無駄な利子より生ずる欠損等これらすべてが一掃されたのである。

この問題解決には中央会ピーザ氏・堀氏・ランヂ氏等の尽力に負う処が大きい。

四、綿花価下落による欠損

心臓病といわれ常に金融難の根元であった蚕種製造所の政府買上げにより聖州銀行の旧債も決済しホッとしたのも束の間、一九五五年度経営面にて綿花価格下落による欠損一千八百五十九コントス八百拾クルゼイロ六十センターボス（一、八五九、

八一〇、六〇）を出すに至った。

本年度実棉入荷予想は第一アリソアンサ七千、第二アリアンサ一万二千、第三アリアンサ二万五千、本部扱四万（本部扱の大部分は外部よりの買入）計八万四千アローバであったが、実際に入荷した総量は十三万〇四百九十六アローバに達した。

聖市からの情報は八月下旬には為替変更が行われるであろう。

そのため棉花の値上りは必至と伝えられ、百％これに期待をかけていたが、九月初旬からは精棉価格は漸次下降、なおも為替変更に期待していた各産業組合並に棉花工場は莫大な損失を蒙ったのであった。

アリアンサ産組での実棉建値は五級品アローバ当り最高一四九クルゼイロであったが、九月初旬一四一クルゼイロ、九月末一三五・二〇であった。

一九五六年二月二十六日に開催された通常総会に於いて役員会は本期欠損補充案として組合資産を現在の適正価格に再評価して、その利益を計上する。

但し今年はこのまま明年度へ赤字を繰越し明年度の決算に於いて処理することを提案、承認された。

これによって帳簿上のバランサはとれるが現金不足はそのまゝ持越され、今後の金融困難は当然のこととなった。

ちなみに資産再評価により生じた金額は一、八七七、五七〇クルゼイロ三〇センターボであった。

五、棉花工場運転中止と全ア一元化復帰

換金作物の随一として農家に栽培されて来た棉花も地力の衰退により逐年生産が減少しており、病虫害防除のための農薬の人体に及ぼす害に怖れをなす者もありその栽培面積も減少の一途をたどりつゝある。

一九五七年度入荷総量は二万三千アローバ余であり、一九五八年度に於ける全アリアンサでの栽培面積は第一アリアンサ約六アルケール、第二アリアンサ約四十五アルケール、第三アリアンサ約四十五アルケール、計約百アルケールと見られ、外部から買入れをするにしても工場運転にはその数量が少くな過ぎるということで一九五八年二月役員会では棉花工場の運転中止を決めた。

組合運営経費の主要部分を賄って来た棉花工場、特に分離経営にはいってからは本部経常費の大部分は棉花工場に依存して来たのであった。

アリアンサの組合は棉作者によって維持されているのだと言われて来た言葉は決して過言ではなかったのである。

この棉花工場の運転が中止されたことによって当然起る問題は本部経費捻出財源の問題であり、前からくすぶり続けて来た一元化復帰の問題となったのである。

一九五九年四月十二日の臨時総会によって五〇年以後九年間

続けて来た変則的な分離経営に終止符が打たれもとの通りの一元化に復帰したのである。

なおその後の組合員生産の綿花はまとめてミランドポリス市のエステーベ工場その他に売捌いていたが、一九六四年度よりチエテ産組に出資口を持ち、その棉花工場に搬出して今日に到っている。

六、ミスツラドール設置

一九五二年養鶏部の設置以来組合は資金の斡旋、ピント・飼料の坂扱い、養鶏墾談会を度々開くなどして養鶏の普及に努力して来たため、養鶏家も次第にふえ書の羽数も増加し、養鶏はアリアンサに於ける重要産業の一つにのし上ったのである。

当初は配給を受けた飼料は養鶏家が各自、自分で混合使用していたのであったが、組合としても飼料混合機の設置を決め、カフェー精選工場に隣接して飼料倉庫を建築し此処に能力一時間一トン半の混合機を据えつけ自家発電によって運転を開始したのは一九五八年九月であった。

五九年カフェー精選工場の運転が中止されてからは此処も飼料倉庫となり現在混合機二基が動いて組合員養鶏家の需要に応じている。

七、一元化復帰後の組合

○珈琲精選工場閉鎖

一九五八年棉花工場閉鎖、ミスツラドール設置と事業部門の変遷があったが、なお五九年度に於いてカフェーマキナの運転が中止された。

カフェーの生産過剰から輸出競争に勝つためには品質優良のものが要求される。

輸出用カフェー六割に対し国内消費用三割、肥料用一割と低質カフェー四割を国内に保留することになっているが、輸出用カフェーにしても三・四級以上の良質カフェー(プレフェレンシアール)或は水洗式によるデスポルパードは優先的に輸出許可される。

等級のよいカフェーを出すにはカッタソンが必要で、各工場では多くのカッタドールを入れて撰別を行っているが、農村に於いては多勢のカッタドールを集めることが困難であることが第一障害で、その他にマキナも古くなり、各処修理が必要の段階に来ており、又カフェー生産量も逐次減少して来ているという理由でカフェーマキナの運転を止めることになった。

中央会が一九六三年ミランドポリス市の和田氏工場を譲り受けて運転を開始して以後は中央会に出荷している。

○ピーザ理事長・マヌエル氏共に役員を辞退

一九六一年二月の通常総会に於いてピーザ理事長並にマヌエル・フラウジーノ氏が共に役員就任を辞退した。

太平洋戦争勃発により産組、会社等の役員は三分の二以上伯人たることとのお達しに随い一九四二年五月五日の臨時総会の承認を得て両氏をそれぞれ理事長・専務理事として迎えたのであったが、爾来今日まで足掛け二十年、戦時中の我々邦人農業者組合員の庇護は勿論のこと、戦後の経済面での苦難の時に、特に蚕種製造所の処分に関してその尽力は大なるものがあった。

今日アリアンサ産業組合が存続し得たことに対して両氏の功績は大きい。

なおピーザ氏は中央会理事長として又マヌエル氏は農村協会ミランドポリス支部長として今後共アリアンサ産組と手を組み力を合せて進もうとの力強い言葉があった。

かくして本年度産組役員は理事長北原氏、専務理事安田氏、常務理事原氏の陣容で進むことになった。

（後原氏パラナへ転出したため八木氏を常務として迎えた。）

○国内政治危機に而しての産組

一九六一年一月三十一日衆望を荷って就任したジャニオ・クワドロス大統領は対外的には共産圏との国交再開を進め通商の

道を開き、キューバ支持の態度をとり、米政府首脳の眉を寄せさせていた。

国内的にはクビシエッキ前政府の残した赤字財政立て直しのため厳しい緊縮政策をとり、特恵為替を廃止して単一為替に切りかえ、冗費節約のため何千人もの公務員の免職、勤務時間の延長で事務の能率を上げようとはかった。

また膨大な対外債務の支払延期にこぎつけたばかりでなく米国欧州の諸国から長期借款を得ることに成功し、インフレ追放に立ち向ったのであったが、八月二十五日「反動勢力に打ち負かされた」という意味の辞任メッセージを議会に送って突如辞職した。

この大統領の辞任によってブラジルは十二日間未曾有の政治危機に見舞われたのであった。

即ちゴラール副大統領は共産圏と接近しているとしてその大統領就任を阻止しようとする軍部(サンパウロ及リオ)とこれに反対する南リオグランデ州の第三軍との対立となり、サンパウロとパラナ州境に睨み合いが続けられた。

上下両院合同議会ではこの危機を平和的に解決すべく努力が行われた結果、大統辞の権限を大巾に削って実際の行政権を内閣に移譲するという議会制を採用し、この制度のもとでゴラール副大統領を大統領に就任させることに決まり漸く危機から脱することが出来たのであった。

そして九月八日ゴーラール氏が大統館に、初の首相にタンク

レッド・ネーベス氏が就任した。

かくて内戦の危機は避けることが出来たが、今後のインフレ昂進は異常なものとなったことは確かである。

ジャニオ政府七ヶ月の紙幣発行高は約三〇〇億クルゼイロ、軍事危機十日間に発行された紙幣五七〇億、その中二五〇億は回収されたから実際は三二〇億で合計六二〇億クルゼイロといわれる。

この通貨の膨脹と政治不安は物価の高騰となり、十月には最低賃金四〇％引上げ、一般賃金も同じ水準で引上げられた。

このような物価―賃金の悪循環は一九六四年の革命へとつながるものであった。

一九六三年一月六日は大統領制か？議会制か？の国民投票が行われたが、予想通り大統領制の勝利となった。

政府のインフレ抑制策も効果なく、四月ドル公定レートが四七五から六二〇クルゼイロに引上げられてからは物価の上昇は天井知らずという有様であった。

八月にはサンパウロ州とパラナ州に降霜がありカフェーその他農作物に大きな被害を与えた。

又八月から九月にかけてパラナ州の大山火事で米国からも消防隊が来援する始末。

六三―六四農年は降雨量少く県作物特に米・ミーリョの出来が悪く、大体に四〇％の出来といわれ農家の苦悩は大きかった。

こうした状勢下にあってアリアンサ産組としては鶏卵が年間を通じて高値であったこと、カフェーが予想より収量が多く且つ値段が降霜のために急上昇したこと等が大きな原因で経営成績は良好であった。

組合金融面で一年一作の生産物ではいつも銀行の金融に依存しなければならなかったのであるが、養鶏の普及により常時資金獲得が可能となり此の年以後は銀行金融から脱却して生産物による円滑な金融が行われている。

○革命後の産組

一九六三年から六四年にかけて各種賃上げスト、ブラジリアでの下士官の反乱事件等、国内情勢の異常な空気は大事件勃発を匂わせていたが、遂に六四年三月三十一日の革命となり、ジョン・ゴーラール政権の崩壊、カステロ・ブランコ将軍による革命政府樹立となった。

革命政府は政治情勢の正常化とインフレ抑制、経済の再建に全力を投入し着々とその効果をあげている。

然し一般的に見て景気は沈滞気味であり、国民の耐乏生活はこれを余儀ないこととしなければならない。

一九六七年の初めから商品流通税が実施され、売上げに対し一五％の税金賦課となった。

そしてこの税法改正により従来のあらゆる税法上の恩典特典

は全部廃止されたのである。

この廃止規定は協同組合が享受していた恩典(税金半額の交付金等)又は免税規定(課税の対照とならぬ直接税等)も全部取り上げられてしまったのである。

この税制により農家は非常な苦境に追い込まれたのであるが、種々折衝の結果漸く六月七日のクヤバ協定によってサンパウロ州政府は六月二十八日に法令第四八一四七号を発布して疏菜類・果実類に対して生産費として七〇%割引を認めて残り三〇%に対して一五%の課税をすることになった。

(即ち売上げの四・五%)鶏卵・鶏肉に対しては九月三十日になって官報に細則第四八五五八〇号が発表されて疏菜・果実と同様に四・五%の課税となり六月三十日にさかのぼり有効となった。

(但しこの細則の有効期間は来年六旦二十日迄である。)

然しその他の農産物に対しては依然一五%の課税である。

一九六八年一月になって流通税に関してその税率一五%であったものを本年四月から六月にかけて各月一%宛を引上げる即ち四月は一六%に、五月は一七%に、六月は一八%に上げると報ぜられたが、実際には一七%で止まったのであった。

これらの農業者に対する過重な税金に就いて農業者団体並に協同組合関係から当局に対し絶えず陳情がなされた結果、六八年四月一日から果実・疏菜・鶏卵・鮮魚の州の流通税は免除されることになった。

（郡税は別）

同年十二月三日には初生雛は免税となり、一九六九年三月一日より疏菜・鶏卵・鮮魚・果実・食鶏は郡税を含めて全面的に免税、カフェーを除く未加工農産物の第一次販売並にカフェーを除く農畜産物の輸出は免税ということになった。

三月一日には聖州内精棉にも流通税免除、四月十五日からは馬鈴薯・玉葱・アーリョ・花卉・マンジョーカの州の流通税は全面免除となった。

（一九六九・七・三〇）

この流通税に関する問題は今後なお変改があるであろうことが推測される。

○　第一出張所事務所新築

第一アリアンサ出張所の古い事務所は一九二七年、移住地の初期、当時建設中であった精米所及び製材所工事の機械技師の住宅として建設されたもので、後、移住地医師勝田正通氏が住宅として住み、その後移住地事務所となり一九三九年信濃海外協会理事の移住地整理案に基き同年末産業組合へ引継がれたものであるからその使用年約三十九年となる。

土地が蟻の巣のためにゆるみ、建物に亀裂が生じ、屋内で事

務を執るにも危険を感ずる状態にたち到ったために一九六五年一月廿九日事務所新築案が提議され、建築委員として田中治男・高木由松・山上武雄・瀬下猪市・安田敏勝・小野太右エ門の六氏が選任された。

事務所を一時元の病院に移し、古い建物の取り壊し作業次いで新築工事が進められた。

新事務所は前面十五米、奥行八米、高さ三・五米であり、床はセメントリーゾとし、窓は鉄格子ガラス入りの近代式のもの十二個、天井は板張りである。

室は中間を仕切って三宝とし、大室を事務所用前の右側は応接室とし、その奥を古い書類の倉庫としている。

費用約四・五七六コントス。

一九六六年五月七日落成式を行った。

○信用部廃止、定款改正の臨時総会と第三出張所購買部落成祝

一九六六年十一月に発令された新協同組合法によると、信用事業を一般組合の取扱いから取除いて中央銀行の管轄下に置き銀行法によって運営せしめられることに規定された。

そのために農業協同組合が信用部門を兼営することが困難な状態に置かれたのである。

組合員の預金は組合運営の内部資金として重要な役割を果し

ていたものであるが、それが出来なくなることは大きな痛手である。

この新協同組合法発令については前もって知らされていたので、アリアンサ産組では七月四日第三アリアンサに於いて臨時総会を開き、信用部廃止を決議し定款の改正を行ったのであった。

新協同組合法が改正され兼営組合に信用部復帰の日が来るまでは致し方ない仕儀であった。

なおこの日、第三出張所購買部建物新築イナグラッソンが行われた。

建物の大きさ、八米七〇×一一米五〇

一九六六年二月一日起工、六月三十日竣成

費用総額二・九九三・三一新$。

○　精米所・製材所その他

移住地が開拓され尽くして原始林が殆んどなくなり、籾の生産が減少、各農家の食用米程度しか生産されなくなったので、産組としては第二アリアンサ精米所は一九五八年これを閉鎖し、第一アリアンサの精米所は同年七月小型精米機(八時間運転で三十二俵)と取り替え運転していたが、一九六八年五月廿日にいたり一日運転して白米が四〇―五〇俵の性能のものと坂り替えた。

また第三アリアンサの精米機も古くなったので一九六八年十月第一アリアンサのと同じ性能のマキナと取替え運転している。

製材所も原木がないため継続して運転することが出来なくなり、時折賃挽きを行う程度で殆んど休止の状態である。

又特筆すべきことは組合が組合員の生産物を取扱ってその手数料のみに頼る従来の行き方から脱して、直接に養鶏場と牧場経営に乗り出したことである。如

何なる結果をもたらすか注目に値することであろう。

一九六七年度直営養鶏場飼育羽数七・八〇〇羽、牧場面積十二アルケール、牛七四頭である。

一九五〇年度より一九六八年度に至るアリアンサ産組損益決算を示せば

年度	利益（クルゼイロ）	欠損（クルゼイロ）
一九五〇	—	四四・九〇九・一〇
一九五一	一四二・一七八・七〇	—
一九五二	一四七・二〇三・一〇	—
一九五三	六七・九八〇・一〇	—
一九五四	三五六・九二三・三〇	—
一九五五	—	一・八五九・八一〇・六〇
一九五六	一二〇・九二三・一〇	—
一九五七	二四・一八八・七〇	—

一九五八	二一・〇八〇・二〇	—	—
一九五九	八四・四五七・七〇	—	—
一九六〇	二五・〇四九・六〇	—	—
一九六一	—	四〇九・七七六・三〇	—
一九六二	二・五九八・〇七〇・四〇	—	—
一九六三	三・三一四・九九八・〇〇	—	—
一九六四	一二・三五六・六三七・〇〇	—	—
一九六五	一六・二五三・五九三・〇〇	—	—
一九六六	五〇・〇一九・〇七〇・〇〇	—	—
一九六七	二五・七〇八・四九（新クルゼイロ）	—	—
一九六八	三〇・一三五・九一・〇〇	—	—

八　アリアンサ農業者産業組合三十年祭

一九三九年四月一日第一、第二、第三アリアンサ、ノーバ・アリアンサ、ビラ・ノーバ及びホルモーザ各産業組合が合同してアリアンサ農業者産業組合として発足してから今年一九六九年は満三十年になる。

四月五日産組三十年祭が第一アリアンサ会館で催された。

回顧すればアリアンサ産業組合の歩んで来た道は発足当初から茨の道であった。

第二次世界大戦は金融面に打撃をもたらし、一九四一年十二月祖国日本の参戦により存続か解散かの瀬戸際に立たされ、極

度の苦汁をなめざるを得なかったが、幸いにフランシスコ・アントーニオ・トレード・ピーザ氏を理事長にマヌエル・フラウジーノ・コレア氏を専務理事に迎えて小康を得たのであった。

次いで前景気のため蚕種場建設に莫大な支出、而も蚕種配布開始半歳を出でずして繭価の暴落に遇い、これが産組の癌として数年間脅威の的であった。

この経済的行詰りを打開すべく一九五〇年に各セッソンの分離経営に移行、一九五九年まで続いた。

その間一九五四年には待望の蚕種場政府買上げが実現したが、翌五五年には棉花価下落による大欠損の憂き目を見、また数年間の金融困難を現出した一九六三年頃からは養鶏による常時金融が可能となり、一年一作のための銀行金融から脱却し得て金融面ではかなり楽な状態となった。

然し一九六一年のジャニオ大統領辞任による政治危機から六四年の革命、その後革命政府の国家立て直し策、と緊張の連続であり最近の銀行法、組合法、税法等の改正は協同組合の立場を苦境に追い込むことになった。

とにかくアリアンサ産組の三十年は苦難の歴史であった。

併しながら我らの組合は単なる産業面だけのものでなく、教育、保健、衛生等一切の自治的面をも加味し、村造りを推進して来た功績は大なるものがあったと云えるであろう。

祭典次第は午後四時第一会館の前面にて来会者全員の記念撮影の後、着席。

最初に組合関係者の病没された人のために一分間の黙祷を捧げて後、田中委員長立って組合三十年の歴史を略述、なお今後の協力を要望して開会の辞を述べる。

次いでマヌエル・フラウジーノ氏から始まって来賓の祝辞が続き、組合員代表小松進、従業員代表寺島庄七、ＣＥＤＡＣアリアンサ支部代表村井敏彦諸氏の挨拶があって、アリアンサ組合関係功労者元理事長ピーザ氏・元専務理事フラウジーノ氏・元理事長北原氏・元常務理事森田氏・中央会関係堀氏及石川氏の六氏に記念品を贈呈、従業員廿年組山上・寺島・辺見・倉地の四氏にも記念品を贈って八木専務の挨拶でシュラスコ会に移る。

食後来賓諸氏は弓場農場でバレエ鑑賞、会館では若い人々のバイレで終る。

来賓の氏名を列記すれば

産組中央会理事長

全伯産組連合会理事長　フランシスコ・アントニオ・トレード・ピーザ

元アリアンサ産組理事長　北原　地価造

産組中央会相談役　堀清

産組中央会相談役　石川文夫

チエテ産組理事長　手島薫

チエテ産組専務理事・産組中央会専務理事　八木健次

カフェーラソジヤ産組理事長　田川九一

産組中央会マリリヤ種鶏場々長　森田万二
マリリヤ産組理事長　桜木安五郎
ミランドポリス農村協会長　マヌエル・フラウジーノ・コレア
ミランドポリス日会長　福田左兵次
ガラサイ郡長代理・郡議　中島勝己
ミランドポリス産組専務理事　栢野桂一
ミラソドポリス前郡長　サベーロ・トラモソテ
ミランドポリス郡長代理・郡会議長　アントニオ・モレシアル
ミランドポリス裁判長　エドウィルソン・アレシャドレ・ローレイロ
聖州組合連合会　アゾール・トレード・バーロス
の諸氏であった。

二、産組中央会合

ミランドポリス倉庫

近郊産組が地方に出張所を開設することにより地元産組が撹乱されるのを憂え、又養鶏と孵化は不可分の関係にあるから、孵化場を設置することによって地方産組の養鶏事業を振興しようという狙いのもとに産組中央会が直営でミランドポリスに孵

化場を開設したのが始りである。

同倉庫の大要は次の如きである。

年	月	日	
一九五四	六	二	倉庫開設（醇化場設置）
一九六〇	六	一	購買部設置
一九六二	七	一〇	種鶏場開設
一九六三	三	一二	カフェー・マキナ設置
一九六五	二	一	アメンドイン工場設置

一九六七年度

一、種鶏飼育羽数　二五・〇〇〇羽

金額（新クルゼイロ）

一、種卵個数　一・八六九・〇二八個

二六四・八七二・〇〇クルゼイロ

一、孵化部配給雛羽数

バビコックB―三〇〇　メスビナ　五九九・五八六羽

四八七・七七四・一八

同　オスビナ　五・二三五〃

一九五〇・三三

バビコックB―三九〇　メスビナ　二五・二八五〃

二〇・一六五・八四　　オスビナ　二一・五五九〃
同　七六一・六六五〃
三・三〇〇・五六
計
五一三・一九〇・九一

備考一九六八年度配給予想　五十五万羽

一、倉庫組合員数　養鶏六九名　其他八七名　計　一五六名
内　アリアンサ在住者
第一ア　九名
ホルモーザ　二名
第二ア　一名
第三ア　二名
計　一四名

一、倉庫事業部門
購買部・販売部・木工部・種鶏部・孵化部・運搬部

取扱分量
購買部（一般商品・農薬・飼料）　七六七・三〇四・二八
販売部
鶏卵　四一・〇七〇箱　九九一・八四〇・五〇

珈琲（コッコ）五三・九七三俵　七七九・四五四・〇〇
アメンドイン　九・二五一俵　五一・九〇二・五三
アルゴドン　一五・八八八アローバ　九二・一五〇・四〇
蔬菜・果実その他　六三・七七二・九三
計　一・九七九・一二〇・三六

運搬部門　メルセーデス・ベンツ二台
事務所用トヨタ二日、孵化部ヒナ配給用コンビ一台
種鶏場にジッペ一台あり。

一九六六年十一月発令の新協同組合法によって中央会に個人組合員が直接加入取引することが許されないことになったので、此処も単協設立に迫られている。
（一九六七・十二月）

一九六八年十月二十四日ミランドポリス産業組合の創立総会が行われた。

三、アリアンサ地方に於けるコチア産業組合員の動勢

一、一九六二年十一月十七日第一アリアンサ会館に於いてアリアンサ地方及びミランドポリス地方のコチア組合員でミランドポリス・コチア農業協同出荷組合として発足

一、事業として販売購買業務をコチア産業組合と契約し賦合で行う。

一、一九六四年七月一日コチア農業協同組合ミランドポリス倉庫と改称す。

一、組合員数　二〇五名

内

第一アリアンサ　三三名

第二アリアンサ　一四名

第三アリアンサ　一〇名

一九六七年度事業分量

販売　一・九八五・五七六・〇〇新クルゼイロ

購買　三一七・四五六・〇〇　〃

一、現在コチア聖西農業協同組合ミランドポリス倉庫と称す。

一九六七年度倉庫主任　黒岩義雄氏

部落代表代議員　小橋義雄氏である。

四、産業

一　珈琲

世界のカフェー生産の半分はブラジルが占めており、ブラジルが輸出によって稼ぐドルはその約六割はカフェーにょってであるといわれる。

カフェー生産地帯もモジアナからノロエステ、パウリスタへと南に移動して今では北パラナがその本拠となりつつあるが、霜の危険が多く、又今までのように奪略農業を続けるならば二・三十年後には此処も衰微して行くと考えねばならない。

今後のカフェー園経営は合理的な施肥、表土流失防止、細心の採集法によって多量にしかも良質のカフェーを得るよう研究が進められなければならない。

然し一九六六年九月に連邦政府はカフェー生産縮少計画を発表、六六―六七年のサフラから一千万俵減少させる目的をたて、カフェー樹を抜根し他の農作物に植え変えさせる方針で、これに支払う補償金として百五十七億クルゼイロを計上した。

今日ＩＢＣ(ブラジル珈琲院)に在庫量は六千万俵でこの中輸出可能のものは二千五百万―三千万俵といわれている。

現在アリアンサのカフェー樹数は

第一アリアンサ　三一万六千本

第二アリアンサ　四万五千本
第三アリアンサ　七万七千本である。

左に一九五〇年から一九六七年に至る産組に入荷した俵数を掲ぐ。

年度		年度	
一九五〇	三・三〇一俵	一九五九	七・九一七俵
一九五一	三・三四六〃	一九六〇	二・九二三〃
一九五二	二・六二五〃	一九六一	六・四九八〃
一九五三	一・四六九〃	一九六二	一・〇八二〃
一九五四	四・四三一〃	一九六三	五・九〇三〃
一九五五	七・一五二〃	一九六四	十二・八八九〃
一九五六	二・三四八〃	一九六五	七・六〇三〃
一九五七	五・一五二〃	一九六六	四・四九九〃
一九五八	五・〇三六〃	一九六七	八・五五二〃

二　棉作

戦後の棉作の特長はアルケール当りの収量が非常に増えていることである。

これは施肥と病虫害に対する消毒に負うもので、アルケール当り三百アローバというのは普通作になっている。

無肥料栽培の時代にアルケール当り二百アローバというのは上出来の方であった。

地力の減退している今日、無肥料では百アローバを穫るのも難かしいであろう。

住地の棉作は一時、生産金額で首位を占める程盛んであったが、栽培面積も徐々に減少、一九五一・二年の頃には六・七百アルケールであったものが近頃では百アルケール前後である。

一九五〇年度より一九六七年度に至る産組取扱数量並にその金額年度

年度	アローバ	金額（クルゼイロ）
一九五〇	五七・五八九	五・四八七・三五九・六〇
一九五一	九〇・二三四	九・五八六・四六六・八〇
一九五二	一四六・五六六	一二・四七九・一八八・五〇
一九五三	八六・七六六	九・〇六三・一八七・七〇
一九五四	八二・一十六	二・八三〇・五五二・〇〇
一九五五	一三〇・四九六	二〇・〇五七・五七五・五〇
一九五六	六〇・三四六	一〇・八一四・五一四・四〇

一九五七	二三・三四六	七・六八〇・二三九・二〇
一九五八	一二・四七六	
一九五九		
一九六〇	不明	
一九六一		
一九六二	八・七二六	六・四九二・〇五二八〇
一九六三	七・一三五	八・五二八・四一九・五〇
一九六四	八・二七八	二五・四〇六・八七三・
一九六五	一五・三四二	六五・八七五・三八七・
一九六六	三三・四六〇	一八九・五九七・一七九・
一九六七	一五・六八四	八四・六四〇・一一新クルゼイロ

三　養鶏

弓場農場では早くから数万羽の養鶏を行っていたが、アリアンサ一般に普及され始めたのは一九五二年産組が養鶏部を設置してからである。

養蚕の衰退と各地の養鶏の好成績に刺激されて、徐々に養鶏家が増加していったのであるが、特に産組中央会が一九五四年六月ミランドポリスに孵化場を開設するに及んでチエテ、アリアンサ、ミランドポリス近辺の養鶏は非常な便宜を得たのである。

一九六〇年度に於けるアリアンサ産組々合員養鶏家は四十三

戸でピント・中鶏・成鶏合せて五万六千四百羽であった。

北米で優秀な経済鶏を作り出し、中南米・欧州・日本にまで輸出しているが、これがブラジルにはいったのは一九六〇年頃で、その優秀性が注目され、一九六二年中央会その他近郊主要組合が北米著名の種鶏場から優秀鶏ピントを大量に輸入、翌六十三年度からの組合員養鶏家への配給ピントは殆んどこれに切替えられた。

中央会が輸入した種鶏用ピントはバビコック種、キンバー種、ハイスドルフ・ネルソン種の三種でサンパウロの各地に何れが適するか比較飼育するということであったが、現在配給されているピントはバビコック種である。

これらの改良された鶏はいずれも在来種に比して鶏体、鶏卵が斉一で駄鶏が少く、産卵開始後一ケ年間の平均産卵率は七十五％内外といわれている。

一九六六年ＣＥＤＡＣの調査によると全アリアンサに於ける飼育羽数は十万九千五百羽となっている。

産業組合に出荷された卵の数量と価格を年度別に示せば

年度	ダース	価格（クルゼイロ）
一九五二	四五一七三	四一三・一九二・五〇
一九五三	二六五・〇十六	二・一一七・九五四・二〇
一九五四	二三七・七八九	三・七三〇・八八二・三〇

一九五五	三八八・七二一	七・四九三・三七三・九〇
一九五六	三六九・八七〇	九・八〇二・二二七・〇〇
一九五七	三六三・五三八	一一・七七九・一二一・六〇
一九五八	—	二一・〇九〇・九四〇・七〇
一九五九	六〇〇・一八一	二七・六一二・一三四・九〇
一九六〇	四四八・四二三	二八・〇二七・〇四一・四〇
一九六一	四五九・五四四	三四・九〇二・三八二・〇〇
一九六二	六〇二・〇八二	六八・二四二・五九七・三〇
一九六三	五二三・七七〇	一〇四・五四〇・二三五・二〇
一九六四	七二〇・二一三	一四七・八七一・七八五・
一九六五	七六二・四五七	四〇八・三六二・一三八・
一九六六	一・〇四三・六一〇	六六七・九四五・四五九・
一九六七	一・二二七・九三〇	九八四・一八〇・四九〇・新クルゼイロ

近時地力の減退に対し施肥が重要事となっているが、養鶏家は自家製肥料を大量に使用し得るところに大きな強みがある。

四　畜産（牛・豚）

第二次大戦後の移住地人口の移動については前述したがこの転出したあとを買受けた人々はこれを牧場として経営するものが多く、ために牧場面積は広大なものになっている。

現今第一アリアンサといわれる地区（当初の二千二百アル

ケールの外に近隣地も含まれる）の面積は日系人所有のものは二千六百四十アルケール、伯人所有のもの三百七十一アルケール、計三千〇十一アルケールであるが、その中パストの面積は日系人のもの一千四百八十一アルケール、伯人のもの百四十一アルケール、計一千六百二十二アルケールで、半分以上がパストとなっている。

これに飼育されている牛の頭数は一九六七年四月の調査によると日系人によるもの三千百九十七頭、伯人によるもの四二六頭、合計三千六百二十三頭であった。

一九六六年ＣＥＤＡＣで調査したものによると全アリアンサで牛の飼育頭数は六千六百八十六頭となっている。

豚は全般的に副業として飼育されている。

第一アリアンサ　（六七年四月）　二・六一〇頭

全アリアンサ　（六六年ＣＥＤＡＣ）五・二三三頭であった。

五　一九六七年第一アリアンサの生産（組合員）

綿花	八・五〇〇アローバ
ヒマワリ	三・一一六キロ
大豆	五・三四四キロ
珈琲（皮付）	六・四一五俵
落花生	二・五七四俵
グワンヅー	四・五八〇キロ

籾　　三・五七六俵

鶏卵（組合員外を含む）三五・六〇〇箱

なお今後に期待される産業としてイタリヤブドー栽培が挙げられる。

南伯産組技師平松薫氏指導の下に栽培に踏み切るべく確実視される向きが既に全アで十七・八名あり気候的に早期出荷が可能で、価格的に有利であろうとの観測である。

或はアリアンサの特殊産物となるかも知れない。

その他カフェーに代る永年作物として果樹（柿・みかん類）栽培に志す者も幾分増加しつゝあるが、今の所村の産業という域にまでは達していない。

（一九六九年三月）

雑篇

一、記録

一農業振興センター（ＣＥＤＡＣ）本部規約

第一条　本会は農業振興センターと称しＣＥＤＡＣの略称を用うる

第二条　本部を聖市中央会事務所内に置き地方支部を統括する

第三条　本部は本会の趣旨に賛同する男女三十名以上集った地域に規約に則り支部を結成す。

一項、支部は本部で計画する活動を受入れる。

二項、本部は支部が行う地域的な活動に協力する。

三項、支部活動が本会の趣旨に反した場合は支部を本会から除名する。

第四条　本会の会員資格は本会の趣旨に賛同する男女で何れかの項に該当し支部役員に承認された者。

一項、中央会関係組合員又はその家族者

二項、中央会関係組合の従業員及その家族者

三項、一・二項の該当者の他、本会の趣旨に賛同し支部役員の承認ある農業関係者。

四項、会員が本会の趣旨に反した場合支部役員は除名し得る。

第五条　本会は正会員・準会員の別に分ける。

一項、正会員は支部役員の選出権をもち、活動の中心となる十八才以上四十五才までとする。

二項、準会員は十八才以下及四十五才以上とし役員の選出権

及被選出権はないが、本会の趣旨に協力し他の会員の特典は享受出来る。

第六条　地域的に支部が行う活動に対する会費は地方の任意であるが、本部の行う活動に対する会費は原則として徴収しない。

一項、本部活動の経費は中央会の負担。

二項、活動範囲の拡大に伴い州政府の援助を申請する。

第七条　ＣＥＤＡＣ役員は一ヶ年の活動計画を中央会理事会の承認を得る。

一項、一連の活動の中、組織・販売・購買に関する決定は理事の承認を必要とする。

二項、本会の活動に要する会員及役員の地方派遣についてはそれぞれが属する局の主任と相談し、センター活動と組合との仕事を円滑化する。

三項、本部会員の地方派遣については本部企画部が中心となって計画し中央会各局と折衝する。

第八条　本会の役員中正副理事長及第一書記はＣＥＤＡＣ役員が推薦し中央会理事会の承認を得る。

但しその任期は一ヶ年で一月一日より十二月三十一日までとする。

一項　承認された役員は本部活動に必要な各部の担当理事を本部会員中より選出し理事会を結成する。

二項　役員会及本部総会は第一書記が招集する。

三項、本会の役員会は本会の趣旨に則り行う活動を執行し、支部が選出する幹部役員二名に対し各々三名ずつの候補を挙げる。

四項、選出された支部の三役員は必要に応じ各部の部長を任命する。

以上

二　農業振興センター（ＣＥＤＡＣ）

アリアンサ支部規約

一、本支部は産業組合中央会農業振興センター（略称ＣＥＤＡＣ）アリアンサ支部と称し、アリアンサ農業者産業組合内に所在する。

二、本支部はアリアンサ農業者産業組合事業区域内にあるＣＥＤＡＣ会員によって組織され協同組合精神によるＣＥＤＡＣの主旨に基づいて計画された諸事業の遂行に協力し、又当地方の特殊性に即した自主的事業に主力を置き文化産業その他の活動を行う。

三、本支部の目的はアリアンサ農業者産業組合の事業区域内に居住するＣＥＤＡＣ会員を結合し、其の生産面・指導面・文

化衛生面等に就きＣＥＤＡＣ本部と連絡を持ちその経済・文化・衛生其の他の利益指導を計るを以て的とする。

四、本支部はその活動と事業管理の為左の機関を設ける。

Ａ、総会

Ｂ、幹部会（支部長・副支部長・第一書記・第二書記）

Ｃ、役員会（各班長「第一・第二・第三及ホルモーザ」及幹部役員）

Ｄ、委員会（畜産部委員・農産部委員・文化部委員）

五、支部総会は本支部最高の機関でＣＥＤＡＣの主旨に基本き本支部が行う全般の事業活動の承認、事業方針の検討並に決議をすることが出来る。

Ａ、通常総会は毎年一月中に召集され左の条項を審議し承認又は決議する。

一、事業経過及会計の報告

二、支部役員の選出

三、事業計画

四、規約の改正

五、其の他

Ｂ、臨時総会はその召集に際して召集日的及び議案を明示せねばならない。

Ｃ、通常総会及臨時総会は本支部の属するアリアンサ産業組合理事会の承認を得たる後支部長の名を以て召集する事が出来る。

六、本支部にＣＥＤＡＣの規約に基いて選出された左の幹部役員を置く。

支部長一名、副支部長一名、書記二名

支部長は支部を代参しＣＥＤＡＣ本部及他のＣＥＤＡＣ支部との会務の交流を計り又他の団体との話合の必要ある場合役員会を召集してその決議に基き代行する事が出来る。

副支部長は支部長を補佐し支部長事故ある時それを代理する。

第一書記は記録・通信・会計を司り、その人選は組合従業員中より選ぶ。

第二書記は第一書記を補佐し第一書記事故ある時はそれを代行する。

七、幹部会は支部幹部役員によって構成され構成員は四名とする。

A、本支部に属するＣＥＤＡＣ会員の加入承認及び脱退承認

B、支部活動に必要なる対策を講ずる。

C、部門の設置及び廃止

D、地域班設置の承認並に廃止の承認

E、部門の運営に必要なる役員の任免

F、特別問題の調査研究委員の任免

G、通常総会又は臨時総会に必要なる議事の選択。

八、役員会は支部活動を円滑且つ有効ならしめるための協議

機関でその必要に応じて随時全役員又は協議事項に関連ある一部役員によって開催される。

九、委員会は特別問題の調査研究を委嘱された委員によって部門別に組織されその調査及研究の報告をする。

十、ＣＥＤＡＣ正会員及準会員の本支部に対する権利義務はＣＥＤＡＣ規約の定める処に従う。

十一、本支部は原則として会員から会費を徴収しない。

但し支部総会が決議した場合又は会員が承諾した場合、会費或は割当金を徴収することが出来る。

十二、本支部はその事業運営の円滑を計るため或は産業組合事業に協力するためアリアンサ産業組合幹部と常に連絡を保ち随時必要に応じて双方の役員を交えた合同連絡会議を催しその徹底を期する。

十三　本規約の改正は支部総会の承認を得なければならない。

十四、ＣＥＤＡＣ規約中支部を規定する条項の改正又は追加の場合、本支部規約と抵触する事ある場合は本規約改正までＣＥＤＡＣ規約に従って解決される。

十五、本規約に規定されていない事項はＣＥＤＡＣの規約又は主旨に基いて解決する。

三　産業組合の委託販売税に関する法令

一九五四年最終読会を無事通過した産業組合の委託販売税に関する法案(詳しくは産業組合税金関係債務の精算並に免税その他に関する州知事案)七九三〇号は十二月十日ついに州知事の署名を経て法令第二八五五となって実施されることになった。

この法令の内容は次に掲げる細則に見るように全面的免税を主張する産組側の当初の要求は結局において容れられなかったことになるが、一九四九年分から五年間の数十万コントスに及ぶ産組側の滞納税金を本年度を始めとして向後真面目に納めることによって順次取消するということと組合が納入する税金の半額に相当するものを組合融資及組合員のための社会的助成金に廻すという産組側にとって大きな便宜が与えられている。

細則

第一条　本法令第三条規定に該当する聖州農務局産組奨励課に正式に登録され正規の運営をなし、更に本年度納税義務を履行しつつある民事産業組合の一九五四年以前の委託販売税及び取引関係の債務は本令の定むるところに従いこれを清算する。

単項＝本条に規定される課税負債とはその税金及渋滞による罰金と追徴金並に税法不履行による罰金をも含む第　二条　本年度及び向後各年度の税金を正規に支払うことにより次の各項に定める処によって課税関係債務を取す。

第一項＝本条に基き各年度の納税を履行することにより四九年よりの税債務を古い年度より順次取消すこと。

第二項＝税債務の強制取立に対し裁判中のものはその組合の裁判費用その他を予め支払いたる後取消されること。

第三項＝税債務取消しは前項規定の諸費用支払済の証明書ならびに当該税務局の前年度税金支払済通知書を添付の上、毎年二月二十八日までに申請書を税務局長宛に提出して許可を得ること。

第四項＝本条規定の条件に適用されざる場合本年度の定める取消しを無効とし税金負債の強制取立を続行するものとす。

第三条　一九五四年一月一日以降の税金を納入せる民事組合は税法を遵守せるものとして本令規定の恩典を享受す。

単項日一九五四年一月一日より四月十五日までの税金納入については本年六月以降の後半期間各十五日毎に滞納額支払を履行しつゝある各組合には本条項を適用、渋滞罰金及び付加金額を免除する。

第四条　本条の規定を参酌し消費組合及び生産販売（ミスタ）組合購買部の販売取引税を免除す。

第一項＝本条の消費組合及び産業組合の消費部（購買部）の取引きは下記の場合免税を享く。

イ、その組合員に対してのみの販売。

ロ、奨励局の発給する「組合が適法に運営されつゝある」証明書により財務局がこれを立証する。

ハ、業務上免税となるべき取引は正式に記帳をなし且、総ての監督上法的規定要件に合致することを要する。

ニ、兼営産組購買部の取引を他と別けて記帳する。

ホ、記帳及び証明書類の検査に従いその監督事務を妨げない。

第二項＝本条第一項ロに定める証明書を添付し毎年前年度末（十二月三十一日）までにその免税を申請する。

第三項＝本条規定に違反する場合、特に本条第一項イに反する場合、徴税法に定められている滞納罰金をも課しその免税の恩典を即時停止する。

第五条　消費組合及び兼営組合購買部の取引販売税の債務は取消される。

単項＝本条の徴税取消しは税金債務以外の滞納罰金、違反科料・追徴金をも含む。

しかし既決の負債に対する裁判費用支払を除く。

第六条　本法令に定める規定は既納の税金額返還を認めず。

第七条　納税に異議を申立てる組合は本法令の特典を享けない。

第八条　故意に文書を偽造したり帳樽又は価額の改変等をなしたるによる如何なる税金債務も本法令による特典を享受することが出来ない。

第九条　税務監督局長はその職権内にて本法令を適用し疑義解決に当る。

第十条　州予算に産組既納の税金総額の半額に等しき交付金を計上、最終年度末の皆納金を基準とする。

単項＝本条の交付金は政府により本法令発効日より三〇日以内に組合及び生産組合員に対し農業貸付及び社　会事業助成発展の目的を以て交付される。

第十一条　一九三八年十二月廿七日法令第九八六五号第五十条の規定と徴税法第一章及び第二章の当該条項第二条二項及び第六条ロ項を照会し次の規定を再録する。

「農畜産組合及びその生産者組合員の行う取引販売及び農機具・肥料・種子・苗・駆虫剤・農薬剤・畜産物及び一日雛の取引きは免税とする。」

第十二条　本法令はその発布の日に発効し、これに抵触の法令を廃棄する。

註、一九六七年初頭から税法改正が行われ、商品流通税が実施され、この委託販売税に関する法令は廃棄された。

二、在聖市アリアンサ学生寮

一、アリアンサ学生会と称し主としてアリアンサ移住地出身の学生を収容す。

一、発足は一九五五年一月五日で学生諸君の要請により父兄会を代参して佐藤収氏が発会式に参加した。

一、所在、聖市ルア・ドン・アントニオ・ヂ・メーリヨ一六八番、電話三六―一五四六

○収容人員と風紀問題

一九五五年度から一九六〇年度までの収容人員は不明である。

一九六〇年度から一九六七年度までは寮の部屋数に限定があって男女合せて年間二十名内外、時に都合で二・三名超過することもあったが、中途で他に転属する者も出来、結局八年間を通算して一六〇名。

それに五五年から六〇年までの人員を加算すると約二五〇名内外と推定される。

そこで三十名内外の籠城組を差引くと十三年間に大体二二〇名の者がこの学生会を経て社会に進出している訳である。

（この中には他の地方からの学生も少数は混じっている。）

風紀に就いては男女学生が一つの寮で起居して居る関係上左記の規則を設けている。

一、礼儀を守り相互に勝手の行動は供しむこと。

一、夜間外出の場合は関係者にその旨を届けること。

一、寮内の男女関係は清潔を保って行くこと。

○学生会出身者を職業別に見ると

医師三二名、大学教授一名（工学博士）歯科医二名、農業技師二名、軍人一名（陸軍大学卒業）高等学校教諭二名、高等商業教諭一名、中学教諭四名、電気技師二名、会計士二名、栄養士二名。

以上判っている者だけ列記してみたが、比の他に幾多の人々がそれぞれの分野に働いている事と思うが判然しないのは遺憾である。

○現在寮に居る者で通っている学校は、サンパウロ綜合大学二名、マッケンジー大学一名、カトリック商科大学二名、大学予備校二名、高等工業学校一名、高校学校二名、高等商業学校一名、師範学校二名、中学校一名、だけは判っているが他は不明である。

○学生の融和

親元を離れて一番頼りになるのは友達である。

同じ村に育ち同じ小学校を出て遠くサンパウロに勉強に出て、一緒の寮で起居の出来るということはこれ程心強いことはない私は出聖の折、何時も学生寮を訪れて感ずることは此処の学生は大変融和性を持ち、お互い親近感を持って、一家庭内に在る如く寮生活を楽しんで居るということである。

昔から「一事を成し遂げた人にはその蔭に盟友あり」と云っているが、お互い信頼の出来る友達を持ちたいものである。

○経営の内容

建物は借家である。

すべて共同計算制で学生の中から会計責任者を一人選び、毎月の諸経費を算出し、一人一人に割当てる。

世話人は寝食を共にし世話料は無料である。

自分等の経営する寮であるから他の営業者と異って諸経費を安価にあげるよう努力している。

なお監督一名、相談役二名、父兄代表一名を置いている。

寮費は原則として前金制をとる。

物品の購入は主に現金払の関係からである。

寮費滞納二ケ月以上になると会計から父兄に通告する。

父兄からの滞納分支払は会計宛直接送金することになっている。

一九六四年以前の寮費については不明であるが、一九六五年度は月平均四十コントス(旧)六六年度五十コントス、六七年度は約六十コントスとなっている。

○将来への希望

日本から補助金を貰いそれに全伯からの募金によって建設された立派な施設を持つ学生寮を対照とする訳ではないが、此の学生寮も年と共に入寮希望者が増えて来、随って部屋の増設、娯楽機関の設置、衛生施設・図書室の完備（現在ある参考書類は先輩諸氏の寄贈によるものである。）等が目前に迫られて来ている訳である。

要するにこの問題を解決して行くには子弟を持つ父兄はもとより、村が一丸となって右の諸問題をよく検討し理解し合って、将来学徒の安心して勉強し得る完備したおらがアリアンサ学生寮にしたいと望む次第である。

（一九六八・六月　新津今朝雄）

三、第一アリアンサ降雨量統計

一九五八年より一九六三年まで佐藤収氏観測、一九六三年九月より一九六五年六月まで弓場農場観測、一九六五年六月より現在まで北原地価造氏観測による。

一九六四年一月・五・六・七・八月及十二月、一九六五年一月―五月の記録不明である。

尚参考のため戦前五ヶ年間（一九三八年―一九四二年）の雨量統計を掲載する。

昔の年間雨量は大体平均していたようだが、最近のは非常に

不規則であり、量も少くなっている。

第一アリアンサ　標高　四百七十八米
南緯　二十度〇三
西緯　五十一度二九

第一アリアンサ降雨量十年間の統計

（1958年－1967年）

月/年	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967
1	318.0	204.6	436.6	164.0	144.2	161.7	—	—	79.3	33.9
2	145.9	297.0	374.7	156.8	129.8	137.4	204.1	—	190.1	216.4
3	168.8	53.1	70.3	151.5	221.5	184.6	32.3	—	92.1	173.4
4	59.3	51.2	132.6	143.3	0.0	65.2	53.8	—	52.5	17.7
5	66.3	57.5	41.3	16.9	4.1	0.0	—	—	223.7	0.0
6	53.6	3.5	92.4	0.0	194.2	0.0	—	15.6	3.5	48.7
7	46.8	22.1	0.0	0.0	1.5	0.0	—	90.7	6.1	8.1
8	1.2	31.7	22.0	9.6	21.5	5.1	—	4.1	29.3	0.0
9	63.7	37.1	0.7	25.6	18.8	26.2	30.3	27.0	26.3	19.4
10	49.7	109.2	136.3	60.1	205.8	44.3	161.8	100.6	233.4	108.0
11	96.7	98.3	157.6	63.3	83.2	129.3	108.5	130.2	21.4	82.0
12	167.6	57.5	136.8	94.9	89.7	27.9	—	279.6	89.5	130.4
計	1816.2	1052.8	1601.3	886.1	1113.7	779.7	—	—	1293.9	838.0

第一アリアンサ
標高四百七十八米
南緯　二十度〇三
西経　五十一度二九

戰前五年間雨量統計

(1938年 ～ 1942年)

月/年	1938	1939	1940	1941	1942
1	185.2	228.8	98.7	185.8	23.1
2	62.7	86.5	273.0	163.6	306.2
3	233.6	126.8	80.6	165.0	150.3
4	50.1	144.7	162.6	17.6	120.4
5	116.9	151.6	60.4	10.7	85.1
6	33.3	188.5	0.0	0.0	130.1
7	0.1	45.3	51.0	78.2	28.7
8	0.0	0.0	12.4	53.8	0.0
9	25.2	37.2	1.3	86.1	58.6
10	299.2	107.2	126.1	56.1	34.1
11	59.4	228.9	170.9	121.1	155.0
12	296.8	197.6	229.5	295.3	301.3
計	1362.0	1476.1	1212.5	1353.6	1392.9

四、アリアンサ農業者産業組合理事並に監事

（自一九五〇年至一九六九年）

役員＼年号	一九五〇	一九五一	一九五二	一九五三
理事長	フランシスコ・アントーニオ・デ・トレード・ピーザ	同	同	同
専務	マヌエル・フラウジーノ・コレア	同	同	同
常務	宮尾厚	井浦久造	同	同
理事	井浦久造	内海栄郎	同	同
理事	蓮沼信一	神沢久吉	同	同
理事	田中治男	宮尾厚	同	同
理事	足立巧	同	同	高田正巳
理事	平田隆一	同	同	同
理事	高木辰雄	同	同	同
監事	アルシーデス・フアレーロス	岩本辰四郎	田中治男	北原地価造
監事	佐藤収	塩崎正治	中尾喜代二	藤沢繁一
監事	小松進	大塚家慶	可知利助	大塚家慶

一九五四	一九五五	一九五六	一九五七	一九五八
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	内海栄郎	同	田中治男	同
同	田中治男	同	北原地価造	同
同	安田敏勝	同	同	同
同	依田乙一	同	同	同
同	小松進	同	平松岩一	藤沢繁一
同	同	同	原定雄	同
同	宮丸孫助	同	山口一郎	同
蓮沼信一	北原地価造	村井敏夫	内海栄郎	小松進
依田乙一	藤沢繁一	新津今朝雄	藤沢繁一	新津今朝雄
村井敏夫	可知利助	森田一男	尾関恭一	高田正己

一九五九	一九六〇	一九六一	一九六二	一九六三
フランシスコ・アントーニオ・デ・トレード・ピーザ	同	北原地価造	同	田中治男
北原地価造	同	安田敏勝	同	八木修平
田中治男	同	原定雄	八木修平	小松進
原定雄	マヌエル・フラウジーノ・コレア	八木修平	永田久	高木由松
マヌエル・フラウジーノ・コレア	原定雄	内海栄郎	同	山本伝之助
渡辺五八	同	田中治男	同	森田覚
中林義一	同	同	同	安田敏勝
後藤克巳	可知利助	細田一郎	同	井上金之助
大石友明		永田久	寺島庄七	同
工藤信平	井上金之助	岩本辰四郎	山本伝之助	岩本辰四郎
森田一男	内海栄郎	森田一男	森田覚	平田良夫
尾関恭一	遠藤守巳	可知利助	村井敏夫	尾関恭一

一九六四	一九六五	一九六六	一九六七	一九六八	一九六九
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	安田 敏勝	同	井上金之助	同	上村 卓爾
同	山上 武夫	同	富岡 源治	同	山上 武夫
同	新津 英三	同	堀江 周二	同	島崎 正夫
同	高田 正巳	同	林 瑞穂	同	
同	森田 一男	同	上村 卓爾	同	
同	小松 進	同	島崎 正夫	同	
同	井上金之助	同			
森田一男	斉藤 昇	富岡源治	村井 敏夫	色川 信	井上金之助
山上武夫	高木 由松	上村卓爾	森 平蔵	寺島庄一郎	森 平蔵
林 一夫	平田 良夫	林 一夫	平田 良夫	高木 俊一	森田 豈

五　物故せるアリアンサ移住地建設功労者略伝

一　輪湖俊午郎氏

アリアンサ移住地育ての親の一人故輪湖俊午郎氏は明治二十三年（一八九〇年）六月二十八日長野県南安曇郡梓川村に父岩吉母琴の三男として生れた。

明治三十九年（一九〇六年）松本中学二年の時北米合衆国へ渡航。

同年カナダ・ビクトリア市日本聖公会にて大山牧師より洗礼を受ける。

滞米七ヶ年一般労働、勉学、新聞記者等人生の苦難は一通りなめる。

大正二年（一九一三年）北米の排日法通過に憤慨しブラジルに移住する。

大正五年（一九一六年）故金子保三郎氏と共に日伯新聞を創刊、翌大正六年移民会社の機関誌としてブラジル時報の創刊に際し初代松村総領事の懇請により編集長として入社す。

大正七年五月移民募集のため現任のまま帰国、海外興業会社の嘱託となり、海外発展を力説、宣伝、移民募集につとむ。

大正八年（一九一九年）二月廿八日松本市島立の浅野利久治氏長女利津江さんと結婚、同年三月珈琲園移民及びイグアペ植

民の輸送監督となり再渡伯す。

大正九年ブラジル時報を辞しイグアペ植民地に入る。

大正十年(一九二一年)たまたま日本力行会長永田稠氏が南米一巡の途路、同植民地に来訪の時、北原氏宅でゆくりなくも逢い、肝胆相照らすところとなり、永田氏のすゝめにより単身再び帰国、信濃海外協会の設立、移住地建設案の基本調査等にあたり大いに活躍する。

大正十一年一月信濃海外協会の設立を見、専任幹事となり、移住地建設案を本間知事に提出し、信濃海外協会ブラジル支部長として帰伯、セッテバラス植民地に土地を求めて植民者となる。

大正十二年(一九二三年)移住地建設案が可決され移住地選定のためバウルー市に転住する。

移住地選定については当時バウルー領事であった多羅間鉄輔氏が委任され、多羅間氏はこれが全権を輪湖氏に委嘱したのであった。

輪湖氏は北西年鑑の編纂にことよせ密かに土地の踏査をなし、約一ヶ年の歳月を費しアリアンサ移住地を唯一の候補地と決め、多羅間氏に委細を報告した。

大正十三年(一九二四年)五月永田稠氏は移住地選定の重責を帯びて渡伯、多羅間、永田、輪湖、北原の四氏が実地検分、相談の上移住地を決定した。

そうして移住地の名「アリアンサ」はこの時輪湖氏によって

命名されたという。

ここに於いて永田氏は臨機の処置として輪湖、北原両氏を現場理事に任命帰国した。

斯くして両氏は同年十一月千古斧鉞を知らない原始林に乗り込み、一切の準備を整え移住者を迎えたのであった。

アリアンサ移住地が今日ある所以のものは輪湖、北原両氏の卓越した識見と献身的努力の結果に負う処が多い。

移住地にあって、輪湖理事は主として外交方面を担当した。

この年輪湖氏の筆になる北西年鑑が出版された。

昭和二年（一九二七年）末移住組合連合会専務理事梅谷光貞氏（前長野県知事）来伯、同専務の懇望により輪湖氏は連合会に関係し法人ブラ拓の設立、土地買収、移住地設計等基本計画に参画した。

昭和三年八月チエテ移住地買収を終わり、アリアンサ移住地と兼任のままチエテ移住地の現地責任者としてこれが開拓に着手する。

昭和五年（一九三〇年）一月統一案即ち信濃、熊本、鳥取及富山の四協会移住地を統一しブラ拓に移管するの案を提げて帰国、奮斗努めたが成らず、昭和六年移住組合連合会田付理事長並に梅谷専務の辞任にともない輪湖氏も共にブラ拓を辞任す。

帰伯後は専らアリアンサ移住地経営に努力する。

即ち単独更生策を樹立、更生アリアンサ会、アリアンサ連合会を設立自ら会長となり大いに移住地の面目を一新した。

昭和八年満期引退、昭和九年（一九三四年）二月西沢本部理事の整理案によって移住地理事も亦引退、チエテ移住地の自己の農園に入りチエテ移住地連合会自治会長として重きをなした。

昭和十四年五月「バウルー管内の邦人」三千部印刷。

昭和十五年（一九四〇年）皇紀二六〇〇年に際し帰国、滞在八ヶ月「ブラジルに於ける日本人発展史」編纂にあたり上下二巻の約三分の二を担当執筆す。

同年外務省のすすめと満州国の招聘により在外国同胞代表の一人として満州国に赴き、ブラジル在住の邦人より送られたる皇軍慰問袋を傷病兵に手渡す。

同年帰伯の船中にて自伝の一部「流転の跡」―北米渡航より大正八年迄―を著作し日本に於いて出版する。

昭和十六年（一九四一年）日米開戦、翌年二月第五列の嫌疑によりサンパウロ収容所に十一ヶ月収監さる。

一九四九年日本力行会五十年史海外編の発刊に際し委嘱されて全頁五三五頁申ブラジルに関する分三五六頁を執筆する。

一九五八年六月日本移民五十年祭の一記念としてブラジル移民に関係せる知名物故先駆者列伝を編纂することになり二十数名を委嘱され略伝を執筆す。

一九四八年終戦直後コロニアの各界未だ混沌たる頃力行会支部の主だちたる人々が立ち上り二世運動を開始し手始めに学生会を組織し、奥地よりの遊学生の為め寮の建設を決議した。

輪湖氏はチエテより呼ばれてこの難事業の中心となり奉仕すること前後六年、当時としては稀なる立派な殿堂を完成した。

この寮は既に数百の人材を社会に送り出している。

一九六五年病を得て九月八日チエテの自宅にて逝去された。

行年七十五才であった。

日本政府からは同日付を以て勲五等瑞宝章を授与された。

二　故石戸義一氏（牧師）

明治七年（一八七四年）六月二十八日岡山県久米郡柵原村大字高城に父石戸益太郎母あさの次男として生れる。

明治二十二年（一八八九年）八月小学校卒業をあと八ヶ月であるのをやめて退校、上京して苦学する。

明治二十五年（一八九二年）千島択捉島にて新漁場を開設していた水嶼隣多氏の処に勤めることになり五月七日退京、千島へ出発。

同島にて虹鱒の人工孵化、缶詰製造等の伝習生として働く。

明治二十六年（一八九三年）五月七日函館メソジスト教会に

て洗礼を受ける。
明治三十年五月六日露領サガレン島漁場探検に出発。
十月黒竜江沿岸ニコライエフスク方面を視察、明治三十二年（一八九九年）六月ニコライエフスク対岸に択捉より権詰工場を移転設置する。
同年九月二十六日八ヶ年の雇われ漁業生活から独立する。
時に年廿六才であった。
シベリヤを経て欧露に入ろうと志したが、途中考えを変更して露国が建設に着手したハルピン市に行き同市にてラムネ製造に従事する。
明治三十三年（一九〇〇年）夏ハルピンにて北清事変勃発に際会し、露国官憲は内外人全住民の引揚げを厳命したが、氏は引揚げ船から引返し守備のカザック騎兵六百の中に居残り、戦の始終を見る。
七月二十七年六月約一万の支那軍の来襲あり、戦斗始まる。
連日激戦。
八月四日臨時備砲装置をなした露国仮装軍艦十三隻に陸兵一ケ師団を分乗せしめた援軍来る。
この時六百のカザック騎兵は三八〇に減っていた。
ハルビン滞在一ヶ年にして一先づ日本に帰る。
明治三十四年（一九〇一年）春露国が柳樹屯（後の大連）を祖借して大都市建設に着手したことを聞きこれに赴かんとして先づ旅順に渡り、シーマン商会に入店、後日露貿易商会に入店

す。
日露の風雲急を告げるまで旅順に滞在、三十七年二月四日長崎に帰着する。
同日日露開戦となった。
日露戦役中は陸軍糧株運搬請負業に従事、三十八年三月十日の奉天会戦の捕虜三万五千人の輸送に際し露語通訳として就任する。
同年七月腸チブスにかかり後送され広島に帰着する。
明治三十九年(一九〇六年)五月二十三日島森まゆ子さんと結婚、六月ウラジオストックに渡り日本品輸入貿易に従事する。
明治四十一年(一九〇八年)三月六日浦潮にて長男活郎君出生。
この年夏浦潮を引揚げて大阪に帰る。
後大連に移り食糧品雑貨店、石炭販売に従事する。
翌四十二年九月五日長女出生福子と命名。
明治四十三年(一九一〇年)八月四日大連にてまゆ子夫人昇天、行年二十七才であった。
大連を引揚げて大阪に帰り、子供二人を夫夫親戚に預け九月二十五日浦潮に渡航、日露商会に入店する。
大正五年(一九一六年)三月三十一日日露商会を辞し独立し積荷、揚げ荷の請負仕事に従事する。
この年船舶界は好況で眼の廻わる程の忙しさであったが、日

曜の礼拝は守り抜いたという。

一九一七年露国革命勃発。

大正七年(一九一八年)四月四日午前十時浦潮の石戸氏事務所に露国陸軍の服装せる兇徒の侵入にあい襲撃され、令弟清一氏は即死、親戚勝浦時雄氏は頭部を撃たれ、石戸氏は三弾を受け減死の重傷を受けた。

出血のため段々気の遠くなるのを意識しながらも「神よわが霊魂を受け給え」と祈り全力を集中して自分の血で床上に「神よ」と大書したと云っている。

これ程の重傷にも拘らず不思議にも生命を取りとめることが出来たのであった。

この遭難事件のため翌五日、日本海軍陸戦隊の上陸となり、市街警備にあたったので市民の治安は維持せらるゝに至った。

大正八年(一九一九年)五月十八日新修築の家屋二階を教会堂とし、一階を石戸商会事務所及び住宅となし、午前十時より浦潮基督教会の献堂式が挙行された。

大正十三年(一九二四年)露国赤軍の圧迫日々に激しくなり領事館は認められず、郵便取扱いは中止され、在留同胞の財産は没収同様の取扱いを受くるに至ったので、居住の見込み立たず五月七日土地家屋工場船舶等をそのまま残こし置き、身を以って日本に引揚げる。

大正十五年(一九二六年)ブラジル渡航を決意し、五月五日横浜にて商船ラプラタ丸に乗船。

一行は勝浦時雄福子夫妻、時雄氏令弟茂雄氏、石戸氏、活郎氏の五人であった。

七月二日アリアンサ着、第一アリアンサ第四区入口より二番目のロッテに入る。

昭和二年一月三十日日曜学校後屋外野天にて小学教授を始める。

この小学校教授は昭和三年三月廿五日まで続け、新設小学校に引雅ぐ。

昭和二年八月三十一日アリアンサ会発会式あり会長に瀬下登氏、副会長に石戸義一氏当選、石戸氏は二期にわたり再選重任中、昭和三年十一月廿五日キリストのこと一日も忽にすべきにあらずと感じ辞表を提出、爾後一切の公職より離る。

氏は入植以来毎週中央区にて基督教の集会を続けて来たが、昭和三年三月四日この聖徒団を「ありあんさ基督教会」と命名した。

昭和七年(一九三二年)三月廿七日アリアンサキリスト教会堂が新築落成し、翌三三年十月一日氏は独り此処に移り住み伝道に専念した。

一九三九年に至りアリアンサ移住地に先発隊が入植し、天幕を張り初夜の夢を結んだその地点を聖地とし、これを永遠に伝える為めに建碑を思いたちアロエーラ材にて碑を建て十一月二十日入植記念碑除幕式を行った。

昭和廿一年(一九四六年)六月二十七日より神経衰弱のため

一ヶ年半弓場農場にて静養する。

同年十月二十二日口頭で移住地牧師たることの辞任の申出でをなす。

一九五九年になって入植記念碑を永久に残すために石碑建立を提案、自ら募金に奔走、サンパウロ州、リオ州、パラナ州等を行脚し一九六〇年十一月二十日入植記念石碑の除幕式を行う。

一九六三年四月病床に臥し十四日昇天、八十九才であった。

葬儀は翌十五日村民葬で行われた。

三　故瀬下登氏

明治二十年（一八八七年）十月二日長野県南佐久郡野沢町（現佐久市）に生れた。

野沢中学第一回卒業生である。

明治三十九年（一九〇六年）北米に渡航、土木工夫或は鉱山工夫監督或はレストラン経営等あらゆる辛酸をなめた。

在米十九年、大正十三年北米の排日法案のため、日本民族永住の地にあらずとして大正十四年（一九二五年）正月日本に帰り、同年七月二十日横浜より出航のマニラ丸に乗船、ブラジルに再移住する。

九月十六日アリアンサ着、九月廿四日第一区第一号地に入植した。

爾来四十年自己農園をアリアンサ随一の模範農園に仕上げ、

他面村建設のため献身的に活躍された。
初代二代のアリアンサ会長を初めとして一九三一年十月アリアンサ会連合会設立に際しては庶務会計部長に、三三年にはアリアンサ会副会長兼産業部長に、一九三八年十月第一アリアンサ協同組合の結成に際しては組合長に選出され、一九三九年四月全ア農業者産業組合が合同してからはその理事として常に村建設のために尽疲された。
創設十年の「その頃を語る座談会」の中に瀬下氏の次の談話がある。
「北米生活二十年を清算して三十九才で此処に来た。
苦い時はコスモポリタンを夢見、自らその実行者たらんとした事もあったが、北米生活の苦しい体験からあくまで民族中心に進むべきであることに転向した。
日本民族は日本民族としての自負とプライドを捨てる時それはジプシーにも劣る世界の棄民でしかない。
日本民族はあくまで天地に通ずる不動の道義を基調とした世界征覇を夢見ることにのみ移住の意義が発見され使命がある。
骨抜き人形のような同化主義者には僕はむしろ嘔吐を催す。
アリアンサを完成するにもこのプライドを持ち続けることが先決問題だと思う」と。
理想を追う者は常に若々しい。
氏は万年青年の概があった。
晩年は桜沢如一氏の正食論に共鳴、伯国修養団の講師として

各地に正食論の講演に行脚された。

一九六六年三月十二日第一アリアンサの自宅にて永眠さる。行年七十九才であった。

四　故松沢謙二氏

第三アリアンサの開祖松沢謙二氏は旧姓中村、明治三十四年（一九〇一年）三月十八日石川県金沢市池田町で生れた。

大正七年（一九一八年）三月富山中学を卒業、小樽高商に入学を許可されたが行かず、同年七月東大農学部（駒場）実科に入学した。

病気のため一ヶ年休学したが、その間大正八年十一月より九年七月まで婦負郡倉垣村にて代用教員となる。

大正十一年四月農学部実科卒業、東京西ヶ原の農事試験場に勤務、大正十二年（一九二三年）三月農事試験場を辞して四月長野県南安曇農学校教諭となる。

同年十二月一日歩兵第三五聯隊へ一年志願兵として入隊す。

大正十三年十一月満期除隊となり十二月七日若林王喜さんと結婚する。

大正十四年一月より三月まで富山県中新川郡東水橋にて代用教員をつとめ同年七月富山県福野農学校教諭となる。

大正十五年（一九二六年）時の富山県知事白上祐吉氏が積極的に海外発展運動を進め、昭和二年一月富山海外移民協会が設

立され、更に現第三アリアンサに千三百アルケールの土地を購入、移住地建設が企画されるに及んで移住地現場派遣理事として松沢氏が選ばれる。

昭和二年三月富山県高岡市の松沢松次郎氏と養子縁組をなし松沢姓を名乗る。

同年六月五日先発隊として嘱託伴邪惣十郎氏並に吉田儀作氏、場屋健二氏の四家族十一名を従へサントス丸に乗船神戸を出発、七月二十一日サントス着、二十七日第二アリアンサ移住地に到着、一先づ同収容所に旅装を解いた。

八月十一日第三移住地内(第二アリアンサコトベロ河から二百米の地点)に天幕を張り開拓の第一歩を踏み出したが、同所は低湿地であったため松沢氏先ずマレータの洗礼を受け、高熱に悩まされながら地区割その他開植準備を進め昭和三年六月初めて第一回移住者を迎え入れることが出来た。

この間の氏の苦斗は筆舌に尽し得ない多くのものがあった。

第三アリアンサ移住地経営については富山・信濃両協会が共営で進め順調な発達を遂げたことは氏の献身的努力に負う処が頗る多い。

一九三四年(昭和九年)一月富山移住組合事業を向後四年間ブラ拓で管理することになり事務の引継ぎを終り、四月一日氏は職を辞して四区の奥を借地して一入植者として農耕に従事することになった。

一九四六年一時弓場農場に寄寓したが一九四八年第三アリア

ンサに戻った。

一九五五年病気にかかり静養に努めていたが、一九六三年十月十一日病あらたまり六十二才にて逝去された。

五　故北原地価造氏

アリアンサ移住地育ての親であり、終生をアリアンサの為めに献身された北原地価造氏は長野県高遠町字長(おさ)藤の出身であり明治廿七年(一八九四年)一月一日父文右エ門、母とみの四男として生れた。

長野県立上伊那農学校を卒業後、更級郡農業技手として暫らく奉職していたが、勃々たる雄心は遂に海外発展を志し、大正六年(一九一七年)夫人と共に〃たこま丸〃に乗船、十二月一日サントス入港、海外興業会社のレジストロ植民地に土地を購って入植した。

一九二〇年力行会長永田稠氏が南米一巡の途路レジストロの北原氏宅に宿り一夜を明かしたが、この時移住地建設について肝胆相照し、将来を期して別れた。

これが北原氏がアリアンサ開拓に挺身した因縁となったと思われる。

この時の様子を永田氏は〃南米一巡〃に次の如く述べている

〃南米に渡航して以来、始めて我輩の先生に遇うたような気分になって傾聴することが出来た。

人格者の将来に多大なる期待をしている〃……と。

一九二三年ノロエステ線グワランタン駅ジョゼ・シケーラ耕地に入耕、移住地建設のためカフェー栽培の研究に従事する。

一九二四年十月一月アリアンサ移住地の購入が決定、直ちに北原氏は輪湖氏と共に移住地理事に任ぜられ、十一月二十日北原氏夫妻は大工座光寺与一氏夫妻、青年一人と共に農具・測量機・種子等を携えて入植、ルッサンビーラ駅から三十六キロ米の地点（現在入植記念碑が建っている）に荷物を下して、開拓の第一歩を踏み出した。

掘立小屋を建て、井戸を掘り、十二月にはいって三アルケールの土地に籾ミーリョ等を蒔き、座光寺氏は入植者を迎えるための収容所建築にかかり、北原氏は自ら測量機をかついで測量し移住者の地区の区画をした。

そして翌一九二五年七月第一回の入植者を迎えるまでの準備が漸く整った。

開拓初期の苦労は筆にも言葉にもつくせないものであった。

ついで世界的パニックの余波を受け移住地の経済的行詰まりに直面したが、北原理事はよく耐え、よく忍び、苦境を打開し、善処して行った。

一九三四年二月、十ヶ年の重責を終えて輪湖理事と共に信濃移住組合理事の職を退き、自己の農園にはいる。

一九三六年四月四日夫妻にて訪日の途につき、翌三七年四月二日サントス入港のラプラタ丸にて帰伯した。

同年六月二十七日区長会の懇請によりアリアンサ会長に就任、一九三八年六月八日西沢太一郎氏によって展開された第一移住地一元化運動に北原アリアンサ会長は委員長として活躍、産組・加工組合・教育会・共済会等一切を合流せしめる第一アリアンサ協同組合を難産であったが、同年十月十六日誕生せしめ、北原氏は副組合長に選挙された。

次いで一九三九年四月一日全アリアンサ農業者産業組合が発足、第一アリアンサ協同組合もこれに合流、北原氏は初年度は監事に、一九四〇年度四一年度には理事に就任した。

一九四五年古屋常務理事が病気療養中から北原第一出張所長が常務代理となり、なお四六・四七・四八年度常務理事として就任したが、蚕種場建築資金の赤字借入、農作物の不作等により金融は極度に逼迫しており、生繭の値段の釣瓶落しの下降に予見される莫大な赤字を可及的少額に食い止めようと北原常務の苦悩は非常なものであった。

あらゆる部門に亘って事業運営に検討を加え、能率を挙げ、経費の節減等万策を講じた。

即ち蚕種場政府買上げ請願、蚕種部の人員整理、第三アリアンサ乾繭所廃止、畜産加工場の売り込み、売店の廃合、貸付金回収等あらゆる産組病源撲滅を考慮して行われた。

この時の苦悩は開拓初期になめた苦労にも匹敵するものではなかったろうか？

その後一九五三年・五五年には監事、五七年・五八年は理事、

五九年・六〇年は専務理事、六一年・六二年理事長を最後に公職を退き、組合の顧問として又村民のよき相談相手として終始された。

なお一九六四年には日本政府より移住事業の功労に対して藍綬褒章を、伯国地理学協会からブリガデイロ・ジュゼ・ヴィエイラ・コート・デ・マガリヤンエス章を、ミランドポリス市より名誉市民権が贈られた。

一九六九年六月末頃から病床に就き、九月九日吉野牧師司式で受洗、九月廿一日午後四時四十五分昇天さる。

翌廿二日アリアンサ文化協会連合会葬で告別式が行われた。

行年七十五才であった。

日本政府から九月廿一日附けで勲五等瑞宝章が授与された。

六　退植した人々の消息

永田稠氏の要望もあり、退植者の消息を載せることになり調査を始めたのであるが、調査が非常に困難で、かなりたくさんの洩れがあると思われる。

三邦字新聞に広告を出し回答を求め、その他は入植者名簿から抜き出して、細川末男氏その他の人々に依頼して調査したのであるが、漸く七五名の回答を得た。

あまり詳しくては紙数が増大するから、極簡単に入植及退植年月、現住所、現在の仕事、農業なら土地所有面積、農業内容、

商工業その他の場合もその内容、家長夫婦健在か、死亡した場合はその年月、子供何人居て、何をしているか、何か特殊なことがあったらそれを。

ということで申告を求めた。

御協力下さった細川氏その他の方々に厚くお礼申上る。

足立功

入植一九二八年、退植一九五三年

現住所北パラナ、マリンガ市、貸家業

夫婦健在、子供男四、女三

有馬肇

入植一九二八年、退植一九三六年

現住所ヂアデマ市アベニーダ・サン・ジョゼ一〇郵函五一

商業、種子農薬品等販売、アリアンサで結婚、妻登代子、交通事故で一九六九年五月十二日死亡、子供男二女四、長男衛、冶金技師、次男徹、大学工科在学、長女次女、既婚三女四女、小学校教師

故浅見文蔵、妻キクノ

入植一九二六年、退植一九五四年七月

現住所北パラナ、マリンガ市、夫文蔵一九六八年十二月廿七日死亡、子供文雄、読芽栽培、借地。

近、農業、所有土地四アルケール、敏也、商業、正人、自動事業

浅見光雄
入植一九二六年、退植一九四七年
現住所カンポ・デ・モロン市
精米業、子供男三女一

芦部安夫
入植一九二四年、退植一九六三年
現住所カンピーナス、ペードラ・ブランカ
半アルケールのシヤーカラ、果樹・鶏・夫妻健在、子供三、長女、既婚次女、ホサナ福音伝道団神学校へ献身、長男ソーザ市サナトリオに静養中

榎原正秋、妻清子
入植一九三〇年、退植一九四九年
現住所サンパウロ市ラグナ・カブラウ街五九
洋服業、父好種、一九四九年第一アリアンサにて死亡、母とめ健在、長女綾子、学生・銀行員、長男武、学生・事務員、次男・学生

房前儀三郎

一九二七年第二アリアンサに入植、一九三〇年第一アに転住、一九四〇年退植
現住所バウルー市クッシー・ジュニオール街郵函二二四
製綿工場経営(各種フトン綿並にエストファメント等)妻イシ、一九三〇年一月二十一日死亡、長女次女健在、二人共製綿工場共営、長男、一九六四年七月十六日交通事故にて死亡

藤沢繁一
入植一九二八年一月、退植一九三六年
現住所聖市
時計商、子供男三、女六

本間征夫
入植一九二八年、退植一九五五年
現住所グワラサイ新生農場

故原英実、妻フサエ
入植一九三五年二月、退植一九五一年
現住所サン・ジョゼー・ドス・カンポス、アペニーダ・サン・ジョアン四六〇、
家長一九五五年十月十七日死亡、子供男五女四、長男喜晴、イタンピー孵化場雌雄鑑別士、次男真英、航空会社勤務、三男四男、商社勤務、五男大学生、長女次女三女既婚、四女、セン

チヒコ二年生

橋本松助

入植一九二九年十月、退植一九四九年十月

現住所、北パラナ、マリンガ市アベニーダ・ブラジル四八三八、電話二六二一

オフイシーナ・アモルテセドール、運送業、夫婦健在、子供七人

橋詰秀雄

入植一九三〇年、退植一九四五年

現住所聖市ペルジーゼス区バルチーラ二九三カーザ一四

長女の美容院に同居、夫妻健在、子供男三女三、長男、写真業

橋本宗一

入植一九二九年十月、退植一九五四年十月

現在所聖市サンターナ区イミリン・ルア六、四四番

菓子職、夫妻健在、子供七、女の子は既婚、末子は高等工業卒カンピーナス市のブツセル社勤務

橋本鶴太郎

入植一九二八年、退植一九五四年

現住所北パラナ・ジュサーラ
子供男四女六、長男静雄、雑貨商、次男光雄、貨車運転手、三男順治、薬局、四男登志男、銀行員、貞女次女五女、既婚、三女四女六女未婚。

芳賀芳郎
入植一九三四年、退植一九六一年
現住所モジ・ダス・クルーゼス
日本語の私塾のかたわら野菜作り、夫妻健在、長男は別に独立、次男三男、会社勤め（三男はかたわらモジ工科大学へ）長女は家で美容院開業、次女三女四女、モジの中学へ

東元愛三郎
入植一九二六年、退植一九三九年
現住所マット・グロッソ州アキダワナ市
農業十アルケールの借地農、米作専門、妻・一九四八年日本にて死亡、子供四名日本にて健在、来年四月自分も永住帰国の予定

広岡垂治
入植一九二六年八月、退植一九四一年
現住所ミランドポリス市
産組中央会従業員、一九三九年結婚、子供九人

岩波とめ
入植一九二五年、退植一九三五年
現住所モジ・ダス・クルーゼス郵函五
夫・菊治、一九五二年死亡、子供男一女三

夷塚弘道
退植一九四六年
現住所聖市アベニーダ・リンス・デ・バスコンセーロス二四一二
キタンダ経営、子供男一女六

井口勉
入植一九三四年一月、退植一九五五年九月
現住所ビリグイ市ルア・パルマーレス六二一
養鶏専業、約半アルケール、鶏五千羽、夫妻健在、子供三、師範・高校・中学に通学

小石原正
入植一九三二年九月、退植一九五八年一月
現住所聖市ピネーロス区カプリー街二
家長夫妻健在、子供なし

井村政太郎、妻きくえ
入植一九二七年二月、退植一九三九年四月
現住所モジ・ダス・クルーゼス、バイロ・ボッヂュル
農業、土地四アルケール、養鶏・柿・ビワ等、夫婦並に母キヨ健在、父政勝、一九四七年七月二十七日死亡、子供男四女二、長男保、会社員・カトリック大学三年、長女すま、モヂ医大助教授・サン。パウロ大学薬学部卒、次男昇、歯科医・サン・ジョゼ・ドス・カンボス歯科卒、三男、農業・モジ工業学校卒、四男万里男、サンパウロ大学工科二年生、二女まき子、グルッポ校教師・モヂ文理大一年生

伊藤徳象
入植一九二六年九月、一九三〇年第三アリアンサへ移転、一九三八年退村
現住所リオ・デ・ジャネイロ州イタグワイ市住宅地分譲、所有地が市の中心点より九百米の所にあり、アスファルト道路となり市街内にはいる。
ロッテに割ると百七十三ロッテあり、月賦で販売している。
夫妻共健在

岩部政栄
入植一九二八年十月、四年契約を終えて第三アリアンサに移転

現住所イタケーラ市
家庭工業、竹細工、夫妻共健在、子供三、一人死亡、長男は紙工場に勤務、娘は嫁して六人の子持ち

柿並保弼
入植一九二七年四月、退植一九六三年七月
現住所パラナ州ノーバ・エスペランサにて次男勇と同居
農業、カフェー一万本、妻まさ子一九六五年一月十日死亡、長男良、聖市ビラ・ホルモーザ区アペニーダ・ジョン二三二六番でバザール経営、三男賛、エンジネイロ・キミコとしてゼッシレベルに勤務、娘五人既婚

片山実
入植一九二八年、退植一九三五年
現住所パウリスタ線ジュンケイロポリス市三六七郵函一八四
農業、百アルケール所持、珈琲樹一万本、パスト三〇アルケール、肉用牛二〇〇、五〇アルケールは棉・アメンドイン作のため貸地、妻一九六六年四月一日死亡、子供男二女四、女子三人はパラナ州シアノルテ市にて商業、女子一人ジヤレス市附近にて農業、男子一人聖市にてバザール商

光田丸、妻　八千代
入植一九二六年七月、退植一九三〇年十二月(学校に入るた

め聖市に転出）
現住所聖市イピランガ区ベンジャミン・ジャフエ街六二
日本商工会議所海外企業技術斡旋本部サンパウロ事務所長（駐在員）、農地レジストロに七〇アルケール牧場予定、バルジェングランデに五アルケールバラ園、父光田満喜太一九六九年二月八日死亡、母みちよアリアンサ第三区にて健在

亀井顕太
入植一九二八年七月、退植一九三五年
現住所モジアナ線リベロンプレット市コロネル・アメリコ・バチスタ街三六七
夫婦健在、子供三、男一女二、三名共既婚

黒田鶴子
入植一九三〇年、退植一九五六年
現住所聖市ルア・マテウス・グロウ五一八カーザ六
裁縫、夫黒田正治一九五四年一月卅一日アリアンサにて昇天、子供女三人既婚、長男自動車会社勤務、次男、コチア産組務・学生

近藤利吉
入植一九二六年六月、退植一九五五年
現住所カソピーナス市より八キロ、ペードラ・ブランカ植民

地

農業、養鶏・リンゴ園少々・マッシュルーム栽培、父近藤修一は一九六七年八月二十三日死亡、母里・家長夫婦健在、子供男二女三

故木村辰次郎

退植一九二八年

マリリア郊外シヤーカラ

珈琲・野菜、一九六七年病死

鎌田譲

入植一九二六年、退植一九三二年

アマゾンへ後アリアンサ弓場農場に住み一九五四年再度アマゾンへ、現住所パラー州アカラ

妻死亡、再婚、子供三男七女息譲二、トメアスー、ピメンタ園経営

鳥谷忠太郎

入植一九三一年九月、一九三五年九区、一九四二年弓場農場、退植一九五五年新生農場へ

現住所ノロエステ線グワラサイ市郵函五五

勝田スグ

入植一九二七年三月、退植一九四〇年一月
現住所アラサツーバ市エルミーリヨ・マガリヤンエス街八六
夫勝田正通アリアンサ医局主任として入植、一九四五年十月
十八日死亡、子供男四女一、長男次男、医師、三男四男技師、
長女、小学校教師

北沢喜之助、妻　トミ子
入植一九二九年第三アヘ、一九三五年第一ア産組に就職、一
九四五年退職
現住所パラナ州ジャンダイヤ・ド・スール市アベニーダ一〇
八八番地
食料品・雑貨店経営、珈琲園五アルケール、子供三人、長男
は聖市にて銀行勤務

丸山茂
入植一九三四年、退植一九三六年七月
現住所ミナス州ポッソ・デ・カルダス市サンフランシスコ街
四四六番
園芸・花卉・盆栽、夫婦健在、子供男二女一、二人は国際結
婚一人は未婚、孫五人

宮脇文造
入植一九三四年、退植一九五二年

現住所パラナ州シアノルテ
シヤーカラにて珈琲・果樹・疏菜栽培、家長夫妻健在、子供六人うち一人一九四九年に死亡。

諸川治之、妻たけ子
入植一九三四年第三アヘ、一九四六年第一アヘ移転、退植一九五五年
現住所パラナ州ロンドリーナ郡ガイラッカー植民地
所有地十アルケール、珈琲九千本、ペカン五百本、子供男七女二

箕輪新七、妻みゆき
入植一九三〇年十月、退植一九五三年一月
現住所パラナ州ロンドリーナ市郵函一八一四
養鶏・疏菜・果樹、土地一・二五アルケール、夫妻健在、子供男二女二、長男長女次女既婚、次男商社勤務

箕輪保助、妻美恵子
入植一九三五年、退植一九五三年
現住所パラナ州ロンドリーナ市
父喜六・家族健在、子供男六、ジナジオ・グルッポ通学

麦生田卯蔵、妻アサノ

入植一九二六年、退植一九六三年六月
現住所聖市グワルーリヨス・ジヤルヂン・パラベンチ、ルア二一、八九番
家族健在、四男実は薬局、五男国夫は時計店経営、六男重義はソロカバ医科大二年生

百瀬利司
入植一九二七年、退植一九五四年
現住所聖市ルア・ワルデマール・マガリヤンエス八五
父百瀬三郎はアリアンサにて一九五〇年四月十五日死亡、母那美江は一九六一年十一月三十日聖市にて死亡、三郎の長男大弥次男正二はサントス上陸アリアンサへ向う汽車の衝突により一九二七年ソロカバ駅附近にて死亡、長女美江は一九四六年アリアンサにて死亡、次女澄江はサンパウロ在住、現家長は亡美江の婿利司、利司長女篤子は結婚、次女恭子三女範子四女順子長男琢磨は自宅にあり、夫々商社勤務

森澳
入植一九三五年、退植一九五四年
現住所グワラサイ新生農場
妻喜久江・長男忍健在

松本圭一

入植一九二六年、退植一九二八年
アリアンサに入植したことにはなっていたが、最初からイタケーラに住み、アリアンサに住復していた状態で本当の入植者でなかった。
現住所イタケーラ植民地第四区エストラーダE、五九〇、農業、果樹栽培、子供渡伯当時の三児のうち長男は死亡二児は成人して、同ジシチオ内に住居、果樹栽培・養鶏に従事、次男に一男一女あり、三男に二男二女あり。

長尾国広、妻絹枝
入植一九三五年、退植一九六三年九月
現住所聖市サントアマーロ区バラージェソ
農業借地十アルケール、マンジョキーニョ・コーベフロール主作、別に隣接地区に五アルケール所有、長男夫婦・次男洋二、農業従事、長女和子教員、次女厚子銀行勤務、三男安兵隊、四男隆・五男マリオ中学

中沢清太、妻やすよ
入植一九三七年九月、退植一九三八年九月
現住所モヂ・ダス・クルーゼス市プロフエッソール・フラビアーノ・デ・メーロ街六六一
ウルトラフェルチル肥料会社勤務、子供六名、長男勝、英系電信電話会社勤務、長女利子、サンパウロ文理大仏評科卒・フ

ランス国費留学生として南仏ツルース大学にて勉学中、次男栄、ゼツーリオ・ヴアルガス経営大在学・信託会社勤務、次女和子、モジ・ダス・クルーゼス市ＯＭＥＣ文理大在学・商社勤務、三女睦子サンパウロ医大予備校在学、四女安子、モヂ・ダス・クルーゼス市州立高校在学中

行方健作

入植一九三四年、退植一九五一年六月

現住所ブラガンチーナ線ブラガンサ・パウリスタ市セッテポンテ地区郵函一八一

果樹栽培・養鶏、所有面積七アルケール、夫妻健在、子供八人。長女結婚、長男敬郎ピラシカーバ農大卒・農務局勤務、次女節子高商卒結婚、次男聖市高工卒・工場勤務、三女恭子暁星勤労裁縫学校卒・家事手伝、三男宏・四男希、共に農業手伝、四女直美、聖市在学中

行方正治郎（パウリスタ歌壇選者）

入植一九三一年六月、退植一九三四年八月

現住所ブラガンサ・パウリスタ

養鶏・果樹・雑作、ブラガンサ・パウリスタ市設市場直売所経営、夫妻健在

中山豊治

入植一九四三年、退植一九五一年
現住所北パラナ、マリンガ市近郊郵函五六三
野菜園一アルケール、夫妻健在、子供なし。

大窪文秀、妻清子
入植一九二六年十月、退植一九三七年
現住所聖市ボスケ・ダ・サウデ区トライツーバ街一九五
日本語教師、子供女八人、長女咸子文理大卒・既婚、次女方子法大卒・弁護士、三女丕佐美獣医大二年（休学中）四女倫子高商卒・事務員、五女ハルカ家庭教師・クラッシコ卒、六女浅芽師範卒・事務員、七女孝丕師範卒・事務員、八女和美中学生

小川一、妻たけ
入植一九二六年九月、退植一九三九年
現住所カンポリンポ、パウリスタ郡アペニーダ・プレジデンテ・バルガス六二
子供男四女二、夫々独立、農業或は・商工業に従事、末男のみ同居

小川寅吉
入植一九三四年六月、退植一九三八年
現住所パラナ州サントアントニオ・ダ・プラチーナ郵函二五

農業雑作・養鶏四千羽、二五アルケール所有、子供男三人

沖村二郎

入植一九三三年、退植一九六三年

現住所マットグロッソ州トレスラゴアス郡ベスチヤ

野菜作り並に隣町シダーデ・シウピーラにキタンダ二軒経営、家長夫妻健在、子供八人、女二既婚、男三家業手伝、一男二女、自活勉強中

白川謙虚郎

入植一九三六年十月、退植一九三七年九月

現住所聖市ボスケ・ダ・サウデ区ルア・ダス・カシイゲス三九八

夫婦健在、子供七人、長女死亡、長男飛行会社パンアメリカのニューヨーク事務員、二女独身、二男エルバドール・アトラス会社従業員、三男時計部分品卸商、三女文理大卒・中学教員、四男パウリスタ医大卒

瀬戸喜代松

入植一九二五年一月、退植一九六六年三月

現住所聖市ピネーロス区ブタンタン街三八四

長男伯治夫、妻と同居、家族一同健在、子供男三（二人歯科医、一人コチア産組勤務）女一既婚

島田光二郎、妻うめ子
入植一九三四年、退植一九五五年
現住所聖市ビラ・ガルボン・アベニーダ・ミルトン
雑貨店、子供七、四人は外へお勤め、三人自店で働く。

須永晴保、妻ミヨ
入植一九三三年、退植一九四八年
現住所パラナ州カンベ市郊外郵函二十六
農業、シャーカラ一アルケール、ウーバその他果菜、麻州ドラードス郡内に五〇域所有、子供六、長女ツタエ・長男毅一・次女百合花既婚、次男芳文ロンドリーナ法大在学、三男雅幸ロンドリーナ文理大在学、三女うらら家事見習中

故相馬文雄
入植一九二七年三月、退植一九二八年十二月
第一回の調査団としてアマゾンに行き、マレッタに罷りマナオスのサンタカーザに入院、一九二九年十二月二日死亡、東京新宿中村屋相馬愛蔵氏三男

鈴木威
入植一九二六年七月、退植一九二八年現住所聖市アフォンソ・デ・フレイタス街七二一

一九三二年マッケンジー大学卒、建築技師、一人娘英子同じく建築技師

高橋房雄

入植一九三一年七月、退植一九四九年十月

現住所北パラナ・マリンガ市

商業・農場経営、夫妻健在、子供アリアンサ生れ、四人うち二人結婚している。

パラナ生れ四人

滝沢克巳、妻スガ

入植一九二九年一月、退植一九三九年一月

現住所聖市インジアノポリス区ルア・プロジェックード三二

子供五、女二人既婚、長女小学教員、長男真人州トリブナール・コンタ奉職中、次男泰リオ州ペトロブラス造船技師

竹沢憲司

入植一九三一年八月、退植一九三六年

現住所アラサツーバ市ルア・セザリオ・モタ一七六

夫婦健在、子供女五男一、長女は歯医者に、次女は自動車運転手、三女はノロエステ鉄道員に、四女は銀行員に、五女は穀物取引商に夫々嫁す。

長男経済大在学中死去

鍔本茂
入植一九二五年十二月、退植一九五二年
現住所モジ・ダス・クルーゼス市ルア・ドットトールデオダート・ヴェルチマー五一七
四アルケール果樹・養鶏、夫婦健在、子供七人、ロージヤ、オフィシーナ経営、大学生勤め人

高野桂秋、妻ヨシ
入植一九二六年七月、チエテ植民地測量部に働き一九二九年退植帰国。
現住所聖市ルア・バロン・デ・イグアッペ五九八、アパルト三
伯国公認土木建築技師、子供女二男七、三人はアリアンサ生れ、男二高校、二人は大学卒、三人は大学在学中

高野清見
入植一九二七年五月、退植一九二二六年
現住所モヂ・ダス・ツルーゼス、コクエーラ植民地
果樹・養鶏、所有面積十アルケール、夫妻健在、子供九人農一商六技術二

田中今朝寿

入植三十五年、一九三七年第二アリアンサへ、一九六〇年退植

現住所モジ・ダス・クルーゼス、コクエーラ、土地三アルケール所有、疏菜・果樹、家族健在、子供四人農業に従事

武田忠一郎、妻イク子

入植一九三八年、退植一九四七年十一月

現住所聖市ペーニヤ

日の出学校の先生、夫妻健在、長男俊夫アダマンチーナ市で既製靴店経営、次男正夫も同市で同じく靴店を出しており、サンベルナルド・カンポ市にも支店かある。

脇坂一

入植一九三三年、退植一九六六年三月

現住所パラナ州アシス・シャトーブリアン郵函六

シャカラ三アルケール、シチオ七アルケール、野菜・果樹・乳牛飼育（オランデーザ親牛三〇頭、仔牛二〇頭）夫妻健在

山下晴哉、妻淑子

入植一九三四年、退植一九三六年

現住所聖市ビラマリアーナ区グラビイ街一二五

日用雑貨食料品店、子供男二女二、長男雅行マッケンジー大学卒・建築会社勤務、長女登志恵高校卒・東山銀行勤務、次男

剛史、建築事務所勤務・高校夜学、次女貴公恵グルッポ校在学

湯田サダ
入植一九二八年、退植一九五五年四月
現住所モジ・ダス・クルーゼス、ピンドラマ植民地中山末雄氏方、夫湯田維一九五九年十一月廿五日六十一才にて死亡

矢口源四郎
入植一九二六年、退植一九五二年八月
現住所パラナ州ジュサーラ
珈琲園、内外雑貨商、子供男七女四、長男勉コチア産組勤務、次男博・三男輝夫雑貨商、四男正夫ロンドリーナ大在学、五男忠雄クリチーバ医大予科、六男センチヒコ、七男ジナジオ、長女次女既婚、三女四女師範在学

与謝野修
入植一九三〇年、退植一九三四年
一九五五年日本にて死去

与謝野素
入植一九二六年、退植一九三三年
現住所聖市ビラアルピーナ・コスタ・バーロス二七二
バール経営、妻一九六五年死亡、子供男五女三あり

柳沢秋雄、妻満子

一九三八年一月より一九三九年一月までアリアンサ小学校勤務

現住所聖市ルア・カルロス・シヤーガス六八アパルト五二

在サンパウロ日本国総領事館員、長男セルジオ体育大卒・同大助手、次男ジョゼ・ルイス経済大在学、三男ジョゼ・セレスチーノ高校在学。

湯浅佐久四郎

一九五四年九月一日アリアンサ医局の会計として第二アから第一アに転住、一九五六年三月退植

現住所聖市ルス区ドン・アントーニオ・デーロ街十六、電話二二七―七四七九番

アリアンサ学生寮、南伯農産組合中央会ツクルビー販売所会計、家族はアリアンサ学生寮で男女学生と共に生活している。

子供女二男一、孫男一女二あり

○あとがき

移住地史編纂について話が始まったのは一九六七年二月十二日で、一九五〇年から一九六七年末までの事積を編纂することであった。

大体原稿が終りに近ずいて即ち六八年十二月二十一日の編纂委員会で「もう二年延して四十五年史にしよう」ということになった。

六八、六九年の二ヶ年の分は新しく起きた事柄だけを附け足して四十五年史としたので他の大部分は六七年までのことになっている。

みんなで書こうということで、各項目に亘ってそれに関係の深かった方々に執筆を依頼した。

農村実習学校に就いて北原氏、通学車は佐藤氏、基督教会については神沢氏、納骨堂・入植記念碑・会館附属館について安田氏、図書館・産組第一事務所建築については田中氏、ＣＥＤＡＣは上村氏、移住地の機械化・電化について工藤氏、大森・浅野両氏の懐古文、その他史材蒐集に委員諸氏の協力を感謝する。

特記すべきことは「在聖市アリアンサ学生寮」の一文を寄せて頂いた新津今朝雄氏並に万般にわたって指示、尽力を賜っていた北原委員長が本書の完成を待たずして他界されたことで、

両氏に対し深甚の感謝を捧げると同時に冥福を祈る次第である。

なお編集委員会は本書の刊行を推進するため委員長代理として田中治男氏をお願いした。

巻末に二世諸君のためにアリアンサ小史として葡文でアリアンサの略史を添えた。

翻訳を担当して下さった元産組中央会職員安田良夫氏にお礼を申上げる。

アリアンサ四十五年史編集員

岩本辰四郎

（注・１２７ｐから１３１ｐは、ポ語）

一九七〇年　九月一日印刷
一九七〇年　九月七日発行

非売品

創設四十五年

編者　アリアンサ移住地史編纂委員会

発行所　アリアンサ移住地四十五年史刊行会

印刷所　パウリスタ美術印刷株式会社
サンパウロ市オスカール・シントラ・ゴルジーニョ街四六